

国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語教育沿革年表Ⅱ：大正15年～昭和11年

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002618

〔日本語教育沿革年表Ⅱ〕

— 大正15年～昭和11年 —

国立国語研究所

日本語教育センター日本語教育教材開発室

1982・3

年表作成の主旨

この年表は、前著「日本語教育沿革年表Ⅰ」(1979・3刊)に引き続くもので、「Ⅱ」の年表には、大正15〔昭和元〕年から昭和11年に至るまでのものが記載されている。内容は、わが国における語学教育、特に日本語教育発展の動向と関連する諸学問の研究・文献・資料及びこれらの社会的環境や背景となる事柄等を併せて年月日順に配列編集し、戦前における日本語教育発展の動向を可能な限り、総合的かつ立体的にはあくすることができることを意図して作成したものである。

この年表は、日本語教育センター教材開発室の部内資料として武田祈が担当執筆した。

またこの年表作成にあたり、日本語教育関係の諸先輩から、入手しがたい資料の提供や、未知の情報等についての提供・ご示唆等により、かなり内容を充実することができた。

年表の構成と作成の方法について

(1) この年表の内容を大別するために、〔日〕、〔国〕、〔教〕、〔書〕の四つの見出し記号を付け、他の一般的な事項と区別して見られるように配慮した。

〔日〕は、主として、日本語教育に関する施策・教育制度等で日本語教育に直接又は間接に関係があると思われるもの。

〔国〕は、主として国語施策・国語運動・国語問題等、国語に関する事項。

〔教〕は、主として、わが国における教育施策・教育制度等、教育一般に関するもの。

〔書〕は、書籍・文献等で、内容や種類等についての分類はされていない。

(2) 重要な事項については、体裁や繁簡を考えず、なるべく詳細明確に記載することにした。

(3) 機関紙「日本語」及び「コトバ」の目次は、特に創刊号から終刊号に至るまで、記名のあるものは全部掲載した。

(4) 表記のしかたについては、一般的に新字体及び現代かなづかいにより統一することにしたが、一部の書名・人名等については、旧字体による表記のものがある。

(5) この年表では、一般的な事項と書名との間、及び一項目の内容が多く、長く続くものについて、前後に一行分ずつ余白をとった。これは、年表を見やすくするとともに、将来、訂正や補充をする場合、書き込みができることを考慮したものであって内容には関係がない。

この年表作成に用いた主な文献及び参考資料

(「I」のつづき)

「せくばん ビルマ日本学校の記録」(セクパン会編, 修道社出版株式会社。昭和45・5・30)。

「思い出すことなど」(金沢謹, 国際学友会。1973・3・20。非売品)。

「近代日本教育制度史料 第八巻, 第九巻, 第十巻」(近代日本教育制度史料編纂会(代表石川謙)講談社。1951・12・10。第三刷)。

「満州開発四十年史」(満史会編, 満州開発四十年史刊行会)。

「東京都立日比谷図書館蔵 実藤文庫目録」(東京都立日比谷図書館。昭和41・8・25)。

「改撰標準日本文法」(松下大三郎著, 徳田政信編, 勉誠社。昭和49・10・20)。

「中国人に対する日本語教授」(東亜学校教授鈴木正蔵, 育英書院版, 日本語教育振興会。昭和18・7・1)。

「辞書解題辞典」(惣郷正明・朝倉治彦, 東京堂出版。昭和52・3・25)。

年 表

— 大正15年～昭和11年 —

西 曆	年 代	項 目
1926	(大正15・昭和元)	
"	1・4	広東で国民党二全大会開く(～1月19日)。汪兆銘・蒋介石ら実権掌握、西山派を除名(中共黨員, 執行委員36人中7人, 宣伝部長に毛沢東選出)。
"	1・11	張作霖, 東三省の独立を宣言。
"	1・14	〔日〕 東三省出身の日本留学生, 日本の南満出兵に反対, 帰国。
"	1・15	京大学連38人検挙, 初の治安維持法適用。
"	1・21	外相幣原喜重郎, 外交演説で中国における内政不干渉主義の励行とわが正当な地位の擁護を声明。
"	1・27	北京関税会議, 中国全権, 日本の協定税率希望を応諾と公文で回答。
"	1・28	首相加藤高明没。内閣総辞職。
"	1・30	第1次若槻内閣成立(前内閣の全閣僚留任)。
"	"	〔日〕 台湾総督府, 教科用図書改正。
"	1・	〔書〕「台湾教育」(第二八三号)。 (同上)「読方学習上に於ける朗読の問題について」(北斗公学校国語研究部)。
"	2・12	中国大沽で日本駆逐艦, 国民軍より砲撃を受ける。2月13日日本抗議。
"	2・	〔書〕「伊豆の踊り子」(川端康成, 「文芸時代」2月号, 3月号に発表。
"	3・10	〔書〕 ^漢 「漢語教科書」(松本亀次郎, 東京笹川書店。再版)。
"	3・16	北京列国公使団, 大沽・天津間の戦闘停止要求の最後通牒。3月17日中国側受諾。
"	3・18	北京の学生・民衆, 国民大会を開き, 軍閥政府に反対, 軍警の発砲で死者50人余(「3・18事件」)。
"	3・20	蒋介石, 戒嚴令を公布し, 広州を封鎖。中山艦艦長李之龍・国民革命軍第一軍政治部主任周恩来ら軍隊内の共産黨員を逮捕(「中山艦事件」)。
"	3・28	〔日〕 台湾総督府, 「師範学校規則」改正。
"	3・	〔書〕 ^{南洋} 「南洋群島国語読本教授書」(芦田恵之助, 南洋庁)。
"	"	〔書〕「学説人名用語大辞書」(高木斐川著, 教文社)。
"	"	〔書〕「商法熟語辞典」(高橋徳太郎編, 大阪屋号書店)。
"	"	〔書〕「節用集」(日本古典全集刊行会。易林本。慶長二年版複製。解説, 橋本進吉)。
"	"	〔書〕「日本留學問題」(「中華教育界」15巻9号, 民国十五年三月)。
"	"	〔書〕「日鮮新玉篇」(洪淳泌著, 京城・宝文館)。

西 暦	年 代	項 目
1926	3・	〔書〕「〔児童畫報〕」（民国朱天民編，韓佑之等画，上海・商務印書館。半月刊。民国十五年三月号）。
”	4・20	〔教〕 文部省，「青年訓練所令」發布。
”	4・22	〔教〕 「小学校令」〔勅令〕改正公布（日本歴史を国史と改める）。
”	4・24	独ノ友好中立条約調印。
”	4・	〔書〕「台湾教育」（第二八六号）。 （同上）「読方学習指導の実際案」（山田新三）。 （ ” ）「私の読方学習指導」（段塚正義）。
”	”	〔書〕「標準支那語辞典」（佐藤留雄編，大阪同文社）。
”	”	〔書〕「常総人名録」（栗田菊之助編，水戸市常総人名録発行所）。
”	”	〔書〕「新訳独和辞典」（登張信一郎著，大倉書店）。
”	5・4	〔日〕「邦人児童ノ公学校入学及島民児童ノ小学校入学ニ関スル件」〔南洋庁庶第三八六号書記官通牒〕。
”	5・5	〔書〕「続国歌大観 索引」（松下大三郎編，紀元社。5・20再版）。
”	5・12	〔国〕 臨時国語調査会から「仮名遣改定案補則」「当字ノ廃棄ト外国語ノ写シ方」が発表された。
”	5・15	蔣介石，「党務整理案」を国民党中央執行委員会に提出（中共黨員の活動を制限，毛沢東宣伝部長代理ら退陣）。
”	5・20	〔書〕「続国歌大観 索引」（松下大三郎編，紀元社。再版）。
”	5・29	〔教〕 文相，学生・生徒の社会科学研究禁止を高校・高専に通達。
”	5・	〔日〕 ホセ・ガルベス小学校（カヤオ市アレキッパ・ノルテ街）開校。
”	”	〔書〕「台湾教育」（第二八七号）。 （同上）「綴方研究授業批評に対する卑見」（門司勇）。 （ ” ）「読み方についての研究」（黄瀛魁。～二九〇の内）。 （ ” ）「綴方の指導に就て」（田中静甫。・二八八号）。 （ ” ）「童話教育に訓辞ありや」（羅東公学校）。 （ ” ）「読方の成績考査について」（段塚正義）。

西 暦	年 代	項 目
1926	"	〔書〕「英和海語辞典」(尾崎主税編, 水交社)。
"	"	〔書〕「警察辞典」(富益義衛著, 清水書店)。
"	"	〔書〕「現代演劇辞典」(鈴木善太郎編, 金星堂)。
"	"	〔書〕「 ^{慶長} 以来国学者史伝」(井上頼因検閲, 逸見仲三郎編述, 青山堂書房, 大正15年11月訂正再版)。
"	"	〔書〕「創造月刊 第1巻1期~第2巻4期」(創造社編, 上海・創造社月刊。1926年5月~1928年11月)。
"	6・1	「法令形式ノ改善ニ関スル件」が内閣訓令号外で公布される(若槻内閣)。
"	6・4	〔教〕道府県に学務部を新設, 郡制廃止により郡視学を廃し, 府県視学を増員〔勅令〕。
"	6・10	朝鮮に反日万歳示威運動おこる。
"	6・15	〔書〕「日本語原」(井口丑二, 平凡社)。
"	6・	〔書〕「台湾教育」(第二八八号)。 (同上)「童話と訓示に就いての私考」(西岡英夫)。
"	"	〔書〕「ポケット形 日本語から支那語の字引」(飯河道雄著, 奉天・東方印書店)。
"	7・1	〔書〕「現代語講義」(文化之日本社編集部編〔代表者宮田恒吉〕, 偉大会, 文化之日本社)。
"	"	広東国民政府, 北伐を宣言。
"	7・7	〔国〕臨時国語審議会, 「字体整理案」及び漢語整理案「ソノ一」発表。
"	7・9	蒋介石, 国民革命軍総司令に就任し, 北伐開始(7月11日長沙占領)。
"	7・12	中共中央, 「第五次時局声明」を発表, 革命的連合戦線の強化, 国内軍閥と帝国主義打倒を呼びかける。
"	7・15	〔書〕「日本語学」(松岡静雄, 刀江書院)。
"	7・	「一年志願兵及一年現役服務特例」〔勅令〕公布(教練の成績検定とその合格者の在當期間短縮を定める)。
"	7・	〔書〕「台湾教育」(第二八九号)。 (同上)「再び読方学習指導に就いて」(段塚正義)。

西 曆	年 代	項 目
1926	"	〔書〕「いろは音引(和西会話辞典) (村岡玄, 東京西班牙語学会)。
"	"	〔書〕「北京俗語兪典」(下永憲次編著, 偕行社)。
"	"	〔書〕「用字便覧」(簡野道明校訂, 明治書院)。
"	"	〔書〕「改造 第8巻8号」(東京・改造社。「夏季増刊現代支那号」)。
"	"	〔書〕「小朋友 第224期」(小朋友編集部編, 上海・中華書局。週刊。民国十五年七月)。
"	"	〔書〕「紫羅蘭 第1巻第17号」(民国周瘦鵬編, 上海・大東書局。半月刊。民国十五年七月)。
"	8・3	〔日〕「南洋庁公学校児童給与規定」〔南訓令第二十号〕(「第三条 教科書ハ年度初ニ現品ヲ以テ給与ス其ノ種類左ノ如シ 南洋群島国語読本」)。
"	"	〔書〕「教育的測定学」(田中寛一。客観的学力テスト法の研究)。
"	8・13	日中文化委員会, 東方文化委員会総会に改組, 中国の教育会これに反対(17日正式成立)。
"	8・20	日本放送協会設立。
"	8・	〔書〕「新撰エス和辞典」(岡本好次編, 日本エスペラント学会。「Nova Vortaro Esperanto - Japan」)。
"	"	〔書〕「野球の見方と用語の解説」(久保田禎, 高久清一著, 実業の日本社)。
"	"	〔書〕「小朋友畫報 第1期」(民国王人路, 吳啓瑞編, 上海・中華書局。月2回刊。民国十五年八月)。
"	9・	〔書〕「台湾教育」(第二九一号)。 (同上)「綴方について」(段塚正義)。
"	"	〔書〕「字くづし大辞典」(ペン字普及会編, 京文社書店)。
"	"	〔書〕「参考地理新辞典」(菊地勝之助編, 大阪・立川書店)。
"	"	〔書〕「最新法律経済熟語大辞典」(長沢光夫編, 帝国講学会)。
"	"	〔書〕「法律辞典」(渡辺万蔵著, 法律辞書刊行会)。
"	"	〔書〕「独和法律辞典」(藤井信吉編, 有斐閣書房。「Neues Deutsch-Japanisches Rechts Lexikon」)。
"	"	〔書〕「輸入税率辞典」(綿貫音次郎・田中民蔵共編, 貿易運輸通信社)。
"	10・2	音声学会創立(会長新村出, 「音声学会会報」創刊)。

西 曆	年 代	項 目
1926	10・21	〔教〕「皇室就学令」公布（学習院・女子学習院以外の学校への就学を認める）。
”	10・23	上海の労働者，武装蜂起（「第一次蜂起」）。10月24日失敗。
”	”	ソ連共産党中央委員会，トロツキーを政治局から追放。
”	10・31	〔書〕「 <small>言文対照</small> 宏文書院叢書 漢訳日本文典 訂正増補三十二版」（松本亀次郎，東京国文堂書局，総発售所上海・日本堂書店，東京発售所富山房）。
”	10・	〔書〕「台湾教育」（第二九二号） （同上）「私の読方教育」（中川宏。～二九四号）。
”	”	〔書〕「地理教授辞典」（川岸音二著，宝文館）。
”	”	〔書〕「沈 鍾 第6～10期」（北京・北新書局。半月刊。1926年10～12月）。
”	11・14	〔教〕 松山高校で学校行政の官僚化に対し，生徒盟休に入る。
”	11・20	東方文化事業委員会総会，東京で第二回大会，中国側江庸ら9名，日本側服部宇之吉ら6名出席，資金分配案を討議。
”	11・25	〔書〕「高等日本文法」（三矢重松，明治書院。増訂発行）。
”	11・26	国民党左派，武漢遷都を決議（蔣介石，南昌遷都を主張）。
”	11・	〔書〕「諺語大辞典」（藤井乙男編，有朋堂。第十九版）。
”	”	〔書〕「ポケット国語漢語新語俗語新辞林」（高木斐川著，教文社）。
”	”	〔書〕「支那及支那問題辞典」（河瀬龍雄著，厚生閣書店）。
”	”	〔書〕「一般 11月号」（立達學會編，上海・開明書店。月刊。民国十五年一月）。
”	”	〔書〕「和英対照 電気用語解説」（小野寺長著，鉄道知識社。「The Electrical Technics With Notes & Illustrations」）。
”	”	〔書〕「保科新辞林」（保科孝一，嵩文堂。付録「国語仮名遣改定案（大正一三）」）。
”	12・4	日ソ森林利権協約仮調印。27年2月18日正式調印。
”	12・5	東方文化事業委員総会，上海に自然科学研究所組織を決定，中国の各学術団体反対。
”	12・8	〔国〕 「漢語整理案「ソノニ」」発表。

西 暦	年 代	項 目
1926	12・15	〔国〕 「漢語整理案「ソノ三」」発表。
”	”	留日陸軍士官学校第十八期生全学生退学宣言，帰国。
”	12・25	天皇没。摂政裕仁親王踐祚し，昭和と改元。
”	12・	〔書〕 「日鮮解話辞典」(禹鎔根著，松本市共済会総本部)。
”	”	〔書〕 「法律経済語辞典」(高城運七。江花常与共著，日本法律研究会)。
”	(大15・昭和元年)	〔日〕 満鉄，奉天に満州医科大学創立。
”	”	日本放送協会，放送を開始(JOAK)。
”	”	〔日〕 第十二回全島国語演習会(場所，台中市，参加人数62名)。
”	”	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数，本島人4458，高砂族24，卒業数，本島人1681，高砂族8)。
”	”	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校，生徒数，本島人1025，蕃人17，卒業数，本島人186，蕃人5，小学校高等科，生徒数112，蕃人0，卒業数，本島人29，蕃人0)。
”	”	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校，学生数1014，高砂族13，卒業数95，高砂族1)。
”	”	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校，生徒数1718，卒業数194)。
”	”	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校，生徒数，1214，卒業数，本島人311，高砂族1)。
”	”	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校，生徒数，本島人589，高砂族3，卒業数，本島人97，高砂族2，実業補習学校，生徒数，本島人779，高砂族79，卒業数，本島人369，高砂族35)。
”	”	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数，本島人1533，高砂族1，卒業数，本島人595，高砂族1)。
”	”	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数，高等学校43，中学校に相当する尋常科15，卒業数，高等学校0，中学校に相当する尋常科2)。
”	”	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数，本島人282，高砂族3，卒業数，本島人119，高砂族3)。
”	”	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数172，生徒数4907，卒業数938)。
”	”	〔日〕 朝鮮総督府における調査(稍々解し得る者690448，普通会話に差支なき者374998，計1065446)。
”	”	〔書〕 「声の教育 第一部(明るく美しい発音の仕方) 第二部(日本語発音の創生，正しき教へ方とその表現) 第三部(明晰な英語発音)」(小林光茂著，

西 曆	年 代	項 目
1926		東京文化生活研究会)。
"	"	〔書〕「話し方教授に関する研究」(台北師範附属公学校話し方研究部編)。
"	"	〔書〕「台北師範学校創立三十週年記念誌」(台北師範学校編)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本第一種卷十二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用国語書き方手本第一種第六学年用下」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用書き方手本第一種編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「台湾に於ける教科用図書に就いて」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「現代青年読本農村文卷二」(台北州聯合同風会,台北台湾日日新報社)。
"	"	〔書〕「台湾語及書翰文」(劉克明,台北新高堂書店)。
"	"	〔書〕「第一回海外学事視察団復命書註南支那香港及非律賓に関する事」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「本校農業科・理科教授の實際前編」(新莊郡和尚州公学校,台北同校)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第二八三号~第二九五号発行,12月号を「全国中学校長会議記念号」として出す)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第五卷第三号)。 (同上)「自学を基底とした読方学習の理論と實際」(八尋喜善。~第四・第五号)。 (")「懸賞を主としたる公学校各学年教授實際案」(読み方教授法研究会。~第四号)。 (")「吟味を主としたる公学校読み方科教授實際案」(読み方科教授法研究会。~第四号)。
"	"	〔書〕「書写・書道指導技術図解大事典」(金子鷗亭・石井庄司監修,全国教育図書編)。
"	"	〔書〕「日本語読本(巻1)」(東亜高等豫備學校編,東京・東亜高等予備学校。174p)。
"	"	〔書〕「留東外史補」(民国不肖生著,上海・大東書局。民国十五年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「瀛談 5卷 附1卷」(民国閔賡隣著,中華工程師学会。民国十五年刊。活版。2冊)。
"	"	〔書〕「東遊漫記」(民国湯惠孫著。民国十五年刊。石印。1冊)。
"	"	〔書〕「攷察日本実業教育記略」(民国關朝璽著,民国十五年刊。活版)。

西曆	年 代	項 目
1926		2冊)。
"	(大正15·昭和元年)	〔書〕「東遊漫記」(民國湯惠孫著。民國十五年刊。石印。1冊)。
"	"	〔書〕「攷察日本實業教育記略」(民國關朝璽著。民國十五年刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「芸術鑑賞的心理」(Freinfels著。瀧村斐男訳；民國管容徳訳。上海・梁溪図書館。民國十五年刊。92P)。
"	"	〔書〕「狂言十番」(民國周作人著。北京・北新書局。1926年刊。173P)。
"	"	〔書〕「仏教改革家日蓮」(田邊善知著。井上義澄編訳。北京・支那風物研究会。1926年刊。304P)。
"	"	〔書〕「Memoirs of the research department of the Toyo Bunko (The Oriental Library), no. 1. Toyo Bunko, 1926. 100 P]。
"	"	〔書〕「日本一瞥」(民國兪松笠編。上海・商務印書館。民國十五年刊。106P)。
"	"	〔書〕「中國文學史略」(民國胡懷琛著。上海・梁溪図書館。民國十五年刊。200P)。
"	"	〔書〕「桃花扇」(清孔尚任著。山口剛訳。東京・春陽堂。大正15年刊。558P)。
"	"	〔書〕「中國小說史略」(民國魯迅著。上海・北新書局。1926年刊。348P)。
"	"	〔書〕「落葉」(民國郭沫若著。上海・創造社。1926年刊。「落葉叢書1」。154P)。
"	"	〔書〕「蘭生弟の日記」(民國徐祖生著。北京・北新書局。民國十五年刊。「駱駝叢書」。180P)。
"	"	〔書〕「冲積期化石」(民國張資平著。上海・創造社。1926年刊。246P)。
"	"	〔書〕「飛絮」(民國張資平著。創造社。1926年刊。「落葉叢書2種」。201P)。
"	"	〔書〕「吶喊」(民國魯迅著。北京・北新書局。1926年刊。「烏合叢書1」。272P)。
"	"	〔書〕「註解支那長篇小說選鈔」(神谷衡平編。東京・文求堂。大正15年刊。99P)。
"	"	〔書〕「〔創造社小說選〕第1種」(創造社編。上海・創造社出版部。1926年刊。1冊。內容：木犀(民國陶晶孫) 葉羅提之墓(民國郭沫若) 青烟(民國郁達夫) 最後的安慰(民國嚴良戈) 一個流浪人的新年(民國成仿吾) 隔絶(民國金女士) 聖誕節前夜(民國張資平)。

西 暦	年 代	項 目
1926	"	〔書〕「寄小讀者」(民国泳心著,上海・北新書局。1926年刊。241P)。
"	"	〔書〕「半島に聴く」(井上 収)。
"	"	〔書〕「朝鮮の經濟事情」(朝鮮総督府)。
"	"	〔書〕「関東庁施政二十年史」(関東府)。
"	"	〔書〕「満鮮鴻爪」(石井健吾)。
"	"	〔書〕「満蒙年鑑」(満蒙文化協会)。
"	"	〔書〕「現行支那行政」(宇高 寧)。
"	"	〔書〕「王道天下之研究」(古代支那政治思想普及制度史)(田崎仁義)。
"	"	〔書〕「支那の社会組織」(長野朗)。
"	"	〔書〕「支那の社会運動」(長野朗)。
"	"	〔書〕「支那の社会相」(後藤朝太郎)。
"	"	〔書〕「最近上海に於ける労働運動風潮」(佐田弘治郎)。
"	"	〔書〕「東亜の形成と日本の将来(上下)」(衣斐鉞吉)。
"	"	〔書〕「植民国策論」(平元平吾)。
"	"	〔書〕「植民及植民政策」(矢内原忠雄)。
"	"	〔書〕「ヴェー・ハー・ゾルフ著 将来の植民政策」(長田三郎)。
"	"	〔書〕「実査十八年ブラジル入国記」(野田良治)。
"	"	〔書〕「ディルタイ派の哲学とその教育学説」(渡部政盛)。
"	"	〔書〕「新カント派の哲学とその教育学説」(渡部政盛)。
"	"	〔書〕「進歩的教育の諸問題」(砂川寛栄)。
"	"	〔書〕「現代教育哲学の根本問題」(長田新)。
"	"	〔書〕「教育思想問題講話」(入沢宗寿)。
"	"	〔書〕「現今教育目的論の叙述及批判」(野瀬寛頭)。
"	"	〔書〕「文化教育学の新研究」(乙竹岩造)。
"	"	〔書〕「文化教育学と体験教育」(入沢宗寿)。
"	"	〔書〕「スプランガー 文化教育学講義と其の批判」(千葉命吉)。
"	"	〔書〕「都市教育の研究」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「教授新論」(榎山栄次)。
"	"	〔書〕「我が国現時の三大教育学説」(樋口長市)。
"	"	〔書〕「綜合科学教育の新生」(栗山周一)。
"	"	〔書〕「教育学の対象と方法」(伊藤猷典)。
"	"	〔書〕「ベスタロッチーに復れ」(崇仁尋常小学校伊東茂光, 稲富栄次郎編)。
"	"	〔書〕「新教育学の根本問題」(小林澄兄)。
"	"	〔書〕「学習各論 上巻」(木下竹次)。
"	"	〔書〕「宗教教育及社会問題」(山本美越乃・小西重直)。 木村泰賢 アドラー
"	"	〔書〕「中小学校修身教授の理論及實際」(西普一郎・他)

西 曆	年 代	項 目
1926	(大正15・昭和元年)	〔書〕「イマヌエルカント道德哲学」(白井成允訳)。
"	"	〔書〕「毎週反省 ^{教育} 新計画の実際」(中野八十八)。
"	"	〔書〕「羊 第十四号」(奉天公学堂)。
"	"	〔書〕「藤倉学園」(東京府伊豆大島元村)。
"	"	〔書〕「蔵前校友誌」(郡正一)。
"	"	〔書〕「新婦人訓」(成瀬仁蔵)。
"	"	〔書〕「米国に於ける新小学校の施設と実際」(広田博蔵)。
"	"	〔書〕「遊びの善導 ^{第一の学級経営} 」(山路兵一)。
"	"	〔書〕「低学年教育思潮」(渡部政盛)。
"	"	〔書〕「 ^{対象} 学習過程の新研究」(土屋周作)。
"	"	〔書〕「児童の愛育例話百篇」(竹内逸)。
"	"	〔書〕「 ^{第六回夏季児童保養所} 記念写真帖」(日本赤十字社神奈川県支部)。
"	"	〔書〕「少年団訓練法要義」(奥寺龍溪)。
"	"	〔書〕「遊びの善導 ^{第二の学級経営} 」(山路兵一)。
"	"	〔書〕「学校教育の社会化」(田制佐重)。
"	"	〔書〕「 ^{内外に於ける} 戦近の公民教育と其の方法」(千葉敬正)。
"	"	〔書〕「補習教育苦心史」(河上哲太)。
"	"	〔書〕「市町村青年団基本調査」(日本青年館調査部)。
"	"	〔書〕「青年団の本質指導及経営」(和歌山県社会課)。
"	"	〔書〕「青年訓練義解」(文部省普通学務局)。
"	"	〔書〕「女子青年会指導者講習会速記録」。
"	"	〔書〕「成人教育」(文部省普通学務局)。
"	"	〔書〕「デンマルク農民教育」(小出満二)。
"	"	〔書〕「改訂農業教科書」(埼玉県教育会編)。
"	"	〔書〕「 ^{家庭経済} 講習会講演集(第一, 二回)」(社会局第二部)。
"	"	〔書〕「童話と童話劇」(貯金局)。
"	"	〔書〕「国語教育上の根本問題」(高田邦彦)。
"	"	〔書〕「文の考察と国語学習」(河野伊三郎)。
"	"	〔書〕「 ^{優等生の綴方} 尋常第一学年」(高橋喜藤治)。
"	"	〔書〕「 ^{尋常科第一学年} 綴方教育の記録」(田中豊太郎)。
"	"	〔書〕「個別式智的素質検査法」(檜崎浅太郎)。
"	"	〔書〕「国語教育の心理学的基礎」(増田 栄)。
"	"	〔書〕「法律辞書」(渡辺万蔵)。
"	"	〔書〕「大臣責任訴訟の研究」(川手忠義)。
"	"	〔書〕「仏国裁判制度(其一, 二)」(ダロー他 ^{司法省訳})。
"	"	〔書〕「陪審法積義」(溝淵孝雄)。

西 暦	年 代	項 目
1926	"	〔書〕「私法学序説」(広浜嘉雄)。
"	"	〔書〕「法理学大綱」(穂積重遠)。
"	"	〔書〕「法理学概論」(井上周三)。
"	"	〔書〕「メツガー法律哲学」(都富 仰訳)。
"	"	〔書〕「メーン 古代法律」(小泉 鉄訳)。
"	"	〔書〕「米國憲法論」(藤井新一)。
"	"	〔書〕「普選読本」(尾崎行雄 村田亀太郎)。
"	"	〔書〕「改正 衆議院議員選挙法関係法令」(東京地方改良協会編)。
"	"	〔書〕「地方議会の道義化及地方自治」(小原新三)。
"	"	〔書〕「改正地方制度解説」(狭間 茂)。
"	"	〔書〕「大正震災誌(上・下)附図・写真集共」(内務省)。
"	"	〔書〕「市町村の水道」(亀井重磨)。
"	"	〔書〕「 ^{ピーアト} 博士 東京復興に関する意見」(財)東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「 ^改 工場法註釈」(江藤玄三)。
"	"	〔書〕「鉄道司法警察」(今津好孝)。
"	"	〔書〕「英国消防制度調査委員会報告書」(警保局)。
"	"	〔書〕「国家変遷論」(レオン・デュギイ 木村亀二訳)。
"	"	〔書〕「神ながらの国」(内務省神社局)。
"	"	〔書〕「国家思想の研究」(口田康信)。
"	"	〔書〕「現代政治の科学的観測」(高橋清吾)。
"	"	〔書〕「政党とは何ぞや」(西野雄治)。
"	"	〔書〕「憲政会史」(横山勝太郎)。
"	"	〔書〕「大分県政党史」(長野 潔)。
"	"	〔書〕「憲法政治の理論と実際」(馬場鉄一)。
"	"	〔書〕「ボルシェヴィズム評論」(コウトナー 岩城忠一訳)。
"	"	〔書〕「階級闘争の必然性とその必然的転化」(河上 肇)。
"	"	〔書〕「日本改造法案大綱」(北 一輝)。
"	"	〔書〕「文化史観國際思想発達史」(浅野利三郎)。
"	"	〔書〕「義人全集(全5巻)」(栗原彦三郎)。
"	"	〔書〕「木戸松菊略伝(孝允)」(妻木忠太)。
"	"	〔書〕「床次竹二郎評伝」(荒木武行)。
"	"	〔書〕「大隈侯八十五年史(全三巻)」。

西 曆	年 代	項 目
1926	(大正15・昭和元年)	〔書〕「東郷元帥詳伝」(小笠原長生編著)。
"	"	〔書〕「岡野敬次郎伝(東大・中大)」(六樹会)。
"	"	〔書〕「 ^{祖庭長岡安平翁造庭遺稿} —社会局長隆一郎殿父—」(井下 清)。
"	"	〔書〕「増子先生記念録」(中野礼四郎)。
"	"	〔書〕「古河市兵衛翁伝」。
"	"	〔書〕「古河潤吉伝(古河鉉業)」(五日会)。
"	"	〔書〕「 ^{米国前国務卿ランシング手記} 平和会議秘録」(大阪毎日新聞社)。
"	"	〔書〕「平和運動(華文)」(陳伯華・他)。
"	"	〔書〕「国際連盟に於ける軍備縮少問題」(外務省)。
"	"	〔書〕「戦術戦史講話」(伊藤政之助)。
"	"	〔書〕「刑法過失論」(趙 欣伯)。
"	"	〔書〕「刑事訴訟法要論」(平井彦三郎)。
"	"	〔書〕「犯罪倫理」(佐々木英雄)。
"	"	〔書〕「近代犯罪研究」(小酒井不木)。
"	"	〔書〕「現代犯罪の精神病学的研究」(金子準二)。
"	"	〔書〕「少年犯罪の研究」(白井勇松)。
"	"	〔書〕「民法の基本問題(全五巻)」(牧野英一。~昭和20年)。
"	"	〔書〕「民法に於ける事情変更の原則」(勝本正晃)。
"	"	〔書〕「電話加入権ニ関スル学説判例」(小林一郎)。
"	"	〔書〕「経済事情の変動と債権の効力」(岩田 新)。
"	"	〔書〕「英国不法行為法綱要」(^{龍野文三} ^{齊藤利勝} 共訳)。
"	"	〔書〕「日本家族制度史研究」(砂川寛榮)。
"	"	〔書〕「和訳欧州各国民事訴訟法」(司法省)。
"	"	〔書〕「保全訴訟 ^{仮差押及} ^{仮処分} 要論」(松岡義正)。
"	"	〔書〕「民事証拠論」(松岡義正)。
"	"	〔書〕「破産法説明」(青木徹二)。
"	"	〔書〕「日本不動産法沿革史」(横井時敬)。
"	"	〔書〕「私法論文集(正・続)二冊」(松本丞治)。
"	"	〔書〕「株式会社発起人論」(西本辰之助)。
"	"	〔書〕「保険業法要論」(南 正樹)。
"	"	〔書〕「村瀬保険全集」(村瀬春雄)。
"	"	〔書〕「財産保険の理論と実際」(田中徳次郎)。
"	"	〔書〕「米国信託会社総論」(高塚慶助)。

西 曆	年 代	項 目
1926	"	〔書〕「信託法理及信託法制」(細矢祐治)。
"	"	〔書〕「信託会社問題研究」(細矢祐治)。
"	"	〔書〕「社債法十講 附(社債法釈義 社債法関係法規)」(板橋菊松他9名)。
"	"	〔書〕「無尽及無尽会社論」(栗栖赴夫)。
"	"	〔書〕「租税の理念と其分配原理」(阿部賢一)。
"	"	〔書〕「各国租税問答」(大蔵省主税局)。
"	"	〔書〕「秩録処分顛末略」(大蔵省)。
"	"	〔書〕「我国際金融の現状改善策」(井上準之助)。
"	"	〔書〕「各国発券銀行及通貨関係法規 —アメリカ・満洲—」(日本銀行)。
"	"	〔書〕「ロバート・オエン 社会に関する新見解」(大林宗嗣)。
"	"	〔書〕「社会関係の研究」(高田保馬)。
"	"	〔書〕「ジンメル社会学方法論の研究」(林 恵海)。
"	"	〔書〕「社会失患」(エリクール 宮崎三郎訳)。
"	"	〔書〕「日本農民史」(日本歴史地理学会)。
"	"	〔書〕「村の辻を行く」(小野武夫)。
"	"	〔書〕「欧米の警察と社会事業とを視て」(藤田偵次郎)。
"	"	〔書〕「融和促進(改訂版)」(喜田貞吉)。
"	"	〔書〕「国際連盟主催 各国衛生技術官交換視察会議報告」(内務省)。
"	"	〔書〕「新稿労働衛生」(石原 修)。
"	"	〔書〕「細民生活調査」(社会局)。
"	"	〔書〕「少年の暗黒面」(少年保護協会東京支部)。
"	"	〔書〕「教育的社会 問題としての少年福祉の研究」(マンゴールド 宮島 清訳)。
"	"	〔書〕「社会道徳論 —公娼廃止・他—」(一条忠衛)。
"	"	〔書〕「デイルタイの哲学」(勝部謙造)。
"	"	〔書〕「日本支那現代思想研究」(土田杏村)。
"	"	〔書〕「文化の特質と社会問題」(小島 憲)。
"	"	〔書〕「日本奴隷史」(阿部弘蔵)。
"	"	〔書〕「オランダ派 フランドル派四大画家論」(ボーデ原著 関 泰祐訳)。
"	"	〔書〕「近世絵画史」(藤岡作太郎)。
"	"	〔書〕「ソヴェト・ロシアの民法と労働法」(末川 博)。
"	"	〔書〕「労働弁護論」(トマス・ホッジスキ著 細川嘉六訳)。
"	"	〔書〕「労働法研究」(末広巖太郎)。
"	"	〔書〕「大正十五年上半季「大阪興信所内報」 (極秘)—宇治電々争議・他—」。
"	"	〔書〕「交通労働運動の過現」(長尾桃郎 桑田次郎)。

西 曆	年 代	項 目
1926	(大正15・昭和元年)	〔書〕「南海の労働運動史」(桑田次郎)。
"	"	〔書〕「我国に於ける労働委員会制度」(協調会)。
"	"	〔書〕「工場法規」(社会局編纂)。
"	"	〔書〕「工場法註釈」(江藤玄三)。
"	"	〔書〕「奴隷(初版)」(細井和喜蔵)。
"	"	〔書〕「労働者雇傭状態」(大阪市社会部調査課)。
"	"	〔書〕「統計上より観たる東北産業経済大観」(浅野源吾)。
"	"	〔書〕「茶業要覧」(愛媛県内務部)。
"	"	〔書〕「大正十四年度模範的茶園経営調査」(静岡県立農事試験場茶業部)。
"	"	〔書〕「奈良県の副業」(奈良県勸業課)。
"	"	〔書〕「砂糖講話」(宮川次郎)。
"	"	〔書〕「対露製茶貿易事業・他」(茶業組合中央会議所)。
"	"	〔書〕「太陽黒点」(関口鯉吉)。
"	"	〔書〕「大正震災誌(上下)・附図四冊」(内務省)。
"	"	〔書〕「日本農業の特質と其改善」(佐藤寛次)。
"	"	〔書〕「農家経済調査成績」(長野県農会)。
"	"	〔書〕「 ^{増補} 農政問題研究」(高岡熊雄)。
"	"	〔書〕「余が見たる丁抹の農業」(山田勝伴)。
"	"	〔書〕「日本農業史論」(石坂橘樹)。
"	"	〔書〕「長野県ノ柿ニ関スル調査」(長野県)。
"	"	〔書〕「農業金融論」(井関孝雄)。
"	"	〔書〕「丁抹の農業組合」(和田日出吉)。
"	"	〔書〕「 ^{小作争議資料} 一内容大正11年頃から一(暦)」(農務局)。
"	"	〔書〕「貴国に告ぐ丁抹の農業事情」(アイナルヴェルム) ^{実業補習教育研究会} 。
"	"	〔書〕「森林生活者の手記」(青木繁)。
"	"	〔書〕「世界の森林資源」(^{ゾーン} スパーホーク) ^{林 常夫訳} 。
"	"	〔書〕「北米合衆国の森林及び林業」(宮下保雄)。
"	"	〔書〕「北海道地方林業一斑」(北海道庁拓殖局)。
"	"	〔書〕「野幌林間大学講演集(第二輯)」(田村剛・他)。
"	"	〔書〕「九州之山水」(熊本営林局)。

西 曆	年 代	項 目
1927	(昭和2)	
"	1・3	台湾文化協会、大会で主導権左派に移り、7月10日林献堂ら新たに台湾民衆党を結成。
"	1・4	武漢の民衆、漢口英租界を奪回。1月6日九江英租界を奪回。
"	1・11	中国教育改進社、江蘇教育会、中国科学社、上海各大学同志会等、中日文化事業に反対宣言。
"	1・18	〔日〕〔台告示第三号、大正12年告示第百十一号は廃止〕(「公学校ニ於テ使用スヘキ教科用図書左ノ通り相定メ昭和2年4月1日ヨリ之ヲ施行ス公学校用国語入門掛図一冊、公学校用国語読本第一種巻一～巻十二 十二冊、公学校用国語読本第一種巻一～巻八掛図八冊、公学校用書キ方手本第一種第一学年用一冊、公学校用国語書キ方手本第一種第二学年用上・下～第六学年用上・下十冊、公学校用国語読本第二種巻一～巻十二、十二冊、公学校用国語読本第二種巻一～巻八掛図八冊、公学校用国語書キ方手本第二種第一学年用一冊、公学校用国語書キ方手本第二種第二学年用上・下～第六学年用上・下十冊、公学校用国語読本第三種巻一～巻四 四冊、公学校用国語読本第三種巻一～巻四掛図四冊、〔高等科〕高等小学読本巻一～巻四 四冊、高等小学読本女子用巻一～巻四 四冊、高等小学書キ方手本乙種第一学年用上・下～第二学年用上・下四冊、高等小学書キ方手本乙種女子用第一学年用上・下～第二学年用上・下四冊」)。
"	1・20	英大使、上海防衛のため共同出兵を提議。1・21幣原外相拒否。
"	1・	〔書〕「新漢和辞典」(大阪・松雲堂編・刊)。
"	2・15	朝鮮民族解放の民族単一党として京城で新幹会結成('31年5月16日解散)。
"	2・18	日ソ森林利権契約調印。
"	2・19	政府、米国にジュネーブ軍縮会議参加を回答。
"	"	上海総工会、軍閥反対のゼネスト。3月21日第3回ゼネスト3・22武装蜂起して勝利。
"	2・21	国民政府(王兆銘)、武漢に移って樹立。
"	2・	〔日〕ブエノスアイレス日亜学院(アルゼンチン・ブエノスアイレス市、DRエンリッケ)開校。
"	"	帝国発明協会研究所で邦文タイプライターの見本を製作。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第二九六号)。 (同上)「公学校第一学年読方始期の問題について」(小松正一)。 (")「古典の語学的研究」(伊藤慎吉)。

西 曆	年 代	項 目
1927	3・9	〔国〕 漢語整理案「ソノ四」発表。
"	3・24	中国国民革命軍、南京を占領。南京入城に際し列国領事館襲撃される。日本領事館暴行をうけ、海軍軍人も無抵抗で武装解除される。英米軍艦、南京市内を砲撃（「南京事件」）。
"	3・	銀行取付おこり、金融恐慌はじまる。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第二九七号）。 （同上）「江戸時代の語源論」（伊藤慎吾）。 （"）「教育研究論文「国語普及に関する研究」に就いて」。
"	"	〔書〕「新訳英和辞典」（大倉書店編・刊。「Okura's New Pocket English-Japanese Dictionary」）。
"	"	〔書〕「明解漢和辞典」（宇野哲人編、三省堂）。
"	"	〔書〕「実用馬來語辞典」（増淵佐平著。シンガポール）。
"	"	〔書〕「北 新 第30期2巻2号～3巻22号」（上海・北新書局。半月刊。民国十六年三月～十八年十一月）。
"	"	〔書〕「北 新 第30期」（上海・北新書局。週刊。1927年3月）。
"	4・1	〔教〕 師範学校卒業者の現役服務、1年間から5か月となる〔法律〕。
"	4・2	鈴木商店破産。
"	4・3	中国漢口で中国人と日本陸戦隊衝突（「漢口事件」）。
"	4・6	幣原外相、駐華公使芳沢謙吉に南京事件の解決は外交交渉によると訓令。
"	"	北京政府（張作霖）、ソ連大使館・中東鉄道支社・グリバンク支店を搜索。
"	4・7	陸相宇垣一成、若槻首相に中国の共産派抑圧のため列強と協調して積極策をとるよう申し入れる。
"	4・11	日・英・米・伊・仏、国民政府に、南京事件に関し、謝罪・責任者処罰を要求。最後通牒提出（蔣介石妥協）。
"	4・12	上海で蔣介石、反共クーデタを敢行（労働者糾察隊・上海総工会を解散、中共幹部を銃殺、「四・一二クーデタ」）。
"	4・17	若槻内閣総辞職。
"	4・18	蔣介石、武漢政府に対抗し、南京に国民政府樹立、共産党排撃（清党）を宣言。
"	"	台湾銀行休業、（20日までに近江銀行など関西の7銀行、21日十五銀行休業）。
"	4・20	田中義一政友会内閣成立（首相が外相兼任、蔵相に高橋是清元首相）。
"	"	〔日〕 関東庁、「関東書房規則」制定。
"	4・22	田中内閣、施政方針を発表し、中国における共産党の活動に日本は無関係で

西 暦	年 代	項 目
1927		あり得ずと声明。
"	4・27	武漢で、中共五全大会（～5月6日）。
"	4・	〔書〕「昭和百科現代の常識」（秋山逸博・太田武次郎共編，中央書院）。
"	"	〔書〕「仏蘭西語不規則動詞逆引辞典」（野口浩基編，白水社。 「Dictionnaire des Verbes irréguliers Parordre de Déclinaisons」）。
"	"	〔書〕「謡曲辞典」（大町桂月監修，蜂谷時順著，立川文明堂）。
"	5・18	モスクワで第8回コミンテルン執行委員会（～5月30日）。中国の土地革命・労働者農民の武装・武漢政府の改革を指示。
"	5・28	日本，山東派兵を声明（第一次山東出兵）。
"	5・	〔日〕 台北第一師範学校・台北第二師範学校設置。
"	"	〔書〕「英語科処分の急務」（藤村作「現代」5月号）。
"	"	〔書〕「国語普及問題」（鈴木利信，「台湾教育」第二九九号附録）。
"	"	〔書〕「大成エス辞典」（千布利雄，日本エスペラント協会。「Plena Japan-Esperanta Vortaro」）。
"	"	〔書〕「國學月報 第2巻5～12号」（北京述學社編，北京・樸社出版月刊。民国十六年五月～十二月）。
"	"	〔書〕「獅 吼 第1巻1期」（〔上海〕獅吼社。月刊。1927年5月）。
"	6・5	武漢政府，ソ連人顧問の罷免を決議し，反共に転ずる（7月末，ボロジン・ガロンら140人のソ連人顧問退去）。
"	6・8	〔国〕 漢語整理案「ソノ五」発表。
"	6・15	〔国〕 漢語整理案「ソノ六」発表。
"	6・20	ジュネーブで日英米三国海軍軍縮会議（～8月4日）。失敗に終わる。
"	6・27	外務省・陸軍省・関東軍の首脳ら，対華政策決定のため東方会議を開催（～7月7日。「第一次」）。会議後，「対支政策綱領」発表。
"	6・	〔日〕 関東庁，「関東州及鉄道附属青年訓練所規則」公布，満鉄，「青年訓練所規程」公布。
"	"	〔日〕 満鉄，朝鮮総督府と協定，朝鮮人学校の補助の地域的分担を決める。東北の朝鮮人学校の教育内容は「朝鮮総督府普通学校規定」に拠ることになる。
"	"	外務省文化事業部を省内の独立した一部とする。
"	"	〔書〕「歌語辞典」（大町五城編輯，大日本歌道奨励会）。
"	"	〔書〕「西和辞典」（村岡玄，東京西語学会）。

西 曆	年 代	項 目
1927	"	〔書〕「独和工学辞典」(根来簡二著, 刊, 丸善発売)。
"	"	〔書〕「最新 和漢薬宝典」(岡本幸一郎著, 下田文栄堂)。
"	"	〔書〕「和仏辞典」(丸山順太郎著, 白水社。「Nouveau Dictionnaire Japonais-Français」)。
"	7・5	〔書〕「言語 その本質・発達及び起源」(イエスペルセン著, 市河三喜神保格訳。岩波書店)。
"	7・7	田中兼任外相, 「対支政策綱領」を発表し, 権益自衛の方針を表明。
"	7・13	中共中央委, 対時局宣言を發し国民政府から退出(第一次国共合作終わる)。
"	7・15	武漢政府, 中共との分離を決定。8月5日共産党取締令を發する。
"	7・20	満鉄社長に山本条太郎, 副社長に松岡洋右を任命。
"	"	〔国〕 漢語整理案「ソノ七」発表。
"	7・24	芥川龍之介没(明治25年~昭和2年)。
"	7・27	〔国〕 漢語整理案「ソノ八」発表。
"	7・	〔書〕「機関車名称用語辞典」(鉄道省工作局編, 東洋書籍出版協会)。
"	"	〔書〕「双解独和大辞典」(片山正雄, 南山堂。「Grosses Deutsch-Japanisches Wörterbuch」)。
"	"	〔書〕「英和 図書及図書館語彙」(小河次吉, 丙午出版社)。
"	8・1	中共軍(賀竜・葉挺・朱徳の三軍), 南昌で武装蜂起, 革命委員会を組織。8月5日南昌を放棄し広東に向かう(のち八・一は人民解放軍の建軍記念日となる)。
"	8・4	奉天総領事吉田茂, 奉天省長に, 対日態度を改めなければ京奉線軍用列車の満鉄附屬地通過を停止すると警告。8・5 田中首相, 強制手段の実行延期を訓令。
"	8・14	外務政務次官森格・關東軍司令官・駐華公使・奉天総領事らと大連・旅順で満州問題を協議(8~15日。「大連会議」)。
"	8・15	第二次東方会議。
"	"	〔書〕「馬來—日本語字典」(平岡闡造 ^{ハデー・ピシ・ウオンチ} , 台湾總督府内南洋協会台湾支部)。
"	8・20	〔書〕「日用語大辞典」(芳賀剛太郎, 「大日本百科全集」)。
"	8・25	〔書〕「漢語 日本語文法教科書」(松本亀次郎, 笹川書店。三版)。
"	8・30	政府, 山東派遣軍の撤退を声明, 9月8日撤退完了。
"	"	日本, インドシナ間の航海に関する議定書調印。

西 曆	年 代	項 目
1927	8・	〔書〕「日用語大辞典」(芳賀剛太郎著, 誠文堂)。
"	"	〔書〕「イロハで引ける英語の字引」(中山由五郎, 修文社)。
"	9・6	武漢政府, 南京政府に合流。
"	10・3	米モルガン財団代表ラモンド来日し, 満鉄外債につき協議。(12月3日ラモンドより同借款見送りを通告)。
"	"	〔書〕「Pocket Dictionary of Chinese-Japanese Characters (With out Compounds)」(A. ROSE-INNES, 吉川書店)。
"	10・14	ソ連, 駐ソ大使田中都吉に日ソ不侵略条約締結を提議。
"	10・19	〔国〕 漢語整理案「ソノ九」ノ一発表。
"	"	〔書〕「標準漢文法」(松下大三郎, 紀元社)。
"	10・26	〔国〕 漢語整理案「ソノ九」ノ二発表。
"	10・	毛沢東, 江西・湖南省境の井冈山に初の農村革命根拠地を建設。
"	10・	〔書〕「 ^{英独和} _{訳掌中} 医学新辞典」(植松七九郎編, 金原商店。「New Pocket Medical Dictionary English-German-Japanese」)。
"	"	〔書〕「掌中独英和医学辞典」(植松七九郎編, 日本医書出版。「Pocket Medical Dictionary English-German-Japanese」)。
"	"	〔書〕「最新独和辞典」(権田保之助編, 有朋堂書店。「Deutsch-Japanisches Wörterbuch」)。
"	11・5	来日中の蔣介石, 田中首相と会談, 国民政府による中国統一に協力を要請。
"	11・12	山本満鉄社長と張作霖との間に, 満蒙5鉄道建設に関する了解成立。
"	11・17	中共の彭湃ら, 広東省海豊・陸豊に中国最初のソビエトを樹立(〜28年3月)。
"	11・22	〔教〕 文部省, 中学校・高等女学校の入試準備の弊害除去のため選抜方法を改正〔省令〕(内申書・人物考査・身体検査による)。
"	11・25	〔教〕 文部省, 児童生徒の個性に応じた職業指導・進学指導の実施を訓令。
"	11・26	〔書〕「標準国文法」(松下大三郎・高橋龍雄)。
"	11・	〔書〕「 ^{英独和} 化学用語新辞典」(橋本吉郎著, 太陽堂書店)。
"	"	〔書〕「机上便覧」(中和書院編・刊)
"	"	〔書〕「金春正本記号用語精解」(金春栄治郎, わんや書店)。

西 曆	年 代	項 目
1927	"	〔書〕「模範国漢文辞典」(三省堂編輯所, 三省堂)。
"	12・2	ソ連共産党第一五回大会(～12月19日)。第一次五か年計画承認, トロクキー, ジノビェフらを除名。
"	12・7	〔国〕 漢語整理案「ソノ十」発表。
"	12・10	朝鮮総督に山梨半造を任命。
"	12・11	中共, 広州で武装蜂起し, 広州コミュン樹立。12月3日南京国民政府, これを潰滅させ, 広州のソ連領事館を捜索。12月15日対ソ国交断絶を通告(ソ連領事引揚。事実上国交断絶)。
"	12・18	〔日〕 第十三回全島国語演習会(場所, 高雄市, 参加人数125名)。
"	12・	〔国〕 漢語整理案「ソノ十一」発表。
"	"	〔書〕「英語科廃止の論争について」(藤村作, 「現代」12月号)。
"	"	〔書〕「映画宣伝専用語宝典」(大野一郎監修, 三宅辰夫編集, 映画宣伝用語宝典発行所)。
"	"	〔書〕「日本家庭百科大事彙」(富山房編輯所(主任, 長谷川福平)編, 富山房。～昭和5年1月。三冊)。
"	(昭和2年)	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 生徒数, 本島人1048人, 高砂族14, 卒業数, 本島人334, 高砂族2)。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習教育を受けた本島人児童数・卒業数(本島人5253, 高砂族33, 卒業数, 本島人1976, 高砂族17)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 生徒数1786, 卒業数236)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校, 生徒数1267, 卒業数, 本島人340, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数(小学校, 生徒数, 本島人1136, 蕃人23, 卒業数, 本島人215, 蕃人10, 小学校高等科, 生徒数, 本島人120, 蕃人8, 卒業数, 本島人28, 蕃人6)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人845, 高砂族6, 卒業数, 本島人167, 高砂族2, 実業補習学校, 生徒数, 本島人875, 高砂族96, 卒業数, 本島人290, 高砂族40)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人1551, 高砂族4, 卒業数, 本島人582, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数75, 卒業数7)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数240, 卒業数56)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数167, 生徒数5061, 卒業数

西 曆	年 代	項 目
1927		623)。
"	"	〔日〕 在伯日本人教育会設立。
"	"	芳賀矢一没(慶応3年～昭和2年)。
"	"	「藤村氏の反省を促す」(岡倉由三郎)。
"	"	〔書〕「台湾教育史」(吉野秀公著)。
"	"	〔書〕「南洋 群島国語読本卷四・卷五」(南洋庁)。
"	"	〔書〕「公学校国語読本第一種公学校用国語書キ方手本一種編纂趣意書」 (台湾総督府)。
"	"	〔書〕「研究彙報」(台北教育研究会)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本卷九教材研究」(台北市教育研究会)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本卷十教材研究」(台北市教育研究会)。
"	"	〔書〕「台南州学事一覽」(台南州教育課)。
"	"	〔書〕「公学校用理科教授書卷一, 二, 三」(台湾総督府, 昭和2年～5 年)。
"	"	〔書〕「公学校教授の新研究」(台南師範学校附属公学校編)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第二九六号～第三〇四号発行, 1月, 7月, 8月欠 刊)。
"	"	〔書〕「我国中等教育における外国語」(東京高等師範学校意見書草案)。
"	"	〔書〕「研究社新英和辞典」(「Kenkyusha's New English-Japan- ese Dictionary on Bilingual Principles」岡倉由三郎主幹)。
"	"	〔書〕「大日本方言地図・国語の方言区画」(東条操)。
"	"	〔書〕「国語国文の研究」(吉沢義則)。
"	"	〔書〕「時計製造修理辞典」(植村恒三著, 大阪, 植村時計店。付録 (523ページ以降), 用語解説, 時計サイズ単位表など)。
"	"	〔書〕「日鮮新玉篇 2巻」(洪淳泌編, 京城・宝文館。2版)。
"	"	〔書〕「扶桑百八吟」(清姚朋圖著, 楊讓木校, 中華書局。民国十六年刊。 1冊)。
"	"	〔書〕「東瀛參觀記」(民国孫常潤著, 吉林吉東印刷。民国十六年刊。92 P)。
"	"	〔書〕「瀛海填麓」(〔民国十六年序〕刊。活版。1冊。内容: 乗桴集 (民国溥儒) 碧津集(民国溥徳))。
"	"	〔書〕「近代中國留學史」(民国舒新城編, 上海・中華書局, 民国十六年 刊。300P)。

西 曆	年 代	項 目
1927	(昭和2年)	〔書〕「芥川龍之介集」(芥川龍之介著, 民国魯迅等訳, 上海・開明書店。1927年刊。200P)。
"	"	〔書〕「苦悶的象徴」(厨川辰夫(白村)著, 民国魯迅訳, 北新書局。1927年刊。「未名叢刊1」。147P)。
"	"	〔書〕「中國報學史」(民国戈公振著, 潘公展校, 上海・商務印書館。民国十六年刊。385P)。
"	"	〔書〕「三民主義」(民国孫文著, 上海・民智書局。民国十六年刊。346P)。
"	"	〔書〕「中國國民黨所代表的是什麼?」(民国陳公博著。民国十六年刊。135P)。
"	"	〔書〕「德國職業補習学校概況」(民国顧樹森編, 上海・中華書局。民国十六年刊。98P)。
"	"	〔書〕「中國学生運動概況」(民国楊家銘著, 上海・光華書局。1927年刊。130P)。
"	"	〔書〕「新主義教科書後期小学國語讀本 1~4冊」(民国魏泳心, 呂伯攸共編, 上海・世界書局。民国十六年。4冊)。
"	"	〔書〕「日本文學 卷上」(民国謝六逸編, 上海・開明書店。1927刊。「世界文學叢書」。176P)。
"	"	〔書〕「中國文學研究 2卷」(民国鄭振鐸編, 上海・商務印書館。民国十六年刊。2冊。「小説月報17卷号外」)。
"	"	〔書〕「國語文學史」(民国胡適著, 北京文化學社。民国十六年刊。340P)。
"	"	〔書〕「古詩十九首之研究」(民国賀揚靈著, 上海・光華書局。民国十六年刊。105P)。
"	"	〔書〕「黃公度先生詩箋」(清黃遵憲著, 古直編, 上海・聚珍倣宋印書局。民国十六年刊。「隅樓叢書3」。1冊)。
"	"	〔書〕「英 娘」(民国王仲明著, 宣外・小小日報社。民国十六年刊。94P)。
"	"	〔書〕「北伐從軍雜記」(民国金聲著, 上海・現代書局。民国十六年刊。96P)。
"	"	〔書〕「斷片的回憶」(民国吳曙天著, 上海・北新書局。1927年刊。47P)。
"	"	〔書〕「日鮮史話(第一輯)」(松田 甲述)。
"	"	〔書〕「朝鮮問題について」(守屋栄夫)。
"	"	〔書〕「黒竜江省(上卷・下卷)」(南滿洲鉄道株式会社編)。
"	"	〔書〕「滿蒙の米作と移住鮮農問題 ——在外鮮人調査報告——」(尾池禹一郎)。

西 暦	年 代	項 目
1927	"	〔書〕「満蒙の鉄道網」(大島与吉)。
"	"	〔書〕「人口問題ヲ 基調トシテ満蒙拓殖策ノ研究」(外務省通商局)。
"	"	〔書〕「蒙古踏破記」(吉田平太郎)。
"	"	〔書〕「政治的方面 より見たる呼倫貝爾事情」(満鉄)。
"	"	〔書〕「支那今日の社会相と文化」(後藤朝太郎述)。
"	"	〔書〕「ソヴェート連邦の資源と産業(六冊) 石炭編, 鉄満俺編, 毛皮編, 亜麻編, 穀類編, 石油編」(満鉄調 査部。~昭和3年)。
"	"	〔書〕「労農露国土地法の研究」(満鉄調査課)。
"	"	〔書〕「露領極東地誌(上巻)」(満鉄調査課)。
"	"	〔書〕「サー・スタンフォード・ラッフルス 英領馬來事情」(南洋協会台湾支部)。
"	"	〔書〕「マルクスの支那印度論」(小林良正訳)。
"	"	〔書〕「海峡殖民地市場に於 ける日本商品の位置」(中村桃太郎)。
"	"	〔書〕「民族発展の先駆者」(藤岡紫朗)。
"	"	〔書〕「支那歴代帝王年表(正)」(山根偉三)。
"	"	〔書〕「教育の基礎としての現代哲学」(近藤寿治)。
"	"	〔書〕「形態説による新教育論」(野口彰)。
"	"	〔書〕「各科指導の真髓」(京都府師範附属小学校編)。
"	"	〔書〕「教育現象学」(千葉命吉)。
"	"	〔書〕「独創教育十論」(千葉命吉)。
"	"	〔書〕「現代教育思想概説」(入沢宗寿)。
"	"	〔書〕「学習諸問題の解決」(木下竹次)。
"	"	〔書〕「義務と制裁無き道徳」(ギョウオ 西宮藤朝訳)。
"	"	〔書〕「全人格的生活と修身教授の諸相」(河野通頼)。
"	"	〔書〕「ペスタロッチの生涯と其の事業」(大日本学術協会編集部)。
"	"	〔書〕「教育家の目に映じたる(一輯)」(森田要作他 朝鮮満州南洋事情 前田栄一編)。
"	"	〔書〕「教育史図表」(入沢宗寿)。
"	"	〔書〕「京都府少年教 育相談所記要(第一・二輯)」(京都府社会課。~昭和4年)。
"	"	〔書〕「児童学原論」(関 寛之)。
"	"	〔書〕「児童教養之考へ方」(関 寛之)。
"	"	〔書〕「学習法実施と各学年の学級経営」(清水甚吾)。
"	"	〔書〕「私の学級経営とその伸展」(安部清美)。
"	"	〔書〕「中学校教育法令要覧」。
"	"	〔書〕「制度の活用と学校経営」(花田甚五郎)。
"	"	〔書〕「公民教育と修身教育」(堀之内恒夫)。
"	"	〔書〕「青年訓練教育の実際」(稲垣春吉)。
"	"	〔書〕「農村教育概論」(児玉庄太郎)。
"	"	〔書〕「児童生徒の個性尊重及職業指導に関する件 並要旨略説少年職業指導協議会意見」(文部省)。

西 曆	年 代	項 目
1927	(昭和2年)	〔書〕「現代家事資料集成(前・後篇)」(家事教授研究会編)。
"	"	〔書〕「郷土婦人の輝」(鹿児島教育会)。
"	"	〔書〕「唱歌新教授法」(小出浩平)。
"	"	〔書〕「高等科の図画」(萬 富三)。
"	"	〔書〕「 ^{図画と手工の連絡} 児童工芸の実際」(石野 隆)。
"	"	〔書〕「数学教授ノ新思潮」(黒田 稔)。
"	"	〔書〕「革新的書き方教授の実際」(大洞空太郎)。
"	"	〔書〕「綴り方指導体系 ^{尋常科} 第三学年」(田上新吉)。
"	"	〔書〕「国語音声学」(新保 格)。
"	"	〔書〕「女性の心理」(^{ロムプロローゾー女史} 郷司わか訳)。
"	"	〔書〕「学級講話と聴方資料 尋一編」(宇野東圃)。
"	"	〔書〕「改訂教育的心理学」(大瀬甚太郎)。
"	"	〔書〕「教育的心理学」(^{松本亦太郎} 植崎浅太郎)。
"	"	〔書〕「 ^{最新} 法律経済熟語大辞典」(東京法曹閣編)。
"	"	〔書〕「経済法律文献目録」(神戸高商研究所)。
"	"	〔書〕「現代法律思想の研究」(高柳賢三)。
"	"	〔書〕「法律の価値に関する懐疑」(田村徳治)。
"	"	〔書〕「社会学の発達と主張」(佐々 穆)。
"	"	〔書〕「英法綱要」(久保 久)。
"	"	〔書〕「冷灰全集(江木博士著作集)四冊」。
"	"	〔書〕「弁護士道の七燈」(江木衷他訳)。
"	"	〔書〕「陪審制の新研究」(梶田 年)。
"	"	〔書〕「日本陪審法講話」(加畑一吉)。
"	"	〔書〕「法と宗教と社会生活」(田中耕太郎)。
"	"	〔書〕「海を渡って野をわたって」(牧野英一)。
"	"	〔書〕「農村法律問題」(末広巖太郎)。
"	"	〔書〕「犯罪と弁護・弁護権の活用」(山田武雄)。
"	"	〔書〕「日本モラトリウム法論」(竹野竹三郎)。
"	"	〔書〕「政治学研究(第一,二卷)」(小野塚教授在職二十五年記念)。
"	"	〔書〕「法律進化論」(穂積陳重)。
"	"	〔書〕「法律の生命」(恒藤 恭)。
"	"	〔書〕「自然法の再生」(^{シャルモン} 大沢 章)。
"	"	〔書〕「ウイン学派の法律学と其諸問題」(黒田 覚)。
"	"	〔書〕「法律の迷信」(^{ルンドステット} 唯根伊与訳)。

西 曆	年 代	項 目
1927	"	〔書〕「価値と文化現象」(恒藤 恭)。
"	"	〔書〕「中世教会法的微利論考」(打村鉷三)。
"	"	〔書〕「ポケット普選」(小林鉄太郎)。
"	"	〔書〕「選挙法疑解」(立憲民政党)。
"	"	〔書〕「普選法釈義」(坂 千秋 三宅正太郎)。
"	"	〔書〕「選挙運動と費用及罰則」(石橋 信)。
"	"	〔書〕「改正地方制度通義」(荒川五郎)。
"	"	〔書〕「英国都市計画法」(復興局長官官房計画課)。
"	"	〔書〕「仏国都市計画法」(復興局長官官房計画課)。
"	"	〔書〕「婦人の観た東京市政」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「東京市町内会に関する調査」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「英国の住宅政策」(財)東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「土地総有権史論」(石田文次郎)。
"	"	〔書〕「 ^改 正工場法論」(吉阪俊蔵)。
"	"	〔書〕「日本工場法(就業制限論)」(松沢 清)。
"	"	〔書〕「徳川時代警察沿革誌」。
"	"	〔書〕「医制50年史」(内務省)。
"	"	〔書〕「医法(上・下)」(会田俊一。~昭和7年)。
"	"	〔書〕「政治思想史(上)」(今中次麿)。
"	"	〔書〕「防長近世史談」(村田峰次郎)。
"	"	〔書〕「貧者及弱者の福音(普選談双)」(尾崎行雄)。
"	"	〔書〕「各国の政党(追録共)」(外務省。~昭和3年)。
"	"	〔書〕「日本政党論」(永井 亨)。
"	"	〔書〕「犬養木堂氏大演説集」(大日本雄弁会)。
"	"	〔書〕「 ^{欧米各国における青年軍事訓練並に国家総動員} 」(高島 敏)。
"	"	〔書〕「婦人参政権論」(森口繁治)。
"	"	〔書〕「 ^{ソヴェト} ロシヤの歴史的地理的研究」(浅野利三郎)。
"	"	〔書〕「英国憲政史」(占部百太郎)。
"	"	〔書〕「米国政党政治の観測」(藤井新一)。
"	"	〔書〕「橘曙覧全集」(井出令滋)。
"	"	〔書〕「新撰組永倉新八」(杉村義太郎)。

西 曆	年 代	項 目
1927	(昭和2年)	〔書〕「松浦詮伯伝(一、二年譜)」(松浦伯爵家編修所編)。
"	"	〔書〕「訳註無刑録(上・中・下)」(佐伯復堂訳)。
"	"	〔書〕「少年の暗黒面」(横田桑三郎)。
"	"	〔書〕「独逸米仏行刑法規(三冊)」(正木・辻・森山。~昭和3年)。
"	"	〔書〕「近畿司法保護事業者懇談会報告」(大阪毎日新聞慈善団)。
"	"	〔書〕「犯罪と科学の闘争」(安東 木村)。
"	"	〔書〕「民法総論物権債権法論」(中島弘道)。
"	"	〔書〕「民法原理(総論・物権債権)」(遊佐慶夫)。
"	"	〔書〕「土地所有権論」(吉田 久)。
"	"	〔書〕「土地総有権史論」(石田文次郎)。
"	"	〔書〕「日本相続法註釈(上下)」(柳川勝二)。
"	"	〔書〕「親子法論」(和田干一)。
"	"	〔書〕「破産和議手続詳解(二冊)」(金井正夫)。
"	"	〔書〕「破産法の理論と其運用(上巻)」(尾高武治)。
"	"	〔書〕「商事調停法論」(武田貞之助)。
"	"	〔書〕「商法要論(総論会社)」(烏賀陽然良)。
"	"	〔書〕「改訂増補商法総論」(竹田丞省)。
"	"	〔書〕「商行為法」(松本丞治)。
"	"	〔書〕「日本海法史」(住田正一)。
"	"	〔書〕「船荷証券の研究」(矢野 剛)。
"	"	〔書〕「新共同海損法」(居石 茂)。
"	"	〔書〕「海上保険会社の組織と経営」(中山秀治郎)。
"	"	〔書〕「欧米保険大観」(佐久間勝)。
"	"	〔書〕「英国衡平法と信託制度」(豊浦与七)。
"	"	〔書〕「ヒューダルトン財政学」(楠井隆三)。
"	"	〔書〕「 <u>秘</u> 奉天省財政之現状」(関東庁財務部)。
"	"	〔書〕「 <u>秘</u> 国債事務概説」(日銀営業局)。
"	"	〔書〕「東京市十五区の財政に関する調査」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「金融資本と恐慌」(カール・カウツキー 笠信太郎訳)。
"	"	〔書〕「金融と恐慌」(堀江帰一)。
"	"	〔書〕「庶民金融」(前田繁一)。
"	"	〔書〕「農業金融」(牧野輝智)。
"	"	〔書〕「兵庫県金融要覧」(兵庫県内務部商工課)。
"	"	〔書〕「独逸信用銀行論」(串本友三郎)。

西 暦	年 代	項 目
1927	"	〔書〕「本邦通貨の事歴」(塚本豊次郎)。
"	"	〔書〕「形式社会学研究」(井森陸平)。
"	"	〔書〕「分業論」(高田保馬)。
"	"	〔書〕「ロシア社会学」(ヘックファ著、波多野鼎)。
"	"	〔書〕「シュタイン社会思想史」(協調会)。
"	"	〔書〕「封建社会崩壊過程の研究」(土屋喬雄)。
"	"	〔書〕「ブルジョア社会学の批判」(アクセリロド、永田広志訳)。
"	"	〔書〕「部落農会事績(第六輯)」(兵庫県農会)。
"	"	〔書〕「罹災要救護者收容所概要」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「工場法及健康保険法——青年訓練所令——」(桜井庄吉)。
"	"	〔書〕「健康保健法改正意見並ニ参考資料」(東京商業会議所)。
"	"	〔書〕「世界性業婦制度史」(瀧本二郎)。
"	"	〔書〕「カントにおける弁証法」(宮川 実訳)。
"	"	〔書〕「資本主義の安定と無産階級運動」(プーハーリン、産業労働調査所編)。
"	"	〔書〕「岐阜県風物記」(三田滯入)。
"	"	〔書〕「労働行政綱要」(河原田稼吉)。
"	"	〔書〕「国際労働」(前田多門)。
"	"	〔書〕「各国法制上より見たる労働団結の自由」(国際労働局)。
"	"	〔書〕「改正日本工場法」(松沢 清)。
"	"	〔書〕「物価及賃金に関する調査」(簡易保険局)。
"	"	〔書〕「最低賃金決定制度ニ関スル説明書」(商業会議所連合会)。
"	"	〔書〕「静岡県失業統計調査概要」(静岡県)。
"	"	〔書〕「少年職業紹介施設要領」(東京地方職業紹介事務局)。
"	"	〔書〕「昭和二年度少年職業紹介施設及取扱成績」(中央職業紹介事務局)。
"	"	〔書〕「職業別労働事情(二)飲食物工業」(中央職業紹介事務局)。
"	"	〔書〕「大日本職業指導協会趣意書」。
"	"	〔書〕「米国独立五十年紀念費府萬国博覧会事務報告」(日本産業協会)。
"	"	〔書〕「アルミニウム工業促進ニ関スル協議会々議録」(商工省)。
"	"	〔書〕「製絲経済論」(早川直瀬)。
"	"	〔書〕「養蚕に関する団体調査」(農林省)。
"	"	〔書〕「支那四川省の蚕糸業」(蚕絲同業組合中央会)。
"	"	〔書〕「尾西織物案内」(広瀬長雄編)。
"	"	〔書〕「本邦に於ける茶業改良奨励施設の概要」(茶業組合中央会議所)。
"	"	〔書〕「茶業経営の実例」(熊本県立農事試験場)。
"	"	〔書〕「河川工法」(三輪周蔵、萩原俊一)。
"	"	〔書〕「気象学一斑」(国富信一)。

西 曆	年 代	項 目
1927	(昭和2年)	〔書〕「気象学」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「大正12年関東大震災被害調査報告(全三巻)」(土木学会)。
"	"	〔書〕「特許新案意匠商標四法要義」(村山小次郎)。
"	"	〔書〕「旧藩時代ノ耕地拡張改良事業ニ関スル調査」(農林省)。
"	"	〔書〕「三会堂開館記念」(大日本農会・大日本山林会・大日本水産会)。
"	"	〔書〕「秋田県に於ける農業金融の概況」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「小農に関する研究」(横井時敬)。
"	"	〔書〕「小作料改訂に関する企画と其成績」(兵庫県)。
"	"	〔書〕「林をめぐりて」(津村昌一)。
"	"	〔書〕「欧米各国に於ける林学教育」(三浦伊八郎)。
"	"	〔書〕「森林教育改造論」(青木 繁)。
"	"	〔書〕「山は荒れゆく」(青木 繁)。
"	"	〔書〕「北海道林税調査書」(北海道林業会)。
"	"	〔書〕「管内ニ於ケル林業試験の綱要」(東京営林局)。
"	"	〔書〕「欧米に於ける牧野に関する法令」(農林省)。
"	"	〔書〕「森林組合解説」(二田原嘉彦)。
"	"	〔書〕「本邦林野入会の沿革」(佐々木茂枝)。
"	"	〔書〕「東京に於ける屠場調査」(東京市商工課)。
"	"	〔書〕「人口食糧問題」(那須 皓)。
"	"	〔書〕「日本一の百姓となるまで」(新井友吉)。

西 曆	年 代	項 目
1928	(昭和3)	
	1・15	〔書〕「言語学原論」(ソシュール著, 小林英夫訳。改版昭和47年「一般言語学講義」と改題)。
	1・20	〔教〕「専門学校令」改正〔勅令〕公布(目的に人格の陶冶及び国体観念の養成を加え, 文部大臣の監督権を強化)。
	1・23	日ソ漁業条約をモスクワで調印。
	1・	〔日〕「教育所ニ於ケル教育標準」〔総警第一七四号総務長官通達〕
	〃	〔書〕「日本読本(巻一〜巻十六)」訂正(日本語学園編纂委員会)。
	〃	〔書〕「東方雑誌 第25巻1号〜32巻2号」(民国李聖五等編, 上海・商務印書館。半月刊。民国十七年一月〜民国廿四年一月)。
	〃	〔書〕「ポケットスタンダード英和辞典」(桜井役編, 大阪・堀書店)
	2・2	南京で国民党第二次四中全会開く。北伐再開を決定(革命軍総司令蒋介石, 中央政治会議主席となり軍政両権を把握)。4月7日北伐軍, 攻撃を開始。
	2・19	台湾工友総連盟結成(29組合)。
	2・20	初の普通選挙行われる(第十六回総選挙)。
	2・24	〔教〕陸軍省, 「学校教練及青年訓練修了者検定規程」〔省令〕を公布(学校教練も成績に加え合否の判定に資する)。
	2・	〔書〕「教育所用国語読本編纂趣意書」(台湾警察協会雑誌2月号)。
	〃	〔書〕「台湾教育」(第三〇六号)。 (同上)「尋常小学国語読本公民学校用国語読本に共通したる新出漢字調」。
	〃	〔書〕「漢英辞典」(P・M・須々木著, ロサンゼルス。「The Science Society」)。
	〃	〔書〕「基督教大辞典」(改版。高木壬太郎著, 警醒社書店)。
	〃	〔書〕「日本文学辞典」(三浦圭三著, 文教書院・大阪宝文館)。
	〃	〔書〕「模範いろは辞典」(大町桂月関, 近代文芸社)。
	3・1	〔書〕 ^{言文} 対照漢訳日本文典 完(松本亀次郎著, 訂正増補三十三版, 富山房)。
	3・9	〔教〕道府県の学務部に各1人の専任の視学〔地方視学官〕を置く〔勅令〕。

西 曆	年 代	項 目
1928	3・13	〔書〕「国語法概説」(安田喜代門, 中興館)。
"	3・15	共産党員全国的大検挙(幹部の多くは逮捕を免れる。488人起訴。「3・15事件」)。4月11日記事解禁。
"	3・17	〔日〕「台北帝国大学官制」〔勅令〕公布(台湾教育制度の完成, 1944年までの卒業生中, 中国人219人)。
"	3・	〔書〕「三省堂英和大辞典」(三省堂刊。「Sanseido's Encyclopaedic English-Japanese Dictionary」)。
"	"	〔書〕「今日之中國 第1巻1期」(上海・今日之中国雜誌社。1冊。民国十七年三月)。
"	4・12	〔教〕 文部省, 夜間職業学校の設置を法的に認める〔省令〕(この月末, 33校)。
"	4・15	日本共産党台湾民族支部設立(上海。中国共産党代表出席)。
"	"	〔書〕「国文法論纂」(松尾捨次郎, 株式会社文学社)。
"	4・17	〔教〕 文部省, 学生・生徒の思想傾向の匡正, 国民精神の作興を訓令。
"	4・19	閣議 第二次山東出兵を決定, 第6師団に動員命令。
"	4・20	日本, 第二次山東出兵声明(4月21日南京, 北京両政府抗議)。
"	4・25	〔書〕「改撰標準日本文法」(松下大三郎, 紀元社)。
"	4・	〔書〕「現代俳句表現辞典」(松村巨湫編, 資文堂)。
"	"	〔書〕「食物辞典」(沢村真著, 隆文館)。
"	"	〔書〕「姓名の選み方・名つけ辞典」(高島勝俊著, 春陽堂)。
"	"	〔書〕「文芸大辞典」(斎藤竜太郎編, 菊池寛校閲, 小峰書店)。
"	"	〔書〕「學生雜誌 第17巻4号」(民国陳功甫編, 上海・學生雜誌社。月刊。民国十七年四月)。
"	"	〔書〕「語 絲 第4巻14期~第5巻34期」(語絲社。週刊。1928年4月~1929年11月)。
"	5・3	日本軍, 山東省済南で国民政府軍(北伐軍)を阻止攻撃(「済南事件」)。
"	5・8	第三次山東出兵(山東派遣軍に増援のため第3師団を動員)。5月9日共産党, 動員輸送中の兵士に反戦宣伝)。
"	"	済南総攻撃開始。
"	5・9	日本, 第三次山東出兵声明。

西 曆	年 代	項 目
1928	5・10	国民政府、日本の山東出兵、済南事件を国際連盟に提訴。
"	5・11	済南占領（中国各地に排日貨・国貨提唱運動おこる）。
"	5・13	東方文化委員会の席上、中国側委員、日本軍の済南における行動に抗議（総辞職）。
"	5・15	張作霖と満鉄社長山本条太郎との間で、吉会・長大両工事請負契約成立（のうち、張学良政府は承認を拒絶）。
"	"	〔日〕 大学院主催、全国教育会議、南京で開催（中等師範学堂、中等職業学校の外国語には、原則として日本語をも課すことを決議）。
"	5・18	政府、中国南北政府に、戦乱が満州に波及の場合は治安維持のため適当・有効な措置をとると通告。駐華公使吉沢謙吉、張作霖に東三省復帰を勧告。
"	5・19	米國務長官、日本の対華通告を容認しがたいと通告。5月22日、中国南北両政府も抗議。
"	5・30	張作霖、北京総退却を命令。5月31日北伐軍、保定を占領。
"	5・	〔書〕「台湾教育」（第三〇九号）。 （同上）「文章読解の真諦」（王江海）。
"	"	〔書〕「現代書翰大辞典」（大西貞治著、河野成光館）。
"	"	〔書〕「国語漢文日用大辞典」（中村徳五郎、大阪・松雲堂）。
"	"	〔書〕「商業英和辞典」（島本港次郎、金子精編、大阪・駿々堂）。
"	6・4	張作霖、奉天に引揚げの途中、奉天西郊で関東軍の一部の謀略で、列車を爆破され死亡。6月21日、中国側死亡公表（「張作霖爆死事件」）。
"	6・9	北伐軍（閻錫山軍）、北京に入城（北伐戦争終わる）。
"	6・20	〔国〕 漢語整理案「ソノ十二」発表。
"	6・21	民政党、田中内閣の山東出兵を軽挙妄動と非難した声明を発表。
"	6・29	第55議会で審議未了の「治安維持法」改正（緊急勅令）を公布（死刑・無期を追加）。
"	6・	〔書〕「台湾教育」（第三一〇号）。 （同上）「作品から見た綴方指導」（野村藤作）。
"	"	〔書〕「新しい時代語の字引」（実業之日本社編）。
"	"	〔書〕「主義学説の字引」（佐野学著、誠文堂）。
"	"	〔書〕「昭和青年常識辞典」（毛利誠夫著、三弘社）。
"	"	〔書〕「日用文字がすぐ引ける筆順字引」（平山美佐男編、磯部甲陽堂）。
"	"	〔書〕「斎藤和英大辞典」（斎藤秀三郎著、日英社。「Saito's Japa-

西 曆	年 代	項 目
1928		nese-English Dictionary])。
"	"	〔書〕「奔流 第1巻1, 2号」(民国魯迅編, 上海・北新書局。1928年6～7月)。
"	7・1	内務省保安課を拡充強化。7月3日未設置の全県警察部に特別高等課設置を公布〔勅令〕。
"	"	中共六全大会, モスクワで開く。
"	7・2	〔教〕 国民教育奨励会, 祝祭日の小学校国旗掲揚作法を定め, 普及をはかる。
"	7・3	特別高等警察課(「特高」)新設。
"	7・5	〔書〕「言語, その本質・発達及び起源」(イエスペルセン著, 市河三喜, 神保格訳)。
"	7・6	〔教〕 文部省, 同省製作の皇室関係の映画・教育用映画フィルムを頒布。貸与〔告示〕。
"	7・7	中国国民政府, 不平等条約改訂を宣言(臨時弁法7か条)。
"	7・15	〔日〕 「南洋庁公学校規則」改正(「毎週国語時間数,〔3年制〕1年12時間, 2年12時間, 3年12時間,〔2年制〕1年10時間, 2年10時間」)。
"	7・16	日米間に, 不戦条約第1条中の「人民の名に於て」の解釈に関し, 覚書交換。
"	7・19	中国国民政府, 日華通商条約廃棄を通告。
"	"	奉天総領事林久治郎, 張学良に東三省の青天白日旗掲揚に反対と通告。7月25日張, 南方との妥協一時打切り決定と回答。
"	7・20	カナダに公使館を設置。
"	7・24	司法省, 思想係検事を設置〔勅令〕。
"	7・25	米国, 中国の関税自主権を承認。11月3日国民政府を正式に承認。
"	7・26	民政党, 対華外交批判の第二次声明。
"	7・	〔書〕「台湾教育」(第三一一号)。 (同上)「公一の教師用語に就て」(宋登才)。
"	"	〔書〕「日本語読本」(米国サンフランシスコ・日本語学園編纂委員会。訂正版刊行)。
"	"	〔書〕「文芸辞典(大思想エンサイクロペヂア第29巻)」(春秋社。非売)。
"	"	〔書〕「新月月刊 第1巻5号～第2巻2号」(民国徐志摩等編, 上海・新月書店。月刊。民国十七年七月～十八年一月)。

西 曆	年 代	項 目
1928	8・1	文部省, 第1回思想問題講習会を実施(～8月5日), 高等諸学校の職員出席('29年より, 中小学校職員にも実施)。
"	"	岩田愛之助ら, 愛国社を結成(大陸積極政策を主張)。
"	8・27	パリで不戦条約(クログ・ブリアン条約)調印, 国策の手段としての戦争を放棄(15か国が署名。これについて「人民の名に於て」の一句政治問題化)'29年7月24日発効。
"	8・	〔書〕「台湾教育」(第三一二号)。 (同上)「耳にさはる言葉」(黒瀬正雄)。 (")「綴方の緊張問題」(東出茂)。
"	"	〔書〕「鉱業術語集」(日本鉱業会編・刊)。
"	"	〔書〕「新意義字典」(久土目精頭編, 名詮学会出版部)。
"	9・7	田中善立ら3代議員, 民政党を脱党し, 憲政一新会結成を宣言。
"	9・17	閣議, 思想善導施設費約15万6000円余を文部省の責任支出とすることを決定。
"	9・20	〔書〕「台湾文化志」(伊能嘉矩)。
"	9・	〔書〕「第一教育」(第七卷第八号)。 (同上)「話し方教授の目的とその様式」(台北G・K生)。 (")「公学校読本に表はれたる修身法の研究(四)」(田淵武吉)。 (")「俳句教授に関する研究」(栗原源七。～九・十号)。 (")「九月の綴方文例集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三一三号)。 (同上)「狂言記の語法に就て」(小山朝丸。～三一四号)。 (")「読方の初歩教育に就て」(横山長治。～三一五号)。
"	"	〔書〕「井上支那語辞典」(井上翠編著, 文求堂)。
"	"	〔書〕「最新国文学史辞典」(奥里将建著, 大同館書店)。
"	"	〔書〕「最新書簡文百科大辞典」(日本文学協会編, 昭英堂書院)。
"	"	〔書〕「英和及和英電気用語新辞典」(電陽会・太陽会編, 太陽堂書店)。
"	"	〔書〕「漢文国語作文ポケット辞典」(永井俊著, 工業書房)。
"	10・8	蔣介石, 国民政府主席に就任。

西 曆	年 代	項 目
1928	10・15	〔書〕「 ^女 標準日本文法」(松下大三郎著, 中文館書店)。
〃	10・30	〔教〕 文部省, 思想問題に対処するため学生課を新設(翌年学生部となる)官立大学・高等専門学校に学生(生徒)主事を置く〔勅令〕('30年10月11日公立学校にも実施)。
〃	10・	〔教〕 「修身科教授要目」(南洋庁訓令第二四号)。
〃	〃	〔教〕 「算術科教授要目」(南洋庁訓令第二五号)。
〃	〃	〔書〕「第一教育」(第七卷第九号)。 (同上)「俳句教授に関する研究」(栗原源七)。
〃	〃	〔書〕「元祿文學辭典」(佐藤鶴吉, 新潮社)。
〃	〃	〔書〕「哲學辭典」(春秋社編刊, 非売)。
〃	〃	〔書〕「先 導 第1卷5号」(上海・先導月刊社。月刊。民国十七年十月)。
〃	11・10	天皇, 即位礼を挙行。
〃	11・15	久原通相, 憲政一新会と会合し, 対華外交で提携成立。
〃	11・17	久原通相, 床次竹二郎と対華外交につき会談。12月2日田中首相, 床次と会見し, 対華外交につき了解成立。
〃	11・	〔書〕「解剖学名彙」(鈴木文太郎著, 丸善)。
〃	〃	〔書〕「体育辞典」(木下東作・寺岡英吉共著, 日黒書店)。
〃	〃	〔書〕「岩波哲学辞典」(宮本和吉・高橋稜・上野直昭・小熊虎之助編, 岩波書店)。
〃	〃	〔書〕「電気工学術語辞典」(山際満寿一著, 早稲田大学出版部)。
〃	〃	〔書〕「新生命 第1卷11号」(上海・新生命月刊社。月刊。民国十七年十一月)。
〃	12・1	教学振興, 国体觀念養成の政府声明。
〃	12・5	〔国〕 漢語整理案「ソノ十三ノ一」発表。
〃	12・10	〔書〕「蒙和辞典」(阿精稷 ^韓 一, 大阪・甲文堂書店。1万7000余語)。 備松源一
〃	12・19	〔国〕 漢語整理案「ソノ十三ノ二」発表。
〃	12・20	英中条約調印。英国, 国民政府を承認, 中国の自主関税を認め, 沿岸・国内関税を廃止させる。12月22日フランス, 南京政府を承認。

西 曆	年 代	項 目
1928		張学良、東三省の易幟を通電し、国民政府に合流（東三省、中央化する）。
"	12・31	〔書〕「印度選述部（国訳一切経）」（〜'36・10・5。156冊）。
"	12・	〔書〕「第一教育」（第七卷第十一号）。 （同上）「俳句に関する研究」（栗原源七）。 （"）「聴き方教授について」（小林正一）。 （"）「十二月の児童優良文の批判」（南嶺生）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（12月号，「御大礼記念号」）。
"	"	〔書〕「独羅和 医学十五万語辞典」（橋本節斎著，金原商店）。
"	"	〔書〕「経済辞典」（神田豊穂編，春秋社）。
"	"	〔書〕「再 造 第28，9期合刊，36期」（上海・再造旬刊社。2冊。旬刊。民国十七年十二月〜十八年四月）。
"	（昭3）	〔教〕 「御大礼後，教育ニ関スル御沙汰」。
"	"	〔日〕 満鉄営商業学校，日本人だけの学校となる。
"	"	〔日〕 満鉄，南満医学堂廃校。
"	"	〔日〕 ワルシャワ東洋学院日本語科設置（修業年限3年）。
"	"	大槻文彦没（弘化4年〜昭和3年）。
"	"	大矢透没（嘉永3年〜昭和3年）。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数（本島人5253，高砂族33，卒業数，本島人1976，高砂族17）。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数，卒業数（小学校，生徒数，本島人1142，蕃人28，卒業数，本島人197，蕃人4，小学校高等科，生徒数，本島人150，蕃人10，卒業数，本島人37，蕃人3）。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数（師範学校，学生数802，高砂族13，卒業数267，高砂族5）。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数（公立中学校，生徒数，本島人1840，高砂族2，卒業数，本島人283，高砂族0）。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数（女子高等普通学校，生徒数1304，卒業数380）。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数（実業学校，生徒数，本島人968，高砂族6，卒業数，本島人96，高砂族0，実業補習学校，生徒数，本島人1056，高砂族104，卒業数，本島人331，高砂族49）。

西 曆	年 代	項 目
1928	(昭和3年)	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数,本島人1605,高砂族3,卒業数,本島人698,高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数104,卒業数25)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大,学生数6,卒業数0)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数222,卒業数168)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数168,生徒数5541,卒業数829,就学歩合57・32)。
"	"	〔書〕「公学校修身書一〜六修正趣意書」(台湾総督府,昭和3年〜6年)。
"	"	〔書〕「公学校修身書巻一,二,三,四,五,六」(台湾総督府,昭和3年〜8年)。
"	"	〔書〕「公学校修身掛図第一種一年〜六年用」(台湾総督府,昭和3年〜7年)。
"	"	〔書〕「公学校修身書第一種教師用巻一〜六」(台湾総督府,昭和3年〜5年)。
"	"	〔書〕「公学校修身書第一種巻一,二,三,四,五,六」(台湾総督府,昭和3年〜5年)。
"	"	〔書〕「台北市小公学校施設要覧」(台北市社会教育課)。
"	"	〔書〕「台北市学事一覽」(台北市役所)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三〇五号〜第三一六号発行)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第七〜第十四巻)(台湾子供世界社。昭和3年〜10年)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第七巻)。 (同上)「聴き方又聞」(T・D・W・T)。 (")「詩歌の本質とその鑑賞について」(すがや生)。 (")「童話に関する一考察」(元重信)。 (")「十月の綴方文例集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「日本語音声学」(佐久間鼎)。
"	"	〔書〕「DICTIONARY of "KAN-JI" OR JAPANESE CHARACTERS」(P. M. SUSKI, LONDON)。
"	"	〔書〕「DAS KIRCHLICHE SPRACHPROBLEM IN DER JAPANISCHEN JESUITENMISSION DES 16. UND 17. TAHRHUNDERTS」(EINSTUCK RI-TENPRAGE IN JAPAN VON GEORG SCHURHMMER S.T. TOKYO)。

西 曆	年 代	項 目
1928	"	〔書〕「歐米大家原著約説読方教授革新意見」(水木梢訳, 第一出版協会)。
"	"	〔書〕「新撰エス和辞典」(日本エスペラント学会)。
"	"	〔書〕「Principles de grammaire générale」(L. Hjelmslev, 1898~)。
"	"	〔書〕「天草版吉利支丹教義の研究」(橋本進吉)。
"	"	〔書〕「露和辞典」(南満州鉄道株式会社東亜經濟調査局編纂, 同人社)。
"	"	〔書〕「日華学報」創刊(日華学会発行, 定期刊)。
"	"	〔書〕「増補對譯日語會話寶典」(飯河道雄著, 奉天・東方印書館。356 P)。
"	"	〔書〕「半隱盧詩草」(清陳爾錫著, 民国十七年刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「日本視察記」(民国王桐齡著, 北京・文化学社。民国十七年刊。242 P)。
"	"	〔書〕「環球遊記」(民国羅運炎著, 上海。民国十七年刊。112 P)。
"	"	〔書〕「書舶庸譚 4卷」(清董授經著。民国十七年刊。影印。3冊。1帙)。
"	"	〔書〕「環遊二十九國記(卷上)」(民国鄒海濱著。民国十七年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「嘩嘩集」(安藤栄之助編, 東京・安藤栄之助。1冊)。
"	"	〔書〕「日本論」(民国戴季陶著, 上海・民智書局。民国十七年刊。176 P)。
"	"	〔書〕「留西外史」(民国陳春随著, 上海・新月書店。1928年刊。143 P)。
"	"	〔書〕「再和我接個吻」(菊池寛著, 民国葛祖蘭訳。民国十七年刊。285 P)。
"	"	〔書〕「世界文藝批評史」(宮島新三郎著, 民国美子女士訳, 廈門・国際學術書社。1928年刊。128 P)。
"	"	〔書〕「三十三年落花夢」(宮崎寅蔵著, P・K・校, 上海・出版合作社。民国十七年刊。140 P)。
"	"	〔書〕「中國最近百年史」(民国顏昌曉著, 上海・太平洋書店。民国十七年刊。222 P)。
"	"	〔書〕「夾攻中之奮鬥」(民国張北海編, 上海・難花書店。民国十七年刊。107 P)。
"	"	〔書〕「孫中山全集 正集4卷 統集4卷」(民国孫文著, 上海・三民公司。民国十七~十八年刊。8冊)。
"	"	〔書〕「三民主義之理論の體系」(民国周仏海著, 上海・新生命月刊社。民国十七年刊。354 P)。
"	"	〔書〕「三民主義概論」(民国楊幼炯著, 上海・民智書局。民国十七年刊。「革命叢書1種」。136 P)。

西曆	年代	項目
1928	(昭和3年)	〔書〕「戴季陶先生赴日講演錄」(民國戴季陶著, 陳以一編。民國十七年刊。62P)。
"	"	〔書〕「不平等條約十講」(民國周鯁生著, 上海·太平洋書店。民國十七年刊。172P)。
"	"	〔書〕「社會革命論叢 1集」(民國鐵心編, 廣州·革新書局。民國十七年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「日本婦女運動考察記略」(民國陳維編, 上海·商務印書館。民國十七年刊。「現代婦女叢書」。266P)。
"	"	〔書〕「留西外史」(民國陳春隨著, 上海·新月書店。1928年刊。143P)。
"	"	〔書〕「支那現代書簡文 名文體と作り方」(村上信太郎著, 大連·還元社。昭和3年刊。451P)。
"	"	〔書〕「〔澄衷蒙學堂字課圖說〕4卷 首1卷」(澄衷學校編, 大成書局。民國十七年刊。石印。8冊, 1帙)。
"	"	〔書〕「注音對譯簡易支那語會話篇」(秩父固太郎著, 大連·大阪屋号書店。昭和3年刊。217P)。
"	"	〔書〕「現代中国文学作家 卷1, 2」(中国杏邨編, 上海·泰東書局。1928~1930年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「百合」(上海·世界書局。民國十七年刊。98P)。
"	"	〔書〕「幽蘭女士」(民國陳大悲著, 上海·現代書局。1928年刊。「現代戲劇叢書」。120P)。
"	"	〔書〕「儒林外史」(清吳敬梓著, 民國文翻健點, 上海·泰東書局。民國十七年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「素描種種」(民國張資平著, 上海·樂群書店。1928年刊。191P)。
"	"	〔書〕「在黑暗中」(民國丁玲著, 上海·開明書店。1928年刊。272P。內容: 夢珂 莎菲女士日記, 暑假中, 阿毛姑娘)。
"	"	〔書〕「葎 海花」(東亞病夫著, 上海·真美善書店。民國十七年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「趙子曰」(民國老舍著, 上海·商務印書館。民國十七年刊。「文學研究會叢書」。348P)。
"	"	〔書〕「果夫小說集」(民國陳果夫著, 王夫凡等編, 上海·現代書局。民國十七年刊。「藍皮小書」。109P)。
"	"	〔書〕「化外的文學」(民國王夫凡著, 上海·現代書局。民國十七年刊。「藍皮小書」。133P)。
"	"	〔書〕「蘇曼殊全集 5卷」(民國蘇玄瑛著, 柳亞子編, 上海·北新書局。1928~32年刊。5冊)。

西 暦	年 代	項 目
1928	"	〔書〕「朝鮮の經濟事情」(朝鮮總督府)。
"	"	〔書〕「朝鮮殖産銀行十年志」(守屋徳夫)。
"	"	〔書〕「朝鮮の藪に就て」(總督府殖産局)。
"	"	〔書〕「歴史民俗朝鮮漫談」(今村 柄)。
"	"	〔書〕「新聞に伝えられる満蒙の予定鉄道」(南満洲鉄道(株))。
"	"	〔書〕「現代支那事情の研究」(木村増太郎)。
"	"	〔書〕「支那史概説」(^{ホークス・ポット} 保々隆矣訳)。
"	"	〔書〕「支那漫談」(村松梢風)。
"	"	〔書〕「露領極東の資源と産業」(満鉄調査課)。
"	"	〔書〕「露領極東の鉱業利権」(満鉄調査課)。
"	"	〔書〕「埃及經濟事情と日埃貿易」(商工省商務局編)。
"	"	〔書〕「教育社会学の思潮」(田制佐重)。
"	"	〔書〕「現代教育主潮」(入沢宗寿)。
"	"	〔書〕「新教育思潮の研究」(小林澄兄)。
"	"	〔書〕「生命伸展の教育」(今宮千勝)。
"	"	〔書〕「新しい實際教育の体系的研究」(野瀬寛顕)。
"	"	〔書〕「古今東西五十大家教育的要論」(武田勘治)。
"	"	〔書〕「 ^{尋常小学} 修身学習書指導案(尋五)」(安部清見)。
"	"	〔書〕「国本教育の新建設」(中野八十八)。
"	"	〔書〕「教育史上の人及び思想」(入沢宗寿)。
"	"	〔書〕「教師と父母との再教育」(^{ザルツマン著} 村上湖麿雄訳)。
"	"	〔書〕「欧米教育の實際と新傾向」(橋本文寿)。
"	"	〔書〕「欧州文化の印象と批判」(稲毛詛風)。
"	"	〔書〕「 ^{教育家の目に映じたる} 朝鮮満洲南洋事情(二輯)」(^{森田要作他} 前田栄一編)。
"	"	〔書〕「学習院史(開校五十年記念)」。
"	"	〔書〕「兵庫校教育五十年史」(神戸市兵庫高小)。
"	"	〔書〕「 ^{東京女子高等師範学校} 第六臨時教員養成所 ^{自昭和三年} 一覽 ^{至昭和四年} 」(東京女子高等師範学校)。
"	"	〔書〕「子供研究講座(第一卷~第十卷)」(山村清敏。~昭和4年)。
"	"	〔書〕「高等商業教育調査資料」(神戸高商)。
"	"	〔書〕「全国優良小学校の模範経営」(「学校経営」編集部)。
"	"	〔書〕「実業補習教育の本質」(^{文部省構内実業補習} 教育研究会編)。
"	"	〔書〕「補習学校経営の實際」(岡 篤郎)。
"	"	〔書〕「青年団調査資料(1)」(大日本連合青年団)。
"	"	〔書〕「成人教育水産講座講義要録」(神奈川県)。
"	"	〔書〕「農業教育」(小出満二)

西 曆	年 代	項 目
1928	(昭和3年)	〔書〕「教育の改善と職業指導」(大日本職業指導協会)。
"	"	〔書〕「児童生徒の個性に適応せる職業指導法」(水野常吉)。
"	"	〔書〕「 <small>小学校に於ける</small> 理科設備の実際」(堂東 伝)。
"	"	〔書〕「最新家事提要(改訂版)」(井上秀子)。
"	"	〔書〕「家事新教授法」(石沢吉磨)。
"	"	〔書〕「 <small>妊産婦及乳幼児保護の標準</small> <small>妊産婦心得及乳幼児保育の一般標準</small> 」(岡山県社会課)。
"	"	〔書〕「体育生理学要綱」(小笠原道生)。
"	"	〔書〕「子供の神経質」(三田谷啓)。
"	"	〔書〕「劣等児教育の実際研究」(西久保奈良石)。
"	"	〔書〕「法律と道徳」(<small>ヒスコープバンド</small> 前原光雄訳)。
"	"	〔書〕「治安維持法提案討議」(高等法院検事局)。
"	"	〔書〕「 <small>米国裁判所の組織及訴訟手続</small> 」(司法資料)。
"	"	〔書〕「日本陪審法論」(武田宣英)。
"	"	〔書〕「犯罪と弁護・弁護権の活用」(山田武雄)。
"	"	〔書〕「岡倉先生記念論文集(改装本)」(市河三喜編)。
"	"	〔書〕「法理学と文化の概念」(小野清一郎)。
"	"	〔書〕「神権説と民約説」(穂積陳重)。
"	"	〔書〕「新稿憲法述義」(上杉慎吉)。
"	"	〔書〕「 <small>大島正徳氏述</small> <small>選挙道徳に就て</small> 」(実業同志会編)。
"	"	〔書〕「 <small>巨人</small> <small>新人</small> 普選代議士名演説集」(大久保周人編)。
"	"	〔書〕「開票管理者執務順序」。
"	"	〔書〕「選挙の心得」(内務省)。
"	"	〔書〕「選挙法規行政実例集」(内務省地方局)。
"	"	〔書〕「衆議院議員選挙事務ノ栞」(神奈川県内務部地方課)。
"	"	〔書〕「行政法の基礎概念」(浅井 清)。
"	"	〔書〕「 <small>類集</small> <small>詳論</small> 行政法判例」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「山口県自治大観」(野原祐三郎)。
"	"	〔書〕「農村行政」(外山福男)。
"	"	〔書〕「各国に於ける近時の都市計画概観」(復興局長官官房)。
"	"	〔書〕「都市計画と道路行政」(菊池慎三)。
"	"	〔書〕「東京市統計図表」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「土地収用法講義」(復興局)。
"	"	〔書〕「日本馬政史 一」(帝国競馬協会)。
"	"	〔書〕「帝国議会出版法記録」(内務省警保局)。
"	"	〔書〕「医事関係判例並に鑑定実例」(宮本誉志男)。

西 暦	年 代	項 目
1928	"	〔書〕「改版 医師の権利義務」(市村光恵)。
"	"	〔書〕「医業国営論」(鈴木梅四郎)。
"	"	〔書〕「衛生組合規則 <small>附衛生組合規則施行手続</small> 衛生組合規約準則」(神奈川県)。
"	"	〔書〕「ムーア・比較宗教史概論」(菅 園吉訳)。
"	"	〔書〕「日蓮上人と思想」(坂梨徳貞)。
"	"	〔書〕「 <small>増補</small> 日蓮聖人伝十講」(山川智応)。
"	"	〔書〕「氏神と八幡の正体(発禁本)」(岸 一太)。
"	"	〔書〕「皇基国体と社会整理」(建部遯吾)。
"	"	〔書〕「聖訓謹解」(内田良平)。
"	"	〔書〕「政治思想の変遷」(高橋清吾)。
"	"	〔書〕「政治的自由の獲得」(片山 哲)。
"	"	〔書〕「無産政党論(政治学全集)」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「長野県政党史(上・下)」(丸山福松)。
"	"	〔書〕「田中内閣」(川原茂輔監督)。
"	"	〔書〕「永井柳太郎氏大演説集(一集)」(大日本雄弁会編)。
"	"	〔書〕「治安維持法釈義」(刑事法学会)。
"	"	〔書〕「国際政治と国際行政」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「英国政治制度」(占部百太郎)。
"	"	〔書〕「英国労働党の政策及現勢」(川村貞四郎 佐伯数美)。
"	"	〔書〕「華山先生全樂主義」(土井 礼)。
"	"	〔書〕「加藤高明伝」(加藤高明伝刊行会)。
"	"	〔書〕「片岡直輝翁記念誌」(石川辰一郎)。
"	"	〔書〕「華族動態調査統計表(大正5~14年)」(柳沢統計研究所)。
"	"	〔書〕「山路愛山選集(第一,二巻)」(萬里閣書房編)。
"	"	〔書〕「朝吹英二君伝」(大西理平)。
"	"	〔書〕「ロバート・オーウェン自叙伝」(五島 茂・他)
"	"	〔書〕「ジョン・バチラー自叙伝我が記憶をたどりて」。
"	"	〔書〕「ムッソリニ伝」(沢田 謙)。
"	"	〔書〕「国際公法論」(中村進午)。
"	"	〔書〕「日露の漁業と新条約」(壇野礼助)。

西 曆	年 代	項 目
1928	(昭和3年)	〔書〕「外交編(明治文化全集)」(吉野作造)。
"	"	〔書〕「国際連盟年鑑(昭3~9)五冊」(青木節一)。
"	"	〔書〕「軍政改革論」(松下芦男)。
"	"	〔書〕「兵役法理由書」(陸軍省)。
"	"	〔書〕「 ^{帝国在郷軍人会} 第二回講習会講義録上・下巻」(帝国在郷軍人会本部)。
"	"	〔書〕「在支日本軍民慰問視察報告書」(民政党特派団)。
"	"	〔書〕「日本刑法新論(総・各論)」(島田武夫)。
"	"	〔書〕「刑法講義」(滝川幸辰)。
"	"	〔書〕「実験犯罪捜査」(清水欽平)。
"	"	〔書〕「婦人と犯罪」(寺田精一)。
"	"	〔書〕「清川八郎(幕末の活動家)」(大川周明)。
"	"	〔書〕「朝比奈知泉文集(文筆評論家)」(文集刊行会)。
"	"	〔書〕「青淵回顧録渋沢栄一述」(小貫一郎他)。
"	"	〔書〕「外交及外交史研究」(松原一雄)。
"	"	〔書〕「最近政治外交史(全四冊)」(坪井九馬三。~昭和4年)。
"	"	〔書〕「外交側面史談」(信夫淳平)。
"	"	〔書〕「大正外交十五年史」(信夫淳平)。
"	"	〔書〕「国際連盟政策論」(神川松彦)。
"	"	〔書〕「軍需工業動員ニ関スル常識的説明」(吉田豊彦)。
"	"	〔書〕「刑事訴訟法大綱」(板倉松太郎)。
"	"	〔書〕「性相学原論」(^{コム} 松軒翁訳)。
"	"	〔書〕「不良児と其の指導」(^{近藤堅三} 権名龍徳)。
"	"	〔書〕「新編裁判化学(第五版)」(丹波敬三)。
"	"	〔書〕「日本民法史」(岩田 新)。
"	"	〔書〕「日本民法総論」(鳩山秀夫)。
"	"	〔書〕「債権総論」(大谷美隆)。
"	"	〔書〕「債権総論」(中島玉吉)。
"	"	〔書〕「債権発生原因論」(中村 武)。
"	"	〔書〕「婚姻立法における二主義の抗争」(栗生武夫)。
"	"	〔書〕「商行為及保険法」(岡野敬次郎)。
"	"	〔書〕「貨物輸送に関する判例集」(井上房太郎)。

西 曆	年 代	項 目
1928	"	〔書〕「海商法上の諸問題」(田中誠二)。
"	"	〔書〕「傭船契約新論」(南 愨平)。
"	"	〔書〕「傭船契約の研究」(矢野 剛)。
"	"	〔書〕「簡易保険事業要覧」(簡易保険局)。
"	"	〔書〕「信託法論」(青木徹三)。
"	"	〔書〕「金銭信託」(王 金海)。
"	"	〔書〕「担保附社債及び信託」(船尾栄太郎)。
"	"	〔書〕「銀行法解説」(西原寛一)。
"	"	〔書〕「預金部秘史」(中津海知方)。
"	"	〔書〕「日本国債論」(青木得三)。
"	"	〔書〕「市町村の予算」(大塚辰治)。
"	"	〔書〕「本邦輸出品略解(一〜三)」(神戸税関)。
"	"	〔書〕「我国の金融市場(全二冊)」(山室宗文)。
"	"	〔書〕「不動産金融に関する調査」(日本商工会議所)。
"	"	〔書〕「銀行合併の理論と実際手続」(馬場友義)。
"	"	〔書〕「 <small>木村清四郎氏講演速記</small> —日銀副總裁—」(株式会社群馬中央銀行)。
"	"	〔書〕「朝鮮殖産銀行十年志」(同銀行)。
"	"	〔書〕「貨幣理論」(橋爪明男)。
"	"	〔書〕「通貨調節論」(深井英五)。
"	"	〔書〕「社会学」(フォン・ウィーゼ)。 <small>黒川純一</small>
"	"	〔書〕「マルクス主義階級意識学」(アー・ボグダーノフ)。 <small>林 房雄訳</small>
"	"	〔書〕「農民思潮と新農村施設」(太田利一)。
"	"	〔書〕「農民闘争の戦術・その躍進」(大西俊夫)。
"	"	〔書〕「百姓一揆の研究(正・続)」(黒正 巖)。
"	"	〔書〕「東京市社会事業批判」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「関東学院セツルメント」。
"	"	〔書〕「 <small>兵庫県神戸市</small> 方面委員会須磨区分会一周年史」(白崎潤蔵)。
"	"	〔書〕「尙春婦論考」(道家斉一郎)。
"	"	〔書〕「道の国日本の完成」(田沢義輔)。
"	"	〔書〕「独逸に於ける青年運動の精神」(立沢 剛)。
"	"	〔書〕「図書館講習会講演集」(神奈川県学務部)。
"	"	〔書〕「新聞販売我観」(伊勢兵次郎)。
"	"	〔書〕「シュペングラーの歴史主義的立場」(笠信太郎)。
"	"	〔書〕「野田血戦記」(日本社会問題研究所編纂)。

西 曆	年 代	項 目
1928	(昭和3年)	〔書〕「鐘紡・福山工場争議の真相と戦術」(争議団本部)。
"	"	〔書〕「各国労働争議統計」(協調会調査課。～昭和6年)。
"	"	〔書〕「富山電灯争議の真相」(長尾桃郎)。
"	"	〔書〕「労働管理」(蒲生俊文)。
"	"	〔書〕「最低賃金法制」(社会局)。
"	"	〔書〕「各国最低賃金関係法規集」(協会)。
"	"	〔書〕「 ^{関門地方} 経済調査(下関職業紹介所他)」(市立下関商業学校)。
"	"	〔書〕「 ^{財団法人大阪職} 業紹介所報告(明45～昭2)」(財)大阪職業紹介所)。
"	"	〔書〕「 ^{昭和3・5・7年中に於ける} 道府、 ^{県外出稼者に関する調査概要} 」(中央職業紹介所。～昭和7年)。
"	"	〔書〕「職業指導読本」(大日本職業指導協会編)。
"	"	〔書〕「産業革命史論」(^{エル・ノールス} 川西正鑑)。
"	"	〔書〕「工業政策」(気賀勘重)。
"	"	〔書〕「北海道鉱業誌」(小笠原栄治)。
"	"	〔書〕「航空の現状と将来」(小磯国昭)。
"	"	〔書〕「独乙電気事業経済研究」(鴨川広正)。
"	"	〔書〕「昭和貳年絲価安定策実行ノ顛末」(帝国蚕糸(株))。
"	"	〔書〕「茶業要覧」(農商務省農務局)。
"	"	〔書〕「関東の地質」(藤本治義)。
"	"	〔書〕「気象学講話」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「気象器械学」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「復興局編 帝都復興事業概観」(財)東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「商標の理論と実際」(井野春昭)。
"	"	〔書〕「 ^{英国及独逸国に於ける} 主要政党の産業政策」(農林省)。
"	"	〔書〕「 ^{ワルター・ミツフ} 填国農産政策」(長崎 常)。
"	"	〔書〕「梓川農業水利沿革史(前編)」(同期成同盟)。
"	"	〔書〕「 ^{佐藤寛次} 土の香」(青木助次)。
"	"	〔書〕「小作争議の概況」(農林省農務局)。
"	"	〔書〕「小作法草案に対する意見の概要」(農林省農務局)。
"	"	〔書〕「農民離村の研究」(^{有馬頼寧} 稲田昌植)。
"	"	〔書〕「宮崎県の林業」(八木栄次郎編)。
"	"	〔書〕「第(一～十一)次馬政統計」(農林省畜産局。～昭和13年)。

西 曆	年 代	項 目
1929	(昭和4年)	
"	1・30	政府、中国の改訂輸入税率を承認、同時に増加税収の一部による中国の無担保、不确实債権の処理に関し書簡交換。
"	1・	〔書〕「台湾教育」(第三一七号)。 (同上)「綴方に於ける取扱構想の指導に就て」(竹翠生)。 (")「公学校児童の読方の力と国語学習」(土性善九郎)。 (")「口語文の起伏」(安藤正次。～三一八号)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第八卷第一号)。 (")「公学校読方の学習指導」(高木金蔵)。 (")「一月の児童優良文集」(南嶺生)。 (")「公一談話指導上の一考察」(渡辺正)。
"	"	〔書〕「新式漢和辞典」(小宮水心著、三弘社出版部)。
"	"	〔書〕「西和熟語慣用句辞典」(村岡玄著、東京西班牙語学会、白水社発売。[DICCIONARIO DELA LENGUAESPANOLA])。
"	"	〔書〕「平仄辞典」(林竹次郎著、丙午出版社。増補三版)。
"	"	〔書〕「摩 洛 第1卷1号」(摩洛社。年10回刊。1929年1月)。
"	"	〔書〕「認 識 第1卷1号」(認識社編、上海・長風書店。半月刊。1929年1月)。
"	"	〔書〕「長 風 第1期」(長風月刊社。月刊。民国十八年一月)。
"	2・17	〔日〕 第十五回全島国語演習会(場所・台北市寿小学校、参加人数65名)。
"	2・18	〔書〕「台湾教育」(第三一八号。臨時増刊とし、台湾の歌入選歌を集録)。 (同上)「昭和二年度国語普及会の成績」(文教局社会課)。 (")「児童綴方に於ける韻文の研究」(比古詩)。
"	2・	〔書〕「第一教育」(第八卷第二号)。 (同上)「公一談話指導上の一考察」(渡辺正)。 (")「聴方教授について」(小林正一)。 (")「二月の児童優良文集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「日輪」(横光利一、改造社刊)。
"	"	〔書〕「標準漢和大辞典」(藤井乙男、小柳司気太・笹川種郎共著、博多・成象堂)。

西 曆	年 代	項 目
1929	"	〔書〕「現代新語大辞典」(新語研究会編, 進文館)。
"	"	〔書〕「大衆文芸 第6期」(民国郁達夫, 夏英蒂編, 上海・現代書局。月刊。1929年2月)。
"	3・5	衆議院, 治安維持法改正緊急勅令を事後承諾。3月19日貴族院承認。
"	3・15	〔書〕「SUPPLEMENT TO VOIMEL OF Hand books on THE National language Readers of Japan WHATS IS THE JAPANESE LANGUAGE」(尾島喜久恵, 三光社)。
"	3・28	日華間に済南事件解決に関する文書調印。
"	3・	〔書〕「第一教育」(第八卷第三号)。 (同上)「公一談話指導上の一考察」(渡辺正)。 (")「綴方指導の実際」(松尾龍吉)。 (")「第十回全島国語演習会参観記」(台大評生)。
"	"	〔書〕「金言名句辞典」(佐々木文学士著, 大伸堂)。
"	"	〔書〕「新流月報 第1期」(民国蔣光慈編, 上海・現代書局。月刊。1929年3月)。
"	"	〔書〕「創造週報 第1, 2集」(創造社編, 上海・泰東書局。週刊。民国十八年三月~十九年二月)。
"	4・10	〔書〕「古代研究 1 国文学編」(折口信夫。「2民族学編」'30・6・20)。
"	4・15	〔書〕「日鮮同祖論」(金沢庄三郎, 刀江書院)。
"	4・16	共産黨員全国的大検挙, ついで市川正一・鍋山貞親らも検挙, 党組織潰滅的打撃を受ける(339人起訴。「4・16事件」)。
"	4・	〔書〕「四月の児童優良文集」(南嶺生。「第一教育」第八卷第四号)。
"	"	〔書〕「金言名句辞典」(牧野孝著, 富文館)。
"	"	〔書〕「久保漢和大辞典」(久保得二編, 中央書院)。
"	"	〔書〕「詩歌作文類語辞典」(横山青蛾著, 交蘭社)。
"	"	〔書〕「新特高辞典」(横溝光暉著, 松華堂書店)。
"	"	〔書〕「双解独和小辞典」(片山正雄著, 南江堂。「Kleines Deutsch-Japanisches Wörterbuch」)。

西 曆	年 代	項 目
1929	"	〔書〕「日本古語大辞典 語誌編」(松岡静雄著, 刀江書院。二刷。初版, 昭和4年3月)。
"	5・9	〔国〕 文相平生夙三郎, 貴族院本会議で, 漢字廃止の論を述べ, 世上に議論を呼ぶ。
"	5・20	済南派遣軍, 内地に撤退。
"	5・	〔書〕「本邦常用漢字の研究」(内閣印刷局研究所)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第八巻第五号)。 (同上)「巻頭言 誤れる国語教育」。 (")「話し方教授に於ける忘れられたる大切な一面」(西巻南平)。 (")「公学校第一学年に於ける話し方教授」(高山勝治)。 (")「公一の初期に於ける話し方科を中心にしたる各科の取扱」 (張宗岳)。 (")「話方の問題」(渡辺正)。 (")「話し方科に関する研究」(基隆市第二公学校研究部)。 (")「童話の教育的価値考察に対する偶感」(村井老生)。 (")「桃太郎と猿蟹合戦の是非」(村山信太郎。~第六号)。 (")「五月の児童優良文集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三二二号)。 (同上)「話術の研究と教育者」(西岡英夫)。 (")「公学校に於ける国語使用」(原春一)。 (")「綴方指導の根底」(吉松比古詩)。
"	"	〔書〕「スタンダード英和辞典」(竹原常太編, 大修館。「Takehara's Standard English Japanese Dictionary」)。
"	"	〔書〕「英和法政経済商業辞典」(南信好著, 春陽堂。「New English-Japanese Dictionary of Law, Politics, Economics & Commerce」)。
"	"	〔書〕「現代語外来語新語辞典」(高木斐川, 帝国講学会)。
"	"	〔書〕「東洋思想辞典」(春秋社編・刊。非売)。
"	"	〔書〕「仏和新辞典」(井出利一著, 太陽堂書店。「Fremontaine Dictionnaire Français-Japonais」)。
"	"	〔書〕「民謡辞典」(大関五郎著, 素人社)。

西 曆	年 代	項 目
1929	6・1	犬養・頭山満ら、南京の孫文移柩祭に国賓待遇で参列。
"	6・3	政府、中国国民政府を正式承認。
"	6・8	南京で全国反日会臨時代表大会開く(6月9日廃約促進会と名称変更)。
"	6・10	「拓務省官制」〔勅令〕公布(田中首相、拓相兼任)。
"	6・11	張学良系軍隊、東支鉄道の強行回収を実行。
"	6・19	〔日〕南京政府教育部、日本対華文化事業協定換文廃止を提案。
"	6・26	枢密院、留保宣言付で不戦条約を可決。枢密顧問官内田康哉、不戦条約締結の責任者として辞表を提出。
"	6・	〔教〕秋田県で成田忠久ら、北方教育社を結成、東北の生活綴方運動はじまる('30年2月、「北方教育」創刊)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第八卷第六号)。 (同上)「六月の児童優良文集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三二三号)。 (同上)「公学校用読本に現はれたる韻文の一考察」(豊永成美)。 (")「読本資料、滑稽とユーモアの研究」(村山信太郎)。 (")「心理的階梯より見たる国語教授」(靈泉生)。
"	"	〔書〕「最新東洋歴史辞典」(目黒禧一著、大同館書店)。
"	"	〔書〕「マーシャル語の研究」(松岡静雄著、郷土研究社。2500字収録)。
"	"	〔書〕「新訳和独辞典」(岡倉一郎編、金刺芳流堂。「Japanese - Deutsches Wörterbuch」)。
"	"	〔書〕「現代戯劇 第1巻2期」(民国馬彥祥編、上海・光華書局。民国十八年六月)。
"	"	〔書〕「審湖 第1・2期」(民国羅慕華等編、上海・神州国光社。期刊。1929年6月～30年10月)。
"	7・1	政府、張作霖爆死事件の責任者処分を発表(陸軍の圧力で、河本大佐を停職とすることにとどめたため、田中首相は、天皇に叱責される)。
"	"	〔教〕文部省に社会教育局を設置、また学生課を部に昇格、思想対策を強化〔勅令〕。
"	"	〔書〕「仮名遣の歴史」(山田孝雄、宝文館蔵版)。
"	7・2	田中内閣総辞職。浜口雄幸民政党内閣成立(第二次幣原外交始まる)。
"	7・9	浜口内閣、対華外交刷新。軍縮促進・財政整理・金解禁断行などの十大政綱

西 曆	年 代	項 目
1929		を發表。
"	7・18	ソ連 对中国国交断絶を通告。
"	7・	〔書〕「第一教育」(第八卷第七号)。 (同上)「表現の形式に立脚したる文学的教材の鑑賞」(村山信太郎。 ～・第十号)。 (")「公学校に於ける聴方教授に就いて」(史郎生)。 (")「俳句教授の方法論」(栗原白也)。 (")「七月の児童優良文集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「三訂中等国語読本 卷二」(布哇ホノルル市本派本願寺学務部)。
"	"	〔書〕「海軍用語(機関術ノ部)」(海軍機関学校編・刊。非売品)。
"	"	〔書〕「南国月刊 第1巻3期～第2巻3期」(民国田漢編, 上海・現代書局。月刊。1929年7月～1930年6月)。
"	8・17	朝鮮総督に斎藤実を任命。
"	8・	〔書〕「第一教育」(第八卷第八号)。 (同上)「公学校書き方教材と其の取扱上の観点」(宋登才)。 (")「九月の児童優良文集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三二五号)。 (同上)「話方と聴方に対する内相」(白波生)。 (")「国語教育と宗教教育」(九丸慈円。第三二五号の内)。 (")「二語併用地域における言語教育」(安藤正次。・第三二六号)。
"	"	〔書〕「植物和漢異名辞林」(杉本唯三著, 大阪・立川書店)。
"	"	〔書〕「新興文化 第1巻1号」(民国向明編, 上海・新興文化書社。月刊。1929年8月)。
"	"	〔書〕「世界週刊 第6～9期」(世界週刊社。週刊。1929年8月～9月)。
"	"	〔書〕「真美善 第4巻4号」(民国會孟樸, 会虚白編, 上海・真美善書店。月刊。民国十八年八月)。
"	9・10	〔教〕 文部省, 国体観念明徴・国民精神作興のため, 教化動員を実施, その旨を各学校長に訓令。
"	"	〔教〕 文部省, 教化団体総動員を行い, 中央教化団体連合会設立。

西 曆	年 代	項 目
1929	9・	〔書〕「台湾教育」(第三二六号)。 (同上)「話方と聴方に対する内省」を讀みて(栗原白也)。 (")「蕃人の訛音に就て」(安倍明義)。 (")「低学年の語彙拡充」(芦川生)。
"	"	〔書〕「日文実用読本(初等篇)」(游無為, 東文専修学校, 民国十八年九月初版)。
"	"	〔書〕「現代日本口語法大意」(游無為, 游彌堅, 東文専修学校, 民国十八年九月初版)。
"	"	〔書〕「スター英和辞典」(三省堂編・刊。「Sanseido's Star English-Japanese Dictionary」)。
"	"	〔書〕「文芸新語辞典」(文芸時代編輯部編, 金星堂)。
"	"	〔書〕「新文芸 第1巻1号~第2巻2号」(新文芸月刊社編。上海・水沫書店。月刊。民国十八年九月~十九年四月)。
"	"	〔書〕「東方與西方 第1期」(國際政治經濟研究會編, 國際政治經濟研究会。月刊。1929年9月)。
"	10・4	日本政府, 中国人留学生130余人を共産党の嫌疑で逮捕。
"	10・7	英国, 日・米・仏・伊をロンドン海軍軍縮會議に招請。10月16日参加を回答。
"	10・12	ソ連軍, 東三省の同江を攻撃, 10月17日満州里, 11月24日ハイラルを攻撃。
"	10・18	〔書〕「HAND BOOK ON THE NATIONAL LANGUAGE READERS OF JAPAN VOLUM III」(Mr. KIKUE OJIMA. 尾島喜久恵, 三光社)。
"	10・20	〔書〕「THE PRONUNCIATION of JAPANESE. BY・M・G・MORI」(森 仝, ヘラルド社— THE HERALD OF ASIA—)。
"	10・24	ニューヨーク株式市場大暴落(「暗黒の木曜日」, 世界恐慌はじまる)。
"	10・	〔書〕「第一教育」(第八巻第十号)。 (同上)「十一月の児童優良文集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三二七号)。 (同上)「読方教材の区分法」(周抄)。 (")「学校児童語彙調査の試み」(宋登才)。

西 曆	年 代	項 目
1929	"	〔書〕「支那問題辞典」(支那問題研究所編・刊)。
"	"	〔書〕「社会科学辞典」(杉森孝次郎編, 社会思想研究所)。
"	"	〔書〕「新訳和英辞典」(三省堂編・刊。「Sanseido's Colledge Japanese - English Dictionary」)。
"	"	〔書〕「樂羣月刊 第2巻10号」(民国張資平編, 上海・樂羣書店。月刊。1929年10月)。
"	"	〔書〕「新 星 第1巻1号」(上海・新星社。半月刊。1929年10月)。
"	"	〔書〕「現代小説 第3巻1期~3期」(現代小説社編, 上海・現代書局。月刊。1929年10~12月)。
"	11・3	朝鮮全羅道光州の学生, 日本学生の非行に抗議のデモを起こし, 学生運動, 全土に波及(「光州学生運動」)。
"	11・18	〔書〕「日本口語法講義」(山田孝雄, 宝文館)。
"	11・24	〔書〕「国語国文の研究」(西尾実)。
"	11・27	〔教〕 文部省, 思想文献編纂調査会の第一回会合, 紀平正美, 河合榮治郎ら出席, 12月4日, 「日本書紀」など日本古典の刊行を決定。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三二八号)。 (同上)「読方教授私観」(吉松比古詩)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第八巻第十一号)。 (同上)「昭和四年度台湾各中等学校入試問題綴方優良文集」(南嶺生)。
"	"	〔書〕「最新音楽辞典」(塩入亀輔編, 岡田日栄堂)。
"	"	〔書〕「自然科学辞典」(春秋社編・刊)。
"	"	〔書〕「露語略語辞典」(松岡斌著, 京都・サモワール社。「CORRIBI BHNAYA PУССКАЯ ОТОВАРЬ」)。
"	"	〔書〕「戯劇月刊 第2巻3期」(民国劉豁公編, 上海・大東書局。月刊。民国十八年十一月)。
"	12・14	〔日〕 第十六回全島国語演習会(場所, 台南市台南師範学校, 参加人数70余名)。
"	12・17	中国, 小幡西吉公使のマグレマン拒否を通告(幣原外交への攻撃つよまる)。
"	12・19	南京政府行政院, 日本の東方文化事業委員総会, 上海自然科学研究所に中国側不参加を訓令。

西 曆	年 代	項 目
1929	12・22	ソ連・張学良間にハバロフスク和議協定調印。中東鉄道の原状回復を決める。 '30年1月10日南京の国民政府、同協定の効力を否認。
"	12・25	〔書〕「室町時代の言語研究」(湯沢幸吉郎, 大岡山書店)。
"	12・28	国民政府、領事裁判権回収('30年1月1日から)を一方向的に宣言。
"	12・	〔日〕 満鉄、南満医科大学に中国人のための大学専門部・附属予備部を附設。
"	"	〔日〕 廈門旭瀛書院、実業補習学校設置。
"	"	〔日〕 サンパウロ日本人学校父兄会設立。
"	"	〔日〕 トメアスー日本語学校(パラ州トメアスー郡クァトロボッカ)開校。
"	"	大阪朝日新聞、「中学校の英語は全廃しては如何」(野上俊夫)を掲載。
"	"	〔書〕「國聞周報 第6巻47号」(天津・国聞週報社。1冊。月刊。民国十八年十二月)。
"	"	〔書〕「環球半月刊 第1巻1期~6期」(環球旬刊社編, 上海・環球旬刊社。半月刊。1929年12月~1930年3月)。
"	"	〔書〕「摩登青年 第1巻1期」(摩登青年社。月刊。1929年12月)。
"	(昭和4年)	〔日〕 東亜予備高等学校, 学生数770名。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数, 本島人5740, 高砂族28, 卒業数, 本島人2366, 高砂族12)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で, 「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校, 生徒数, 本島人1299, 蕃人31, 卒業数, 本島人215, 蕃人5, 小学校高等科, 生徒数, 本島人155, 蕃人9, 卒業数, 本島人21, 蕃人6)。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 学生数606, 高砂族12, 卒業数, 本島人153, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 生徒数873, 高砂族2, 卒業数, 本島人306, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校, 生徒数1373, 卒業数347)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人1229, 高砂族7, 卒業数, 本島人85, 高砂族0, 実業補習学校, 生徒数, 本島人1144, 高砂族116, 卒業数, 本島人417, 高砂族51)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人1781, 高砂族14, 卒業数, 本島人481, 高砂族1)。

西 暦	年 代	項 目
1929	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数（生徒数113，卒業数30）。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島入学生数・卒業数（台北帝大，学生数11，卒業数0）。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島入学生数・卒業数（学生数210，卒業数137）。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数（所数172，生徒数6944，卒業数1073，就学歩合60・33）。
"	"	〔書〕「帝国主義下の台湾」（矢内原忠雄著）。
"	"	〔書〕「台湾人は斯く見る」（謝春木）。
"	"	〔書〕「台湾社会教育概要」（台湾総督府，昭和4年～12年，「各年度」）。
"	"	〔書〕「公学校修身書修正趣意書（卷三～六）」（台湾総督府，昭和4～5年）。
"	"	〔書〕「公学校用理科掛図（改定）四年～六年用」（台湾総督府，昭和4年～5年）。
"	"	〔書〕「公学校手工教授要目」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「聴き方教材集第一輯」（大橋公学校会編）。
"	"	〔書〕「台湾に於ける学校園」（加藤一述，台北第一教育社）。
"	"	〔書〕「公学校話シ方教授細目」（河野辰二）。
"	"	〔書〕「研究紀要」（台北第一師範学校附属小学校正榕会）。
"	"	〔書〕「創作的話方自由談の理論及實際」（台中州彰化郡彰化女子公学校編）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三一七号～第三二九号発行）。
"	"	〔書〕「国語音声学講話」（佐久間鼎，同文館）。
"	"	〔書〕「日本音声学」（佐久間鼎著，東京京文社）。
"	"	〔書〕「初期邪蘇教徒編述日本語学書研究」（ジョルダン・ア・デ・フレイタス，岡本良知訳）。
"	"	〔書〕「万葉集総索引」（正宗敦夫）。
"	"	〔書〕「生活表現の言語学」（シャルル・バイイ著，小林英夫著，東京・岡書院）。
"	"	〔書〕「漢譯日語讀本 4巻」（内堀維文著，民国伍瑞鍇等訳，広州・広州日本語専修学校。民国十八年。142P）。
"	"	〔書〕「改訂日語用例」（東亜同文書院中華学生部編，昭和4年序刊。231P）。
"	"	〔書〕「任闕齋東游漫録」（清章仲和著。民国十八年刊。112P）。

西曆	年 代	項 目
1929	(昭和4年)	〔書〕「日本印象記」(民國嚴露清著,上海羣衆圖書公司。民國十八年刊。184P)。
"	"	〔書〕「香艷小說留東艷史」(民國不肖生著,上海·巫洲書局。民國十八年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「遊日日記」(民國王朝佑著,北平。民國十八年刊。32P)。
"	"	〔書〕「〔中華民國駐日留學生監督處一覽〕」(東京·中華民國駐日留學生監督處。民國十八年刊。182P)。
"	"	〔書〕「草枕」(夏目金之助(漱石)著,民國崔萬秋譯,上海·真善美書店。1929年刊。220P)。
"	"	〔書〕「在施療室」(平林タイ子著,民國沈端先譯,上海·水沫書店。1929年刊。142P)。
"	"	〔書〕「現代日本小說」(民國侍柎編譯,上海·春潮書局。民國十八年刊。300P。內容:碼頭橋(森鷗外) 成年之先(島崎藤村) 兩個幼兒(谷崎潤一郎) 流行感冒(志賀直哉) 土地(武者小路實篤) 實驗室(有島武郎) 魔術(芥川龍之介) 定評(久米正雄) 童貞(豐島與志雄) 謠言的發生(菊池寬))。
"	"	〔書〕「近代日本小品文選」(民國謝六逸譯,上海·大江書鋪。1929年刊。148P。內容:呵呵薔薇你病了(佐藤春夫) 某殖民地某日發生的事變(麻生久) 逝了的哈代翁(宮島新三郎) 貓的墓 火鉢(夏日金之助) 觀動亂的中國(鶴見祐輔) 嗅妻房的男人(薄田淳介) 女體 尾生的信 英雄之器 黃梁夢(芥川龍之介) 母性(加藤武雄) 巡禮者的歌(島崎藤村) 雪之日(志賀直哉) 侏儒的話(芥川龍之介)
"	"	〔書〕「蘇俄性生活之實況」(俄國德美多維奇著,民國陳直夫譯。民國十八年刊。73P)。
"	"	〔書〕「文藝批評史」(宮島新三郎著,民國黃清嶠譯,上海·現代書局。民國十八年刊。167P)。
"	"	〔書〕「現代新興文學的諸問題」(片上伸著,民國魯迅譯,上海·大江書鋪。民國十八年刊。「文藝理論小叢書」。91P)。
"	"	〔書〕「北美印象記」(厨川白村著,民國沈端先譯,上海·金屋書店。民國十八年刊。180P)。
"	"	〔書〕「美國憲法政治之民主主義論」(藤井新一著,民國丘仰飛譯,上海·啓智書局。民國十八年刊。126P)。
"	"	〔書〕「經濟思想史」(出井盛之著,民國劉家鑒譯,上海·上海聯合書店。1929年刊。142P)。
"	"	〔書〕「西原借款真相」(勝田主計著,民國龔德伯譯,上海·上海太平洋書店。民國十八年刊。100P)。
"	"	〔書〕「婦女問題講話」(奧ムソ(メ)オ著,民國高希聖,郭真共譯,上海·

西 曆	年 代	項 目
1929		上海太平洋書店。民國十八年刊。370P)。
"	"	〔書〕「走出出版界」(民國長虹著,上海·泰東書局。民國十八年刊。〔狂飈叢書2〕。273P)。
"	"	〔書〕「北平圖書館協會會刊 第3期 北平各圖書館所藏期刊聯合目錄」(北平·北平圖書館協會期刊聯合目錄委員會。民國十八年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「中國哲學史大綱 卷上」(民國胡適著,上海·商務印書館。民國十八年刊。〔北京大學叢書·1〕。1冊)。
"	"	〔書〕「孔子與戲劇」(民國陳子展著,上海·太平洋書店。民國十八年刊。280P)。
"	"	〔書〕「國史概論」(大川周明著,東京·文錄社。昭和4年刊。144P)。
"	"	〔書〕「日俄戰爭」(民國呂思勉著,上海·商務印書館。民國十八年刊。〔萬有文庫第1集〕。144P)。
"	"	〔書〕「鴉片戰爭史」(民國武堉幹著,上海·商務印書館。民國十八年刊。〔萬有文庫第1集〕。149P)。
"	"	〔書〕「國民革命史」(民國鄺德生編,南京·肇文書店。民國十八年刊。223P)。
"	"	〔書〕「南海先生傳 上編(康有為)」(〔清梁啟超〕著,萬木艸堂。民國十八年刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「三民主義考試問答一百條」(三民公司編,上海·三民公司。民國十八年刊。60P)。
"	"	〔書〕「孫文學說考試問答一百條」(三民公司編,上海·三民公司。民國十八年刊。72P)。
"	"	〔書〕「中日外交史」(民國陳博文著,上海·商務印書館。民國十八年刊。〔萬有文庫1集1000〕。168P)。
"	"	〔書〕「公使館實用公私尺牘文纂」(有野學編,北京·日本帝國公使館。昭和4年刊。325P)。
"	"	〔書〕「中國古代社會研究」(民國郭沫若著,上海·現代書局。民國十八年刊。361P)。
"	"	〔書〕「中國社會史研究」(民國熊得山著,上海·崑崙書店。民國十八年刊。236P)。
"	"	〔書〕「劇中人語」(民國十八年刊。80P)。
"	"	〔書〕「中國教育小史」(民國周谷城著。民國十八年刊。108P)。
"	"	〔書〕「銀婚感言 付回憶錄」(任闕齋主人著。〔昭和4年〕刊。1冊)。
"	"	〔書〕「中國戲劇概評」(民國培良著,上海·泰東圖書局。民國十八年刊。〔狂飈叢書4〕。164P)。
"	"	〔書〕「皮黃戲指迷」(民國呂仙呂著,上海·現代書局。民國十八年刊。〔藍皮小書〕。139P)。

西 曆	年 代	項 目
1929	(昭和4年)	〔書〕「馬氏文通 10卷」(清馬建忠著,上海·商務印書館。民國十八年刊。「萬有文庫」。6冊)。
"	"	〔書〕「注音符號無師自通」(民國黎錦熙,白滌洲共編,北平·文化學社。民國十八年刊。「新國文社叢書1」。20P。表13枚)。
"	"	〔書〕「新術語辭典」(清吳念慈等編,上海·南強書局。1929年刊。516P)。
"	"	〔書〕「漢譯東西洋文學作品編目 第1回」(民國虛白編,蒲梢訂,上海·真善美書店。1929年刊。126P)。
"	"	〔書〕「〔中國文藝論戰〕」(民國李何林編,中國書店。1929年刊。493P)。
"	"	〔書〕「五十年來中國之文學」(民國胡適著,新民國書局。民國十八年刊。110P)。
"	"	〔書〕「白語文學史 卷上」(民國胡適著,上海·新月書店。1929年刊。478P)。
"	"	〔書〕「文藝批評史」(宮島新三郎著,東京·春秋社。昭和4年刊。「春秋文庫1」。177P)。
"	"	〔書〕「火 焰」(民國西華著,上海·民聲書局。1929年刊。「汽笛詩社叢書」。53P)。
"	"	〔書〕「貂 蟬」(民國王獨清著,上海·江南書店。1929年刊。239P)。
"	"	〔書〕「張四太太」(民國陳大悲著,上海·現代書局。1929年刊。「現代戲劇叢書」。124P)。
"	"	〔書〕「老殘遊記」(清劉鏐著,上海·光華書局。民國十八年刊。317P)。
"	"	〔書〕「反正前後」(民國郭沫若著,上海·上海書局。1929年刊。211P)。
"	"	〔書〕「小小十年 2卷」(民國葉永綦著,上海·春潮書局。1929年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「處女的夢」(民國葉靈鳳著,上海·現代書局。1929年刊。123P)。
"	"	〔書〕「失業以後」(民國劉一夢著,上海·春野書店。1929年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「支那現代短篇小說集」(宮越健太郎編,東京·文求堂。昭和4年刊。245P。內容:黃鶴樓頭(民國劉大杰) 悼亡(民國何培良) 吃鍋貼(許欽文) 函谷關(民國郭沫若) 花之寺(民國凌叔華) 三七晚上(民國張資平) 秋夜(民國王魯元) 所鄉(民國魯迅) 彷徨(民國盧隱) 柚子(民國馮文柄) 山道之側(民國王統照) 校長(民國葉紹鈞) 薄尊(民國郁達夫) 笑的歷史(民國朱自清) 離家的一年(民國謝冰心))。
"	"	〔書〕「柳花集」(民國鍾敬文著,上海·群衆圖書。民國十八年序刊。138P)。

西 曆	年 代	項 目
1929	"	〔書〕「朝華夕拾十篇」(民国魯迅著, 上海・未明社出版部。1929年刊。176 P)。
"	"	〔書〕「星 空」(民国郭沫若著, 上海・泰東図書局。民国十八年刊。198 P)。
"	"	〔書〕「恩 定」(法国傅愷著, 民国伍季眞訳, 王夫凡編, 上海・現代書局。民国十八年刊。「藍皮小書」。133 P)。
"	"	〔書〕「西部前戦平靜無事」(德国雷馬克著, 民国林疑今訳, 上海・東華書局。1929年刊。365 P)。
"	"	〔書〕「留滬外史」(法国蘇利愛莫郎著, 民国張若谷訳, 上海・真美善書店。1929年刊。194 P)。
"	"	〔書〕「狂飈運動 第1期」(上海・狂飈出版部。月刊。〔1929年〕)。
"	"	〔書〕「創造日彙刊」(創造社編, 上海・光華書局。1929年刊)。
"	"	〔書〕「最新東洋歴史辞典」(目黒禧一)。
"	"	〔書〕「朝鮮の石炭鉱業」(総督府殖産局)。
"	"	〔書〕「朝鮮の金銀鉱業」(総督府殖産局)。
"	"	〔書〕「朝鮮の黒鉛鉱業」(総督府殖産局)。
"	"	〔書〕「朝鮮に於ける施設の一斑」(朝鮮総督府)。
"	"	〔書〕「朝鮮衛生要覧」(朝鮮総督府)。
"	"	〔書〕「秘 在満法人現状調査要覧」(南満洲鉄臨時 經濟調査委)。
"	"	〔書〕「満蒙の農業」(南満洲鉄道)。
"	"	〔書〕「経済方面より見たる呼倫貝爾事情(上巻)」(満鉄調査課)。
"	"	〔書〕「支那に於ける最近の農民運動と農業問題」(産業労働調査所編訳)。
"	"	〔書〕「黄河治水(東洋文化 発祥地改造)」。
"	"	〔書〕「上海夜話」(井東 憲)。
"	"	〔書〕「西比利の行政経済事情(上巻)」(満鉄調査課)。
"	"	〔書〕「南洋群島現勢要覧(図付)」(南洋庁)。
"	"	〔書〕「樺太論」(山下龍門)。
"	"	〔書〕「仏領印度支那論」(横山正脩)。
"	"	〔書〕「植民と経済」(前田稔靖)。
"	"	〔書〕「ロックの哲学と教育思潮」(小林澄兄 西谷謙堂)。
"	"	〔書〕「最新教育哲学」(岡田怡川)。
"	"	〔書〕「最近教育諸論」(横山栄次)。
"	"	〔書〕「陶冶論」(林博太郎 村上俊亮監修)。
"	"	〔書〕「児童の宗教心理及教育」(関寛之)。
"	"	〔書〕「尋一学習と生活訓練」(鹿児島登佐)。

西 曆	年 代	項 目
1929	(昭和4年)	〔書〕「現代の思想とその動き」(文部省専門学務局編)。
"	"	〔書〕「教育美談集」(有田音松)。
"	"	〔書〕「欧米の教育と文化」(藤井専隨)。
"	"	〔書〕「創立四十年記念 函館商業学校沿革史」。
"	"	〔書〕「玉川塾の教育(參觀記)二冊」(小原国芳)。
"	"	〔書〕「父母としての教室生活」(池田小菊)。
"	"	〔書〕「高等小学読本巻一乃至巻四修正趣意書」(文部省)。
"	"	〔書〕「小学国史編纂趣意書」(文部省)。
"	"	〔書〕「尋一教育二十六年」(牛田新次郎)。
"	"	〔書〕「實際の理論化 第三輯」(富士小学校 上沼久之丞編)。
"	"	〔書〕「学校社会学」(野瀬寛頭)。
"	"	〔書〕「学校給食」(文部省)。
"	"	〔書〕「学校経営新研究」(小林佐源治)。
"	"	〔書〕「教育の傾向を基調とせる 学級経営の研究」(神戸市教育課)。
"	"	〔書〕「昭和青年ノ進ム可キ道」(井上準之助)。
"	"	〔書〕「一般的陶冶と職業陶冶の 融合並に其の徹底」(文部省)。
"	"	〔書〕「童話教育新論」(松村武雄)。
"	"	〔書〕「手工業解説(尋五)」(山田義郎)。
"	"	〔書〕「中等学校・小学校に手工を教える人へ」(佐藤 佐)。
"	"	〔書〕「手工業教育の研究(教育研究)」。
"	"	〔書〕「地理そのものと其教育」(三木英太郎)。
"	"	〔書〕「生活と数理の 関連に立つ 函数觀念の指導法」。
"	"	〔書〕「綴方新教授原論」(西原慶一)。
"	"	〔書〕「態度馴致の読方教育」(宮川菊芳)。
"	"	〔書〕「体育・衛生統計類纂」(吉田章信)。
"	"	〔書〕「欧米小学読本(一~六学年)」(世界文庫刊行会)。
"	"	〔書〕「学習心理学」(久保良英)。
"	"	〔書〕「帝国公法大意」(清水 澄)。
"	"	〔書〕「朝鮮民刑事令」(野村調太郎編)。
"	"	〔書〕「帝国法曹大観」(編纂会)。
"	"	〔書〕「訴訟行為論」(ヘルウィヒ 江口 新訳)。
"	"	〔書〕「癡獄難獄」(尾佐竹猛)。
"	"	〔書〕「稲田法学博士論集(政治・外交)」。
"	"	〔書〕「民事訴訟法論文集」(雉本朗造)。
"	"	〔書〕「神戸高商 創立 25 年記念論文集」。
"	"	〔書〕「文芸と法律」(勝本正晃)。

西 曆	年 代	項 目
1929	"	〔書〕「エミール・ラスク判断論」(久保虎賀寿訳)。
"	"	〔書〕「中世教会史要領」(佐々木英夫)。
"	"	〔書〕「米国憲法史」(倉持千代訳)。
"	"	〔書〕「露西亜のソヴィエト憲法」(エルヤシヨフ 向井 新訳)。
"	"	〔書〕「国法及国法史の研究」(中野登美雄)。
"	"	〔書〕「穂積 ^{陳重} 八東 ^進 講録」。
"	"	〔書〕「日本行政法講義」(坂 千秋)。
"	"	〔書〕「行政裁判法」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「地方自治制講話」(狭間 茂)。
"	"	〔書〕「懲戒議決類聚」(文官高等懲戒委員会)。
"	"	〔書〕「兵庫 ^{要覧} —教育・社会事業・都市計画—他」(統計課)。
"	"	〔書〕「第56 ^{議會諸法案参考資料} —(地方制度改正・地租他)」(立憲政友会政務調査局)。
"	"	〔書〕「都市財政論」(金 国珍編)。
"	"	〔書〕「世界造園図集 —庭園・都市公園・天然造園—」(田村 剛著)。
"	"	〔書〕「倫敦の市制と市政」(小川市太郎)。
"	"	〔書〕「都市計画必携」(都市研究会)。
"	"	〔書〕「京都市土地賃貸価格表 上京区之部・下京区之部(十一・二編)」(武内義尚編)。
"	"	〔書〕「本邦都市計画事業と其財政」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「都市建築造型理論への考察」(石原憲治)。
"	"	〔書〕「ヘーデマン土地法要綱」(地籍整理局)。
"	"	〔書〕「土地区画整理法講義」(復興局)。
"	"	〔書〕「警察行政の理論と実際」(渡 正監)。
"	"	〔書〕「大阪朝日・毎日新聞不逞記事論評」(大井一哲)。
"	"	〔書〕「出版法案ト警察委員会答申トノ対照条文」(警保局図書室)。
"	"	〔書〕「医事法典」(生石真雄 矢島和三郎)。
"	"	〔書〕「肥後医育史(正・続)二冊」(山崎正薫纂著)。
"	"	〔書〕「神宮要綱」(神宮皇学館館友会)。
"	"	〔書〕「神道の批判」(岸 一太)。
"	"	〔書〕「新国家論」(アントンメンガー 河村又介訳)。
"	"	〔書〕「体系的国体新論」(神作浜吉)。
"	"	〔書〕「国体宗教批判学」(里見岸雄)。
"	"	〔書〕「民俗之体験論的基礎(個性論)」(柳沢省三)。
"	"	〔書〕「儒教の独乙政治思想 に及ぼせる影響」(五来欣造)。

西 曆	年 代	項 目
1929	(昭和4年)	〔書〕「日本無産政党論(附学生ノ思想犯)」(吉野作造)。
"	"	〔書〕「民政党の政策」(森脇美樹)。
"	"	〔書〕「福島県政治史(上巻)」(諸根樟一)。
"	"	〔書〕「政党及政党史」(田川丈吉郎)。
"	"	〔書〕「大衆政治の言論戦」(政治雄弁協会)。
"	"	〔書〕「現代諸名士の大演説集」(日本雄弁会編)。
"	"	〔書〕「列国における共産主義運動(上・下)」(内閣情報部)。
"	"	〔書〕「帝国主義の現段階」(ヴェルガ橋研究所訳編)。
"	"	〔書〕「不戦条約中「人民の名に於て」の問題」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「日本共産党始末記」(北 一夫)。
"	"	〔書〕「日本共産党大検挙史」。
"	"	〔書〕「日本共産党検挙秘史」(立山隆平)。
"	"	〔書〕「社会運動概説・批判・取締」(橋 武人)。
"	"	〔書〕「赤化思想の根源」(有賀成可)。
"	"	〔書〕「レーニン主義研究への入門」(河村雅訳)。
"	"	〔書〕「英国三大政党の綱領及政策」(橋本清之助)。
"	"	〔書〕「宗教民族学」(宇野円空)。
"	"	〔書〕「大友宗麟建勲史」(田島大機)。
"	"	〔書〕「伊藤博文秘録(正)」(平塚 篤)。
"	"	〔書〕「公爵山県有朋伝(全三巻)素空公 蘭書存奥付」(山県公爵伝記編纂会)。
"	"	〔書〕「原敬全集(上・下)」(同刊行会)。
"	"	〔書〕「原敬日記(全6巻)」(福村書店)。
"	"	〔書〕「野田大塊伝(政治家各大臣)」(坂口二郎)。
"	"	〔書〕「偉人石川翁の事業と言行」(児玉庄太郎)。
"	"	〔書〕「鳩山の一生」(鳩山春子)。
"	"	〔書〕「昆田文次郎君の生涯(古河創始期)」(薄田貞敬)。
"	"	〔書〕「小池国三伝(証券界)」(高須芳次郎)。
"	"	〔書〕「社会事業家 広瀬誠一郎伝(利根運河)」(西村文則)。
"	"	〔書〕「改訂国際法提要」(遠藤源六)。
"	"	〔書〕「太平洋問題」(井上準之助)。
"	"	〔書〕「倫敦軍縮会議と日本」(小槇和輔)。
"	"	〔書〕「軍 縮」(伊藤正徳)。
"	"	〔書〕「日本刑法要論(各論)」(新保勘解入)。

西 暦	年 代	項 目
1929	"	〔書〕「刑法における重点の変遷」(牧野英一)。
"	"	〔書〕「告訴と告発」(金沢次郎)。
"	"	〔書〕「犯罪と刑罰」(ベッカリーア 風早八十二訳)。
"	"	〔書〕「行刑の変遷をたづねて」(正木 亮)。
"	"	〔書〕「英国刑罰組織及監獄制度」(アシュロット)。
"	"	〔書〕「破毀判例民法研究(上)」(末川 博)。
"	"	〔書〕「日本民法新講(総論物権)」(三淵忠彦)。
"	"	〔書〕「物権法(下)」(末弘巖太郎)。
"	"	〔書〕「日本債権法(総論各論上下)三冊」(鳩山秀夫。~昭和9年)。
"	"	〔書〕「民事訴訟法論文集」(雉本朗造)。
"	"	〔書〕「民事訴訟法の改正(一卷)」(山内確三郎)。
"	"	〔書〕「 ^{新法} 民事訴訟法判例集」(仁井田益太郎)。
"	"	〔書〕「 ^{五十一回} 民事訴訟法改正調査案委員会速記録」。
"	"	〔書〕「 ^{帝国議會} 」
"	"	〔書〕「株主總會論」(間 運吉)。
"	"	〔書〕「 ^{取引所法, 取引税法} 制定及改正議會速記録(上・下)」(全国取引所同盟)。
"	"	〔書〕「海商法講義」(加藤正治)。
"	"	〔書〕「共同海損要綱」(井上 茂)。
"	"	〔書〕「信託会社の組織と経営」(坂本芳治)。
"	"	〔書〕「社債の理論と実際」(佐藤七郎)。
"	"	〔書〕「社債法論攷」(板橋菊松)。
"	"	〔書〕「本邦外貨債関係資料(社債の部)」(大蔵省理財局)。
"	"	〔書〕「本邦都市計画事業と其財政」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「金輸出禁止史」(銀行問題研究会)。
"	"	〔書〕「 ^{金解禁と緊縮政策の批判} —— ^{金解禁と農村} ——」(三土忠造)。
"	"	〔書〕「國民經濟の立直しと金解禁」(井上準之助)。
"	"	〔書〕「準備銀行と金融市場」(東京銀行集会所)。
"	"	〔書〕「貨幣銀行及為替論」(服部文四郎)。
"	"	〔書〕「中華銀行論(原文)」(馬 寅初。民国十八年)。
"	"	〔書〕「金本位制と中央銀行政策」(田中金司)。
"	"	〔書〕「信用機関の社会化」(G・H・ダグラス 岩村 忍訳)。
"	"	〔書〕「創立五十年誌(滋賀県)」(百世三銀行)。
"	"	〔書〕「貨幣学の実証的研究」(牧野輝智)。
"	"	〔書〕「日本社会主義文献(第一)」(大原社研)。

西 曆	年 代	項 目
1929	(昭和4年)	〔書〕「社会学研究」(関 栄吉)。
"	"	〔書〕「産業合理化と社会政策」(ラウエツケル 協調会訳)。
"	"	〔書〕「マルクス主義と農民問題」(メテエリヤコフ マルチノフ)。
"	"	〔書〕「農村社会学」(井森陸平)。山口信次・高山洋吉訳
"	"	〔書〕「共励会事業」(ブレン・イ・カールパトリック)。
"	"	〔書〕「基督教社会問題講演集」(基督教社会問題協議会)。
"	"	〔書〕「大阪府社会事業」(大阪府社会課)。
"	"	〔書〕「神戸市社会事業概況」(神戸市社会課)。
"	"	〔書〕「善き隣人(一巻) 一 方面委員制度の史跡——」(島村帰之)。
"	"	〔書〕「医療の社会化運動」(鈴木梅四郎)。
"	"	〔書〕「青年カード 1～33」(大日本連合青年団。～昭和7年)。
"	"	〔書〕「新聞道徳論」(山崎光次郎)。
"	"	〔書〕「時と人を巡りての新聞記社生活」(佐竹三吾)。
"	"	〔書〕「思想と自己創造」(菰田萬一郎)。
"	"	〔書〕「唯物史観」(メーテルリング著 岡田宗司訳)。
"	"	〔書〕「精神文化の諸問題」(木村秀吉)。
"	"	〔書〕「労働問題批判」(鈴木弘義)。
"	"	〔書〕「労働争議の解剖」(町田辰次郎)。
"	"	〔書〕「社会政策審議会ニ於ケル 失業者救済ニ関スル諮問 ニ対スル答申ノ経過概要」(社会政策審議会)。
"	"	〔書〕「群馬県下に於ける養蚕労働事情」(中央職業紹介事務局)。
"	"	〔書〕「三富開拓史(埼玉)」(三富史蹟保存会)。
"	"	〔書〕「新しき産業指導精神」(レウイゾー・ 協調会)。
"	"	〔書〕「山東炭田の暁色と其合併開発」(井上源太。民国十八年)。
"	"	〔書〕「硝子及同製品の輸出取引事情」(商工省商務局)。
"	"	〔書〕「日本薬業史」(池田松五郎)。
"	"	〔書〕「日本食塩回送史」(日本食塩回送株式会社)。
"	"	〔書〕「信州製糸業の採算に就て」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「内外市場に於ける 本邦輸出絹織物の現勢」(商工省商務局)。
"	"	〔書〕「内外市場に於ける 本邦輸出絹織物の取引状況」(商工省商務局)。
"	"	〔書〕「新販路地に於ける茶業調査」(茶業組合中央会議所)。
"	"	〔書〕「雲を掴む話」(藤原咲平)。
"	"	〔書〕「十勝岳爆発災害誌」。
"	"	〔書〕「特許法原理」(清瀬一郎)。
"	"	〔書〕「最近のデンマークと 農業の合理的共同経営」(岩井尊人)。
"	"	〔書〕「北見の米」(北見産米二十五万石祝賀会)。

西 曆	年 代	項 目
1929	"	〔書〕「 [㊦] 米穀統制調査会議事録（第一～四巻）」（～昭和8年）
"	"	〔書〕「昭和四・五年度農業水利調査計画書（二冊）」（兵庫縣）。
"	"	〔書〕「新潟縣に於ける割地制度」（新潟縣）。
"	"	〔書〕「自作農創定と農業問題」（和田毅三）。
"	"	〔書〕「日本に於ける農村問題」（稻村隆一）。
"	"	〔書〕「現代丁抹の農村研究」（ ^{ジョンズ・ホバリー} 長崎 常）。
"	"	〔書〕「木材工藝一般」（木檜恕一）。
"	"	〔書〕「大分縣農林誌」（大分縣）。
"	"	〔書〕「管内要覽」（高知營林局）。
"	"	〔書〕「農産物配給改善に関する調査」（農林省農務局）。

西 曆	年 代	項 目
1930	(昭和5年)	
"	1・21	ロンドン(海軍軍縮)会議開会, 日本全権若槻礼次郎元首相, 財部彪海相ら出席。
"	1・	〔日〕台湾では, 1月から毎月2回, 「国語普及の夕」を放送しはじめる。
"	"	〔書〕「第一教育」(第六卷第一号)。 (同上)「話術に関する一考察(一)~(四)」(西岡秋夫。~第十三卷二号)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三三〇号)。 (同上)「世界の言語の国際的調査について」(安藤正次)。
"	"	〔書〕「現代くづし字辞典」(小島文夫著, 春江堂)。
"	"	〔書〕「日本研究 第1巻1号」(民国陳樂素編, 上海・新紀元社日本研究編集部。民国十九年一月)。
"	"	〔書〕「中學生 第1巻1号」(上海・開明書店。年10回刊。民国十九年一月)。
"	"	〔書〕「現代小説 第3巻4期」(現代小説社編, 上海・現代書局。月刊。1930年1月)。
"	"	〔書〕「拓荒者 第1巻1, 3期」(拓荒者月刊社。月刊。1930年1月~3月)。
"	"	〔書〕「萌芽月刊 第1巻1期」(萌芽社編, 上海・光華書局。月刊。1930年1月)。
"	2・20	〔書〕「標準日本口語法」(松下大三郎, 中文館書店)。
"	2・	〔書〕「現代日語 上巻」(蔣韞, 生活書局。民国十九年二月。初版)。
"	"	〔書〕「文藝研究 第1巻」(文藝研究社編, 上海・大江書鋪。年四回刊。1930年2月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三三一号)。 (同上)「国語普及とラジオの利用」(佐々木亀雄)。 (")「公学校児童の発音並に文法上の誤謬調査」(小林正一。第三三二号)。
"	"	〔書〕「新かくし言葉辞典」(津田異根, 博進堂)。
"	"	〔書〕「日用書翰文大辞林」(国文学研究会編, 玉文社出版部)。
"	"	〔書〕「英・仏・和保險用語新辞典」(下村重美著, 太陽堂)。
"	3・10	〔書〕「公学校用国語読本第二種巻一」(台湾総督府)。

西 暦	年 代	項 目
1930	"	〔書〕「満洲綴字全書」(渡部薫太郎編輯)。
"	3・12	日華関税協定仮調印。5月6日正式調印(条件つきで中国の関税自主権を承認。中国関税自主権獲得)。
"	3・14	ロンドン会議日本全権、米国提示(3・12)の最終妥協案につき、これ以上の譲歩は得がたいとして請訓。
"	3・	〔書〕「第一教育」(第三号)。 (同上)「聴方教授に於ける教材選択の範囲に就いて」(大坪史郎生。～4号)。
"	"	〔書〕「標準中國讀本」(松下大三郎)。
"	"	〔書〕「典 海」(東川徳治, 法政大学出版部)。
"	"	〔書〕「日英辞典」(平岡伴一, 鈴木和一, 日本のローマ字社。「N.-R.-S. Nippongo-Eigo Zibiki (N.-R.-S.はNippon-No Romazi Shaの略); 「A Japanese English Dictionary」)。
"	"	〔書〕「パラウ語の研究」(松岡静雄著, 郷土研究社。約2200語を収録ワルレザー借正の「パラウ語辞典」を訳したもの)。
"	"	〔書〕「新生命 第3巻3号」(上海・新生命月刊社。月刊。民国十九年三月)。
"	"	〔書〕「中國建設 第1巻3～5期」(上海・中国建設協会。月刊。民国十九年三月～五月)。
"	4・1	首相浜口雄幸, 米国妥協案承認の訓令を海軍軍令部長加藤寛治らに内示ののち, 閣議で決定。
"	4・2	ロンドン会議で, 日・英・米3国間に, 補助艦の比率につき妥協案成立。
"	4・4	〔教〕 田中隆三文相, 各帝国大学総長を官邸に招き, 思想問題につき協議(～4・5)。
"	4・15	〔書〕「改撰標準日本文法」(松下大三郎, 中文館書店。再刊)。
"	4・18	英・中間に威海衛還付協定調印。10月1日還付。
"	4・19	〔書〕「日本語の根本的研究」(北里蘭, 紫菀会)。
"	4・20	海軍軍令部長末次信正, ロンドン条約に不同意の覚悟を海軍次官山梨勝之進あてに送付。

西 曆	年 代	項 目
1930	"	〔書〕「標準漢文法」(松下大三郎。再刊)。
"	4・22	ロンドン(海軍軍縮)条約に調印。'31年1月1日公布。
"	4・25	衆議院で政友会犬養毅・鳩山一郎, ロンドン条約締結に関し, 国防上の欠陥と統帥権干犯につき政府を攻撃(「統帥権干犯問題」おこる)。
"	4・	〔書〕「第一教育(第九卷第四号)。 (同上)「教授資料会話教材(級歌の教へ)」(林坤生)。
"	"	〔書〕「書画鑑賞芸苑人名辞典」(橘宇坤, 紅玉堂書店)。
"	"	〔書〕「無産労農解放辞典」(本荘可宗著, 解放社)。
"	"	〔書〕「一 爐 第1巻2号」(民国吳秋塵編, 天津・一炉出版。半月刊。民国十九年四月)。
"	"	〔書〕「新生命 第3巻4~10号」(上海・新生命書局。月刊。民国十九年四月~十月)。
"	"	〔書〕「萬人雜誌 第1巻1期」(萬人社編, 広州・萬人社出版部。月刊。1930年4月)。
"	"	〔書〕「未名半月刊 第2巻9~12期」(北平・未名社出版部。半月刊。12期(最終号)。民国十九年四月)。
"	5・4	上海特別市教育局, 租界教育権回収宣言。
"	5・30	中国の間島で朝鮮人武装蜂起。
"	5・	〔書〕「台湾教育」(第三三四号)。 (同上)「国語の教育に関する一, 二の私儀」(安藤正次)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第九卷第五号)。 (同上)「初歩の読方学習に就いて」(藤本元次郎)。 (")「童話研究のサイドライン」(上森大輔。~第七号)。
"	"	〔書〕「現代口語歌辞典」(松本仁著, 紅玉堂書店)。
"	"	〔書〕「近松語彙」(上田万年・樋口慶千代編, 富山房)。
"	"	〔書〕「洛 浦 第1巻1号」(洛浦月刊社編, 上海・楽群書店。月刊。1930年5月)。
"	6・15	〔書〕「ローマ字国字論」(田丸卓郎)。
"	6・	ブラジルバトス移住地13小学校(日本人学校)創立(教師4, 児童数93)。

西 暦	年 代	項 目
1930	"	中共中央，中心都市での蜂起と紅軍による都市進攻を主張する，いわゆる李立三路線採用。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三三五号） （同上）「聴き方科の正にあるべき姿」（山田龍蔵・第三三七号）。
"	"	〔書〕「第一教育」（第九卷第六号）。 （同上）「現今読方学習の種々相と批判」（八尋喜善）。 （ " ）「一幼児に於ける読書興味の発達」（白百合愛雄）。 （ " ）「自学自習の必要に就いて」（呂清発）。
"	"	〔書〕「仏和海語辞典」（小島斉志編，水交社。「Dictionnaire Fracais-Japonaisdes Term Martimes」）。
"	"	〔書〕「社会科学小辞典」（田所輝明編著，白楊社）。
"	"	〔書〕「文学美術人名辞書」（松本龍之助，大阪・立川文明堂）。
"	"	〔書〕「八属會刊 第1期」（八属編輯委員會編，広東・八属留日学生同郷会。民国十九年六月）。
"	"	〔書〕「沙 侖 第1卷1期」（民国沈端先編，沙侖社。月刊。1930年6月）。
"	7・15	南京政府教育部，日本の対華文化事業の経済的援助を受けることを禁止。
"	7・23	海軍軍事参議官会議，ロンドン条約に関する諮詢に奉答して，兵力の欠陥を補うために制限外艦船，航空兵力充実などの対策を要望。7月26日この奉答文に関し，浜口首相より対策実行に努力すると奏上。
"	7・24	ロンドン条約を枢密院に諮詢。
"	7・28	中国紅軍第三軍団（彭徳懐指揮），長沙を占領してソビエト政府樹立（8月失敗に終わる）。
"	"	中国長沙の日本領事館焼かれる。
"	7・	〔書〕「台湾教育」（第三三六号）。 （同上）「台湾方言の贅語」（阿川昔）。
"	"	〔書〕「第一教育」（第九卷第七号）。 （同上）「読方の一挿話」（崙峰生）。
"	"	〔書〕「時勢に後れぬ新時代用語辞典」（長岡規矩雄著，磯部甲陽堂）。
"	"	〔書〕「薬品大辞典」（真鍋欽哉ほか編著，日本薬業新聞社）。

西 曆	年 代	項 目
1930	"	〔書〕「展 開 第1, 2期」(展開社。半月刊。1930年7月)。
"	"	〔書〕「日 本 第1巻1~3号」(日本研究社日本雑誌編集部編, 上海華通書局。月刊。民国十九年七~九月)。
"	8・	〔書〕「印度仏教固有名詞辞典 原始期篇第一~五分冊」(赤沼智善著, 名古屋・破塵閣書房。昭和5年8月~昭和6年4月)。
"	"	〔書〕「プロレタリア辞典」(共生閣編・刊)。
"	"	〔書〕「ハルマ辞書」(高野長英訳, 写本影印, 岩手県・高野長英全集刊行会編, 刊。非売)。
"	"	〔書〕「プロレタリア文芸辞典」(山田清三郎, 川口浩編, 白楊社)。
"	"	〔書〕「長 風 第1巻第1号」(上海・長風社。半月刊。民国十九年八月)。
"	"	〔書〕「中國國民黨駐日總支部黨務月報 第1期」(東京・編輯通信處。月刊。民国十九年八月)。
"	9・1	汪兆銘, 閻錫山, 馮玉章ら北京に反蔣北方政府樹立。
"	9・	〔書〕「台湾教育」(第三三八号)。 (同上)「興味第一主義作文教授論」(前田正雄)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第九巻第九号)。 (同上)「読方教育の雑感」(竹翠庵)。
"	"	〔書〕「日本文綱要」(錢歌川, 中華書局, 民国十九年九月初版)。
"	"	〔書〕「全・外来語新辞典」(横山青蛾著, 交蘭社)。
"	"	〔書〕「模範漢和新辞典」(遠藤隆吉監修, 成光館)。
"	"	〔書〕「クレンベルル診断学語彙」(須野敏夫, 金原商店)。
"	"	〔書〕「英語対照現代米語小辞典」(松村寛著, タイムス出版社。 「Contemporary American Usage with British Equivalents」)。
"	"	〔書〕「和英独 動物学用新語辞典」(川上三郎著, 太陽堂)。
"	10・1	第2回国勢調査(内地人口6445万5人, 外地人口2594万6038人, 東京市207万529人)。
"	10・6	間島龍井村で日本警官2人, 中国人に射殺され, 情勢險悪化。
"	10・10	〔書〕「中等日本語読本巻三」(在滿日本教育会教科書編輯部)。
"	10・15	〔書〕「国漢外語 REFLEX 辞典」(高野辰之・芝染太郎, 春秋書院)。

西 曆	年 代	項 目
1930	10・27	台湾能高郡霧社の原住民蜂起し、内地人など136人を殺害、鎮圧のため軍隊出動し、12月26日撤退（「霧社事件」）。
"	10・29	閣議 中国の名称を、従来の「支那」から「中華民国」に変更と決定。
"	10・	〔書〕「日本現代語辞典」（葛祖蘭，商務印書館，民国十九年十月初版）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三三九号） （同上）「読方教授に於ける芸術態度に就いて」（吉松比古詩）。 （ " ）「国語普及の徹底案」（緑翠）。 （ " ）「国語教育への抗議」（丸山惑星）。
"	"	〔書〕「英和工学辞典」（故広井工学博士記念事業会著，丸善）。
"	"	〔書〕「評解楽語辞典」（島崎赤太郎監修，共益商社書店）。
"	"	〔書〕「国漢外語 Reflex 辞典」（高野辰之・芝染太郎総纂，宝文館）。
"	"	〔書〕「前鋒月刊第1～6号」（前鋒月刊社編，上海・現代書局。民国十九年十月～廿年三月）。
"	"	〔書〕「文藝月刊 第1巻3号～第10巻5号」（中國文藝社編，南京・中国文芸社。月刊。民国十九年十月～廿六年五月）。
"	11・14	浜口首相，東京駅で狙撃される（'31年8月26日没）。
"	11・20	中国立法院，満蒙鉄道網計画を可決（満鉄併合線問題化）。
"	"	〔書〕「東亜語源誌」（新村出）。
"	11・25	〔国〕 「臨時ローマ字調査会官制」〔勅令〕公布（'36年7月1日廃止）。
"	11・	〔書〕「台湾教育」（第三四〇号，「教育煥発四十年記念号」）。 （同上）「綴方教授に関して中美氏の講評に答ふ」（中北繁）。
"	"	〔書〕「片仮名でひく外国語辞典」（松浦林太郎，平凡社）。
"	"	〔書〕「火薬術語集」（火兵学会編・刊）。
"	"	〔書〕「自習辞典」（丸山林平編，アルス）。
"	"	〔書〕「新時代の尖端語辞典」（長岡規矩雄，文武書院）。
"	"	〔書〕「モダン用語辞典」（喜多壮一郎監修，麴町幸二編，実業之日本社）。
"	"	〔書〕「八重山語彙」（宮良当壮編）。
"	"	〔書〕「讀書月刊」（讀書月刊社編，上海・光華書局。6冊。第1巻1～6期，第2巻1期。1930年11月～1931年4月）。
"	12・8	〔書〕「言語の指導」（台北第一師範学校附属公学校研究部）。

西 暦	年 代	項 目
1930	12・13	〔日〕 第十七回全島国語演習会（場所、台中州彰化市彰化高等女学校、参加人数57名）。
”	”	〔書〕「プロレタリアエスペラント講座3」（プロレタリア科学研究所エスペラント研究会編。鉄塔書院）。
”	12・23	〔教〕 文部省、家庭教育振興を訓令。
”	12・27	蒋介石軍10万、第一次掃共戦（紅軍包圍攻撃戦）開始。’31年1月失敗に終わる。
”	12・	〔書〕「台湾教育」（第三四一号）。 （同上）「全島中等教員国語研究会」。 （ ” ）「話し方教育の断想」（荘朝基）
”	”	〔書〕「社会科学小辞典」（鶴沼直著、誠文堂）。
”	”	〔書〕「アルス新語辞典」（桃井鶴夫編、アルス）。
”	”	〔書〕「日華辞典」（金兼藩、武由欣三共著。文求堂）。
”	”	〔書〕「モダン語辞典」（鶴沼直著、誠文堂。「誠文堂十銭文庫四六号」）。
”	（昭和5年）	〔日〕 厦門旭瀛書院、併置の実業補習学校の許可があり、商業科と改める。
”	”	〔日〕 ユトレヒト大学、日本語講座を開設。Prof. Dr. J. L. Pierson 日本学科の初代主任教授となる。
”	”	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数（師範学校、学生数532、高砂族11、卒業数127、高砂族4）。
”	”	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数（小学校、生徒数、本島人1421、蕃人31、卒業数、本島人228、蕃人10、小学校高等科、生徒数、本島人144、蕃人7、卒業数、本島人43、蕃人1）。
”	”	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数（公立中学校、生徒数、本島人1908、高砂族2、卒業数、本島人272、高砂族0）。
”	”	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数（女子高等普通学校、生徒数1398、卒業数406）。
”	”	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数（生徒数、本島人6535、高砂族38、卒業数、本島人2632、高砂族12）。
”	”	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数（実業学校、生徒数、本島人1437、高砂族10、卒業数、本島人209、高砂族1、実業補習学校、生徒数、本島人1282、高砂族123、卒業数、本島人459、高砂族51）。
”	”	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数（生徒数、本島人1846、高砂族4、卒業数、本島人518、高砂族0）。
”	”	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数（生徒数120、卒業数37）。
”	”	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数（台北帝大、学生数20、

西 暦	年 代	項 目
1930		卒業数5)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数294, 卒業数180)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数172, 生徒数6695, 卒業数1058, 就学歩合60.19)。
"	"	〔日〕 朝鮮総督府における調査(少々解し得る者997,423人, 普通会話に差支なき者629,713, 計162,7136)。
"	"	昭和5年現在, 関東州の人口(関東局調査), (日本人116,052, 朝鮮人820,534人, 第三国人734人, 計939,114人)。
"	"	昭和5年現在, 鉄道附属地人口(関東局調査), (日本人99,411, 朝鮮人15,900人, 中国人235,016人, 第三国人1,769人, 計352,096人)。
"	"	昭和5年現在, 在満日本人人口(関東局調査), (関東州116,052, 附属地99,412, 合計215,463, 以上の地域外18,286, 総計233,749)。
"	"	田山花袋没(明治4年~昭和5年)。
"	"	〔書〕「現代日語上・下巻」(蔣游, 民国十九年)。
"	"	〔書〕「台湾に於ける国語教育の展開」(国府種武, 台湾小供世界社, 「台湾に於ける国語教育の過去及び現在」(昭7)はこの続編)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本第二種(巻一~巻十二)」(台湾総督府, 昭和5年~7年)。
"	"	〔書〕「公学校高等科修身書編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校国語読本第一種公学校用国語書キ方手本一種編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本第二種公学校用国語書キ方練習帖編纂趣意書」(台湾総督府, ~昭和7)。
"	"	〔書〕「公学校国語読本第二種教材便覧」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校修身書第二種教師用巻一, 二, 五, 六」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校修身書第二種巻一~四編纂趣意書」(台湾総督府, 昭5~6年)。
"	"	〔書〕「公学校修身書第二種巻一~六」(台湾総督府, 昭和5年~7年)。
"	"	〔書〕「公学校用国語書キ方練習帳第二~六学年用」(台湾総督府, 昭和5年~7年)。
"	"	〔書〕「国語読本第一種巻一~九」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本第二種掛図一~八」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校修身掛図第二種一年~四年用」(台湾総督府, 昭和5年~

西 曆	年 代	項 目
1930		6年)。
"	(昭和5年)	〔書〕「公学校農業書卷一，二」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「公学校商業書卷一，二」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「パイワン語集」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「蕃人童話伝説選集」(瀨野尾寧・鈴木質，台北)。
"	"	〔書〕「言葉の指導」(台北第一師範附屬公学校研究部編)。
"	"	〔書〕「読方教育の研究」(台北第一師範附屬公学校研究部編)。
"	"	〔書〕「On the Language of Robert Bridges' Poetry」(By Tatsu Sasaki Tokyo:Kenkyusha)。
"	"	〔書〕「蝸牛考」(柳田国男，「方言周困論」を發表)。
"	"	〔書〕「宋元以来俗字譜」(中華民國，歴史語言研究所)。
"	"	〔書〕「入境廬詩草 11卷」(清黃遵憲著，高崇信，尤炳圻共校。北平文化學社。1冊)。
"	"	〔書〕「鄭考胥蘇龔先生東遊詩篇」(太田外世雄編。昭和5年序刊。活版1冊)。
"	"	〔書〕「異邦與故國」(民国蔣光慈著，上海・現代書局)。
"	"	〔書〕「東遊雜詠」(民国吳孝侯著，周步谿等校，魏炳榮。民国十九年刊)。
"	"	〔書〕「廣西留日指南」(廣西留日學會學術股編。民国十九年刊。92P)。
"	"	〔書〕「草 枕」(夏目金之助(漱石)著，民国郭沫若訳，上海・美麗書店。1930年刊。220P)。
"	"	〔書〕「中日戦争」(民国王鍾麒著，上海・商務印書館。民国十九年刊。「萬有文庫」。169P)。
"	"	〔書〕「義和團運動史」(民国陳捷著，上海・商務印書館。民国十九年刊。「萬有文庫」。139P)。
"	"	〔書〕「上海人物印象記 第1集」(澤村幸夫著，東京・東亜研究会。昭和5年刊。58P)。
"	"	〔書〕「魯迅論」(民国李何林編，上海・北新書局。1930年刊。264P)。
"	"	〔書〕「中外交通小史」(民国向達著，上海・商務印書館。民国十九年刊。112P)。
"	"	〔書〕「人權論集」(民国胡適等著，上海・新月書店。1930年刊。204P)。
"	"	〔書〕「法學通論 2卷」(民国朱方律師編，吳瑞書校，上海・広益書局。民国十九年刊。230P)。
"	"	〔書〕「中國教育史要」(民国黄炎培著，上海・商務印書館。民国十九年刊。「萬有文庫1集1000」。146P)。
"	"	〔書〕「近代支那教育思想史」(民国舒新城編，錢歌川訳，上海・中華書

西曆	年 代	項 目
1930		局。民國十九年刊。350 P)。
"	"	〔書〕「中國國文法 3卷」(民國吳瀛編,上海·商務印書館。民國十九年刊。72 P)。
"	"	〔書〕「白話寫信必讀(新書信)」(民國樂陶編,上海文學社。民國十九年刊。212 P)。
"	"	〔書〕「各式完備普通新寫信法」(民國顧宏謀編,上海·廣益書局。民國十九年刊。122 P)。
"	"	〔書〕「文藝講座 第1冊」(民國馮乃超等著,上海·神州國光社。民國十九年刊。318 P)。
"	"	〔書〕「文藝論集」(民國郭沫若著,上海·光華書局。1930年刊。374 P)。
"	"	〔書〕「最近三十年中國文學史」(民國陳炳堃著,上海·太平洋書店。民國十九年刊。274 P)。
"	"	〔書〕「〔庚午春詞〕」(〔民國十九年〕刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「女神乃叛逆的女性」(民國郭沫若著,上海·光華書局。1930年刊。「沫若小說戲曲集6」。152 P)。
"	"	〔書〕「名伶京調大全」(上海·廣益書局。民國十九年刊。342 P)。
"	"	〔書〕「達夫代表作」(民國郁達夫著,上海·現代書局。1930年刊。325 P)。
"	"	〔書〕「柴米夫妻」(民國何公超著,上海·春潮書局。1930年刊。「窮人社叢書1」。68 P)。
"	"	〔書〕「後 悔」(民國郭沫若著,上海·光華書局。1930年刊。「沫若小說戲曲集」。188 P)。
"	"	〔書〕「山中雜記」(民國郭沫若著,上海·光華書局。民國十九年刊。83 P)。
"	"	〔書〕「塔」(民國郭沫若著,上海·光華書局。1930年刊。「沫若小說戲曲集」。138 P)。
"	"	〔書〕「落 葉」(民國郭沫若著,上海·光華書局。1930年刊。「沫若小說戲曲集」。140 P)。
"	"	〔書〕「漂流三部曲」(民國郭沫若著,上海·光華書局。1930年刊。「沫若小說戲曲集」。160 P。合刻「行路難」)。
"	"	〔書〕「倪煥之」(民國葉紹鈞著,上海·開明書店。民國十九年刊。420 P)。
"	"	〔書〕「啼笑因緣 3卷」(民國張恨水著,嚴獨鶴校。上海·三益書店。民國十九年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「石榴花」(民國張資平著,上海·樂群書店。民國十九年刊。159 P)。

西 曆	年 代	項 目
1930	(昭和5年)	〔書〕「糜爛」(民国張資平著, 上海・楽群書店。1930年刊。177P)。
"	"	〔書〕「滅亡」(民国巴金著, 上海・開明書店。1930年刊。「微明叢書」。375P)。
"	"	〔書〕「彷徨」(民国魯迅著, 上海・北新書局, 刊, 1930年印。「烏合叢書1」。256P)。
"	"	〔書〕「民間童話集之一換心後」(民国林蘭編, 上海・北新書局。1930年刊。120P)。
"	"	〔書〕「新聲 第2期」(民國國民黨廣東省執行委員會宣傳部編, 中国国民党広東省委員党部宣伝部。半月刊。〔民国十九年〕)。
"	"	〔書〕「南國月刊彙刊」(民国田漢編, 上海・現代書局。民国十九年刊。590P)。
"	"	〔書〕「日韓合邦秘史(上・下)」(葛生能久)。
"	"	〔書〕「本市に於ける朝鮮人住宅問題」(大阪市社会部)。
"	"	〔書〕「朝鮮運送合同史」(加藤三次郎)。
"	"	〔書〕「朝鮮土地改良事業要覧(昭和4年度)」(朝鮮總督府土地改良部)。
"	"	〔書〕「朝鮮古蹟行脚」(田中萬宗)。
"	"	〔書〕「予覚民滿洲憂患史」(外務省情報部訳)。
"	"	〔書〕「滿蒙美観」(大隈為三)。
"	"	〔書〕「滿洲地誌研究」(田中秀作)。
"	"	〔書〕「巴爾虎(呼倫貝爾)の經濟概観」(滿鉄調査課)。
"	"	〔書〕「支那歴代帝王年表(続)」(山根俤三)。
"	"	〔書〕「支那内国公債事情」(田中義久)。
"	"	〔書〕「グロテスク支那」(長水義正)。
"	"	〔書〕「台湾農業發達の趨勢」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「蕃地事情」(台湾總督府警務局理蕃課)。
"	"	〔書〕「支那人の観た日本の滿蒙政策」(日華俱樂部)。
"	"	〔書〕「上海金融組織概要(華文)」(楊蔭溥編。民国十九年)。
"	"	〔書〕「中国交易所論(華文)」(楊蔭溥。民国十九年)。
"	"	〔書〕「蘭領印度の政治並に其批評」(台湾總督官房調査課)。
"	"	〔書〕「バルド教育学概論」(林円応訳)。
"	"	〔書〕「人格観的教育思潮の進展」(日田権一)。
"	"	〔書〕「マルキシズムの教育と其批判」(渡部政盛)。
"	"	〔書〕「新教育学概論」(武政太郎)。
"	"	〔書〕「純粹自我の教育原理とその實際 高一・二」(岡山県師範附屬小学校)。

西 曆	年 代	項 目
1930	"	〔書〕「文明の行方と教育の前途」(大谷良意)。
"	"	〔書〕「教の由って生ずる所」(西晋一郎)。
"	"	〔書〕「我勤勞教育」(別府市)。
"	"	〔書〕「教育改造論」(国民新聞編輯局)。
"	"	〔書〕「教育能率ノ根本問題」(上野陽一)。
"	"	〔書〕「西洋古代倫理学説研究」(佐々木英夫)。
"	"	〔書〕「教科書の活用 を主としたる修身教授原論」(渋谷義夫)。
"	"	〔書〕「現代作業教育の諸問題」(北沢種一編)。
"	"	〔書〕「作業教育序説」(北沢種一)。
"	"	〔書〕「学生思想事件一覽(自昭和四年十一月 文部省学生部 至昭和七年三月)」(昭和5~7年)。
"	"	〔書〕「東京帝国大学学生 生計調査報告」(東京帝国大学学生課)。
"	"	〔書〕「教化動員実施概況」(文部省)。
"	"	〔書〕「教政学」(建部遯吾)。
"	"	〔書〕「教育生活 四十箇年 皇道体现の教育」(山口袞染治)。
"	"	〔書〕「昭和四年度大阪市教育要覧」(大阪市役所)。
"	"	〔書〕「曾根松太郎氏 教育奉仕三十年記念無冠の栄光」(同祝賀会)。
"	"	〔書〕「独乙「学校改革」の精神」(黒川憲寛)。
"	"	〔書〕「東京市教育復興誌」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「大倉高等商業学校三十年史」(葵友会編)。
"	"	〔書〕「東京物理学校五十年小史」(東京物理学校)。
"	"	〔書〕「新郷土教育の原理と実際」(峯地光重 大西伍一)。
"	"	〔書〕「幼稚園雑草」(倉橋惣三)。
"	"	〔書〕「異常児童性格研究」(広島修養院)。
"	"	〔書〕「児童精神の発達」(ジョン・ブワード 竹井健蔵訳)。
"	"	〔書〕「本府に於ける児童保護事業の概況」(東京府学務部社会課)。
"	"	〔書〕「生活単位の低学年教育」(島津新治)。
"	"	〔書〕「新現象学的学習過程の研究」(伊藤祐忠)。
"	"	〔書〕「学校学級統整の根本的革新」(関勝男)。
"	"	〔書〕「永興学校一覽」(朝鮮総督府)。
"	"	〔書〕「体験に 基づく学校経営の真髓」(菅原芳吉)。
"	"	〔書〕「壮丁教育調査概況」(神奈川県学務部社会教育課)。
"	"	〔書〕「青年団指導」(神奈川県青年連合会 田沢義鋪)。
"	"	〔書〕「難 航(青年教育)」(金井十郎平)。
"	"	〔書〕「青年修養資料(第三輯)」(東京府)。
"	"	〔書〕「青年団施設要綱」(東京市連合青年団)。
"	"	〔書〕「創立五十周年記念」(岡山県青年会)。
"	"	〔書〕「社会教育叢書(1~24輯)」(文部省)。

西 曆	年 代	項 目
1930	(昭和5元)	〔書〕「思想的嵐を突破して ——教育勅語徹底解説——」(里見岸雄)。
"	"	〔書〕「農業補習学校の経営 郷土調査の理論と実際」(岡 篤郎)。
"	"	〔書〕「操行学業成績の褒め方と戒め方」(稻村玉雄)。
"	"	〔書〕「各科理想教案」(広島高等師範学校附属 小学校学校教育編集部)。
"	"	〔書〕「中等学校教授法及訓練法」(横山栄次)。
"	"	〔書〕「理科教壇はなしぐさ」(橋本為次)。
"	"	〔書〕「設備の参考活用の指針 理科環境の新経営法」(関原吉雄)。
"	"	〔書〕「最近生活改善の栞」(家政学研究会)。
"	"	〔書〕「文部省新要目準拠 手工教材解説 その2」(山田義郎著)。
"	"	〔書〕「教授方法の芸術的方面」(佐藤熊治郎著)。
"	"	〔書〕「地理教育概論」(依田 豊)。
"	"	〔書〕「語学教育の合理化」(竹原常太)。
"	"	〔書〕「硬毛新書方教育精義」(斉藤梅雄)。
"	"	〔書〕「綴方科教育問答」(千葉春雄)。
"	"	〔書〕「綴方指導の原理と其実際」(奥野庄太郎)。
"	"	〔書〕「綴方指導原論」(田上新吉)。
"	"	〔書〕「新小学国語読本指導精説(四卷)」(浅黄俊次郎)。
"	"	〔書〕「お話と聴方教授資料」(成城小学校国語研究部編)。
"	"	〔書〕「発展的読方の学習」(秋田喜三郎)。
"	"	〔書〕「实际的個性調査法」(平田華蔵)。
"	"	〔書〕「手長 足長個性教育膝栗毛」(松月秀雄 東尾貞三郎)。
"	"	〔書〕「形態心理学」(久保良英)。
"	"	〔書〕「現代法律語の史的考察」(渡辺万蔵)。
"	"	〔書〕「法律学の根本問題」(奈良正路)。
"	"	〔書〕「階級法及び階級 司法の問題」(ストウチュカ プロレタリア科学研究所)。
"	"	〔書〕「山田教授還暦祝賀論文集」(神川彦松)。
"	"	〔書〕「大阪商科大学 五十周年記念論文集」。
"	"	〔書〕「宗教学論集」(東大宗教学教室)。
"	"	〔書〕「裁判夜話」(大森洪太)。
"	"	〔書〕「マルクス主義と法理学」(佐藤 栄訳)。
"	"	〔書〕「エミール・ラスク——論理的形成の統治 哲学の論理学領域に関する研究——」(久保虎賀寿訳)。
"	"	〔書〕「日本法制史」(滝川政次郎)。
"	"	〔書〕「羅馬法」(船田亨二)。
"	"	〔書〕「典海」(東川徳治)。
"	"	〔書〕「英国憲法原理」(藤井新一訳)。
"	"	〔書〕「帝国憲法要論」(金森徳次郎)。

西 曆	年 代	項 目
1930	"	〔書〕「憲法・行政法大綱(二冊)」(野村信孝。~昭和18年)。
"	"	〔書〕「選挙法要理」(宮沢俊義)。
"	"	〔書〕「比例代表法と多数本位代表法」(山崎又次郎)。
"	"	〔書〕「行政組織論」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「アメリカの国立公園」(青木芳雄)。
"	"	〔書〕「瓦斯事業法概論」(水越政和)。
"	"	〔書〕「警察法要論」(塩野季彦)。
"	"	〔書〕「警察と政治」(^{ベルンハルト・ワイス} 富田健治)。
"	"	〔書〕「社会運動取締関係法規便覧」(井沢実猛編)。
"	"	〔書〕「警察講話集」(財)警察協会)。
"	"	〔書〕「医師と健康保険」(合田俊一)。
"	"	〔書〕「宗教学論集」(東京帝大)。
"	"	〔書〕「日本寺院法論」(伊達光美)。
"	"	〔書〕「天理教伝道者に関する調査」(中山正善)。
"	"	〔書〕「天理教その搾取戦術」(柳谷素靈)。
"	"	〔書〕「黒住教祖と其宗教」(早田玄洞)。
"	"	〔書〕「プラトン法治国家論」(鈴木明子訳)。
"	"	〔書〕「国家論」(堀真琴)。
"	"	〔書〕「国体科学概論」(里見岸雄)。
"	"	〔書〕「勅語四十年」(山本良吉)。
"	"	〔書〕「政教より觸たる論語新釈」(赤池 濃)。
"	"	〔書〕「現代憲政の運用」(吉野作造)。
"	"	〔書〕「現代政治学全集(13巻)」(日本評論社)。
"	"	〔書〕「加越能維新勤王史略」(中田敬義)。
"	"	〔書〕「越後佐渡農民騒動」(新潟県内務部)。
"	"	〔書〕「日本政党史(上・下巻)」(林田亀太郎)。
"	"	〔書〕「内閣更迭五十年史」(弘田直衛)。
"	"	〔書〕「現代憲政評論」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「永井柳太郎氏大演説集(二集)」(大日本雄弁会編)。
"	"	〔書〕「昭和第二政戦史」(瀬戸崎七之丞)。
"	"	〔書〕「第三期とは何か」(プロレタリア科学研究所)。
"	"	〔書〕「クロボトキン全集(全12巻)」。
"	"	〔書〕「マルクス主義への道」(^{ア・ジャボグロフ} 今村保男訳)。

西 曆	年 代	項 目
1930	(昭和5年)	〔書〕「共産主義論」(ラスキー著、石川真彦訳)。
〃	〃	〔書〕「現代政党の社会階級関係史論」(ローズ著、藤井新一訳)。
〃	〃	〔書〕「特高警察と社会運動の概説」(曾根忠一、山形県特高課)。
〃	〃	〔書〕「全日本の青年に告ぐ」(菅原亀五郎)。
〃	〃	〔書〕「日本経済の再建設」(浜口雄幸、井上準之助他)。
〃	〃	〔書〕「ムッソリーニ恐怖政治と牢獄脱走記」(ニッチ、飯島正訳)。
〃	〃	〔書〕「伊藤博文秘録(続)」(平塚 篤)。
〃	〃	〔書〕「原敬全集(全2巻)」。
〃	〃	〔書〕「起てる大養木堂翁」(同刊行会)。
〃	〃	〔書〕「三吉米熊先生」(長野県小県蚕業学校同窓会)。
〃	〃	〔書〕「廿一先覚記者伝」(久保田辰彦)。
〃	〃	〔書〕「森村翁言行録(市左衛門)」(若宮卯之助)。
〃	〃	〔書〕「小山健三伝(役人財界頭取)」(三十四銀行)。
〃	〃	〔書〕「南阿開拓の偉人セシル・ローズ」(浜田成雄)。
〃	〃	〔書〕「君府海峡通航制度史論」(芦田 均)。
〃	〃	〔書〕「国際私法撮要」(佐々 穆)。
〃	〃	〔書〕「米国上院外交委員会の倫敦条約審査(第一輯)」。
〃	〃	〔書〕「外交余録」(石井菊次郎)。
〃	〃	〔書〕「賠償法規」(大蔵省理財局)。
〃	〃	〔書〕「弗外交」(ニアリング・フリーマン、角田敬三訳)。
〃	〃	〔書〕「国際連盟概説」(国際連盟協会)。
〃	〃	〔書〕「連盟10年」(杉村陽太郎著)。
〃	〃	〔書〕「軍縮に目醒る——ロンドン軍縮会議の真相」(石丸藤太)。
〃	〃	〔書〕「近世外交史(政治学全集)」(信夫淳平)。
〃	〃	〔書〕「戦場心理学」(内山雄二郎)。
〃	〃	〔書〕「刑法学概説」(久礼田益喜)。
〃	〃	〔書〕「サヴェート権力の刑事政策」(クルイレンコ)。
〃	〃	〔書〕「変態性慾と犯罪 犯罪と人生」(高田義一郎)。
〃	〃	〔書〕「刑罰篇」(犯罪科学研究会)。
〃	〃	〔書〕「行刑論集」(松井和義)。

西 曆	年 代	項 目
1930	"	〔書〕「法医学短篇集(犯科全集)」(小南又一郎)。
"	"	〔書〕「血液学と親子鑑定 指紋学」(犯科全集)」(古畑種基)。
"	"	〔書〕「現行民法総論」(石田文次郎)。
"	"	〔書〕「シュタムラーの債権法理論」(石田芳穂訳)。
"	"	〔書〕「家族の研究」(戸田貞三)。
"	"	〔書〕「新民事訴訟法註釈(全六巻)」(松岡義正。~昭和十年)。
"	"	〔書〕「ユヴラン商法史」(小町谷操三)。
"	"	〔書〕「商法総則講義」(黒川真前)。
"	"	〔書〕「株式会社法の範囲内に 於ける特殊法規の研究」(西原寛一)。
"	"	〔書〕「各国比較会社法論」(佐々 穆)。
"	"	〔書〕「商行為法講義案」(黒川真前)。
"	"	〔書〕「取引所に関する判例集 附取引所法令の沿革」(大阪株式取引所編)。
"	"	〔書〕「保険法論」(三浦義道)。
"	"	〔書〕「火災保険論」(北沢宥勝)。
"	"	〔書〕「改訂保険学綱要(海上火災)」(栗津清亮)。
"	"	〔書〕「稿本簡易保険史」(簡易保険局)。
"	"	〔書〕「英国手形法要論」(大野義昌)。
"	"	〔書〕「有価証券信託論」(王 金海)。
"	"	〔書〕「欧米社債法概論」(栗栖魁夫 島田英一)。
"	"	〔書〕「新銀行法理由」(小川郷太郎)。
"	"	〔書〕「無尽業態の研究」(小坂珠城)。
"	"	〔書〕「財政現象の研究」(中川与之助)。
"	"	〔書〕「改正市町村財務規程」(大塚辰治)。
"	"	〔書〕「世界不景気と我國民の覚悟」(井上準之助)。
"	"	〔書〕「金輸出再禁止論」(高橋亀吉)。
"	"	〔書〕「金利及利息に関する調査(全三巻)」(簡易保険局)。
"	"	〔書〕「中央銀行と戦時戦後に於ける通貨統制」(大田黒敏男)。
"	"	〔書〕「欧州諸国 戦後の通貨安定(中小諸国の部)」(横浜正金銀行調査課)。
"	"	〔書〕「貨幣錯覚・ アーヴィング・ フィッシャー」(山本米治)。

西 曆	年 代	項 目
1930	(昭和5年)	〔書〕「反乱の社会学」(室伏高信)。
"	"	〔書〕「社会思想家としての ジョン・スチュアート・ミル」(大泉行雄)。
"	"	〔書〕「社会変革過程の諸問題」(石浜知行)。
"	"	〔書〕「次の時代」(安部磯雄)。
"	"	〔書〕「社会苦の研究」(河村舜応)。
"	"	〔書〕「各国の社会政策」(協調会)。
"	"	〔書〕「最近の社会運動」(協調会)。
"	"	〔書〕「日本農民闘争史」(木村靖二)。
"	"	〔書〕「越後佐渡農民騒動」(新潟県内務部)。
"	"	〔書〕「農村社会学」(笠森伝繁)。
"	"	〔書〕「輝く人生」(椎名龍徳)。
"	"	〔書〕「公私経済緊縮運動概況(二冊)」(社会局)。
"	"	〔書〕「方面委員と社会事業」(静岡県方面事業助成会)。
"	"	〔書〕「国民保健政策」(簡易保険局)。
"	"	〔書〕「新聞さんげ」(太田正孝)。
"	"	〔書〕「唯物論研究」(丸山岩吉)。
"	"	〔書〕「失業問題と景気恢復」(土田杏村)。
"	"	〔書〕「文明へ何処へ行ク」(土田杏村)。
"	"	〔書〕「文化移動論」(西村真次)。
"	"	〔書〕「江戸近世舞踊史」(九重左近)。
"	"	〔書〕「労働組合法に関する調査」(東京商工会議所)。
"	"	〔書〕「一般労働統計資料(一輯)」(協調会労働課)。
"	"	〔書〕「我国労働組合の研究」(渡部道太郎)。
"	"	〔書〕「労働組合に關 する各国法令(一~三)」(社会局。~昭和6年)。
"	"	〔書〕「我国に於ける 団体交渉及団体協約」(協調会)。
"	"	〔書〕「労働組合法案」(文明協会編)。
"	"	〔書〕「産業管理の哲学」(シエルドン 蒲生俊文訳)。
"	"	〔書〕「週休制度の起源と発達」(ビー・ジー・ブライス 田中亀之助)。
"	"	〔書〕「工場危害予防及衛生規則講演集」(産業福利協会)。
"	"	〔書〕「東京市職業紹介所就職者調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「職業紹介年報(昭和4・5年度)」(中央職業 紹介所。~昭和6年)。

西 暦	年 代	項 目
1930	"	〔書〕「職業指導」(木村正義)。
"	"	〔書〕「独逸労働保険法」(岡田甲子之助)。
"	"	〔書〕「電灯五十年記念会誌」(井上昱太郎編)。
"	"	〔書〕「鉄屑集(上・下)」(今泉嘉一郎)。
"	"	〔書〕「日本糖業発達史(全三巻)」(河野信治)。
"	"	〔書〕「神戸生絲市場之現勢」(神戸蚕絲貿易同業組合)。
"	"	〔書〕「蚕絲業統計」(愛知県内務部)。
"	"	〔書〕「紡績操業短縮史」(庄司乙吉)。
"	"	〔書〕「岐阜挑燈に関する研究」(岡村精次)。
"	"	〔書〕「御大礼記念茶園基本調査成績」(静岡県茶業組合 連合会議所)。
"	"	〔書〕「ラッachel海洋論」(市川誠一訳)。
"	"	〔書〕「海洋学講話」(横山又次郎)。
"	"	〔書〕「気象と人生」(藤原咲平)。
"	"	〔書〕「測雲報告」(中央气象台)。
"	"	〔書〕「工業所有権法規沿革(上・下巻)」(辨理士会)。
"	"	〔書〕「不正競争の取締に関する調査」(東京商工会議所)。
"	"	〔書〕「農学文献目録(第一輯)」(大野史郎)。
"	"	〔書〕「農業経営と農政」(岡田 温)。
"	"	〔書〕「世界の農業・農民問題」(ヴァルガ 坂井哲三)。
"	"	〔書〕「チャノフ小農指導の原理」(杉野忠夫 磯辺秀俊 共訳)。
"	"	〔書〕「欧米の農産と取引」(石塚 峻)。
"	"	〔書〕「工芸農産物要覧」(農林省農務局)。
"	"	〔書〕「輸出向農家生産物調査書」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「柿及其の加工品の生産取引」(大日本農会)。
"	"	〔書〕「防長米同業組合史」(防長同業組合)。
"	"	〔書〕「米穀法実績調査」(大阪商大経済研)。
"	"	〔書〕「中欧諸国の土地制度及び土地政策」(沢村康)。
"	"	〔書〕「農家小組合に関する調査」(農林省農務局。~昭和18年)。
"	"	〔書〕「日本農村経済の研究」(高橋亀吉)。

西 曆	年 代	項 目
1930	(昭和5年)	〔書〕「農村社会学」(笠森伝繁)。
"	"	〔書〕「丁抹農村文化の真髓」(平松広人)。
"	"	〔書〕「農業保険に関する調査」(協定会農林課)。
"	"	〔書〕「林業回顧録」(中村弥六述)。
"	"	〔書〕「漁業経済調査書(第三編)」(北海道水産会)。

西 曆	年 代	項 目
1931	(昭和6年)	
"	1・1	中国, 国定自主関税法実施。
"	1・8	中共, 第六期四中中全会開催。
"	1・13	〔国〕 臨時ローマ字調査会第二回総会。
"	1・16	台湾総督石塚英蔵退任(霧社事件の引責)。
"	1・21	日本政府, 張学良に勲一等旭日大綬章贈与。
"	1・22	満鉄併行線問題交渉開始
"	1・31	〔危害民国緊急治罪法〕公布(中国共産党の取締り)。
"	1・	〔教〕「中等学校令施行規則」を改正。
"	"	〔日〕 台南高等工業学校設置。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三四二号)。
"	"	(同上)「全島国語演習会について」(土性善九郎)。
"	"	(")「敬語の国」(肥後盛実)。
"	"	(")「国語の展開まで」(安藤正次)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第十卷第一号)。
"	"	(同上)「言葉の指導に関して」(北一師附公研究部)。
"	"	(")「説方教育の要諦」(田村憲也)。
"	"	〔書〕「完成漢和大辞典」(上田万年・保科孝一・垣内松三監修, 新井無二郎編, 大阪・湯川弘文社)。
"	"	〔書〕「現代新語辞典」(現代編輯局編, 大日本雄弁会講談社)。
"	"	〔書〕「和英対訳鉄道用語辞典」(工業用語調査会編, 鉄道図書局)。
"	"	〔書〕「語 典」(橋本重次郎, 阿部吉雄共著, 大阪・駈々堂)。
"	"	〔書〕「尖端語百科辞典」(早坂二郎, 松本悟郎共編, 尖端社)。
"	"	〔書〕「詳解大辞林」(宇野円空監修, 研文書院)。
"	"	〔書〕「社會雜誌 第1巻1期」(上海・社會雜誌社。月刊。民国廿年一月)。
"	"	〔書〕「新學生 第1巻1号」(民国汪馥泉編, 上海・光華書局。月刊。1931年1月)。
"	2・5	〔書〕「續國歌大観 歌集」(松下大三郎編, 中文館書店。二巻)。
"	2・11	〔書〕「國歌大観 索引」(松下大三郎編, 中文館書店。二巻。八版)。
"	2・18	台湾総督府, 台湾民衆党に解散命令。
"	2・	〔書〕「台湾教育」(第三四三号)。

西 曆	年 代	項 目
1931		(同上)「綴方に於ける鑑賞に就いて」(小林正一)。 (「」)「斯くありたき公学校読方教育の希望」(町田富重)。
”	”	[書]「第一教育」(第十卷第二号)。 (同上)「北一師附公読方科研究発表講話要領(一),本島に於ける読方教育の欠陥と救済」(八尋喜善・第三号)
”	”	[書]「新撰現代語辞典」(伊林書店編・刊)。
”	”	[書]「独逸文法辞典」(片山正雄著,有朋堂。「Grammatisches Wörterbuch der Deutschen Sprache」)。
”	”	[書]「独和兵語新辞典」(栗本進著,大陽堂。「Neues Deutsch-Japanisches Militar Wörterbuch」)。
”	3・1	蒋介石,立法院長胡漢民を監禁。
”	3・5	[書]「KENKYUSHA'S NEW JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY 新英和大辞典」(TAKENOBU YOSHITARO)。
”	”	[書]「大英和辞典」(「Fuzanbo's Comprehensive English-Japanese Dictionary」)。市川三喜・畔柳都太郎・飯島広三郎編)。
”	3・9	右翼団体の一部合同し,全日本愛国社協同闘争協議会を結成。
”	3・15	[書]「大字典」(上田万年・岡田正之・飯島忠夫・栄田猛猪・飯田伝一。啓成社)。
”	3・16	ソ連通商代表アニキエフ,東京で佐藤信勝に狙撃され重傷。
”	3・25	[書]「公学校用国語読本第二種巻六」(台湾総督府)。
”	3・27	[書]「公学校用国語読本第二種巻七」(台湾総督府)。
”	3・28	[書]「公学校用国語読本第二種巻五」(台湾総督府)。
”	3・	[日] 満鉄,公学堂を公学校と改称。
”	”	橋本欣五郎など桜会の一部将校及び大川周明ら,軍部クーデタによる宇垣内閣樹立を企図,未遂(「三月事件」)。
”	”	[書]「標準日華辞典 附日本文學習法」(民国趙立言編,(附)高振著,上海・開華書店。民国廿年三月初版。339p)。

西 曆	年 代	項 目
1931	"	〔書〕「青島民報副刊 第2巻3期」(青島民報社。民国廿年三月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三四四号)。 (同上)「全島国語演習会に於ける綴方成績」(土性善九郎)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第十巻第三号)。 (同上)「本校綴方指導に関する態度と児童の作品」(田中米蔵)。
"	"	〔書〕「改修新式辞典」(芳賀矢一著, 藤村作改修, 大倉書店)。
"	"	〔書〕「台日大辞典」(~昭和7年3月。上・下巻。台湾総督府編・刊)。
"	"	〔書〕「プロレタリア科学辞典」(大下直太郎編, 山洞書院)。
"	"	〔書〕「文學生活 第1巻1号」(文學生活社編, 上海・聯合書店。月刊。1931年3月)。
"	"	"
"	4・1	〔日〕「朝鮮高等普通学校規程」改正(毎週国語時間数, 1年7時間, 2年7時間, 3年6時間, 4年5時間, 5年5時間)。
"	"	外務省文化事業部, 上海自然科学研究所を設立。
"	4・13	浜口内閣総辞職。
"	4・14	第2次若槻礼次郎内閣成立。
"	4・30	〔教〕大阪帝国大学を設置〔勅令〕。
"	"	〔教〕名古屋医科大学を設置〔勅令〕。
"	4・	参謀本部, 昭和六年度の「情勢判断」を策定(3段階に分けた満蒙問題解決策)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三四五号)。 (同上)「巻頭言 国語教育の問題」。 (「」)「国語夜学会ナンセンス」(T・N生)。 (「」)「全島各師範学校附属公学校話し方科打合会記録」(~三四七号の内)。
"	"	〔書〕「国史新辞典」(堀田璋左右編, 雄山閣)。
"	"	〔書〕「数学辞典」(吉田洋一著, 弘文堂)。
"	"	〔書〕「姓名判断名附字典」(畑観州著, 文陽堂)。
"	"	〔書〕「日常医語集覧」(上条秀介著, 金原商店。「Medizinische Sprachen In praxis」)。
"	"	〔書〕「美文麗句作文の辞典」(久米政治著, 知本書院)。
"	"	〔書〕「書報評論 第1巻4. 5期」(上海・書報評論社。2冊。1931年4月~5月)。

西 暦	年 代	項 目
1931	"	〔書〕「南 風 第1巻1号」(南風月刊社編。月刊。民国廿年四月)。
"	"	〔書〕「文藝雑誌 第1巻1期」(民国柳亞子編, 上海・開花書局。季刊。1931年4月)。
"	5・5	南京で国民会議開催。
"	5・10	プロレタリア科学研究所, 「プロレタリア科学研究」を創刊。
"	5・15	〔国〕 臨時ローマ字調査会第三回総会。
"	5・16	蔣介石軍20万, 第二次掃共戦開始(～5月30日), 紅軍の遊撃戦により撃退される。
"	5・18	日本宗教平和会議(～5月20日), 世界宗教平和会議にそなえ, 「平和宣言」を発表。
"	5・20	〔書〕「新興教育学」(国際教育労働者連盟。エドキンテルン関係文書の訳)。
"	5・28	汪兆銘, 李宗仁ら, 反蔣連合を結成し, 広州に国民政府を樹立。
"	5・	〔書〕「台湾教育」(第三四六号)。 (同上)「国語普及運動」(～三五三の内)。 (#)「躍進目覚しき国語運動」(佐々木亀雄)。 (#)「吾学級に於ける語彙拡充の試み」(辻武夫。～三四七号)。
"	"	〔書〕「中国地方語彙」(川崎甫著, 刊)。
"	"	〔書〕「日本語となった英語」(荒川惣兵衛, 研究社。「Japanized English」)。
"	"	〔書〕「名著解題大辞典」(太陽堂編集部編)。
"	6・3	〔国〕 臨時国語調査会から, 「常用漢字表」及び「仮名遣改定案」の修正が発表される。
"	6・5	〔書〕「公学校用国語読本第二種巻八」(台湾総督府)。
"	6・10	〔書〕「台湾に於ける国語教育の展開」(国府種武, 台北第一教育社)。
"	"	〔書〕「岩波講座 日本文学」(～'33年4月20日。20巻。岩波書店)。
"	6・13	南京で, 国民党五中全会開催(蔣介石, 討赤宣言)。
"	6・17	朝鮮総督に宇垣一成を任命。

西 曆	年 代	項 目
1931	6・19	陸軍中央の五課長、「満州問題解決方策大綱」原案作成（一年の準備後、軍事行動発動の方針）。
"	6・20	〔書〕「敬語の研究、訂正版」（山田孝雄、宝文館）。
"	6・25	「三・一五」「四・一六」両事件の共産党被告の統一公判始まる。'32年10月29日判決。
"	6・27	北満地方視察中の中村大尉ほか1名、中国人に殺される。8月7日公表（「中村大尉事件」）。
"	6・28	黒龍会を中心とする右翼団体の一部合同し、大日本生産党を結成（総裁内田良平）。
"	6・30	〔国〕 臨時ローマ字調査会第四回総会。
"	6・	〔書〕「自修適用日語文藝讀本」（葛祖蘭、商務印書館、民国廿年六月初版）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三四七号）。 （同上）「私の国語」（劉氏満）。 （"）「板橋地方国語普及の実況と国語教育」（室園武）。 （"）「国語教育の一考察」（河瀬半四郎）。 （"）「国語の文化的背景」（大沢貞吉）。 （"）「国語の普及と国語の研究」（安藤正次）。 （"）「国語普及問題に就いて」（李炳楠）。 （"）「小公学校国語教授に対する一中学教師の提案」（阿川昔）。
"	"	〔書〕「英・独・仏・伊意楽舞踊用語新辞典」（国際芸術研究会編、太陽堂）。
"	"	〔書〕「標音仏和辞典」（山本直文編、白水社、「Dictionnaire de Poche Français-Japonais」）。
"	"	〔書〕「文學雜誌 第1巻1号」（文學雜誌社編、上海・光華書局。季刊。1931年6月）。
"	7・1	〔教〕 文部省、省内に学生思想問題調査委員会を設置、穂積重遠・河合栄治郎・巖山政道らを委員に任命。'32年5月2日「学生生徒左傾の原因及対策」を答申。
"	"	陸軍省、軍備改善を内容とする軍制改革草案を発表。
"	7・2	満州万宝山で、朝鮮人農民と中国農民・官憲の大衝突事件起こる〔万宝山事件〕。7月4日朝鮮各地で中国人に対する報復暴動（～7月5日）。

西 曆	年 代	項 目
1931	7・5	蔣介石軍30万，第三次掃共戦開始。8月失敗に終わる。
"	7・13	満州青年連盟，内地遊説へ出発。
"	"	上海抗日援僑大会成立，各地の抗日ボイコット熾烈。
"	7・	〔書〕「台湾教育」（第三四八号）。 （同上）「始めて国語普及放送に臨みて」 （"）「かな文字問題に就いて」（肥後盛弘）。 （"）「国語問題と実業補習教育」。
"	"	〔書〕「音引画引新字海」（有馬祐政監修，畑由之助編，富文館）。
"	"	〔書〕「英・独・仏・和 社会科学用語辞典」（伊藤欽二編著，太陽堂）。
"	"	〔書〕「台日新辞書」（東方孝義編，台北・台湾警察協会）。
"	"	〔書〕「独逸基本単語」（加藤一郎訳，大修館。アメリカ・カナダ諸大学連合語学調査委員会発行の基本語叢書の日本版。竹原常太監修）。
"	"	〔書〕「理論與批判 第1期」（理論與批判社。〔月刊〕。1931年7月）。
"	8・4	陸相南次郎，軍司令官・師団長会同で，満蒙問題積極的解決を訓示（軍の外交関与として問題化）。
"	8・6	駐華公使重光葵任命。
"	8・10	駐日公使蔣作賓任命。
"	8・17	中村大尉事件で交渉開始。
"	8・	満鉄経営中国人のための公学校の課程改定。三民主義や孫文を教材に出す。
"	"	各地で新興教育運動，教育労働者組合関係の弾圧事件起こる。
"	"	〔書〕「東文新教程」（沈鏡鼎， <small>商務印書館</small> ， <small>南京日本研究会</small> ，民国廿年八月初版）。
"	"	〔書〕「日文日語合編提要」（楊衍瑞，日文補習班，民国廿年八月初版）。
"	"	〔書〕「井上日華新辞典」（井上翠編著，文求堂）。
"	"	〔書〕「現代文描写辞典」（犬畑匡山編，岡村書店）。
"	"	〔書〕「司法警察特殊語百科辞典」（高久景一，司法警務学会）。
"	"	〔書〕「政治演説辞典」（田所輝明著，白楊社）。
"	"	〔書〕「満州評論」（主筆橋樑）創刊。
"	9・3	外交部長王正廷，中村大尉事件は事実無根と声明。
"	9・7	大川周明・津久井竜雄・赤松克麿，日本国家社会主義研究所を設立。10月1日「日本社会主義」を創刊（'32年6月「国家社会主義」と改題）。
"	9・10	張学良 中村事件穏便解決の意向表明。

西 曆	年 代	項 目
1931	9・15	〔書〕「日本文法」(湯沢幸吉郎, 大岡山書店)。
"	9・16	王外交部長も妥協線提出。
"	9・18	本庄新関東軍司令官強硬訓示。
"	"	関東軍参謀ら, 満州占領を企てて奉天郊外柳条溝の満鉄線路を爆破, 関東軍司令官本庄繁, これを中国人の所為として総攻撃を命令(「九・一八」・「満州事変」はじまる)。
"	9・19	関東軍, 奉天城を占領。
"	"	奉天総領事林久次郎, 今次事件は, 軍部の計画的行動と幣原首相に報告。
"	"	中国, 柳条溝事件を国際連盟に報告。9月21日正式に提訴。
"	9・20	中国共産党中央, 日本帝国主義の東三省占領事件に対する通電。
"	9・21	関東軍, 吉林に出動。朝鮮軍司令官林銑十郎, 独断で朝鮮軍の満州越境開始
"	"	日本軍, 奉天馮庸大学長馮庸を逮捕。
"	9・22	スチムソン米國務長官, 満州の事態は日本に責任ありと通告。
"	9・23	国民政府, 「国民に告ぐる書」発表, 一致団結を説く。
"	"	上海市各大学生, 全市大学連合会議召集, 上海各校学生抗日救国連合会を組織。
"	9・23	国際連盟, 「緊急理事会招集」。
"	9・24	政府, 満州事変に関し, 不拡大方針の第1次声明を発表。
"	9・26	留日学生, 東京で全体代表大会を開き, 全員帰国, 抗日運動従事を決議。
"	"	上海で10余万人の上海市抗日救国大会を開催。10月, 上海・北京で抗日救国会, 義勇軍を組織。
"	9・28	親日派軍閥(吉林省の溥洽, ハルビンの張景恵ら), 国民政府からの離脱を宣言。
"	"	南京中央大学学生, 「対日宣戦布告」要求, 王外交部長を殴打(王辞任)。
"	"	日本全国労農大衆党, 对中国出兵反対闘争委員会結成。
"	"	日本商工会議所, 在中国権益擁護および排日運動絶滅声明。
"	9・30	国際連盟理事会, 満州事変解決を日中両国に要望する決議案採択。
"	9・	浙江省に学生の抗日義勇軍組織成立。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三五〇号)。 (同上)「かな文字問題(かな遣その他)」(今崎秀一)。
"	"	〔書〕「演説大辞典」(大日本雄弁学会編。太陽社)。
"	"	〔書〕「労働用語集」(大阪市社会部調査課編。刊)。
"	"	〔書〕「日文研究 第1巻1号」(信岡貞雄編, 北平・日文協会。月刊。民国廿年九月)。

西 曆	年 代	項 目
1931	"	[書]「北 斗 第1巻1号」(民国丁玲等編, 上海・湖風書。月刊。民国廿年九月)。
"	10・2	江蘇教育庁, 「抗日救国実施弁法」公布。
"	10・8	関東軍の飛行隊, 錦州を爆撃。
"	10・13	胡漢民釈放。
"	10・15	[書]「岩波講座 教育科学」(～'33年8月10日。20冊)。
"	10・17	橋本欣五郎中佐らによる軍部内閣樹立のクーデタの企画, 未然に発覚し, 拘禁される(「十月事件」・「錦旗革命事件」)。
"	10・18	陸軍中央部, 関東軍の独走を説得するため, 白川義則大将の満州派遣を決定。10月21日奉天着。
"	10・21	第四回太平洋会議, 上海・杭州で開催(～11月2日)。
"	10・22	上海で蒋介石・汪兆銘・胡漢民の三者会談。10月27日南京・広東の両政府の平和予備会議始まる(～11月7日)。
"	10・24	国際連盟理事会, 日本への期限付(11月16日まで)満州撤兵勧告案を可決(13対1)。
"	10・26	政府, 満州事変に関し, 第2次声明(撤兵の前提条件)を発表。
"	10・27	愛国社の指導下に, 愛国学生連盟結成(この頃, 学生の右翼組織広がる)。
"	10・29	ソ連外務人民委員代理カラハン, 満州事変に関し, 中立不干渉を声明。11月14日外務人民委員リトビノフも不干渉声明。
"	10・	[書]「台湾教育」(第三五一号)。 (同上)「改正仮名遣採用促進運動」。 (#)「再びかな文字問題に就いて」(肥後盛弘)。
"	"	[書]「現代術語辞典」(大阪毎日新聞社編・刊)。
"	"	[書]「英語・支那音・新漢和辞典」(至誠堂編集部編, 浩文社)。
"	"	[書]「毛筆行草入り 詳解」 「スポーツ用語辞典」(山本忠興監修, 実業之日本社)。
"	"	[書]「能楽謡曲大辞典」(正田章次郎・雨谷幹一編著, 弘文館)。
"	"	[書]「常用 モダン語辞典」(伊藤晃二著, 創造社)。
"	"	[書]「モダン語漫画辞典」(中山由五郎著, 田中比左良・河盛久夫画, 洛陽書院)。
"	"	[書]「モダン新語辞典」(早坂二郎, 松本悟郎共編, 浩文社)。
"	11・3	関東軍, 一部を鉄橋修理援護の理由で洮昂線に派遣。11月4日嫩江の戦闘で

西 曆	年 代	項 目
1931		苦戦(～11月5日), さらに第2師団主力を派遣, 11月18日馬占山軍を破り, 11月19日チチハル占領。
"	11・5	南京国民政府, 抗日運動禁止令を公布。
"	11・6	南京の金陵大学で全国学生抗日救国会成立大会開く。蔣介石との面会要求。
"	11・7	江西省瑞金で第一回全中国ソビエト代表者大会開く(～11・23)。
"	11・8	天津で日中両軍再度衝突。
"	11・9	〔国〕 臨時ローマ字調査会第五回総会。
"	11・10	宣統帝溥儀, 日本軍の手により天津を脱出。関東州大連に向かう。
"	"	陸軍兵卒等級表廃止, 兵の名称改正を公示(卒を兵にかえる)〔陸軍〕。
"	"	日本基督教連盟第九回総会(～11・11), 満州事変に関する声明書を発表。
"	11・17	〔書〕「 ^{改訂} 仮名遣便法全」(大島正健, 啓成社)。
"	11・18	閣議, 満州へ軍隊増派を決定。
"	11・20	〔書〕「望月仏教大辞典」(第一～五巻。索引・付録・補遺。望月信亨編, 仏教大辞典発行所。～'65年4月25日。10冊)。
"	11・25	〔書〕「大百科事典」(大百科事典編集部(責任者木村久一)編, 平凡社。～昭和10年10月18日。28巻)。
"	11・26	天津で日中両軍再度衝突。11月27日関東軍, 増援部隊を派遣。11月29日撤退。
"	11・27	瑞金中華ソビエト共和国臨時政府(瑞金政府)樹立(主席毛沢東, 副首席張国燾・項英)。
"	11・	〔書〕「台湾教育」(第三五二号)。 (同上)「公学校読み方教育研究会開催要項」(台北二師附属公学校)
"	"	〔書〕「第一教育」(第十卷第十一号)。 (同上)「仮名遣二大問題の検討(一)～」(菊地道丸。～第十二号)。
"	"	〔書〕「最新警察辞典」(鳥越熟二・松尾英敏共著, 松華堂)。
"	"	〔書〕「誤字発見辞典」(大森勝留著, 一心社出版部)。
"	"	〔書〕「新特高辞典」(横溝光暉著, 松華堂書店)。
"	"	〔書〕「最新スポーツ用語辞典」(スポーツ研究会編, モナス)。
"	"	〔書〕「尖端世界人々名辞典」(早坂二郎・酒本麟吾共編)。

西 曆	年 代	項 目
1931	"	〔書〕「早く覚える英語の絵解き」(加賀谷林之助著, 昇竜堂書店。[The Abecedarian Picture Book])。
"	"	〔書〕「流火月刊 第1巻1期」(上海・流火月刊社。月刊。民国廿年十一月)。
"	12・1	中国政府教育部, 各大学・専門学校にあて, 「東北各大学及留日帰国学生各校借読及傍聴待遇弁法」を通達。
"	12・4	矢野参事官, 張学良に対し中国軍の関内撤退申入れ。
"	12・5	〔日〕第十八回全島国語演習会(場所・高尾市屏東小学校, 参加人数59名)
"	12・7	張学良, 錦州撤退の意向表明。
"	12・10	国際連盟理事会, 調査委員会設置等「満州問題に関する決議案」可決('32年1月14日理事会, リットン(英)ら, 五委員任命を承認。
"	12・11	若槻内閣総辞職。
"	12・13	犬養毅政友会内閣成立。蔵相に高橋是清就任(いわゆる「高橋財政」を展開)
"	"	新内閣, 初閣議で金輸出再禁止を決定。
"	12・15	蔣介石, 下野。
"	"	北平の学生請願隊, 南京の中央党部で, 蔡元培・陳銘枢を殴打。
"	12・17	関東軍・天津軍へ兵力増派の奉勅命令。
"	12・22	国民党第四期一中全会, 南京で開会。
"	12・23	閑院宮載仁親王, 参謀総長就任。
"	12・28	関東軍, 錦州に進撃を開始。
"	"	台湾総督府, 「理蕃大綱」を制定。
"	"	国民政府主席林森・行政院長孫科選任, 広東・南京合作へ。
"	12・31	ソ連外務人民委員リトビノフ, 駐仏大使芳沢謙吉(外相就任のため帰国途上)に, 不侵略条約の締結を打診。
"	12・	〔書〕「台湾教育」(第三五三号)。 (同上)「言葉の浄化」(白虹生)。 (")「仮名改定問題に就いて」(豊永盛実)。 (")「東台湾に於ける国語教育と仮名文字問題」(小川一)。
"	"	〔書〕「英和兵語辞典」(平岡閏造著, 兵用図書。[English - Japanese Dictionary of Military Terms])。
"	"	〔書〕「注音対訳華語辞典」(田中清之助著, 大連・大阪屋号書店)。
"	"	〔書〕「物理学辞典」(金原寿郎。小山昭一郎著, 弘文堂。[アテネ文庫])。

西 暦	年 代	項 目
1931	(昭和6年)	この年、学生・生徒(中等学校以上)の「左傾思想事件」、頂点に達する(395件、学校処分991人)。
"	"	〔日〕 ライデン大学、日本語講座を開設。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校、学生数、本島人500、高砂族10、卒業数、本島人120、高砂族4)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校、生徒数、本島人1601、蕃人35、卒業数、本島人220、蕃人7、小学校高等科、生徒数、本島人209、蕃人13、卒業数、本島人49、蕃人3)
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数、本島人6992、高砂族45、卒業数、本島人3095、高砂族22)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校、生徒数、本島人1993、高砂族2、卒業数、本島人309、高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校、生徒数、本島人1456、高砂族3、卒業数、本島人408、高砂族2)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校、生徒数、本島人1502、高砂族9、卒業数、本島人242、高砂族3、実業補習学校、生徒数、本島人1408、高砂族140、卒業数、本島人492、高砂族64)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数、本島人1936高砂族4、卒業数、本島人472、高砂族2)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数127、卒業数32)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大、学生数22、卒業数5)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数、197、卒業数24)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数171、生徒数7142、卒業数1374、就学歩合59.87)。
"	"	〔日〕 国語講習所調べ(国語講習所68、生徒数561、簡易国語講習所805、生徒数31201、合計所数873、合計生徒数31762)。
"	"	〔書〕「標準日本語読本巻一」(長沼直兄、以後1934年までに巻七まで刊行)。
"	"	〔書〕「日本文典統編」(錢歌川、民国廿年)。
"	"	〔書〕「言語の原理的考察への一途」(佐久間鼎、「言語と文学」第六輯、台北国語国文学会発行)。

西 曆	年 代	項 目
1931	(昭和6年)	[書]「アタヤル語集」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校高等科修身編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校用修身書第二種編纂趣意書」(台湾総督府, 昭和6~7年)。
"	"	[書]「公学用国語読本第二種公学校用国語書キ方練習帖編纂趣意書」 (台湾総督府, 昭6~7年)。
"	"	[書]「公学校用硬筆書キ方練習帖編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校地理書改訂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校用国語読本第二種教材便覧」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校高等科修身書卷一, 二」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校用国語書キ方練習帖第一~六学年用」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校高等科国語書キ方手本第一, 二学年用」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校地理書第一種卷一, 二」(台湾総督府)。
"	"	[書]「公学校裁縫及家事教授要目」(台湾総督府)。
"	"	[書]「国語教育の諸問題」(台北州教育会)。
"	"	[書]「小公学校国語読本の研究」(初等国語研究会編)。
"	"	[書]「研究紀要」(台北第一師範学校附属小学校正榕会)。
"	"	[書]「密教大辞典」(密教辞典編纂会編, 京都・同会。~昭和8年。上・中・下卷, 三冊)。
"	"	[書]「速成日語読本」(橋爪政之著, 上海・開華書局。民国廿年刊。91p)。
"	"	[書]「日語不求人」(滿州王興周著, 大連・聚勝堂書局。1冊)。
"	"	[書]「日本話本」(滿洲王興周著, 大連・聚勝堂書局。1冊)。
"	"	[書]「留日中華學生名簿」(日華學會學報部編, 東京・日華学会。6冊。第5~10版, 昭和6~11年)。
"	"	[書]「文学十講」(小泉八雲著, 民国楊開渠訳, 上海・上海現代書局。1931年刊。276p)。
"	"	[書]「襯衣」(加能作次郎著, 民国張資平訳, 上海・光華書局。1931年刊。251p。合刻: 無産階級者(小川未明著 民国張資平訳) 道遣的對話(佐藤春夫著 民国張資平訳) 自殺(江馬修著 民国張資平訳) 最後列車(加藤武雄著 民国張資平訳) 和解(志賀直哉著 民国張資平訳)。
"	"	[書]「光華書局圖書目錄」(光華書局。1931年刊。1冊)。
"	"	[書]「日華要覧, 昭和6年版」(林賢治編, 東京・日華俱樂部。昭和6年刊。135p)。
"	"	[書]「新學爲經考, 14卷」(清康有爲著, 北平・文化学社。民国廿年刊。2冊)。

西 曆	年 代	項 目
1931	"	〔書〕「國學概論」(民国錢穆著,上海・商務印書館。民国廿年刊。382 p)。
"	"	〔書〕「支那は起ちあがる」(室伏高信著,東京・新潮社。昭和6年刊。335 p)。
"	"	〔書〕「清代學者生卒及著述表」(民国蕭一山著,民国廿年刊。「北平文史政治學院講稿」。289 p)。
"	"	〔書〕「中國革命史」(民国陳功甫著,上海・商務印書館。民国廿年刊。「萬有文庫第1集」。163 p)。
"	"	〔書〕「郭沫若論」(民国黄人影編,上海・光華書局。1931年刊。210 p)。
"	"	〔書〕「孫文傳」(王樞之(鈴江信一)著,東京・改造社。昭和6年刊。438 p)。
"	"	〔書〕「中華五十日游記 付中華留學生教育小史 中華教育視察紀要」(松本亀次郎,東京・東亜書房。昭和6年刊。447 p。昭和5年の記録)。
"	"	〔書〕「通俗寫真入近世文化年代記」(石田傳吉著,東京・地方改良協会出版部。昭和6年刊。206 p)。
"	"	〔書〕「支那縦横観」(銀閣絮子著,東京・東洋書籍。昭和6年刊。234 p)。
"	"	〔書〕「中國國民黨史」(民国華林一著,王雲五等編,上海・商務印書館。民国廿年刊。「萬有文庫1」。132 p)。
"	"	〔書〕「中國財政小史」(民国劉象麟著,上海・商務印書館。民国廿年刊。「萬有文庫」。82 p)。
"	"	〔書〕「新主義教科書前期小學國語讀本 1~8冊」(民国魏冰心等著,上海・世界書局。民国廿年刊。8冊)。
"	"	〔書〕「基本教科書 國語 小學校初級用 3, 8冊」(民国沈百英編,上海・商務印書館。民国廿年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「支那文學讀本 2卷」(藤林廣超編,京都・平野書店。昭和6年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「田漢戲曲集 第4集」(民国田漢著,上海・現代書局。1931年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「箬 船」(民国周全平著,上海・光華書局。1931年刊。120 p)。
"	"	〔書〕「夢裏的微笑」(民国周全平著,上海・光華書局。1931年刊。241 p)。
"	"	〔書〕「菊子夫人」(民国葉靈鳳著,上海・光華書局。1931年刊。117 p)。
"	"	〔書〕「脱了軌道の星球」(民国張資平著,上海・現代書局。1931年

西 曆	年 代	項 目
1931		刊)。
"	(昭和6年)	[書]「蝕」(民国茅盾著, 上海・開明書店。民国廿年刊。「文學週報社叢書」。619p)。
"	"	[書]「阿 鳳」(民国冷西著, 徐志摩編, 上海・中華書局。民国廿年刊。「新文芸叢書」。124p)。
"	"	[書]「阿Q正傳」(民国魯迅著, 松浦珪三訳, 東京・白楊社。昭和6年刊。「支那プロレタリア小説集」。193p)。
"	"	[書]「茶話集」(民国謝六逸編, 上海・新中国書局。民国廿年刊。229p)。
"	"	[書]「無錢的猶太人」(美国哥爾德著, 民国楊昌溪訳, 上海・現代書局。1931年刊。384p)。
"	"	[書]「東亜經濟懇談会第三四回大会報告書」(東亜經濟懇談会)。
"	"	[書]「本市に於ける朝鮮人工場労働者」(大阪市社会部)。
"	"	[書]「南満州ニ於ケル宗教概観」(松尾為作)。
"	"	[書]「謎の国外蒙古」(胡沙征人)。
"	"	[書]「支那革命と孫文主義」(武田 熙)。
"	"	[書]「列国の支那共同管理論」(アベンド末永一三訳)。
"	"	[書]「支那近代の政治経済」(日華実業協会)。
"	"	[書]「支那資本主義発達史」(長野 朗)。
"	"	[書]「樺太要覧 昭5・12・13年」(樺太庁。~昭和14年)。
"	"	[書]「比律賓の現状」(台湾総督官房)。
"	"	[書]「植民地鉄道の世界経済的及世界政策的的研究」(永雄策郎)。
"	"	[書]「仏領植民地の関税政策」(台湾総督官房調査課)。
"	"	[書]「階級教育論」(マックス・アドラー)。 堀秀彦訳
"	"	[書]「辯証論的考察 教育の思潮と実際」(小池藤八)。
"	"	[書]「教育の新建設」(野口彰)。
"	"	[書]「教育改造と社会改造」(杉森孝次郎)。
"	"	[書]「精神的生活力の陶冶 アッサインメントの教育」(三木英太郎)。
"	"	[書]「教育の基線」(津田萬夫)。
"	"	[書]「作為教育の建設と帰趨」(安田保則)。
"	"	[書]「具体的教育道」(渡辺昌司)。
"	"	[書]「現代倫理学の理念」(長屋喜一)。
"	"	[書]「吾が校の劳作教育」(和歌山県師範学校附属小学校)。
"	"	[書]「劳作学校の新経営」(劳作教育研究会)。
"	"	[書]「人物の出現地と其教育」(菅原亀五郎)。

西 暦	年 代	項 目
1931	"	〔書〕「教育制度改革案」(教育研究会)。
"	"	〔書〕「横浜市教育状況一覧表」(横浜市役所)。
"	"	〔書〕「内外教育制度の調査(一〜二)」(文部省調査部)。
"	"	〔書〕「各国教育学の現状」(辻幸三郎)。
"	"	〔書〕「中華民國教育其他ノ施設概要」(外務省文化事業部)。
"	"	〔書〕「改訂 三重県教育法規 上・下」(啓文社編纂)。
"	"	〔書〕「東奥義塾再興十年史(学則共三冊)」(笹森順造。~昭和16年)。
"	"	〔書〕「創立六十年」(東京文理科大学)。
"	"	〔書〕「姫路師範三十年の教育」(姫路師範学校同窓会編)。
"	"	〔書〕「第三高等学校辯論部史」。
"	"	〔書〕「郷土の本質と郷土教育」(小川正行)。
"	"	〔書〕「人間教育の最重点」(松永嘉一)。
"	"	〔書〕「環境教育論」
"	"	〔書〕「女子教育の理念」(吉田熊次)。
"	"	〔書〕「家庭教育の実際」(野瀬寛頭)。
"	"	〔書〕「小学校及実業補習学校執務提要」(荏原郡小学校長会編)。
"	"	〔書〕「東京市高等小学校児童の知能の研究」(谷野 巖)。
"	"	〔書〕「現代学習指導の新過程」(山崎博)。
"	"	〔書〕「学生社会運動史」(菊川忠雄)。
"	"	〔書〕「尋四学級新経営案」(小林左源治)。
"	"	〔書〕「改正中等教育法規 (師範学校・中学校・)」(三省堂編輯所)
"	"	〔書〕「附中学校新教授要目 (実業学校 総合中学の実現 ゲーリーシステム)」(水崎基一)。
"	"	〔書〕「学級経営原論」(北沢種一)。
"	"	〔書〕「公民教育の概念」(ゲオルグ・ケルシエンシュタイナー)。 北野 駿訳
"	"	〔書〕「ケルシエン・スタイナー の国民教育と教育者本質論」(大槻正一)。
"	"	〔書〕「公民教育講座(上巻・下巻)」(山海堂出版部)。
"	"	〔書〕「公民科の教材研究」(北沢種一)。
"	"	〔書〕「新日本建設の基礎・公民教育」(仙田清吾)。
"	"	〔書〕「公民教育の根本問題」(羽田隆雄)。
"	"	〔書〕「青年梅村の人生を語る」(神奈川県青年団連合会)。
"	"	〔書〕「財団法人日本青年館事業」 大日本連合青年団事業
"	"	〔書〕「農村教育の根本問題」(東亜学芸協会編)。
"	"	〔書〕「悩める農村教育の改造」(寺田弥吉)。
"	"	〔書〕「尋常小学校に於ける」(東京職業指導研究会編)。 職業指導
"	"	〔書〕「小学校職業指導教材解説」(東京市職業指導研究会)。
"	"	〔書〕「個性調査法と職業指導法」(山根真住)。
"	"	〔書〕「門氏教育法の詳解及批判」(河野清丸)。
"	"	〔書〕「教育教授の要訣」(初等教育研究会 岡山県女子師範附小)。

西 曆	年 代	項 目
1931	(昭和6年)	〔書〕「各科教授要綱と教授案例」(東京府立女子師範 附属小学校編)。
"	"	〔書〕「歴史教育の根本問題」(東亜学芸協会編)。
"	"	〔書〕「高等家事原論」(石沢吉磨)。
"	"	〔書〕「唱歌法と指揮法」(青柳善吾 近藤一重)。
"	"	〔書〕「手工教育の分野と新使命」(三苫正雄)。
"	"	〔書〕「作業教育 学校園の設計と造園法」(上原敬二)。
"	"	〔書〕「甲乙新制珠算教科書の取扱」(稲次静一 八木瞭衛)。
"	"	〔書〕「算術教育原論」(稲次静一)。
"	"	〔書〕「唱歌教授の実際」(山本正夫)。
"	"	〔書〕「国語教育の真諦」(小林好太郎)。
"	"	〔書〕「改増 訂補国語科研究者の為に」(石川 誠)。
"	"	〔書〕「綴り方の縦の研究」(綿貫数夫)。
"	"	〔書〕「本格に即せる読方教育体系」(高橋克己)。
"	"	〔書〕「社会観照 現代読方教室」(佐藤末吉)。
"	"	〔書〕「ことばの講座(一輯)」(音声学協会 東京放送中央局)。
"	"	〔書〕「劣等児 低能児心理と其教育」(青木誠四郎)。
"	"	〔書〕「ソヴェート法論(全四冊)」(山之内一郎訳。~昭和7年)。
"	"	〔書〕「大津事件頭末録」(花井卓蔵)。
"	"	〔書〕「裁判異譚」(大森洪太)。
"	"	〔書〕「春木先生還暦記念論文集」。
"	"	〔書〕「法政論纂」(京城帝大)。
"	"	〔書〕「小樽商科 大学創立 大塚博士 還暦記念 20年記念論文集」。
"	"	〔書〕「大塚博士 還暦記念 美学及芸術史研究」(大西克礼)。
"	"	〔書〕「人格法学」(渡辺省三)。
"	"	〔書〕「パウンド法律史観」(高柳賢三)。
"	"	〔書〕「社会理想の法理学的研究」(島野三郎訳 ノウゴロツェフ)。
"	"	〔書〕「ヘーゲル法の哲学」(速水敬二 岡田隆平)。
"	"	〔書〕「ラスク価値哲学」(波多野堯)。
"	"	〔書〕「復讐と法律」(穂積陳重)。
"	"	〔書〕「日本公法法制史」(中田薫教授述)。
"	"	〔書〕「日本憲法論(英・米・独憲法)」(藤井新一)。
"	"	〔書〕「選挙制度論」(森口繁治)。
"	"	〔書〕「自治制度論」(渡辺宗太郎)。

西 曆	年 代	項 目
1931	"	〔書〕「地方自治の研究」(安井英二)。
"	"	〔書〕「長岡市史」(同市役所)。
"	"	〔書〕「都市法制講話」(小川市太郎)。
"	"	〔書〕「都市計画概況」(都市研究会)。
"	"	〔書〕「市町村の自治権」(狭間 茂)。
"	"	〔書〕「航空法論(一~三卷)」(山名寿三)。
"	"	〔書〕「行政財政税整理に関する(其一)」(臨時行政財政審)。 地方長官意見書
"	"	〔書〕「行政警察例規集」(警保局)。
"	"	〔書〕「外事警察関係例規集」(警保局)。
"	"	〔書〕「我国における神社の由来 及其の法制の研究」(瀬戸智格)。
"	"	〔書〕「真宗史の研究」(日下無倫)。
"	"	〔書〕「ひとのみち教団の内容」(天人社)。
"	"	〔書〕「マルクス主義の宗教批判」(浅野顕真訳)。
"	"	〔書〕「南満洲に於ける宗教概観」(松尾為作)。
"	"	〔書〕「国史読本」(大川周明)。
"	"	〔書〕「伊勢両宮の研究 皇大神宮史」(中村徳五郎)。
"	"	〔書〕「農村学(前篇)」(橘孝三郎)。
"	"	〔書〕「憲政の原理と其運用」(森口繁治)。
"	"	〔書〕「立憲政友会報国史(上・下)」(菊池悟郎)。
"	"	〔書〕「日本無産政党史」(河野 密他)。
"	"	〔書〕「若槻内閣」(若槻内閣編纂会編輯)
"	"	〔書〕「日本プロレタリアートの問題」(高橋貞樹)。
"	"	〔書〕「沈帯日本の更生」(中野正剛)。
"	"	〔書〕「街頭政治学」(喜多壮一郎)。
"	"	〔書〕「政治の貧困」(佐々弘雄)。
"	"	〔書〕「ワイダーホライズンス(上・下)」(H・A・ギボンズ)。 武者金吉
"	"	〔書〕「ウイッテ伯回想記 日露戦争とロシア革命(全三卷)」(大竹博吉訳)。
"	"	〔書〕「ロシア共産党発展小史」(ブノフ著)。 村田亨訳
"	"	〔書〕「反サヴェート陰謀」(ヴァインスキエ他)。 「共産党」事件(産業労働調査訳編)
"	"	〔書〕「英国憲政論」(パシヨット)。 吉田巳之助訳
"	"	〔書〕「浜口雄幸伝(首相)」(同刊行会)。
"	"	〔書〕「伯爵清浦奎吾伝(全2卷)」。
"	"	〔書〕「廓堂片影(北条時敬教育思想)」(西田幾多郎)。
"	"	〔書〕「手島堵庵先生全集」(明倫舎)。

西 曆	年 代	項 目
1931	(昭和6年)	〔書〕「岩下清周伝(関西産業頭取)」(同編纂会)。
"	"	〔書〕「南洋と松江春次」(能伸文夫)。
"	"	〔書〕「四海兄弟(財界四代表)二冊」(杉謙二編。~昭和7年)。
"	"	〔書〕「恩寵の五十年(基督教)」(土屋捨吉自伝)。
"	"	〔書〕「国際法の基本問題(バウンド他)」(大沢章他)。
"	"	〔書〕「最近極東外交史(上・下)」(偕行社)。
"	"	〔書〕「 ^{ブラックチェンバ} 米国はいかにして外交秘電を盗んだか」(^{センドー} 大阪毎日新聞社)。
"	"	〔書〕「世界大戦の政治並経済的影響」(^{ラムゼイ:ミューラー} 文明協会編訳)。
"	"	〔書〕「戦後の独逸国民訓練」(中村明人)。
"	"	〔書〕「満蒙血の清算」(内藤隈南)。
"	"	〔書〕「刑事補償法論」(泉二新熊)。
"	"	〔書〕「刑法に於ける法治国家思想の研究」(牧野英一)。
"	"	〔書〕「病的殺人の研究」(菊池甚一)。
"	"	〔書〕「破毀判例民法研究(下)」(末川 博)。
"	"	〔書〕「民法論(物権法)」(松岡義正)。
"	"	〔書〕「入会権論」(奈良正路)。
"	"	〔書〕「特殊抵当権の設定と実行手続」(谷川辰蔵)。
"	"	〔書〕「工場鉄道鉱業抵当法論」(栗楡起夫)。
"	"	〔書〕「民事訴訟法の改正(二巻)」(山内確三郎)。
"	"	〔書〕「日本和議法論(上下)」(斉藤常三郎)。
"	"	〔書〕「商法論叢」(水口吉蔵)。
"	"	〔書〕「株式及重役の権利義務」(尾山万次郎)。
"	"	〔書〕「海商法研究(一~八巻)」(小町谷操三。~昭和52年)。
"	"	〔書〕「船舶衝突論」(山戸嘉一)。
"	"	〔書〕「改訂火災保険」(角田総夫)。
"	"	〔書〕「海上保険体系(五冊)」(瀬戸弥三次。~昭和13年)。
"	"	〔書〕 中華民国手形法」(村上貞吉)。
"	"	〔書〕「独逸信託業概説」(^{ヒントナー} 白井規矩雄)。
"	"	〔書〕「昭和六年度道府県税雜種税調」(大蔵省主税局)。
"	"	〔書〕「紐育金融市場研究」(西村勝太郎)。
"	"	〔書〕「金問題と戦後に於ける金本位制」(^{ムリナルスキー} 車谷馬太郎)。
"	"	〔書〕「銀行国営論」(^{尾崎行雄} 田川大吉郎)。
"	"	〔書〕「為替相場と物価」(^{ラーゲー・ミュラー} 金原賢之助訳)。

西 曆	年 代	項 目
1931	"	〔書〕「一九三一年の問題 金と銀」(新聞連合社)
"	"	〔書〕「文化社会学研究叢書(Ⅰ～Ⅲ)」(社会学研究会。～昭和7年)。
"	"	〔書〕「ジョン・ラスキンの社会的正義観」(ジェームス・フックス)。 御木本隆三
"	"	〔書〕「社会改良史論」(田川大吉郎)。
"	"	〔書〕「社会政策概論」(海野幸徳)。
"	"	〔書〕「社会政策の理論と施設」(下条康磨)。
"	"	〔書〕「社会調査資料」(山形県社会課)。
"	"	〔書〕「改訂 社会運動年鑑」(日本社会運動通信社調査部)。
"	"	〔書〕「学生社会運動史」(菊川忠雄)。
"	"	〔書〕「日本農民組合運動史」(青木恵一)。
"	"	〔書〕「農村衛生状態に就て」(内務省)。
"	"	〔書〕「社会事業法規便覧」(福島善寿)。
"	"	〔書〕「村落社会の知能構成に関する調査」(村落社会学会)。
"	"	〔書〕「民衆娯楽調査資料(一輯)」(文部省)。
"	"	〔書〕「健康保険の研究」(児玉政介)。
"	"	〔書〕「東京市公衆衛生年報」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「昭和四年度 一宮学園事業報告」((財)児童愛護会)。
"	"	〔書〕「現代ジャーナリズムの理論と動向」(内外社編)。
"	"	〔書〕「文字は踊る」(平野岑一)。
"	"	〔書〕「新聞研究室報告 一～六回」(東京帝国大学文学部 新聞研究室)。
"	"	〔書〕「ルイス・フロイス日本書」(木下奎太郎)。
"	"	〔書〕「世界新聞鳥瞰論」(内外社)。
"	"	〔書〕「日本新聞販売史」(大西林五郎)。
"	"	〔書〕「宣伝時代相」(谷孫六)。
"	"	〔書〕「イデオロギー論」(理想社出版部)。
"	"	〔書〕「美学思想史」(桜田 総)。
"	"	〔書〕「東京科学博物館要覧」(東京科学博物館)。
"	"	〔書〕「「プレーガー最新製本術」(赤坂桂卓 庄司浅水)訳)。
"	"	〔書〕「改訂労働法論(総論 各論上)」(孫田秀春)。
"	"	〔書〕「日本労働組合法研究」(山中篤太郎)。
"	"	〔書〕「一般労働統計資料(二輯)」(協働会労働課)。
"	"	〔書〕「一労働運動者の告白」(田中小二郎)。
"	"	〔書〕「失業者の実状に関する調査」(東京府社会課)。
"	"	〔書〕「北海道炭鉱港湾案内」(石炭鉱業連合会)。

西 曆	年 代	項 目
1931	(昭和6年)	〔書〕「灘の清酒」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「第八次産業組合製絲事業成績調」(長野県)。
"	"	〔書〕「伊勢崎織物同業組合史」。
"	"	〔書〕「瀬戸地方に於ける陶磁器業」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「昭和五年度鹿児島県茶業統計図」(鹿児島茶業組合連合会議所)。
"	"	〔書〕「 ^{歐米各国ニ於ケル} 不正競争防止ノ法制及取締ノ実情」(商工省)。
"	"	〔書〕「日本商標法」(三宅発士郎)。
"	"	〔書〕「農学文献目録(第二輯)」(大野史郎)。
"	"	〔書〕「 ^{矢作教授} 還暦祝賀 農政・農経の諸問題(二冊)」(河津暹)。
"	"	〔書〕「農業地理学」(西亀正夫)。
"	"	〔書〕「 ^{横井時敬先生記念論文集} 農業経営の理論と実際」(東畑精一他)。
"	"	〔書〕「米価基準の理論と実際」(河田嗣郎)。
"	"	〔書〕「 ^{惨酷を極むる} 雪害地の地租解剖」。
"	"	〔書〕「耕地整理事業に関する経済調査(第一輯)」(農林省)。
"	"	〔書〕「小作権に関する研究」(松村勝治郎)。
"	"	〔書〕「小作立法に関する重要問題」(協調会)。
"	"	〔書〕「最近の農民運動」(財)協調会農村課編)。
"	"	〔書〕「農村学(前篇)」(橘孝三郎)。
"	"	〔書〕「現代農村の解剖」(原祐三)。
"	"	〔書〕「明治林業逸史(正・続篇)」。
"	"	〔書〕「牧野使用ニ関スル調査(全三編)」(帝国馬匹協会)。
"	"	〔書〕「入会権論」(奈良正路)。

西 曆	年 代	項 目
1932	(昭和7年)	
"	1・1	蔣介石、汪兆銘と合体し、新国民政府樹立。1月5日広東政府解消。
"	1・3	関東軍、錦州を占領。
"	1・7	陸軍中央部、陸軍・海軍・外務3省の協定による「支那問題処理方針要綱（満州独立の方針）」を関東軍板垣征四郎参謀に指示。
"	"	米國務長官、満州事変に関し、不戦条約違反を不承認と声明（スチムソンドクトリン）。
"	1・18	〔日〕「高等普通学校規程」改正〔朝鮮総督府令第十三号〕（第十条中「国語及漢文」ヲ「国語漢文」ニ、同条第二項中「近古ノ国文」ヲ「平易ナル近古文ヨリ簡易ナル上古文」ニ改ム）。
"	"	上海で日本人僧侶、陸軍特務機関に教唆された中国人に襲撃され、1人死亡。
"	"	〔日〕「中学校規程中改正」〔朝鮮総督府令第十二号〕（「中学校規程中左ノ通改正ス 第十条 中学校ノ学科目ハ修身、公民科、国語漢文、外国語、歴史、地理、数学、理科、実業、図画、音楽、体操トス 前項ノ外朝鮮語ヲ加フルコトヲ得 外国語ハ英語、独語、仏語又ハ支那語トス 音楽ハ当分ノ内之ヲ欠クコトヲ得 朝鮮語ハ之ヲ随意科目トナスコトヲ得 第十三条中「国語及漢文」ヲ「国語漢文」ニ、同条第二項中「近古ノ国文」ヲ「平易ナル近古文ヨリ簡易ナル上古文」ニ改ム 第十四条第一項中「又ハ仏語」ヲ「仏語又ハ支那語」ニ改ム 第二十六条第一項ヲ左ノ如ク改ム 各学年ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時数ハ左表ニ依ルベシ 第一学年 国語漢文 七 朝鮮語 三 外国語 六 第二学年 国語漢文 七 朝鮮語 二 外国語 六 第三学年 国語漢文 六 朝鮮語 二 外国語 六 第四学年 国語漢文 五 朝鮮語 二 外国語 五 第五学年 国語漢文 五 朝鮮語 一 外国語 五（他学科目略）附則 本令ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。
"	"	〔日〕「高等普通学校規程中改正」〔朝鮮総督府令第十三号〕（「高等普通学校規程中左ノ通改正ス 第七条 高等普通学校ノ学科目ハ修身、公民科、国語漢文、朝鮮語及漢文、外国語、歴史、地理、数学、理科、実業、図画、音楽、体操トス 外国語ハ英語、独語、仏語又ハ支那語トス 音楽ハ当分ノ内之ヲ欠クコトヲ得 第十条中「国語及漢文」ヲ「国語漢文」ニ、同条第二項中「近古ノ国文」ヲ「平易ナル近古文ヨリ簡易ナル上古文」ニ改ム 第十二条第一項中「又ハ仏語」ヲ、「仏語又ハ支那語」ニ改ム 第二十三条第一項ヲ左ノ如ク改ム 各学年ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時数ハ左表ニ依ルベシ 第一学年 国語漢文 七 朝鮮語及漢文 三 外国語 六 第二学年 国語漢文 七 朝鮮語及漢文 二 外国語 六 第三学年 国語漢文 六 朝鮮語及漢文 二 外国語 六 第四学年 国語漢文 五 朝鮮語及漢文 三 外国語 五 第五学

西 曆	年 代	項 目
1932		年 国語漢文 五 朝鮮語及漢文 二 外国語 五(他学科目略) 同上第三項中「国語及漢文」ヲ「国語漢文」ニ, 同条第四項中「法制及經濟又ハ唱歌」ヲ「音楽」ニ改ム 附則 本令ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス)。
"	1・28	上海事変勃発(上海で海軍陸戦隊, 中国第十九路軍と交戦開始)。
"	"	蒋介石・汪兆銘合体し, 新政権樹立。
"	1・29	外務省, 上海事変につき, 權益擁護の政府声明を發表。
"	"	日本軍, 上海商務印書館, 東方図書館, 同済大学を爆撃破壊。
"	1・31	井上日召・古賀清志海軍中尉ら「血盟団事件」「五・一五事件」の計画決定。
"	1・	[書]「台湾教育」(第三五四号)。 (同上)「仮名遣改正に対する認識の不足」(安膳正次)。
"	"	[書]「第一教育」(第十一卷第一号)。 (同上)「童謡教育の一考察」(松井四郎)。 ()「私共の読方学習について(一)~(七)」(台北女子公学校読方研究部員。~第九号)。
"	"	[書]「物理・化学辞書」(四手井次太郎・土居不曇編, 有精堂)。
"	"	[書]「兵語三体千字文」(吉村春光, 武揚堂)。
"	"	[書]「モダン語附日用辞典」(大京社編。刊)。
"	"	[書](社會評論 第1巻1~10期)(北平・社会評論社。月刊。1932年1月~10月)。
"	2・2	第9師団・混成旅団の上海派遣を決定, 海軍, 上海方面に第3艦隊を編成(司令長官野村吉三郎中将)。
"	"	ジュネーブ軍縮会議(連盟主催)開く(~7月。米ソなど60余か国代表出席)。
"	2・5	関東軍, ハルビンを占領。
"	2・9	前蔵相井上準之助, 血盟団員に射殺される。
"	2・16	国際連盟理事会(12か国), 日本に上海の戦闘行為中止を警告。
"	2・20	上海に派遣された陸軍, 総攻撃を開始, 戦況進展せず, 2月23日, 陸軍, 上海派遣司令部の編成(軍司令官白川義則大将), 第11・第14兩師団の増派を決定。
"	2・24	松下大三郎, 「改撰標準日本文法」の第三篇「詞の本性論」により国学院大学より文学博士の学位を授与される。
"	2・29	国際連盟のリットン調査団, 東京着。日本・中国・満州の現地調査を行い,

西 曆	年 代	項 目
1932		7月4日再度入京。
"	2・	〔書〕「台湾教育」(第三五五号)。 (同上)「国語普及運動」(第三五七号・第三五九～第三六一号)。 ()「公学校読方教育の問題」(李朝根)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第十一卷第二号)。 (同上)「公学校綴方教授の理論と実際(一)」(平良哲男)。
"	"	〔書〕「新漢和大辞典」(宇野哲人編,三省堂)。
"	"	〔書〕「独英和法律経済用語新辞典」(菊地潔著,太陽堂)。
"	"	〔書〕「 ^{土名} 対照 満鮮植物字彙」(村田懋麿,成光館)。
"	"	〔書〕「洋画用語解説篇」(田辺至著,アトリエ社編・刊)。
"	3・1	満州国, 建国宣言を发表(首都長春〔新京〕, 年号大同)。
"	"	〔日〕 満州国, 各省教育庁を教育事務籌備処に改め, 各処に日本人顧問をおく。満州国中央官制公布, 民生部内に文教司をおく。
"	"	国民党二中全会開催(洛陽)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本第二種卷二」(台湾総督府)。
"	3・9	満州国建国式, 溥儀, 満州国執政に就任。
"	3・10	〔書〕「国語音韻論」(金田一京助, 刀江書院)。
"	3・12	閣議, 「満蒙処理方針要綱」を決定(独立政権の誘導方針)。
"	"	〔日〕「国語ヲ常用スル者又ハ国語ヲ常用セサル者ノ入学ニ関スル件中改正」〔朝鮮総督府令第二十六号〕(「大正十一年朝鮮総督府令第十五号朝鮮教育令第二十五条ニ依リ国語ヲ常用スル者又ハ国語ヲ常用セサル者ノ入学ニ関スル件中左ノ通改正ス 第三条第一項中「三分ノ一」ヲ「二分ノ一」ニ, 同条第二項中「二分ノ一」ヲ「三分ノ二」ニ改ム 附則 本令ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」)。
"	3・15	〔日〕 在サンパウロ日本人学校父兄会主催, 第一回研究会をサンパウロ市において開催(参加者57名)。
"	3・24	日本代表植田謙吉中将ら, 中国外交部長郭泰禎と, 上海英総領事館で停戦会議を開始。

西 曆	年 代	項 目
1932	3・30	〔日〕 師範学校規程中改正〔朝令第三三号〕（「第十条「国語及漢文」ヲ「国語漢文」ニ改ム」。毎週国語時間数、1年8時間、2年8時間、3年6時間、4年5時間、5年5時間）。
〃	3・31	〔日〕「関東州公学堂規則」改正（毎週日本語時間数、〔4年制〕1年6時間、2年6時間、3年7時間、4年8時間、〔2年制〕1年7時間、2年7時間）。
〃	3・	〔書〕「英和法律辞彙」（英法研究会編、ロゴス書店）。
〃	〃	〔書〕「機械工學術語集」（機械学会、岩波書店）。
〃	〃	〔書〕「現代語大辞典」（藤村作・千葉勉共編、白星社）。
〃	〃	〔書〕「樹種名方言集」（農林省山林局編・刊。非売）。
〃	〃	〔書〕「日本広告辞典」（飯守勘一著、新聞之新聞社）。
〃	〃	〔書〕「朝鮮史」（朝鮮総督府。～'38・3・25。8巻）。
〃	4・1	〔教〕「明倫学院規程中改正」〔朝鮮総督府令第三十五号〕（「明倫学院規程中左ノ通改正ス 第二条第二項中「必要ニ応ジ」ノ下ニ「修業年限一年ノ補習科ヲ置キ又ハ」ヲ加フ 第三条第一項中「正科ノ教科目」ヲ「明倫学院ノ学科目」ニ、同条第二項中「教科目」ヲ「学科目」ニ改ム 第六条 明倫学院ノ生徒数ハ正科六十人以内、補習科三十人以内トス但シ特別ノ事情アルトキハ朝鮮総督ノ認可ヲ受ケ之ヲ増スコトヲ得」）。
〃	4・2	第8・第10両師団の満州派遣を決定。
〃	4・7	政府、満鉄副総裁江口定条を羅免。総裁内田康哉、これに抗議して辞表を提出（軍部の要請により留任）。
〃	4・8	〔日〕 関東州に高等公学校を設置〔勅令第五五号〕（日本語教師養成）。
〃	〃	〔日〕「旅順高等学校規則」〔関令第七号〕（「第四条 中学部ノ学科目ハ修身、支那文、日本語、歴史……、師範部ノ学科目ハ修身、支那文、日本語、歴史……」、毎週日本語時間数、〔5年制〕1年8時間、2年7時間、3年7時間、4年6時間、5年6時間、〔4年制〕1年8時間、2年5時間、3年5時間、4年5時間、〔2年制〕1年5時間、2年5時間）。
〃	〃	〔日〕「旅順高等公学校規則」〔関東庁令第七号〕（「旅順高等公学校規則左ノ通定ム 旅順高等公学校規則 第一章 総則 第一条 旅順高等公学校ニ中学部及師範部ヲ置ク 第二条 中学部ニ於テハ支那人タル男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ為スヲ以テ目的トシ師範部ニ於テハ支那人タル普通学堂教員ヲ養成スルヲ以テ目的トス 第十条 支那文ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ発表シ文字ヲ端正ニ書写スルノ能ヲ得シメ文学上ノ趣味ヲ養ヒ知徳

西 曆	年 代	項 目
1932		ノ啓発ニ資スルヲ以テ要旨トス支那文ハ現代文ヨリ進ミテ中古文、古文、經書ヲ講読セシメ簡易ニシテ實用ニ適スル文ヲ作ラシメ又習字ヲ授クベシ 第十一条 日本語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ知徳ノ啓発ニ資スルヲ以テ要旨トス日本語ハ発音、聴方、読方及解釈、話方及作文、書取竝ニ文法ノ大要ヲ授クベシ」)。
"	"	〔日〕「旅順高等公学校附属公学堂規則」〔関東庁令第八号〕(「旅順高等公学校附属公学堂規則左ノ通定ム 旅順高等公学校附属公学堂規則 第一条 旅順高等公学校附属公学堂 ^{以下附属公学堂ト称ス} ハ関東州公学堂規則第一条ノ趣旨ニ拠リ児童ヲ教育シ旅順高等公学校師範部生徒ヲシテ教育実習ヲ為サシメ兼ネテ支那人児童ニ対スル普通教育ノ方法ヲ研究スル所トス 第二条 附属公学堂ニ初等科及高等科ヲ置ク」)。
"	4・15	〔書〕「HANDBOOKS ON THE NATIONAL LANGUAGE READERS OF JAPAN VOLOME VIII」(Mr. KIKUE OJIMA。尾島喜久恵, 三光社)。
"	4・18	日本基督教連盟常任評議員会、「時局に關する進言」を首相へ提出、國際連盟の規約・不戰条約・9か国条約の尊重を要望。
"	4・20	〔書〕「文法論と国語学」(三矢重松, 中文館書店)。
"	4・25	〔国〕 臨時ローマ字調査会第六回總會。
"	4・26	三井・三菱両財閥の満州国に対する2000万円融資契約調印。
"	"	瑞金の中華ソビエト政府、対日宣戦布告。
"	4・29	朝鮮人尹奉吉、上海の天長節祝賀会場で爆弾を投げ、上海派遣軍司令官白川大将・第三艦隊司令長官野村中将・第9師団長植田中将・駐華公使重光葵ら負傷(5月26日白川大将死亡)。
"	4・	〔日〕 南満中学堂及び新京公学堂に日語専修科(1年)をおく。
"	"	〔日〕 台湾国語解者調(4月末現在、公学校生徒数291067, 同上卒業者累計364386, 国語普及施設生徒数42381, 同上修了者累計324537, 合計1022371, 本島人口4496870, 国語解者百分比22・7)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三五七号)。 (同上)「三月十三日国語普及ラヂオ放送に出演された新竹市の皆様に」。

西 曆	年 代	項 目
1932	〃	〔書〕「音訓引総画引草書入漢和大辞典」(久保天随著, 三星社)。
〃	〃	〔書〕「芳賀漢和新大辞典」(芳賀剛太郎著, 有精堂)。
〃	〃	〔書〕「社会科学大辞典」(社会思想社編, 改造社。改訂縮刷版)。
〃	〃	〔書〕「新修漢和辞典」(早川友三著, 三興社)。
〃	〃	〔書〕「ダイヤモンド英和辞典」(三上節造編, 至誠書院。 〔A Diamond English-Japanese Dictionary〕)。
〃	〃	〔書〕「日本温泉辞典」(日本旅行会編, 日本書院)。
〃	5・5	上海停戦協定調印(上海からの日中両軍の撤退)。
〃	5・12	〔教〕 文部省, 検定不合格, 未検定教科書の使用の実情を重視し, 中等教科書協会に嚴重警告を行う。
〃	5・15	海軍将校ら, 犬養首相を射殺(「五・一五事件」)。
〃	5・16	内閣総辞職。
〃	5・18	〔教〕 文部省, 夜間中学の卒業者にも専門学校入学の無試験検定の特典を及ぼすことを通牒。
〃	5・20	〔書〕「日本資本主義発達史講座」(大塚金之助・野呂栄太郎・平野義太郎・山田盛太郎編, 岩波書店。～'33年8月26日7巻)。
〃	5・26	斎藤内閣成立。
〃	5・	〔日〕 満州国, 東北各省教育事務籌備処を各省公署教育庁に改編。
〃	〃	〔書〕「国民教育仏教語辞典」(仏教協会編, 名古屋・破塵閣書房)。
〃	〃	〔書〕「モダン新語大辞典」(現代新語研究会編, 大文館)。
〃	6・10	蒋介石, 廬山会議開く(～6月19日)。第四次掃共作戦・対日妥協政策を決定。
〃	6・14	衆議院, 満州国承認決議を満場一致で可決。
〃	6・15	満州中央銀行設立(資本金3000万円。副総裁山成喬六)。
〃	6・16	蒋介石軍50万, 第四次掃共戦開始(～'33年3月)。
〃	6・20	〔書〕「日本文学大辞典」(新潮社。～'35年4月26日。4巻)。
〃	6・27	〔日〕「水原高等農林学校附置実業補習学校教員養成所規程中改正」〔総督府令第五十九号〕(「水原高等農林学校附置実業補習学校教員養成所規程中左ノ通改正ス 第三条中「法制經濟」ヲ「公民科」ニ, 「農政学」ヲ「農政学, 朝鮮語国語」ニ改メ同条ニ左ノ一項ヲ加フ 朝鮮語ハ国語ヲ常用スル者ニ, 国語ハ国

西 曆	年 代	項 目
1932		語ヲ常用セザル者ニ之ヲ課スベシ」)。
"	6・29	警視庁に特別高等警察部設置〔勅令〕を公布。
"	6・	〔書〕「第一教育」(第十一卷第六号)。 (同上)「読方学習指導真髓(一)~(二)」(菊地道丸)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三五九号)。 (同上)「全島各師範学校附公読方打合会(記録)」(台北第二師範 附属公学校)。 (")「国語観念の再検討」(奥田閑)。
"	"	〔書〕「映画技術用語解辞典」(福山教正編, 映画技術出版社。 「A Glossary of Motion picture Terms」)。
"	"	〔書〕「教育辞典」(入沢宗寿著, 教育研究会)。
"	"	〔書〕「現代文明サイクロペディア」(室伏高信編, 平凡社)。
"	"	〔書〕「世界地名大辞典」(小林房太郎編, 南光社。~昭和8年12月。 三冊)。
"	"	〔書〕「東奥日用語辞典及青森県方言集」(東奥日報社編。刊)。
"	7・6	内相に内田康哉を任命。
"	7・11	〔日〕 満州国政府, 「大同学院官制」公布(開校7月1日, 院長井上忠雄)。
"	7・25	満州国協和会結成。
"		国民政府, 対満郵便断交発表。
"	7・27	文部省, 農漁村に20万人の欠食児童と発表。
"	7・31	ドイツ, 国会選挙でナチス第一党になる。
"	7・	満州国, 中央教育行政官庁として, 國務院に文教部設置(文教司昇格, 部長 鄭孝胥)。
"	"	〔書〕「日文典綱要」(錢歌川, 中華書局。民国十九年九月初版, 民国廿 一年七月四版)。
"	"	〔書〕「標準日華辞典」(趙立言, 開華書店, 民国廿年三月初版, 民国廿 一年七月再版)。
"	"	〔書〕「申報月刊 第1卷1号」(民国俞頌華等編, 上海・申報館。月刊。 民国廿一年七月)。
"	"	〔書〕「新地月刊 第4, 5期」(北京・新地月刊社。月刊。1932年 7月)。
"	"	〔書〕「文學月報 第1卷1, 3期」(文學月報社。上海・光華書局。月

西 曆	年 代	項 目
1932		刊。1932年7～10月)。
"	"	[書]「英和洋装辞典」(木村慶市編, 慶文社。「A Glossary of Costumu」)。
"	8 8	武藤信義大将を関東軍司令官・特命全権大使・関東庁長官に任命。
"	8・15	[書]「国語学概論・上」(橋本進吉, 「岩波講座 日本文学」, 下, '33年1月。'46年12月刊)。
"	8・23	文部省, 国民精神文化研究所を設置。
"	8・25	内田外相, 衆議院の答弁で「焦土外交」の決意を表明。
"	8・	[書]「第一教育」(第十一卷第八号)。 (同上)「台湾郷土読本の素材」(村山信太郎。～第九号)。
"	"	[書]「索引式旅行辞典」(旅行研究会編・刊)。
"	9・10	[書]「国語の新研究」(三矢重松, 中文館書店)。
"	9・15	日満議定書調印(満州国承認)。17日中国抗議。
"	9・27	ハイラル, 満州里地方の蘇炳文軍反乱, 国境警備隊員など在外留日本人数百人を監禁(12月5日救出)。
"	9・	[書]「最新日本口語法(及文語法)教科書」(孫建, 南京外語研究会。民国廿一年九月初版)。
"	"	[書]「日本語形十二講」(張我軍, 北京人人書店。民国廿一年九月初版)
"	"	[書]「新秦先鋒 第1巻4期」(陝西留京學會編, 南京・陝西留京学会。年10回刊。民国廿一年九月)。
"	"	[書]「台湾教育」(第三六二号)。 (同上)「ラヂオ放送国語普及の夕」(～第三六四号)。
"	"	[書]「第一教育」(第十一卷第九号)。 (同上)「低学年読方学習養成への基礎を求めて具体案に及ぶ」(菊地道丸)。 (")「公学校話し方教授細目第二学年第二学期」(北二師附公啓明会)。

西 曆	年 代	項 目
1932	"	〔書〕「医語基本五千語」(五十嵐省吾編, 南山堂書店, 「5000 Gebranchlichste medizinische Terminologie für Studierende und Arzte」)。
"	"	〔書〕「支那破音字典」(宮原民平・土屋明治共編, 文求堂書店)。
"	"	〔書〕「新文芸辞典」(菊池寛著, 誠文堂)。
"	"	〔書〕「独和・和独 動詞辞典」(沢井要一, 南山堂, 「Sawai's Deutsch-Japanisches und Japanisch-Deutsches Zeitw-ort-Lexicon」)。
"	"	〔書〕「懋蕃ブヌン語集」(金須文弥・片倉哲雄共著, 台中州警務部。非売)。
"	"	〔書〕「日語研究 第1巻1~6号」(民国秦敬如編, 北京・北京同学会語学校日語研究室。隔月刊。民国廿一年九月~廿三年一月)。
"	"	〔書〕「現 代 第1巻5期~第6巻3期」(民国施蟄存等編, 上海・現代書局。月刊。民国廿一年九月~廿四年四月)。
"	"	〔書〕「鞭策週刊 第2巻1~20期」(北平・鞭策週刊社。週刊。民国廿一年九月~廿二年三月)。
"	10・1	〔日〕 東京工大に附属予備部(外国人留学生の課程)を設置〔勅令〕(この種の機関では, 初めて官制に規程)。
"	"	リットン調査団, 日本政府に報告書を通達, 10月2日外務省公表。
"	"	東京市の人口, 497万人余, 世界第二の大都市となる。
"	10・3	満州へ武装移民団416人出発。
"	10・28	〔国〕 臨時ローマ字調査会第七回総会。
"	"	〔書〕「大言海」(大槻文彦, ~'37年11月3日。4巻, 別巻。富山房)。
"	10・	〔書〕「第一教育」(第十一巻第十号)。 (同上)「高学年における読方学習根本問題の検討」(菊地道丸)。 (「」)「公学校読み方教育研究会要領」(北二師附属公学校)。 (「」)「仮名書方の指導について」(菅家梅次)。 (「」)「文学学習の初期とその教育」(曾会材)。
"	"	〔書〕「獨立評論 第24~38号」(週刊。民国廿一年十月~廿二年二月)。
"	"	〔書〕「日本文典」(商務印書館編訳部, 商務印書館。清徳宗卅三年十月初版, 民国廿一年十月再版)。

西 曆	年 代	項 目
1932	"	〔書〕「性行辞典」(友田宜剛, 武揚堂)。
"	"	〔書〕「和英独電気術語大辞典」(古賀広治著, オーム社)。
"	"	〔書〕「博物辞典」(弘道閣)。
"	"	〔書〕「婦人洋装辞典」(塩沢沙河子著, 家庭之友社)。
"	"	〔書〕「洋菓子パン英和辞典」(鈴木又三郎著, 大日本糧興会。〔Baker's Hand-Book〕)。
"	"	〔書〕「亞波羅 第10期」(西湖国立杭州藝術運動社編, 西湖国立杭州藝術専科学校。隔月刊。民国廿一年十月)。
"	11・4	モスクワで, ソ連外務人民委員リトビノフ, 松岡洋右国際連盟代表に不侵略条約締結を提議。
"	11・8	米大統領選挙で, ルーズベルト当選。
"	11・12	東京地裁判事尾崎陞ら, 共産党シンパとして検挙される(司法官赤化問題)。
"	11・20	〔書〕「岩波講座 世界文学」(～'34年6月15日。15巻)。
"	11・	〔書〕「第一教育」(第十卷第十一号)。 (同上)「読方学習指導台帳(一)～(二)」(菊地道丸)。
"	"	〔書〕「国学者著述一覧」(関書院編・刊)。
"	"	〔書〕「国語発音アクセント辞典」(神保格。常深千里共著)。
"	"	〔書〕「参考古語辞典」(江波熙編著, 中文館書店)。
"	"	〔書〕「美育辞典」(美育振興会編, 晚成処)。
"	"	〔書〕「満州及支那辞典」(河瀬蘇北編, 東方文化協会出版部)。
"	12・3	内田外相, ソ連大使に不可侵条約拒絶の口上書を手交。
"	"	全国大学教授連盟結成(会長松波仁一郎, 国策に協力して諸活動を行う)。
"	"	大日本国防婦人会が発足。
"	"	〔日〕 第十九回全島国語演習会(場所, 台南州嘉義小学校, 参加人数62名)。
"	12・12	中ソ国交, 正式に開始。
"	12・15	国民党三中全会開催(～22日), 蔣介石, 「攘外必須安内」の根本策を提示。
"	12・19	日本全国一三二の新聞社, 満州独立支持の共同宣言発表。
"	12・25	〔書〕「日本語原学」(林 臣, 林武臣編, 建設社)。

西 曆	年 代	項 目
1932	12・27	陸軍省, 「時局兵備改善要綱」発表。
"	12・28	(財)日本学術振興会設立(理事長桜井錠二)。
"	12・	歴史学研究会創立('33年11月1日「歴史学研究」創刊)。
"	"	[書]「芝山岩史」(鳥井兼文編集, 芝山岩史刊行会)。
"	"	[書]「日華英 対訳 医薬名鑑」(赤木勤三郎, 大阪・同済号書房)。
"	"	[書]「精解漢和大辞典」(後藤朝太郎編, 修文社)。
"	"	[書]「大英和辞典」(藤岡勝二著, 大倉書店。「A Complete English-Japanese Dictionary」)。
"	"	[書]「朝鮮固有色辞典」(北川左人編, 京城青壺発行所)。
"	"	[書]「台湾教育」(第三六五号)。 (")「音読と黙読」(荘朝基)。
"	(昭和7年)	満州国, 旧来の教科書156種禁止。
"	"	[日] アムステルダム近郊の神学校で日本語講座を開く。
"	"	[日] 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 学生数, 本島人482, 高砂族8, 卒業数, 本島人127, 高砂族3)。
"	"	[日] 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数, 本島人7341, 高砂族50, 卒業数, 本島人3148, 高砂族21)。
"	"	[日]「台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校, 本島人1845, 蕃人33, 卒業数, 本島人265, 蕃人5, 小学校高等科, 生徒数, 本島人204, 蕃人15, 卒業数, 本島人58, 蕃人9)。
"	"	[日] 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 生徒数, 本島人2051, 高砂族2, 卒業数, 本島人330, 高砂族0)。
"	"	[日] 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校, 生徒数, 本島人1446, 高砂族3, 卒業数, 本島人415, 高砂族2)。
"	"	[日] 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人1526, 高砂族7, 卒業数, 本島人285, 高砂族3, 実業補習学校, 生徒数, 本島人1629, 高砂族112, 卒業数, 本島人624, 高砂族62)。
"	"	[日] 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人2126, 高砂族10, 卒業数, 本島人492, 高砂族1)。
"	"	[日] 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数137, 卒業数42)。
"	"	[日] 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数22, 卒業数9)。

西 曆	年 代	項 目
1932	(昭和7年)	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数243, 卒業数37)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数177, 生徒数7091, 卒業数1083, 就学歩合64・12)。
"	"	〔日〕 国語講習所調(国語講習所185, 生徒数4835, 簡易国語講習所702, 生徒数27675, 合計所数887, 合計生徒数32510)。
"	"	〔書〕「台湾における国語教育の過去及び現在」(国府種武)。
"	"	〔書〕「台日小辞典」(台湾総督府文教局)。
"	"	〔書〕「公学校高等科国語読本」(台湾総督府学務部編)。
"	"	〔書〕「公学校高等科国語読本巻一・二」(台湾総督府文教局編修課編)。
"	"	〔書〕「公学校用漢文読本編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用漢文読本(改定)巻一, 二, 三, 四, 五, 六」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「尋常小学理科書第四～六学年」(台湾総督府, 昭和7年～9年)。
"	"	〔書〕「公学校農業書一～二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「尋常小学理科掛図四年～六年用」(台湾総督府, 昭和7～9年)。
"	"	〔書〕「公学校商業教授書巻一, 二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「農村の教育」(小出満二氏述, 台湾総督府)。
"	"	〔書〕「広東語辞典」(台湾総督府文教局)。
"	"	〔書〕「尋常小学理科教授書第四～第六学年用」(台湾総督府, 昭和7～9年)。
"	"	〔書〕「国語教育の諸問題(続)」(台北州教育会)。
"	"	〔書〕「公学校六学年読方指導書」(米田亀太郎)。
"	"	〔書〕「国語普及研究発表要項」(上田四郎)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三五四号～第三六五号発行)。
"	"	〔書〕「日本語のはじめ」(三巻)(東亜学校)。
"	"	〔書〕「日本語会話教科書」(東亜学校)。
"	"	〔書〕「米国に於ける第二世の教育」(佐藤傳, 自彊堂, バンクーバー)。
"	"	〔書〕「日本国字論」(長谷川誠治, 岩波書店)。
"	"	〔書〕「一般音声学 発音と発声」(佐久間鼎著, 東京内田老鶴園)。
"	"	〔書〕「実験英語音声学」(兼弘正雄著, 東京泰文堂)。
"	"	〔書〕「動詞時制の研究」(「An Enquiry into the Meaning of Tense in the English Verb」細江逸記, 泰文堂)。
"	"	〔書〕「外来語研究」創刊(～昭和13年)。

西 曆	年 代	項 目
1932	"	〔書〕「外来語学序説」(荒川惣兵衛)。
"	"	〔書〕「日本文学大辞典」(藤村作編)。
"	"	〔書〕「一般文法の原理」(小林英夫)。
"	"	〔書〕「Language」(L. Bloomfield 1887~1949年)。
"	"	〔書〕「言語学概説」(木村増一。謄写版)。
"	"	〔書〕「一般文法成立の可能性について(その序説)」(小林英夫, 東京・刀江書院。「京城帝国大学法文学会第2部論纂。第4輯」分冊)。
"	"	〔書〕「東瀛佈道日記 附東瀛佈道要訓」(瀋陽道院編。満洲大同元年刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「黄海環遊記」(民国黄炎培著, 上海・生活書店。民国廿一年刊。87p)。
"	"	〔書〕「遊日鳥瞰」(生活書店編譯所編, 上海・生活書店。民国廿一年刊。「生活海外通訳之2」)。
"	"	〔書〕「海外工讀十年紀實」(民国盛成著, 上海・中華書局。民国廿一年刊。356p)。
"	"	〔書〕「甲午戦前日本挑戦史」(田保橋潔著, 民国王仲廉訳, 南京・南京書店。民国廿一年刊。196p)。
"	"	〔書〕「中華民國満洲國留日學生名簿」(日華學會學報部編, 東京・日華学会。6冊。第6回の書名は「留日中華學生名簿」。第6, 11, 14~18, 昭和7~19年)。
"	"	〔書〕「明治文献目録」(高市慶雄編, 東京・日本評論社。昭和7年刊。316p)。
"	"	〔書〕「現代中華民國満洲國人名鑑」(外務省情報部編, 東京・東亜同文会調査編纂部。昭和7年刊。495p)。
"	"	〔書〕「我的生平」(民国李季著, 上海・亜東図書館。民国廿一年刊。3冊)。
"	"	〔書〕「張資平評伝」(民国史彙編, 上海・現代書局。民国廿一年刊。「現代文学講座」。181p)。
"	"	〔書〕「日支文化交渉史」(岩垂憲徳著, 東京・帝国書院。昭和7年刊。332p)。
"	"	〔書〕「中西文化之關係」(民国鄭壽麟著, 上海・中華書局。民国廿一年刊。「新文化叢書」。103p)。
"	"	〔書〕「六十年来中国與日本 4卷」(民国王芸生編, 天津・大公報社。民国廿一年刊。4冊)。
"	"	〔書〕「清光緒朝中日交渉史料 88卷」(故宫博物院編, 北平・故宫博

西 曆	年 代	項 目
1932		物院。民国廿一年。44冊)。
"	(昭和7年)	[書]「半世紀の早稲田」(西村真次等編, 早稲田大学出版部。昭和7年刊。599p)。
"	"	[書]「國音常用字彙」(教育部國語統一籌備委員會編, 上海・商務印書館。民国廿一年刊。363p)。
"	"	[書]「標準國語應用會話 新教本」(民国蔣鏡芙編, 上海・中華書局。民国廿一年刊。80p)。
"	"	[書]「挿圖本中國文學史」(民国鄭振鐸著, 北平樸社出版部。民国廿一年刊。4冊)。
"	"	[書]「創造十年」(民国郭沫若著, 上海・現代書局。民国廿一年刊。272p)。
"	"	[書]「羣星亂飛」(民国張資平著, 上海・光華書局。民国廿一年刊。259p)。
"	"	[書]「支那短篇集」(大觀堂編, 東京・大觀堂。昭和7年刊。孔版。80p。内容: 木蘭行 短歌行 苦寒行(魏曹操) 鶯々伝(唐元稹) 牡丹燈記 金鳳釵記 翠々傳 謂塘奇遇記(嬰祐))。
"	"	
"	"	[書]「東亜經濟懇談会第三四回大会報告書」(東亜經濟懇談会)。
"	"	[書]「我国は朝鮮で何を為したか」(朝鮮総督府)。
"	"	[書]「最近の朝鮮(図共)」(朝鮮総督府)。
"	"	[書]「京城と金剛山」(岡本暁翠)。
"	"	[書]「北鮮及間島地方五日間走破記」(田辺貞造)。
"	"	[書]「満洲建国諸法令」(外務省情報部)。
"	"	[書]「満蒙權益要録」(関東庁)。
"	"	[書]「満洲国の容相」(陸軍省)。
"	"	[書]「満洲国政府職員録」(佐藤四郎)。
"	"	[書]「満洲と相生由太郎」(篠崎嘉郎)。
"	"	[書]「満洲輸入本邦品と他国品との競争事情」(大連商工會議所)。
"	"	[書]「満洲は微笑む」(真鍋儀十)。
"	"	[書]「管内支那人の農家經濟」(普蘭店民政署)。
"	"	[書]「満蒙事情総覧」(蠟山政道編)。
"	"	[書]「満蒙年鑑」(満蒙文化協会)。
"	"	[書]「現代 ^{中華民國} 満洲国人名鑑」(外務省情報部編)。
"	"	[書]「支那の秘密結社と慈善結社」(末光高義)。
"	"	[書]「同仁会三十年史」(小野得一郎)。

西 暦	年 代	項 目
1932	"	〔書〕「支那経済論」(巖靈峯他, 田中忠夫訳)。
"	"	〔書〕「理蕃誌稿(第一~五編)四冊, 明治42~昭和元年」(~昭和11年)。
"	"	〔書〕「台湾農業論」(梶原通好)。
"	"	〔書〕「南洋開拓拾年誌 写真集共」(松江春次)。
"	"	〔書〕「南方亜細亜の民俗と社会」(満鉄東亜経済調査局)。
"	"	〔書〕「吉林省を中心として見たる 満洲民族変遷史」(峯旗良充)。
"	"	〔書〕「伯国移植民史」(外務省通商局)。
"	(昭和7年ごろ)	〔書〕「奉派赴日考察司法記録(第一編)」(司法部)。
"	"	〔書〕「細目式各科教育要項(尋常科一年前・後期)」(東京高師各科教育研究会)。
"	"	〔書〕「生活辨証法的教授原論」(佐々木秀一 齊藤 栄治)。
"	"	〔書〕「現代教育学」(篠原助市)。
"	"	〔書〕「教育を打診する」(寺田喜治郎)。
"	"	〔書〕「現代の ^{哲学的} 教育学的潮流」(松月秀雄)。
"	"	〔書〕「 ^{学年別} 各科精説生活指導の新指標」(山口達郎編著)。
"	"	〔書〕「作業教育概説」(渋谷義夫)。
"	"	〔書〕「教育行政原論」(龍山義亮)。
"	"	〔書〕「本県に於ては年々如何程の 女教員を養成す可きか」(奈良県女子師範学校)。
"	"	〔書〕「校外に於ける学生教護の実際」(島田牛稚)。
"	"	〔書〕「庶民教科書としての六論行義」(石川謙)。
"	"	〔書〕「創立三十周年記念誌」(兵庫県立第一神戸高等女学校校友会欽松会)。
"	"	〔書〕「東京帝国大学五十年史(上・下巻)」。
"	"	〔書〕「郷土経営学(教育篇)」(東木龍七)。
"	"	〔書〕「我が校児童の生活環境調査」(浅草尋常小学校)。
"	"	〔書〕「女子公民教科書(上・下巻)」(田中耕太郎)。
"	"	〔書〕「学童の家庭教育」(大日本連合婦人会編)。
"	"	〔書〕「両親再教育」(大阪中央放送局編)。
"	"	〔書〕「少年団教範」(ベーデン・パウエル 少年団日本連盟)。
"	"	〔書〕「 ^{高中師範教本} 小学各科教学法(華文)」(王駿 馨)。
"	"	〔書〕「(日本語訳)支那の小学教科書」(水野梅暁校閲 岡井二良訳)。
"	"	〔書〕「小学校に於ける教育の中心問題」(北岡繁蔵)。
"	"	〔書〕「明日の初等教育」(広浜嘉雄)。
"	"	〔書〕「低学年教育の新組織と実際」(佐藤末吉共著 岸 一敏)。
"	"	〔書〕「地方に適する新低学年教育法」(山路兵一)。
"	"	〔書〕「如何にすれば学習態度は確立するか」(水木梢編)。

西 曆	年 代	項 目
1932	(昭和7年)	〔書〕「学校給食指針」(大西永太郎・藤巻良知)。
"	"	〔書〕「公民教育大系」(文部省 ^{普通学務局} 実業学務局)。
"	"	〔書〕「公民科教授資料」(武用種吉・他)。
"	"	〔書〕「公民科教育講演集」(文部省実業学務局)。
"	"	〔書〕「産業線に輝く人々・他」(大日本連合青年団編)。
"	"	〔書〕「昭和七年広島県立本郷農業学校状況」。
"	"	〔書〕「職業指導講演集」((財)大日本職業指導協会編)。
"	"	〔書〕「空間学習の原理と方法」(加藤重蔵)。
"	"	〔書〕「適性考査法」(増田幸一)。
"	"	〔書〕「小学唱歌教授法精義」(鈴木敏雄)。
"	"	〔書〕「 ^{実演を主眼とした} 児童劇と唱歌劇」(佐藤秀美)。
"	"	〔書〕「新童話術綱要」(内山憲堂)。
"	"	〔書〕「尋五私の手工教育指導」(横井曹一)。
"	"	〔書〕「 ^{小学校に} 於ける郷土地理教育の指導体系(上)」(豊島松治)。
"	"	〔書〕「算術教育の現代思潮」(小倉金之助外13氏著)。
"	"	〔書〕「作業主義国語教育の精髓」(浅黄俊次郎)。
"	"	〔書〕「児童文の ^{批評と} 鑑賞と観方の研究」(千葉春雄)。
"	"	〔書〕「最近の文学 文章研究と国語教育」(千葉春雄)。
"	"	〔書〕「 ^{小学校} 国語読本 漢字指導法及其構成的研究」(世良亮一)。
"	"	〔書〕「形象理論に立つ綴方教育の実際」(古見一夫)。
"	"	〔書〕「読方科教育問答」(宮川菊芳)。
"	"	〔書〕「日本庭球協会十年史」(日本庭球協会)。
"	"	〔書〕「教育的性格診断学」(綾哲一)。
"	"	〔書〕「個性調査の原理と方法」(青木誠四郎)。
"	"	〔書〕「特殊心理学原論」(見尾勝馬)。
"	"	〔書〕「性能検査法」(谷口政秀)。
"	"	〔書〕「精神分析学」(久保良英)。
"	"	〔書〕「世界法の理論(一〜三巻)」(田中耕太郎)。
"	"	〔書〕「ソビエト法の理論」(司法資料)。
"	"	〔書〕「朝鮮司法協会決議回答輯録(正)」。
"	"	〔書〕「加藤先生還暦記念論文集」。
"	"	〔書〕「穂積陳重遺文集」(~昭和9年)。
"	"	〔書〕「法学論纂」(京城帝大)。
"	"	〔書〕「ケルゼンの純粹法学」(大沢 章他)。
"	"	〔書〕「日本商事慣例類集」(司法省)。

西 曆	年 代	項 目
1932	"	〔書〕「憲法行政法演習(第一~第三)」(佐々木惣一)。
"	"	〔書〕「 ^{独逸新憲法に表われたる} 社会的思想」(山田準次郎)。
"	"	〔書〕「逐条帝国憲法講義」(清水 澄)。
"	"	〔書〕「自治民範」(権藤成郷)。
"	"	〔書〕「地方自治政の沿革と其の人物」(税田幸一(編))。
"	"	〔書〕「外国に於ける大都市制度(一~三)」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「欧米都市の近代相」(蔵田周忠)。
"	"	〔書〕「東京市域拡張に関する調査書」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「水に関する学説判例実例総覧」(武井群嗣)。
"	"	〔書〕「水と土地に関する判例慣行実例要義」(恒田嘉文)。
"	"	〔書〕「 ^{改訂} 耕地整理法要論」(大石芳平)。
"	"	〔書〕「図書分類概論」(村島靖雄)。
"	"	〔書〕「出版及著作関係法令集」(内務省警保局)。
"	"	〔書〕「医事法制論」(池松重行)。
"	"	〔書〕「 ^{神社と郷土教育} 神社学習案と神社地理学」(鈴木四郎)。
"	"	〔書〕「イエリネック一般国家学(一卷)」(大西・水垣訳)。
"	"	〔書〕「国家主義運動の現勢」(町田辰次郎編)。
"	"	〔書〕「君が代と万才」(和田信二郎)。
"	"	〔書〕「愛国読本」(東郷平八郎)。
"	"	〔書〕「近世クーデター史論」(^{マラバルテ} 木下半治訳)。
"	"	〔書〕「現代思想生活の批判的叙説」(野尻義一)。
"	"	〔書〕「ファシズム研究」(^{リップー} 磯貝実)。
"	"	〔書〕「ファシズムの経済理論と実際」(堀井 実)。
"	"	〔書〕「 ^{世界審判の} 岐路に立つ日本」(尾崎行雄)。
"	"	〔書〕「帝国議会解散史」(笹原正志)。
"	"	〔書〕「北信自由党史(第一卷)」(足立幸太郎)。
"	"	〔書〕「昭和大暗殺秘史」(^{久保田鉄蔵} 永松浅造)。
"	"	〔書〕「大戦前夜のポリシェヴィキ」(ベダーエフ著)。
"	"	〔書〕「新国民運動の基調」(赤松克麿)。
"	"	〔書〕「思想取締関係法総攬」(柴田義彦)。
"	"	〔書〕「平時工業動員」(内外産業資料調査会)。
"	"	〔書〕「ヒットラアとヒットラア運動」(室伏高信)。
"	"	〔書〕「川路大警視」(中村徳五郎)。
"	"	〔書〕「 ^{小久保喜七(城南)} 先生像除幕式記念」(菊地悟郎)。

西 曆	年 代	項 目
1932	(昭和7年)	〔書〕「武内作平君伝(大蔵次官弁護士)」(同委員会)。
"	"	〔書〕「早速整爾伝」(湊 邦三)。
"	"	〔書〕「裁松宝山良雄先生(教育家)」(龍浦文弥)。
"	"	〔書〕「入沢先生の演説と文章」(同記念会)。
"	"	〔書〕「大島宇吉翁伝(新聞)」(関 豊著作)。
"	"	〔書〕「荘田平五郎」(宿利重一)。
"	"	〔書〕「井上徳三郎君伝(取引所)」(小松盛忠)。
"	"	〔書〕「満洲と相生由太郎(三井・満鉄)」篠崎嘉郎)。
"	"	〔書〕「上海戦と国際法」(信夫淳平)。
"	"	〔書〕「近世日本の国際観念の発達」(尾佐竹猛)。
"	"	〔書〕「日本外交史」(川島伊佐美)。
"	"	〔書〕「国際連盟規約論」(立作太郎)。
"	"	〔書〕「国際軍備縮小問題」(三枝茂智)。
"	"	〔書〕「リットン報告書」(赤松祐之編)。
"	"	〔書〕「日本の満蒙(附函付)」(国際連盟支那調査 外務省準備委員会)。
"	"	〔書〕「軍事政策」(岡田銘太郎)。
"	"	〔書〕「満洲上海事変盡忠録(正統)」(杉謙二)。
"	"	〔書〕「満洲事変と不戦条約・国際連盟」(松原一雄)。
"	"	〔書〕「郷土の輝き」(歩兵第二十一連隊)荒川真郷)。
"	"	〔書〕「刑事先例彙纂(質疑回答編)」(司法省)。
"	"	〔書〕「刑法の基本問題」(奈良正路)。
"	"	〔書〕「デュルクム自殺論」(鈴木宗忠・他)。
"	"	〔書〕「犯罪徴表説」(竹田直平)。
"	"	〔書〕「婦人の性的罪過」(ハインリヒ・キッシン)。 増富平蔵訳
"	"	〔書〕「性的犯罪考」(海老名靖)。
"	"	〔書〕「精神病者のために」(杉田直樹)。
"	"	〔書〕「少年保護講習会 講演集(保護図表共)二冊」(少年法発布十周年)。
"	"	〔書〕「全訳独逸民法」(東 季彦)。
"	"	〔書〕「仏蘭西民法の変遷」(アンリ・カピタン)。 杉山直治郎
"	"	〔書〕「国際私法(華文)」(王毓英。民国廿一年)。
"	"	〔書〕「占有理論」(岩田 新)。
"	"	〔書〕「投資抵当権の研究」(石田文次郎)。
"	"	〔書〕「ヌスバウム著 独逸抵当制度論」(宮崎一雄)。
"	"	〔書〕「アンダーヒル不法行為論」(大和寅雄訳)。

西 曆	年 代	項 目
1932	"	〔書〕「日本親族相続法論」(牧野菊之助)。
"	"	〔書〕「判例を中心としたる民事訴訟法の諸問題(一,二巻)」(片山通夫)。
"	"	〔書〕「強制執行法要論(上中下)」(松岡義正)。
"	"	〔書〕「日本商事慣例類集」(司法省)。
"	"	〔書〕「会社法提要」(寺尾元彦)。
"	"	〔書〕「統一船荷証券法論」(小町谷操三)。
"	"	〔書〕「海上危険論」(加藤由作)。
"	"	〔書〕「原始保険之史的研究」(田中静夫)。
"	"	〔書〕「貨幣価値変動と生命保険」(富永義孝)。
"	"	〔書〕「火災保険経営と料率研究」(井口武三郎)。
"	"	〔書〕「保険研究(一卷)」(滝谷善一)。
"	"	〔書〕「火保助成金の真相と善後処置」(井口武三郎)。
"	"	〔書〕「抵当証券法及関係法令註解」(長島 毅 関宏二郎)。
"	"	〔書〕「赤字時代の財政諸問題」(神戸正雄)。
"	"	〔書〕「徳川理財会要」(滝本誠一)。
"	"	〔書〕「世界戦後の国家財政」(高木寿一)。
"	"	〔書〕「日本国債法論」(笹原正志)。
"	"	〔書〕「地方税改革問題」(神戸正雄)。
"	"	〔書〕「賠償及戦債問題」(岡野鑑記)。
"	"	〔書〕「(秘)関税調査委員会(第十四回)議事要録」。
"	"	〔書〕「新稿兩替年代記(三冊)」(三井高雄。~昭和8年)。
"	"	〔書〕「農村庶民金融」(石塚橘樹)。
"	"	〔書〕「世界金融恐慌の真相」(ポール・アインツヒ 木村禮八郎訳)。
"	"	〔書〕「世界金融外交戦」(ポール・アインツヒ 伊地知軍司)。
"	"	〔書〕「各地金融梗塞の現状対策 に関する各商工会議所意見」(日本商工会議所)。
"	"	〔書〕「中小商工業金融及中央銀行の研究」(倉持徳久)。
"	"	〔書〕「中小商工業金融改善策 に関する資料」(日本商工会議所)。
"	"	〔書〕「利廻計算の仕方」(松田梅松)。
"	"	〔書〕「金融産業の新考察」(河合良成)。
"	"	〔書〕「抵当銀行論」(コーエン 水島慎之介)。
"	"	〔書〕「各国発券銀行及通貨関係法規 —アメリカ・満洲—」(日本銀行)。
"	"	〔書〕「金本位制の研究」(東洋経済新報社)。
"	"	〔書〕「本邦貨幣制度改正論外一題」(アルフレッド・アモン 楠井隆三訳)。
"	"	〔書〕「新貨幣学入門」(ドクター・オスカー・ジュテイリッヒ 高後虎雄訳)。
"	"	〔書〕「三貨図彙」(草間直方)。

西 曆	年 代	項 目
1932	(昭和7年)	[書]「独仏インフレーション時代における通貨 物価及外国為替相場の相互関係調査資料」(国庫課)。
"	"	[書]「通貨と景気の理論解説」(財政経済時報社編)。
"	"	[書]「金貨の悲劇」(ポール・アインツヒ 伊地知軍司訳)。
"	"	[書]「 <u>秘</u> 本邦の金に就て」(日本銀行調査局)。
"	"	[書]「金の経済学」(猪俣津南雄)。
"	"	[書]「プロレタリア的社会主义」(ウエルナー・ゾンバルト著 田辺忠男訳)。
"	"	[書]「社会構造の理論」(小松堅太郎)。
"	"	[書]「知識社会学の諸相」(新明正道)。
"	"	[書]「知識社会学批判」(小松堅太郎)。
"	"	[書]「ジムの社会学論」(スバイクマン 山下寅太郎訳)。
"	"	[書]「古代社会(上巻・下巻)」(モルガン 山本三吾訳)。
"	"	[書]「金の社会学」(井上吉次郎)。
"	"	[書]「中間階級の社会学」(室伏高信)。
"	"	[書]「農村調査」(京都帝国大学農学部)。
"	"	[書]「農民心理の研究」(鎌田正忠)。
"	"	[書]「 <u>我農生</u> <u>三十年</u> 興村行脚」(山崎延吉先生還暦記念)。
"	"	[書]「長野県の不況実情」(長野県内務部農商課)。
"	"	[書]「東京市公衆衛生年報」(東京市役所)。
"	"	[書]「女子公共生活訓練本義」(大日本連合女子青年団編)。
"	"	[書]「心霊と神秘世界」(福来友吉)。
"	"	[書]「基督教社会経済倫理」(榊原 巖)。
"	"	[書]「道德改造論」(土田杏村)。
"	"	[書]「労働法原理」(津田蔵之丞)。
"	"	[書]「労働史講話」(アルベール・トマ著 協働会)。
"	"	[書]「本邦に於ける労働協約の概況」(社会局)。
"	"	[書]「賃銀保護に関する外国法制」(社会局労働部)。
"	"	[書]「退職手当制度の現状」(協働会)。
"	"	[書]「職長及職長指導者の教育」(協働会)。
"	"	[書]「出征職工の待遇に関する資料」(町田辰次郎)。
"	"	[書]「東京市職業紹介所紹介事情調査」(東京市役所)。
"	"	[書]「 <u>カピタン</u> <u>キューシュ</u> 労働法提要」(星野辰雄他訳)。
"	"	[書]「産業刷新の理論と実際」(宇原義豊)。
"	"	[書]「本邦鉄鋼業と関税」(大阪商大)。

西 曆	年 代	項 目
1932	"	〔書〕「蚕絲業同業組合中央会史」。
"	"	〔書〕「愛知県蚕絲業施設概要」(愛知県内務部)。
"	"	〔書〕「米国に於ける生絲の取引」(志賀 寛)。
"	"	〔書〕「養蚕業経営調査成績(一・二編五冊)」(蚕絲局)。
"	"	〔書〕「近東及阿弗利加各地に於ける茶業調査」(茶業組合中央会議所)。 茶業集報第26輯
"	"	〔書〕「日本石鹼工業史」(島田義照)。
"	"	〔書〕「日本水制工論」(真田秀吉)。
"	"	〔書〕「水に関する学説判例実例総覧」(武井群嗣他)。
"	"	〔書〕「内務技師山内喜之助調査復命書」(内務省)。
"	"	〔書〕「地渦・地裂及地震」(藤原映平)。
"	"	〔書〕「鉦害賠償責任論」(平田慶吉著)。
"	"	〔書〕「罹災救助基金法改正経過概要」(全日本私設会社 事業連盟)。
"	"	〔書〕「被服廠跡」(東京震災記念事業協会)。
"	"	〔書〕「我国主要産業に於けるカルテル的統制」(小島昌太郎)。
"	"	〔書〕「特許実用新案意匠 商標学説判決総覧(正統)二冊」(葛優美。~昭和8年)。
"	"	〔書〕「農業本質論」(橘孝三郎)。
"	"	〔書〕「国際農業問題」(モスコウ国際農業研究所編 プロレタリア科学研究所訳編)。
"	"	〔書〕「農政と経済」(高岡熊雄先生 記念論文集)。
"	"	〔書〕「農業恐慌 第一・二輯」(農業問題研究会訳編)。
"	"	〔書〕「日本農業恐慌研究」(山川均他)。
"	"	〔書〕「世界農業の現勢と農業恐慌」(マルコフ著 三好幸雄著)。
"	"	〔書〕「特産課関係法規」(渡辺 侃)。
"	"	〔書〕「米価及米価統制問題」(八木芳之助)。
"	"	〔書〕「昭和六年度に於ける 東北・北海道の凶作に関する調査」(斉藤報恩会)。
"	"	〔書〕「我国最近の地租問題」(藤谷謙二)。
"	"	〔書〕「吾国過小農問題と共同経営」(協調会)。
"	"	〔書〕「内国産業煙草解説書」(専売局)。
"	"	〔書〕「負担均衡=関スル参考資料(四冊)」(帝国農会。~昭和10年)
"	"	〔書〕「農業者ト 営業者ノ 租税公課負担 比較調査(昭7~10年)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「筑前国各藩田制貢租調査」(福岡県内務部)。
"	"	〔書〕「旧久留米藩百姓一揆=関スル調査」(福岡県内務部)。
"	"	〔書〕「農村社会運動の動向」(協調会)。
"	"	〔書〕「我農生三十年興村行脚」(山崎延吉)。
"	"	〔書〕「明治・大正水産回顧録」(下 啓助)。

西 曆	年 代	項 目
1933	(昭和8年)	
"	1・1	日本軍、山海関で中国軍と衝突。1月2日関東軍出動(「山海関事件」)。
"	"	[書]「仏書解説大辞典」(小野玄妙編, 大東出版社。~昭和11年11月20日。12冊)。
"	1・2	日本軍、山海関を占領。
"	1・10	東京商大教授大塚金之助、つづいて1月12日河上肇、検挙される。
"	1・15	米国、満州国不承認を列国に通告。
"	1・17	中共、毛沢東・朱徳の名で抗日協定締結の3条件(ソビエト区攻撃停止・人民の自由権利の保証・人民の武装)を公表。この月、中共中央、江西の革命根拠地へ移動。
"	1・22	陸軍省当局者、国際連盟脱退も辞さないと言明。
"	1・26	中共中央、満州省委へ指令書簡。
"	1・30	ヒトラー、独首相に就任(ナチス政権獲得)。
"	1・	[書]「速成日語文法」(張廣中, 開華書局。民国廿二年一月初版)。
"	"	[書]「現代日本文語法(附会話)」(徐吉之, 大東書局, 民国廿二年一月初版)。
"	"	[書]「近世古文書解説辞典」(若尾俊平・浅見恵・西口雅子編, 林英夫監修, 柏書房)。
"	"	[書]「 ^{戯曲} 近世作家大観(第一巻)」(松下丈之郎, 武田祐吉監修, 鈴木行三, 中文館書店)。
"	"	[書]「商店日用便覧」(商店界社編, 誠文堂)。
"	"	[書]「ドーマンパロール(明日の言葉)」(南雄愁・鈴木雅雪編, 大進社。「DEMAIN PAROLE」)
"	"	[書]「最新日本歴史辞典」(佐藤種治, 大同館書店)。
"	"	[書]「法学辞典」(自治館編・刊)。
"	"	[書]「満日辞典」(石山福治編, 崇文堂)。
"	"	[書]「モダン流行語辞典」(喜多壮一郎監修・麴町幸二編, 実業之日本社)。
"	"	[書]「羅和辞典」(川原吉次郎編, 大阪・文翫堂。謄写版)。
"	"	[書]「民族雑誌 第1巻1期」(民国嚴繼光編, 上海・民族雜誌社。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	[書]「新中華 第1巻1期」(民国倪文宙編, 上海・中華書局。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	[書]現代史學 第1巻1期」(國立中山大學史學研究會編, 国立中山大

西 曆	年 代	項 目
1933		学史学研究会。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「中國與蘇俄 第1期」(蘇俄雜誌社編。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「大中國 第1卷1号」(大中國週報社。週刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「西北問題 第1卷2~10期」(西北問題社編。南京・梅溪山莊。月3回刊。民国廿二年一月~三月)。
"	"	〔書〕「前途雜誌 第1卷1号」(上海・前途雜誌社。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「星期三 第1卷1期」(上海・星期三週報社。週刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「會計雜誌 第1卷1期」(民国徐永祚編。上海・徐永祚會計師事務所出版部。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「電信雜誌 第1卷1号」(交通部電政同人公益會編輯部編。上海・交通部電政同人公益會。1冊。季刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「藝術」(民国廿二年一月号。月刊)。
"	"	〔書〕「藝風 第1卷1期~第4卷4期」(藝風雜誌社編。上海・嚶嚶書屋。月刊。民国廿二年一月~廿五年四月)。
"	"	〔書〕「新壘月刊 第1卷1期」(新文藝月刊社編。上海・新壘文芸月刊社。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「銀光 第1号」(民国周瘦鵠等編。上海・銀光月刊社。月刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「石榴 第1卷1号」(上海・石榴半月刊社。半月刊。民国廿二年一月)。
"	"	〔書〕「東方文藝 第1卷1期」(東方文藝社編。廣州・現代書局。月刊。1933年1月)。
"	2・2	ジュネーブ軍縮會議再開(~10月14日。英仏案。ドイツの反対で結実せず。7月15日。英仏独伊4国。連盟規約尊重ノ協定調印)。
"	2・4	長野県で教員などの一斉検挙始まる。4月までに65校。138人の教員を検挙(「長野県教員赤化事件」)。
"	2・16	〔教〕「明倫学院規程中改正」〔朝鮮總督府令第二十四号〕(「明倫学院規程中左ノ通改正ス 第二条 明倫学院ノ修業年限ハ三年トス 明倫学院ハ必要ニ応ジ隨時講習會を開催スルコトヲ得 第三条第一項ヲ左ノ如ク改ム 明倫学院ノ学科目ハ經学。儒学史。東洋哲学。漢文学。国語。公民科及体操トス 第六条中「正科六十人以上。補習科三十人以上」ヲ「九十人以上」ニ改ム 第六条ノ二 明倫学院ハ第三条ノ学科目又ハ数科目ヲ履修セントスル者ヲ聴講生トシテ入学セシムルコトヲ得 附則 本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際現ニ在学スル生徒ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル」)。

西 曆	年 代	項 目
1933	"	陸軍=特別志願士官制度を採用する旨公布〔勅令〕(将校の不足を予備役・後備役からの志願者で補う)。
"	2・17	閣議, 国際連盟の日本軍満州撤退勧告案反対, 熱河省進攻を決定。
"	2・20	閣議, 対日勧告案を国際連盟が可決した場合には連盟を脱退することを決定・2月22日, 枢密院本会議, 政府の連盟脱退決議を承認。
"	2・22	関東軍, 熱河省にある中国軍隊の24時間内撤退を要求。2月23日日満軍熱河省への進攻作戦を開始。
"	2・24	国際連盟総会, リットン報告を承認。満州国不承認決議。対日勧告案採択に抗議して, 日本代表松岡洋右退場。
"	2・27	ベルリン国会議事堂放火事件おこる(3月9日ディミトロフら逮捕され, 9月21日~12月23日裁判, 無罪となる)。2月28日大統領, 事実上の戒厳令を布く。
"	2・	〔書〕「台湾教育」(第三六七号)。 (同上)「初学年に於ける五十音教授の實際的施設」(黄讚塔)。
"	"	〔書〕「第一教育」(第十二卷第二号)。 (同上)「斯くして綴方の原野を開発すべし」(倉田収)。
"	"	〔書〕「速成日語会話」(袁文彰, 開華書局。民国廿二年二月初版)。
"	"	〔書〕「センチュリー英和辞典」(三省堂編・刊。「Sanseido's Century English-Japanese Dictionary」)。
"	"	〔書〕「学習便覧国史辞典」(学習社編・刊)。
"	"	〔書〕「学習便覧地理辞典」(学習社編・刊)。
"	"	〔書〕「華語発音辞典」(権寧世編, 大阪屋号書店)。
"	"	〔書〕「研究社 新和英小辞典」(研究社編・刊。「Kenkyusha's Pocket Japanese-English Dictionary」)。
"	"	〔書〕「仙台人名大辞典」(菊田定郷編, 仙台市・仙台人名大辞書刊行会)
"	"	〔書〕「万葉集新辞典」(松本仁著, 立命館出版部)。
"	"	〔書〕「全國出版物目録彙編 第1号」(生活書店編, 上海・生活書店。民国廿二年二月)。
"	"	〔書〕「自由言論 第1巻1期」(民国王造時編, 上海・自由言論半月刊社。半月刊。民国廿二年二月)。
"	"	〔書〕「現代父母 第1巻1期」(民国陳征帆編, 上海・中華慈幼協会。月刊。民国廿二年二月)。
"	3・1	満鉄, 満州国国有鉄道及び付帯事業の経営, 新線建設を受諾。鉄路総局・鉄

西 暦	年 代	項 目
1933		道建設局をおく。
"	3・4	日本軍、熱河省都承德を占領。3月7日長城線に達し、国民政府軍と衝突。
"	"	ルーズベルト、大統領に就任。
"	3・5	ドイツで最後の国会総選挙（議席ナチ党288、社会民主党120、共産党81）。3月9日共産党、非合法化される。
"	"	〔書〕「外国語としての我が国語教授法」（山口喜一郎、旅順・大阪屋号書店。「日本語教授法原論」（昭和18年刊）の初版）。
"	3・8	蒋介石、保定で張学良と密談。3月9日張、下野声明（3月11日上海へ。4月10日外遊）。
"	3・10	〔日〕「台湾教育令中改正」〔勅令第二十四号、公布昭和八年三月十一日〕（「台湾教育令中左ノ通改正ス 第十四条 師範学校ノ修業年限ハ七年トシ普通科五年、演習科二年トス但シ女子ニ在リテハ修業年限ヲ六年トシ普通科ニ於テ一年ヲ短縮ス 附則 本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際現ニ台湾総督府師範学校ニ在学スル生徒ニ付テハ其ノ在学ノ間仍従前ノ規定ニ依ルコトヲ得」）。
"	3・19	上海各大学教職員連合会成立。4月1日から抗日総動員を決定。
"	3・23	独国会、全権委任法可決、社会民主党のみ反対（ヒトラーの独裁権確立）。
"		〔書〕「基礎日本語」（土居光知、六星館。普及版昭9・5・15）。
"	3・24	〔日〕「台湾公立中学校規則改正」〔台湾総督府令第四十七号〕（「大正十一年府令第六十六号台湾公立中学校規則左ノ通改正ス 台湾公立中学規則 第一章 総則 第一条 中学校令ノ適用ニ付テハ同令中北海道又ハ府県トアルハ洲トス 第二章 生徒教養ノ要旨 第四条 中学校ニ於テハ中学校令ノ旨趣ニ基キ初等普通教育ノ基礎ニ拠リ一層高等ノ程度ニ於テ道德教育及国民教育ヲ施シ生活上有用ナル普通ノ智能ヲ養ヒ且体育ヲ行フヲ以テ旨トシテ左ノ事項ニ留意シテ其ノ生徒ヲ教養スベシ 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ学校教育ノ全般ヨリ道德教育ヲ行ハント期シ常ニ生徒ヲ実践躬行ニ導キ殊ニ国民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我ガ建国ノ本義ト国体ノ尊敬ナル所以トヲ會得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期スベシ 五 国語ノ使用ヲ正確ニシ且其ノ応用ヲ自在ナラシメ以テ国語教育ノ徹底ヲ期スルト共ニ国民性格ノ涵養ニ資センコトニカムベシ 第三章 学科目、其ノ程度及教科書 第五条 中学校ノ学科目ハ修身、公民科、国語漢文、歴史、地理、外国語、数学、理科、実業、図画、音楽、作業科及体操トシ随意科目トシテ台湾語ヲ加フ 第四学年以上ニ在リテハ修身、公民科、国語漢文、歴史、地理、理科、作業科及

西 曆	年 代	項 目
1933		<p>体操ヲ基本科目トシテ必修セシムルノ外国語漢文、歴史、外国語、数学、理科、 図画及音楽ノ中適宜其ノ数科目及実業ヲ増課スベシ 外国語ハ英語、独語、仏 語又ハ支那語トス 実業ニ於テ農業又ハ工業ヲ課スル場合ニ在リテハ作業科ヲ 欠クコトヲ得 土地ノ情況ニ依リ台湾語ハ之ヲ欠クコトヲ得 第六条 各学年 ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時数ハ別表ニ依ルベシ 台湾語ノ毎週教授時数ハ 各学年二時以内ニ於テ之ヲ定ムベシ 学校長ハ必要アルトキハ別表ノ毎週教授 時数ノ合計及学科目ノ一学年間ニ於ケル教授時数ノ総計ヲ増減セザル範囲内ニ 於テ教授時数ヲ変更スルコトヲ得 前条第四項ノ規定ニ依リ作業科ヲ欠キタル トキハ其ノ教授時数ハ便宜之ヲ他ノ学科目ニ配当スルコトヲ得 実業、作業科、 図画、音楽等ノ実習及体操ハ別表ノ教授時数外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得、体 操中ノ教練ノ為行フ野外演習ハ第一項ノ毎週教授時数外トス 第十条 国語漢 文ハ 普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ発表シ文字ヲ端正ニ書写ス ルノ能ヲ得シメ国民性ヲ涵養シ文学上ノ趣味ヲ養ヒ知徳ノ啓発ニ資スルヲ以テ 要旨トス 国語漢文ハ現時ノ国文ヲ主トシテ講読セシメ進ミテハ平易ナル近古 文ヨリ簡易ナル上古文ニ及ボシ又平易ナル漢文ヲ講読セシメ簡易ニシテ実用ニ 適スル国文ヲ作ラシメ国語文法ノ大要及習字ヲ授クベシ 第十三条 外国語ハ 普通ノ英語、独語、仏語又ハ支那語ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ知徳ノ 増進ニ資スルヲ以テ要旨トス 外国語ハ発音、綴字、聴力、読方及解釈、話方 及作文、書取 文法ノ大要並ニ習字ヲ授クベシ 第二十一条 台湾語ハ普通ノ 言語又ハ文章ヲ了解シ日常ノ用務ヲ弁ズルノ能ヲ得シムヲ以テ要旨トス 台湾語ハ平易ニシテ実用ニ適スル会話ヲ授ケ又ハ文章ノ講読及作文ヲ授クベ シ 第二十四条 学校長ニ於テ必要ト認メタル生徒ニ對シテハ国語漢文ノ毎週 教授時数中第三学年以下ニ於テ各学年三時以内ヲ増加シテ国語ノ補充教授ヲ為 スコトヲ得」)。</p>
〃	3・25	<p>〔日〕「台湾公立高等女学校規則中改正」〔台湾總督府令第四十九号〕（「 大正十一年府令第六十七号台湾公立高等女学校規則中左ノ通改正ス 第九条 高等女学校ノ学科目ハ修身、公民科、国語、外国語、歴史、地理、数学、理科、 図画、家事、裁縫、音楽及体操トス 外国語ハ之ヲ欠キ又ハ随意科目ト為スコ トヲ得 図画及音楽ハ之ヲ欠クコトヲ得 土地ノ情況ニ依リ第一項ノ科目ノ外 教育、手芸、実業、台湾語其ノ他ノ学科目ヲ加フルコトヲ得 生徒身体ノ情況 ニ依リ学習スルコト能ハザル学科目ハ之ヲ生徒ニ課セザルコトヲ得 第三十条 実科ノ学科目ハ修業年限四年ノモノ及三年ノモノニ在リテハ修身、公民科、国 語、歴史、地理、数学、理科及家事、裁縫、図画、音楽、実業及体操トス 図 画、音楽及実業ハ之ヲ欠クコトヲ得 土地ノ情況ニ依リ第一項ノ学科目ノ外教 育、手芸、台湾語其ノ他ノ学科目ヲ加フルコトヲ得 実業又ハ前項ニ依ル加設 科目ハ之ヲ随意科目又ハ選抜科目ト為スコトヲ得 第五十六条中「国語」ノ上</p>

西 暦	年 代	項 目
1933		＝「修身，」ヲ加へ「日本歴史」ヲ「国史」ニ改ム」）。
"	3・25	〔日〕 台湾総督府師範学校規則改正〔台湾総督府令第四十八号〕（「大正十一年府令第八十八号台湾総督府師範学校規則左ノ通り改正ス 台湾総督府師範学校規則 第一章 生徒教養ノ要旨 六 国語ノ使用ヲ正確ニシ其ノ応用ヲ自在ナラシムルコトハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素国語ノ練達ニ精励セシメンコトヲ要ス 第二章師範学部及公学師範部 第一節 学科目及其ノ程度 第四条 台湾語ハ之ニ通ズル者ニ付テハ随意科目トス 第八条 国語漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ発表シ文字ヲ端正ニ書写スルノ能ヲ得シメ国民性ヲ涵養シ文学上ノ趣味ヲ養ヒ知徳ノ啓発ニ資シ且初等普通教育ニ於ケル国語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス 国語漢文ハ現時ノ国文ヲ主トシテ講読セシメ進ミテハ近古ヨリ上古ノ国文ニ及ボシ又平易ナル漢文ヲ授ケ言語ノ使用ニ練熟セシメ簡易ニシテ実用ニ適スル国文ヲ作ラシメ国語文法及国文学史ノ大要竝ニ習字ヲ授ケ発育法及訛音矯正法ノ一班ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クベシ 第九条 台湾語ハ普通ノ言語又ハ文章ヲ了解シ日常ノ用務ヲ弁ズルノ能ヲ得シムルヲ以テ要旨トス 台湾語ハ平易ニシテ実用ニ適スル会話，文章ノ講読及作文ヲ授ケ且教授法ヲ授クベシ 附則 本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。
"	3・27	外相内田康哉，連盟事務総長ニ脱退通告文を通達。政府声明発表。国際連盟脱退についての詔書。
"	3・28	〔日〕 南洋庁実業学校官制〔勅令第四十号，昭和8年4月施行〕。
"	3・31	〔日〕「日露協会ノ設立スル日露協会学校ニ関スル件改正」〔勅令第四十八号。公布昭和八年四月一日〕（「大正十一年勅令第二百二十三号中左ノ通改正ス 「日露協会学校」ヲ「哈爾濱学院」ニ改ム」）。
"	3・	〔書〕「 ^{滿鉄沿線} 日本語教授の変遷」（滿鉄初等研究会第二部） に於ける
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三六八号）。 （同上）「童話の口演と聴かせ方に就いて」（西岡英夫）。 （"）「全島各師範学校附属公学校読方打合会記録」（台北第二師範附属公学校。～第三七〇号の内）。
"	"	〔書〕「第一教育」（第十二卷第三号）。 （同上）「読方の形象とは」（菊地道丸）。 （"）「我が校の綴方教育」（飯田国雄）。
"	"	〔書〕「国語教育」（第十八卷第三号）。

西 曆	年 代	項 目
1933		(同上)「台湾に於ける国語普及に就いて」(安藤正次)。
"	"	[書]「研究社英和商業經濟辞典」(中島鍊造・藤田仁太郎共編, 研究社。[Kenkyusha's English-Japanese Dictionary of Business & Economics])。
"	"	[書]「華語大辞典」(権寧世編著, 大阪屋号書店)。
"	"	[書]「新支那大辞典」(石山福治編, 文求堂。~12月。四冊)。
"	"	[書]「満州地名辞典」(岡野一朗著, 日本外事協会)。
"	"	[書]「創化季刊 第1巻1期」(中國文化協會編, 上海・中国文化協會。250P。年4回刊。「文學專号」。民国廿二年三月)。
"	"	[書]「現象月刊 第1巻1期」(上海・現象月刊社。月刊。民国廿二年三月)。
"	"	[書]「南星社刊 第1巻1号」(国立暨南大學南星社編, 上海・国立暨南大学南星社。民国廿二年三月)。
"	"	[書]「社會主義月刊 第1巻1期」(社會主義學會編, 上海・社会主義月刊社。月刊。民国廿二年三月)。
"	"	[書]「軍國民雜誌, 第1巻1号」(上海・軍國民雜誌社。月刊。民国廿二年三月)。
"	"	[書]「現代電影 第1巻1号」(民国劉呐鷗等編, 上海・電影雜誌社。月刊。民国廿二年三月)。
"	"	[書]「女子月刊 第1巻1号」(民国黃心勉編, 上海・女子書店。月刊。民国廿二年三月)。
"	4・1	新京に駐滿海軍部設置を公示。
"	"	満州国, 非承認国に門戸封鎖。
"	"	山口高等商業, 東亜經濟研究所を設置。
"	"	[書]「教育」(城戸幡太郎, 留岡清男編集, ~44年3月)創刊。
"	4・5	平野力三ら, 陸海在郷軍人との提携をめざし皇道会を結成。
"	4・6	法相小山松吉, 司法官赤化事件の責任で辞表提出, 天皇の御沙汰で留任。
"	4・10	英政府, 日印通商条約廃棄通告。
"	"	関東軍, 長城線を越えて華北へ侵入開始, 中央の反対で, 4月19日長城線への帰還を命令。4月23日撤退完了。
"	4・11	蔣介石, 南昌で第5次掃共戦の準備開始。5月1日蔡廷楷らに掃共配置を指令。
"	4・12	「陸軍特命検閲令」公示。

西 暦	年 代	項 目
1933	4・22	鳩山文相、京都帝大教授滝川幸辰の辞職を総長に要求。5月26日休職発令、法学部長以下抗議して辞表を提出。7月10日滝川・佐々木惣一・宮本英雄・森口繁治・末川博ら6教授、7月25日恒藤恭・田村徳治2教授免官（「滝川事件」）。9月5日滝川「刑法読本」（改訂版、'32年6月20日刊）発禁。
〃	4・24	〔日〕「師範学校規程中改正」〔朝鮮総督府令第三十九号〕（「師範学校規程中左ノ通改正ス 第四十四条第一項ヲ左ノ如ク改ム 演習科各学年ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時数ハ男生徒ニ在リテハ第三号表、女生徒ニ在リテハ第四号表ニ依ルヘシ 第三号表 第一学年 国語漢文 四、朝鮮語又ハ朝鮮語及漢文 二（四）、第二学年 国語漢文 四、朝鮮語又ハ朝鮮語及漢文 二（四）、（他学科目略）。同一欄中括弧ヲ附セル時数ハ第二部ノ生徒ニ課スル時数トス 第四号表 第一学年 国語漢文又ハ国語 四、朝鮮語又ハ朝鮮語及漢文 二（四）、第二学年 国語漢文又ハ国語 四、朝鮮語又ハ朝鮮語及漢文 二（四）（他学科目略）。同一欄中括弧ヲ附セル時数ハ第二部ノ生徒ニ課スル時数トス 附則 本令ハ発布ノ日ヨリ之ヲ施行ス」）。
〃	4・25	〔書〕「国文法概論」（松尾捨次郎、中文館書店）。
〃	4・28	〔教〕 文部省、盛岡・三重・宮崎各高等農林学校に拓殖訓練所を設置〔告示〕（満蒙及び南米への農業移住者訓練）。
〃	〃	陸軍飛行学校生徒教育令〔勅令〕公布（「少年航空兵制度」始まる）。
〃	4・	〔日〕 国語解者調（4月末現在、公学校生徒317309、同上卒業生累計394686、国語普及施設生徒数58903、同上修了者累計356611、合計1127509、本島人人口4612274、国語解者百分比24.5）。
〃	〃	〔書〕「台湾教育」（第三六九号）。 （同上）「山口喜一郎氏著「外国語としての我が国語教授法」を読む（加藤春城）。 （〃）「公学校児童をして国語を常用せしむる方策に就いて」（林先進）。 （〃）「解釈といふこと」（伊藤慎吾）。
〃	〃	〔書〕「小学国語読本」（文部省。「サクラ読本」、初めて色刷、「第四期国語読本」）、使用開始。
〃	〃	〔書〕「応用力学用語集」（日本工学会編・刊）。
〃	〃	〔書〕「新漢和大辞典」（中村利三郎著、一心社）。
〃	〃	〔書〕「新聞語」（大阪・朝日新聞社編・刊）。

西 曆	年 代	項 目
1933	"	〔書〕「新聞語辭典」(大西林五郎編, 日刊新聞通信社)。
"	"	〔書〕「模範鮮和辭典」(京城・博文書館編, 刊)。
"	"	〔書〕「最新朝鮮歴史地理辭典」(佐藤種治編, 刊, 富山房)。
"	"	〔書〕「白水社 露和大辭典」(南満州鉄道株式会社東亜經濟調査局編, 白水社。「ХАКУСУИША РУССКО-ЯПОНСКИЙ СЛОВАРЫ」)
"	"	〔書〕「國際文化 第1卷1期」(國際文化雜誌社編, 上海・神州国光社。1冊。月刊。民国廿二年四月)。
"	"	〔書〕「出路 第1卷1号」(出路半月刊社。1冊。半月刊。民国廿二年四月)。
"	"	〔書〕「汗血月刊 第1卷1号」(上海・汗血月刊社。月刊。「剿匪問題專号」。民国廿二年四月)。
"	"	〔書〕「社會建設, 第1卷1期」(民国黃公覺等編, 上海・華僑書局。月刊。民国廿二年四月)。
"	"	〔書〕「中國經濟 第1卷第1期」(中國經濟研究會編, 上海・神州国光社。月刊。民国廿二年四月)。
"	"	〔書〕「現代婦女 第1卷1期」(民国鷗查編, 光華書局。1933年4月)。
"	"	〔書〕「婦人畫報 第1, 28期」(上海・良友圖書印刷。第1期は鄧倩文編, 半月刊。第28期は執建英編, 月刊。民国廿二年四月~廿四年五月)。
"	"	〔書〕「詞學季刊 第1卷1号」(民国龍沐勛編, 上海・民智書局。季刊。民国廿二年四月)。
"	5・2	ソ連, 日本に中東鉄道譲渡を提議(国民政府, '24年条約違反として抗議)。
"	"	ヒトラー政府, 労働組合禁止。5月10日焚書事件おこる。6月22日社会民主党の活動を全面的に禁止。7月14日新政党結成を禁止(ナチス, 唯一の政党となる)。
"	5・7	関東軍, 中央の許可を得て, 再び長城線をこえて関内作戦を開始。
"	5・12	日本軍, 通州占領。
"	5・13	長谷川如是閑・三木清・新居格ら, ナチス焚書に抗議, 7月10日抗議のメンバーを中心に学芸自由同盟を結成。
"	5・16	〔国〕 臨時ローマ字調査会第八回総会。
"	"	在郷将校を中心に明倫会結成(総裁陸軍大将田中国重)。
"	5・17	「五・一五事件」記事解禁, 司法・陸軍・海軍三省より事件の概要を公表。
"	5・19	中・米(宋子文・ルーズベルト), 共同声明発表, 極東の和平の迅速回復を希望。6月4日中・米, 5000万元(綿麦借款)協定調印。
"	5・21	日本軍, 通州を占領, 北平城外に迫る。5月22日何応欽, 中国軍に北平撤退を命令。5月25日中国側, 停戦を正式に申し出, 停戦交渉開始。

西 曆	年 代	項 目
1933	5・23	政府、ソ連の東支鉄道〔北滿鉄道〕を満州国に買収させる方針を決定。
"	5・25	〔教〕 京大滝川教授、文相要求で休職（「京大滝川事件」起こる。
"	"	〔書〕「国語科学講座」（明治書院。～'35年3月31日。12輯78冊）
"	5・26	馮玉祥、チャハル綏遠抗日同盟軍を結成。
"	5・28	毛沢東・朱徳ら、広東・福建軍に抗日合作提議。
"	5・31	関東軍代表岡村寧次少将と中国代表熊斌との間で、塘沽停戦協定成立（長城以南に非武装地帯を設定し、中国軍の撤退確認後、日本軍も撤兵。治安維持には中国警察が当たる）。
"	5・	〔書〕「台湾教育」（第三七〇号）。 （同上）「国語普及会愚録」（黄長源）。 （ 〃 ）「国語のアクセントに就いて」（荏朝基）。
"	"	〔書〕「英字図案モノグラム集」（大沼知之，創作図案刊行会）。
"	"	〔書〕「増補支那法制大辭典」（東川徳治著，松雲堂）。
"	"	〔書〕「大獨日辭典」（登張信一郎著，大倉書店。「Grosses Deutsch-Japanisches Wörterbuch」）。
"	"	〔書〕「佛英和新辭典」（榎本恒太郎編，太陽堂書店。「Nouveau Dictionnaire Français-Anglais-Japanais」）。
"	"	〔書〕「ロシア語辭典」（外村史郎編，鉄塔書院。「Русско-Японский Словарь」）
"	"	〔書〕「美 麗 第1巻1期」（民国周宥冥編，白雲刊行社。月刊。民国廿二年五月）。
"	"	〔書〕「學術月刊 第1巻1期」（上海・學術月刊社。1冊。月刊。民国廿二年五月）。
"	"	〔書〕「朔望半月刊 第1巻1号」（民国徐朗西編，上海・現代書局。1冊。半月刊。民国廿二年五月）。
"	"	〔書〕「遠東月報 第1巻1期」（民国張軍光編，上海・遠東月報社。月刊。民国廿二年五月）。
"	"	〔書〕「讀書中學 第1巻1号」（民国彭信威等編，上海・神州国光社。民国廿二年五月）。
"	"	〔書〕「衛生雜誌 第8期」（民国張子英編，上海・衛生雜誌社。月刊。「性病專号」。民国廿二年五月）。
"	"	〔書〕「文藝的醫學 第1巻1期」（民国張希渠編，上海・通俗医藥雜誌社。月刊。民国廿二年五月）。

西 曆	年 代	項 目
1933	"	〔書〕「康健雜誌 第1巻1号」(民国楮民誼編, 上海・康健雜誌社。月刊。民国廿二年五月)。
"	"	〔書〕「西湖文苑 第1巻1期」(杭州・西湖文苑社。月刊。民国廿二年五月)。
"	6・1	(株)昭和製鋼所, 満鉄鞍山製鉄所を合併, 事業開始。
"	6・7	共産党幹部佐野学・鍋山貞親, 獄中で転向を声明(その後, 共産党事件被告の転向つづく)。
"	6・17	国民政府, 黄郛を駐平政務委員会主席に任命。
"	6・26	内田外相あっせんの下に, 外務省で北満鉄道譲渡満ノ第1回正式会議開催。
"	6・	〔書〕「台湾教育」(第三七一号, 「台北州教育特輯号」)。 (同上)「綴方教育の一研究」(村瀬次蒼)。
"	"	〔書〕「仮名遣研究史」(木枝増一, 賛精社)。
"	"	〔書〕「樹木和名考」(白井光太郎著, 内田老鶴圃)。
"	"	〔書〕「 ^{英文} 中国及満州国 ^{人名} 便覧」(タイムス出版社編・刊)。 _{对照} _{地名}
"	"	〔書〕「天文学辞典」(山本一清・村上忠敬共著, 恒星社)。
"	"	〔書〕「新式モダン語辞典」(小坂潔著, 帝国図書普及会)。
"	"	〔書〕「文史叢刊 第1集」(国立暨南大學出版委員会編, 国立暨南大学。年2回刊。民国廿二年六月)。
"	"	〔書〕「社會科學季刊 第1巻1号」(国立暨南大學出版委員会編, 国立暨南大学出版委員会。季刊。民国廿二年六月)。
"	"	〔書〕「明 日 第1巻1号」(上海・明日社。月刊。民国廿二年六月)。
"	"	〔書〕「日華學報 第41~95号」(高橋君平等編, 東京・日華学会。昭和8年6月~18年11月)。
"	"	〔書〕「科學知識 第1巻1期」(科學情報社編, 上海・中外書店。半月刊。民国廿二年六月)。
"	"	〔書〕「理工雜誌 第1巻1期」(震旦大學理工學院編, 上海・震旦大学理工學院。民国廿二年六月)。
"	"	〔書〕「國醫評論 第1巻1期」(上海・国医評論社。月刊。民国廿二年六月)。
"	7・3	関東軍岡村少将と中国の駐平政務整理委員会代表, 大連で会談, 7月5日停戦協定に伴う非武装地帯の処理, 鉄道通車問題について妥結(第一次大連会議)
"	7・6	河上肇の引退声明(「獄中独語」), 各紙に発表される。
"	7・8	〔教〕 文部省, 「非常時と国民の覚悟」を外務・陸軍・海軍各省と共同編

西 曆	年 代	項 目
1933		纂し、学校社会教化団体へ配布。
"	7・11	〔国〕 臨時ローマ字調査会第九回総会。
"	"	天野辰夫らと大日本生産党員のクーデタ計画発覚(「神兵隊事件」), 49人 検挙。
"	7・15	〔書〕「読史備要」(東京帝大史料編纂所編)。
"	7・20	陸軍省, 満州事変勃発以来の戦死2530人, 負傷6896人と発表。
"	7・27	関東軍司令官武藤信義元帥没。7月28日後任に菱刈大将任命。
"	7・	〔日〕 奉天医科専門学校開校。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三七二号)。 (同上)「公学校用国語読本の分別書き方に就いて」(村石和)。 (")「正課時間外に於ける公学校児童の語彙拡張に関する施設 方案」(蘇澳公学校) (")「言葉の面白み」(川見駒太郎)。
"	"	〔書〕「図解植物辞典」(東京博物学研究所編, 浩文社)。
"	"	〔書〕「道路用語字彙」(道路研究会。翻訳委員は西川栄三ほか8名)。
"	"	〔書〕「最新露和辞典」(吉田薫編, 大阪屋号書店。「НОВЕИШИИ РУССОКО ЯДОНСКИЙ СДОВАРЬ」)。
"	"	〔書〕「〔華通書局〕図書目録 第3号」(上海・華通書局。1冊。民国 廿二年七月)。
"	"	〔書〕「洪荒月刊 第1巻第1号」(民国周茨石編, 上海・洪荒月刊社。 1冊。月刊。1933年7月)。
"	"	〔書〕「法 軌 第1巻1号」(復旦大學法律學系同學會編, 復旦大学法 律學系同学会。民国廿二年七月)。
"	"	〔書〕「中華半月刊, 第1巻1期」(民国陳時中等編, 上海・中華半月刊 社。半月刊。民国廿二年七月)。
"	"	〔書〕「狂流文藝月刊 第1巻1期」(民国盛馬良, 珍穎共編, 上海・狂 流文学会出版部。月刊。1933年7月)。
"	"	〔書〕「家庭醫藥 第1巻1期」(民国包天白編, 上海・中国医藥社。月 刊。民国廿二年七月)。
"	"	〔書〕「文 學 第7巻3号~第8巻5号」(文學社編, 上海・生活書店。 月刊。民国廿二年七月~廿六年五月)。
"	8・1	瑞金政府, 反日・反帝・反国民党を指示。

西 曆	年 代	項 目
1933	8・7	関東軍、おおむね長城線に復帰。
"	8・13	蔣介石・黄郛・李烈鈞の廬山会議、抗日緩和を決定。
"	8・	〔日〕 赤間学院日本語学校（サンパウロ市ピラクレメンチーノ）開校。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三七三号，「三笠宮殿下御成記念・台中州教育特輯号）。
"	"	〔書〕「広告辞典」（室田庫造編，誠文堂）。
"	"	〔書〕「新修大辞林」（内海弘蔵著，浩文社）。
"	"	〔書〕「日本文化史事物起源辞典」（雨宮信一郎編，東光書院）。
"	"	〔書〕「時事類編 第1巻1号」（中山文化教育館編，上海・中山文化教育館。月3回刊。民国廿二年八月）。
"	"	〔書〕「大 學 第1巻1期」（大學雜誌社編，〔上海〕・世界出版合作社。月刊。民国廿二年八月）。
"	9・1	〔教〕 大阪中央放送局，学校放送を開始（'35年4月15日全国向け放送開始）。
"	9・2	伊・ソ連，不侵略友好条約調印。
"	9・9	陸相荒木貞夫，陸軍の「国策案大綱」を高橋蔵相に呈示（軍備充実の要求など）。
"	9・11	「五・一五事件」，陸軍側判決（全員禁固4年）。
"	9・14	外相内田康哉辞任。後任に広田弘毅任命。
"	9・18	南満州に東北人民革命軍成立（約1000人，軍長楊靖宇）。
"	9・23	日印会商，インドのシムラで開始，'34年1月5日妥協成立。'34年7月12日新日印通商条約調印。
"	9・25	〔書〕「岩波講座 日本歴史」（～'35年5月12日。18巻）。
"	9・30	上海で極東反戦反ファシズム大会開く。
"	9・	〔書〕「台湾教育」（第三七四号）。 （同上）「小学校国語読本中の短歌について」（川見駒太郎）。
"	"	〔書〕「日文講義」（軍事委員会政訓研究班。民国廿二年九月初版）。
"	"	〔書〕「衛生工學術語集」（衛生工業協会編。非売）。
"	"	〔書〕「蒙古語大辞典（上・中・下）」（陸軍省編，偕行社。～11月）。

西 暦	年 代	項 目
1938	10・3	国防・外交・財政調整のため、五相会議、(首・蔵・海・陸・外の五相)開催。10月21日満州国の育成と日満支3国の提携などを方針とする「国策大綱」を決定。
"	10・5	蒋介石、第五次掃共戦開始、100万の兵を動員。(翌年11月まで)。
"	10・10	[書]「満鮮史研究」(池内宏、～'60・6・15。5冊)。
"	10・14	ドイツ、ジュネーブ軍縮会議及び国際連盟から脱退を声明。
"	10・25	[書]「パーマ著 国語羅馬字化の原理」(「羅馬字化の原理特に日本語羅馬字化に就いて」。ハロルド・イー・パーマ、宮田斉訳、岩波書店)。
"	10・28	[書]「国家改造計画綱領」(中野正剛)。
"	10・30	[教] 山梨・高知両県、文部省の指示で思想問題研究会を設置、続いて各府県での設置進む(地方教員に対する思想対策)。
"	10・	[日] 日蒙協会設立。
"	"	[書]「台湾教育」(第三七五号、「台南州教育特輯号」)。
"	"	[書]「冠名臨牀用語集」(上田春次郎、金原商店)。
"	"	[書]「詩語辞典」(金星堂編・刊)。
"	"	[書]「集字書範書道字典」(東華書道院編、春潮社)。
"	"	[書]「新仏和医学辞典」(海輪利光編、南山堂。「Dictionnaire Médical Français-Japanais」)。
"	"	[書]「難訓辞典」(井上頼罔・高山昇・菟田茂丸共著、啓成社)。
"	"	[書]「美談逸語辞典」(三井昌史・菅原法嶺編、東方書院)。
"	"	[書]「俚諺大辞典」(坪内逍遙監修、中野吉平書、東方書院)。
"	"	[書]「線 路 第34期」(南京・線路社。半月刊。民国廿二年十月)。
"	"	[書]「論 語 第26～117」(民国林語堂等編、上海・時代図書。半月刊。民国廿二年十月～廿六年八月)。
"	11・7	[国] 臨時ローマ字調査会第十回総会。
"	"	関東軍岡村少将と何応欽・黄郛、北平で会談、11月9日駐平政務委員会による非武装地帯の接收につき合意(北平会談)。
"	11・9	「五・一五事件」海軍側判決(最高禁固15年)。
"	11・13	埼玉県挺進隊の政友会総裁鈴木喜三郎暗殺計画発覚、9人検挙。
"	11・17	米国、ソ連邦を承認。

西 曆	年 代	項 目
1933	11・18	日満実業協会設立（会長郷誠之助）。
"	11・20	第十九路軍を中心に「福建独立事件起る。11月23日、福建人民革命政府樹立（主席李濟深）。11月26日、紅軍と「反蔣抗日初歩協定」締結。
"	11・24	中央空軍、福州を大爆撃。
"	11・28	野呂栄太郎、検挙される。（'34年2月19日獄死）。
"	11・30	〔書〕「松田和露大辞典」（松田衛、東京堂）。
"	11・	〔書〕「台湾教育」（第三七六号）。 （同上）「新国語読本巻二に就いて」（大江田雪太郎）。
"	"	〔書〕「国民経済辞典」（高橋亀吉監修、松元竹二編集代表、非凡閣）。
"	"	〔書〕「信託辞典」（銀行研究社編、文雅堂）。
"	"	〔書〕「篆楷字典」（丘襄二著・刊、大阪屋書店発売）。
"	"	〔書〕「日華陸海軍兵語辞典」（打田葵園編、偕行社編纂部。韓復榘・桜井正信校閲）。
"	12・1	〔書〕「新国語読本巻一」（台湾教育会）。
"	12・3	〔日〕台湾総督府高等学校規則中改正〔台湾総督府令第百三十八号〕（第三条第一項中「修身」ヲ「修身、公民科」ニ、「国語及漢文」ヲ「国語漢文」ニ、「博物、物理及化学」ヲ「理科」ニ、「唱歌」ヲ「音楽、作業科」ニ改ム第三十五条中「国語」ヲ「修身、国語」ニ、「日本歴史」ヲ「国史」ニ改ム附則 本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス）。
"	12・8	松岡洋右、代議士を辞任、12月23日政党解消連盟を結成。
"	12・9	陸軍・海軍両省、最近の軍部批判は軍民離間の行動で黙視できぬと声明。
"	"	〔日〕第二十回全島国語演習会（場所、基隆市寿公学校、参加人数68名番外53名）。
"	12・10	〔日〕「台湾公立小学校規則中改正」〔台湾総督府令第百四十一号〕（「第二十条第二項中「満州地理」を「満州、支那及南洋地理」ニ改ム 別記第一号表乃至第三号表及第四号様式乃至第七号様式ヲ左ノ如ク改ム（別記） 第一号表 尋常小学校各学年教授程度及毎週教授時数表 国語 第一学年 毎週教授時数 一〇、発音 仮名、日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ読ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 第二学年 毎週教授時数 一二、仮名、日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ読ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 第三学年 毎週教授時数 一二、日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ読ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 第四学年 毎週教授時数 一二、日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ読ミ

西 曆	年 代	項 目
1933		方, 書キ方, 綴り方, 話シ方 第五学年 毎週教授時数 九, 日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ読ミ方, 書キ方, 綴り方, 話シ方 第六学年 毎週教授時数 九, 日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ読ミ方, 書キ方, 綴り方, 話シ方 第二号表 修業年限二年ノ高等小学校各学年教授程度及毎週教授時数表 国語 第一学年 毎週教授時数 六, 日常須知ノ文字及普通文ノ読ミ方, 書キ方, 綴り方 第二学年 毎週教授時数 六, 日常須知ノ文字及普通文ノ読ミ方, 書キ方, 綴り方 第三号表 修業年限三年ノ高等小学校各学年教授程度及毎週教授時数表 国語 第一学年 毎週教授時数 六, 日常須知ノ文字及普通文ノ読ミ方, 書キ方, 綴り方 第二学年 毎週教授時数 六, 日常須知ノ文字及普通文ノ読ミ方, 書キ方, 綴り方 第三学年 毎週教授時数 六, 日常須知ノ文字及普通文ノ読ミ方, 書キ方, 綴り方 附則 本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」)。
"	12・20	〔書〕「新国語教本卷二」(台湾教育会)。
"	12・23	〔書〕「新国語教本卷三」(台湾教育会)。
"	12・28	〔書〕「高等警察用語辞典」(朝鮮総督府警務局)。
"	暮	〔日〕 ~ '34年の1月にかけて約50日間, 在サンパウロ日本人学校父兄会の主催で, 各地に日本語教師に対するポルトガル語講習会が催される。
"	12・末	昭和8年末現在, 北海道のアイヌ15916人。
"	12・	〔書〕「台湾教育」(第三七七号, 「新竹州教育特輯号」)。 (同上)「祈念する国語教育の一, 二」(苗栗第二公学校)。
"	"	〔書〕「修正東文新教程」(商務印書館, 商務印書館, 民国廿年八月初版増補 民智書局 民国廿二年十二月修正増補)。
"	"	〔書〕「英和独対訳機械用語新辞典」(伊藤栄三郎編, 太陽堂書店)。
"	"	〔書〕「独英和新辞典」(榎本恒太郎・黒塚寿一共著, 太陽堂書店。 「Neues Deutsch-English Japanisches Wörterbuch」)。
"	"	〔書〕「日常法律辞典」(鳩山秀夫監修, 非凡閣)。
"	"	〔書〕「新編筆陣書家自在」(奈良松斎編, 汲古書院)。
"	(昭和8年)	〔日〕 日本英語学生協会設立。
"	"	〔日〕 中国人留日学生数(満州314, 支那1043, 計1357。「台湾青年」第四一六号, 昭和12年3月号による)。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 学生数, 本島

西 曆	年 代	項 目
1933		人456, 高砂族6, 卒業数, 本島人102, 高砂族3)。
"	(昭和8年)	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数, 本島人7730, 高砂族51, 卒業数, 本島人3393, 高砂族27)。
"	"	〔日〕 台湾の小學校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小學校, 生徒数, 本島人1784, 蕃人31, 卒業数, 本島人330, 蕃人7, 小學校高等科, 生徒数, 本島人277, 蕃人7, 卒業数, 本島人75, 蕃人3)
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中學校, 生徒数2110, 高砂族3, 卒業数, 本島人342, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 高等女學校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通學校生徒数, 本島人1526, 高砂族2, 卒業数, 本島人437, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業學校, 生徒数, 本島人1527, 高砂族6, 卒業数, 本島人335, 高砂族1, 実業補習學校, 生徒数, 本島人1684, 高砂族101, 卒業数, 本島人648, 高砂族46)。
"	"	〔日〕 各種學校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人2295, 高砂族7, 卒業数, 本島人538, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数130, 卒業数41)。
"	"	〔日〕 大學教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数26, 卒業数9)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数266, 卒業数83)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数182, 生徒数, 7541, 卒業数1593, 就学歩合67・59)。
"	"	〔日〕 国語講習所調(国語講習所361, 生徒数18019, 簡易国語講習所32847, 合計所数1188, 合計生徒数50866)。
"	"	〔日〕 安田友明, 宜蘭小學校においてパーマー式話し方教授の研究を発表。
"	"	〔書〕「新国語読本卷一〜三」(台湾教育会, 昭和8年〜12年)。
"	"	〔書〕「公學校高等科国語読本三・四」(台湾總督府文教局編修課編)。
"	"	〔書〕「公學校高等科国語読本編纂趣意書」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「公學校国語教授書第二種第一・二学年用」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「公學校高等科国語読本卷一〜四」(台湾總督府, 昭和8年〜9年)
"	"	〔書〕「公學校用国語教授書第二種(第一学年用)」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「公學校日本歴史第二種上, 下」(台湾總督府, 昭和8年〜9年)。
"	"	〔書〕「公學校地理書第二種卷一, 二」(台湾總督府, 昭和8年〜9年)。
"	"	〔書〕「公學校高等科簿記書卷一, 二」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「公學校高等科商業書卷一」(台湾總督府)。

西曆	年代	項目
1933	"	〔書〕「アミ語集」(台灣總督府文教局)。
"	"	〔書〕「公學校用農業教授書卷一, 二」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「公學校高等科修身書教師用卷一, 二」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「公學校修身書卷五, 六編纂趣意書」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「最新教育思潮に基く各科教育の實際」(台中師範學校附屬公學校同光會編)。
"	"	〔書〕「教授研究發表會發表要項第五回」(台南師範學校附屬公學校編)。
"	"	〔書〕「小公學校研究蒐集」(海山郡教育會編)。
"	"	〔書〕「台灣教育」(第三六六號~第三七七號發行)。
"	"	〔書〕「初等日本語讀本(四卷)」(南滿州教育會, 南滿州教育會教科書編輯部)。
"	"	〔書〕「對譯簡明日本語讀本」(飯河道雄編, 奉天·東方印書館。168P)。
"	"	〔書〕「日語文法例解」(英華, 民國廿二年刊)。
"	"	〔書〕「日本語法例解」(民國艾華著, 上海·開明書店。民國廿二年刊。354P)。
"	"	〔書〕「富士山之夢」(民國平凡著, 1933年刊。130P)。
"	"	〔書〕「訪日女子體育使節」(滿洲國體育協會編。滿州大同二年刊。123P)。
"	"	〔書〕「〔遊日記要〕」(民國許公武著。民國廿二年刊。528P)。
"	"	〔書〕「現代小品文選」(民國趙景深編, 上海·北新書局。1933年刊。「中學國語補充讀本3」。2冊)。
"	"	〔書〕「現代書版批判集」(民國譚天編, 上海·書報合作社。民國廿二年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「圖書年鑑 1933年份」(民國楊家駱著, 中國圖書大辭典編輯館。民國廿二年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「日本論叢」(民國繆鳳林著, 南京·鍾山書局。民國廿二年刊。「南京中國史學會叢書」。1冊)。
"	"	〔書〕「當代史牘」(上海·上海週報社。民國廿二年刊。394P)。
"	"	〔書〕「東亞先學志士記傳 上卷」(葛生能久著, 東京·黑龍會出版部。昭和8年刊。886P)。
"	"	〔書〕「霜楓之一浮生六記」(民國沈復著, 俞平伯校, 北平樸社。民國廿二年刊。128P)。
"	"	〔書〕「〔進展一年之中華民國臨時政府〕」(行政委員會情報處編, 行政委員會情報處。民國廿二年序刊。58P)。

西 曆	年 代	項 目
1933	(昭和8年)	〔書〕「清宣統朝中日交渉史料 6巻」(故宮博物院編, 天津・大公報社。民国廿二年刊。活版。3冊)。
"	"	〔書〕「國文研究讀本 第2輯1, 2, 4, 第3輯」(民国史本直編, 上海・大衆書局。民国廿二~廿三年刊。4冊)。
"	"	〔書〕「支那語法入門」(本田清人著, 東京・尙文堂。昭和8年刊。90 P)。
"	"	〔書〕「國文研究讀本 第1輯1~3, 3輯2」(民国史本直編, 朱字蒼校, 上海・大衆書局。民国廿二年刊。4冊)。
"	"	〔書〕「急就篇」(宮島大八編, 東京善鄰書院。昭和8年刊。152 P)。
"	"	〔書〕「漢文基準支那現代文捷徑」(賀藤惠秀著, 東京・尙文堂。昭和8年刊。201 P)。
"	"	〔書〕「中國文學史綱要」(民国賀凱編, 新興文学研究会。民国廿二年刊。408 P)。
"	"	〔書〕「愛的三部曲」(民国曾今可著, 上海・新時代書局。民国廿二年刊。「新時代文藝叢書」38 P)。
"	"	〔書〕「當代中國女作家論」(民国黃人影編, 上海・光華書局。1933年刊。264 P)。
"	"	〔書〕「冰心小説集」(民国冰心著, 上海・北新書局。1933年刊。341 P)。
"	"	〔書〕「子 夜」(民国茅盾著, 上海・開明書店。民国廿二年刊。577 P)。
"	"	〔書〕「春 蠶」(民国茅盾著, 上海・開明書店。民国廿二年刊。257 P)。
"	"	〔書〕「自 決 第1巻1期」(自決雜誌社編, 月刊。民国廿二年刊)。
"	"	〔書〕「Language」(米国版, L.Bloomfield. 1887-1947)。
"	"	〔書〕「動詞叙法の研究」(Studies in the Mood of the English Verb), 細井逸記, 泰文堂)。
"	"	〔書〕「仏語動詞時法考」(関根秀雄)。
"	"	〔書〕「朝鮮の聚落(前篇・中篇)」(総督府)
"	"	〔書〕「社還米制度」(朝鮮総督府中枢院)。
"	"	〔書〕「朝鮮最近の面影 - 宇垣総督講演 -」。
"	"	〔書〕「日満関係の研究」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「大満州国建設録」(駒井徳三)。
"	"	〔書〕「滿蒙ニ於ケル綿羊及羊毛ニ関スル踏査報告概要」(井島重保)
"	"	〔書〕「土俗学より観たる蒙古」(鳥居龍蔵)。
"	"	〔書〕「熱河をなぜ討つか」(毎日新聞)。
"	"	〔書〕「ピューリタン植民史の研究」(市村與市)。

西 曆	年 代	項 目
1933	"	〔書〕「満州帝国年報（第一次）」（国務院統計処。大同二年）。
"	"	〔書〕「第一次満州国年報」（国務院統計処。大同二年）。
"	"	〔書〕「満州国各県視察報告」（大同学院図書部委員。大同二年）。
"	"	〔書〕「支那に於ける共産運動」（日本外事協会編）。
"	"	〔書〕「国語研究」創刊（昭和18年まで）。
"	"	〔書〕「国語音声学概説」（佐久間鼎，同文館）。
"	"	〔書〕「露西亞語動詞句解辞典」（金田常三郎編訳，東京タイムス出版社）
"	"	〔書〕「蒙古語大辞典」（陸軍省編，偕行社。3冊。内容：上・中巻 蒙和之部，下巻 和蒙之部）。
"	"	〔書〕「非常時日本の教育」（社会教育会編）。
"	"	〔書〕「自発性の原理の展開」（佐藤熊次郎）。
"	"	〔書〕「人間学と国民教育」（近藤寿治）。
"	"	〔書〕「大日本教育通史」（辻幸三郎）。
"	"	〔書〕「教授思想の変遷」（横山栄次）。
"	"	〔書〕「本間信仰叢書（第三～六） —教育の秘訣他—」（本間俊平編）。
"	"	〔書〕「非常時日本の教育」（社会教育協会編）。
"	"	〔書〕「実察的労作教育」（三浦喜雄）。
"	"	〔書〕「労作教育」（小西重直）。
"	"	〔書〕「ベストロッチャーアンナ（ <small>ザイフェルト</small> ） にふさわしき妻（ <small>市村秀志</small> 訳補）」。
"	"	〔書〕「帝国教育会五十年史」（帝国教育会）。
"	"	〔書〕「大日本教科書総覧（上・下巻）」
"	"	〔書〕「江木千之翁経歴談（上・下巻）」（同刊行会）。
"	"	〔書〕「ソヴェト教育の全貌」（ロシア問題研究所訳）。
"	"	〔書〕「教育行政撮要」（下村寿一）。
"	"	〔書〕「早稲田叢誌 第一輯」（前田多蔵）。
"	"	〔書〕「南溟寮史（高知）」（南溟寮々史編纂部）。
"	"	〔書〕「青冥寮史」（富山高等学校）。
"	"	〔書〕「郷土教育施設概要」（山梨県女子師範学校）。
"	"	〔書〕「幼児に聴かせるお話」（日本幼稚園協会）。
"	"	〔書〕「 <small>コロンビア大学附属幼稚園</small> 及び低学年級の課程」（大阪市保育会研究調査部訳）
"	"	〔書〕「幼稚園教育の実際」（水沢義憲）。
"	"	〔書〕「 <small>第4回大谷派</small> 少年保護事業講習会講演会集」（高浜哲雄）。
"	"	〔書〕「小学校教育の常道」（羽田 穰）。
"	"	〔書〕「本邦小学校発達史」（木村泰夫）。
"	"	〔書〕「敬と愛の学校教育」（ <small>井上正記</small> 共著）。 <small>佐藤末吉</small>
"	"	〔書〕「中等学校教練」（学校教練研究会）。
"	"	〔書〕「歐羅巴大陸に於ける職業教育」（文部省）。

西 曆	年 代	項 目
1933	(昭和8年)	〔書〕「新思潮に立つ公民教育の真体系」(姫路師範学校、城北小学校)。
〃	〃	〔書〕「公民科実際研究」(鎌田謹吾)。
〃	〃	〔書〕「公民教育講演集」(公民教育会編)。
〃	〃	〔書〕「産業線に輝く人々・他」(大日本連合青年団編)。
〃	〃	〔書〕「勤労を中心とせる自給自足の農民教育」(相原言三郎)。
〃	〃	〔書〕「体験主義に拠る郷土教育」(松坂富之助)。
〃	〃	〔書〕「個性調査と職業指導の原理」(田中寛一)。
〃	〃	〔書〕「模範口演」(日本童話協会編)。
〃	〃	〔書〕「中等新刊図画 卷二・三」(日本図書手工協会)。
〃	〃	〔書〕「手工指導系統案と其実践」(三苫正雄著)。
〃	〃	〔書〕「用器画ノ解説 原理ト実際応用」(齊川梧堂)。
〃	〃	〔書〕「学校園の新経営」(田中円三郎)。
〃	〃	〔書〕「児童生活と社会化に基く」(関根 忠)。 算術教育の新考察
〃	〃	〔書〕「国語教育大道」(八波則吉)。
〃	〃	〔書〕「生命の綴方教授」(田上新吉)。
〃	〃	〔書〕「教育大衆に寄する綴方指導の話」(加藤 因)。
〃	〃	〔書〕「話し方指導の理論と実際」(山口信量、河上民祐)。
〃	〃	〔書〕「現代国語思潮(正・続)」(早部重太郎)。
〃	〃	〔書〕「大東亜言語建設の基本」(志田延義)。
〃	〃	〔書〕「本邦一般社会ニ於ケル主ナル体育運動場調」(文部大臣官房体育課)。
〃	〃	〔書〕「水泳ブルーニ関スル調査」(文部大臣官房体育課)。
〃	〃	〔書〕「性格教育の理論と実際」(仏性誠太郎)。
〃	〃	〔書〕「統一心理学」(稲毛金七)。
〃	〃	〔書〕「活用メンタルテスト」(児童精神科科学研究会)。
〃	〃	〔書〕「改訂法学通論」(中村進午)。
〃	〃	〔書〕「法学協会雑誌総索引(一~五十巻)」。
〃	〃	〔書〕「評訳公法判例大系(上下)」(美濃部達吉)。
〃	〃	〔書〕「英法概論」(田中和夫)。
〃	〃	〔書〕「朝鮮民情慣習回答彙集」(総督府中枢院)。
〃	〃	〔書〕「帝人事件記録(検事予審調書)七冊」(昭和8年・9年)。
〃	〃	〔書〕「豊島博士追悼論文及遺稿集」。
〃	〃	〔書〕「京大訣別記念法学論文集」(田中直吉)。
〃	〃	〔書〕「法学協会五十周年記念論文集(一・二部)」。
〃	〃	〔書〕「社会哲学的法理学」(中島 重)。
〃	〃	〔書〕「マルクス・エンゲルスにおける史的唯物論と法律」(平野義太郎)。

西 曆	年 代	項 目
1933	"	〔書〕「イマヌエルカント法律哲学」(恒藤 恭)。 船田亨二
"	"	〔書〕「日本法制史」(牧 健二)。
"	"	〔書〕「北海道における法制史」(安西光雄)。
"	"	〔書〕「 ^{増訂} 支那法制大辞典」(東川徳治)。
"	"	〔書〕「日本憲法要論」(佐々木惣一)。
"	"	〔書〕「各国選挙法規」(衆議院)。
"	"	〔書〕「衆議院議員選挙法改正案参考書」(事務局)。
"	"	〔書〕「公法判例評釈」(美濃部達吉。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「朝鮮行政法」(萩原彦三)。
"	"	〔書〕「東京緑地計画協議会(二)」(都市計画東京地方委員会)、 議事速記録
"	"	〔書〕「市町村例規提要」(大塚辰治)。
"	"	〔書〕「東京都制論」(池田 宏)。
"	"	〔書〕「明治大正大阪市史(全8巻)」。
"	"	〔書〕「新聞法制論」(榛原専一)。
"	"	〔書〕「日本新聞紙の研究」(上西半三郎)。
"	"	〔書〕「 ^{改正} 医師歯科医師法令釈義」(池田清志)。
"	"	〔書〕「西医学東漸史話・餘譚」(関場不二彦)。
"	"	〔書〕「フリードリッヒ・レントツ著」(小田垣光之輔訳)。 国家と社会
"	"	〔書〕「国家改造計画綱領」(中野正剛)。
"	"	〔書〕「學術維新日本原理」(箕田胸喜)。
"	"	〔書〕「皇室の御紋章」(作野恵作)。
"	"	〔書〕「明治・大正・今上三帝聖徳録」(渡辺幾治郎監)。
"	"	〔書〕「日本精神の自覚的還元」(秋葉正順)。
"	"	〔書〕「祭日・祝日謹話」(八束清貫)。
"	"	〔書〕「基督教愛国(第6・8号)」(松村成治編)。 鶴田雅二
"	"	〔書〕「大日本正義団写真略史」(正義時報社出版部)。
"	"	〔書〕「現代独裁政治論」(堀 真琴)。
"	"	〔書〕「政治学説史大要」(カスパリー・藤本直訳)。
"	"	〔書〕「立憲政友会 ^{功勞者} 追悼録」(青野権右衛門)。
"	"	〔書〕「政友会総覧」(同編纂所)。
"	"	〔書〕「民権発達史」(清水金八)。
"	"	〔書〕「京大法学部事件批判 一滝川教授の「刑法読本」検討一」(平田元吉)。
"	"	〔書〕「五・一五事件, 陸海軍大公判記」(時事新報社)。
"	"	〔書〕「五・一五事件と愛郷塾の全貌」(昆 貞)。
"	"	〔書〕「思想犯に関する保護事業参考資料」((財)輔成会)。

西 曆	年 代	項 目
1933	(昭和8年)	[書]「全日本国民に告ぐ」(荒木貞夫)。
"	"	[書]「日本(ポポフ)」(松崎敏太郎)。
"	"	[書]「近代国際政治史」(占部百太郎)。
"	"	[書]「ユダヤ民族迫害史」(木下哲太郎)。
"	"	[書]「日本民族の世界的膨張 —小林政助論文集—」(井深清庫編)。
"	"	[書]「壺月全集(上・下巻)二冊」(同刊行会)。
"	"	[書]「内村鑑三全集(全20巻)」(岩波書店)。
"	"	[書]「榊田清兵衛翁伝(秋田・政友会・本党)」(記念会)。
"	"	[書]「榊田清兵衛翁伝(大蔵次官弁護士)(同委員会)。
"	"	[書]「大将白川」(桜井忠温)。
"	"	[書]「海軍大将村上格一伝」(波多野貞夫)。
"	"	[書]「北雷田尻 ^上 先生伝 _下 (法博, 会計検院長, 東京市長)」(伝記編)。
"	"	[書]「浦門川田先生全集(鉄弥)」(高千穂学校編)。
"	"	[書]「二木博士講話集(医博)」(高木逸鷹編)。
"	"	[書]「峯間鹿水伝」(峯間氏還暦祝賀会記念刊行会)。
"	"	[書]「発明発見界之智囊—附年表—」(三石 巖 昌山久重)。
"	"	[書]「過渡期国際法」(アーイ・コロウヴイン著 米村正一訳)。
"	"	[書]「国際法学(上・中巻)」(天野徳也)。
"	"	[書]「国際判例研究(I・II)二冊」(横田喜三郎)。
"	"	[書]「講和会議を目撃して」(中野正剛)。
"	"	[書]「日本外交史」(満州亀太郎)。
"	"	[書]「連盟を脱退したら日本はどうなる」(東京日日新聞)。
"	"	[書]「聯盟脱退関係諸文書」(国際聯盟協会)。
"	"	[書]「国際連盟脱退ニ関スル詔書」(総理大臣告諭 文部大臣訓令)。
"	"	[書]「極東外交論叢」(三枝茂智)。
"	"	[書]「国際外交録」(杉村陽太郎)。
"	"	[書]「空中戦争論」(猶崎敏雄)。
"	"	[書]「陸軍解剖」(島崎英世)。
"	"	[書]「九官鳥事件」(稲垣梅太郎)。
"	"	[書]「刑法論綱(総・各論)」(平井彦三郎)。
"	"	[書]「刑法学粹」(宮本英脩)。
"	"	[書]「マルクス主義と刑法」(ピオントコスキー 井藤誉志雄)。
"	"	[書]「刑法同意論」(葉 清耀)。
"	"	[書]「刑法史のある断層面」(滝川幸辰)。
"	"	[書]「判例詐欺罪」(石塚寿夫編)。

西 曆	年 代	項 目
1933	"	〔書〕「刑事政策の諸問題」(木村亀二)。
"	"	〔書〕「思想犯罪取締法要論」(大竹武七郎)。
"	"	〔書〕「犯罪心理の研究」(菊池甚一)。
"	"	〔書〕「ソヴィエト」社会主義共和国」(外務省欧米局)。
"	"	〔書〕「連邦民法関係法令」(外務省欧米局)。
"	"	〔書〕「民法講話(上下)」(末弘巖太郎)。
"	"	〔書〕「民法一九二条の研究」(田島 順)。
"	"	〔書〕「日本担保法史序説」(小早川欣吾)。
"	"	〔書〕「入会権公権論」(佐藤百喜)。
"	"	〔書〕「不法行為と権利濫用の研究」(末川 博)。
"	"	〔書〕「朝鮮親族相続法」(藤田東三)。
"	"	〔書〕「親族法」(穂積重遠)。
"	"	〔書〕「失踪法論」(大谷美隆)。
"	"	〔書〕「有限責任会社法論」(佐々 穆)。
"	"	〔書〕「火保研究(一卷)」(井口武三郎)。
"	"	〔書〕「改正手形法・小切手法註解(二冊)」(菰渕清雄。~昭和9年)。
"	"	〔書〕「全訂 信託法原論」(入江真太郎)。
"	"	〔書〕「特殊信託研究」(藤原 泰)。
"	"	〔書〕「地方税制講話」(田中広太郎)。
"	"	〔書〕「関税政策論」(ビヴェリッジ)。 藤井茂訳
"	"	〔書〕「会計法規辞典」(岸田 愿)。
"	"	〔書〕「金融市場の世界的動揺」(経済批判会訳)。
"	"	〔書〕「小額金融制度論」(井関孝雄)。
"	"	〔書〕「銀行及金融市場」(松崎 寿)。
"	"	〔書〕「為替と金銀問題」(大島堅造)。
"	"	〔書〕「外国為替管理法の機能」(大口喜六)。
"	"	〔書〕「 <u>緬</u> 滿州出張報告」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「ジンメル貨幣哲学(分析篇)」(堀井 実訳)。
"	"	〔書〕「貨幣制度概説」(荒木光太郎)。
"	"	〔書〕「賸造通貨」(山鹿義教)。
"	"	〔書〕「将来の通貨制度」(同研究会)。
"	"	〔書〕「インフレーションに関する調査(第一~七)」(東京商工会議所)。
"	"	〔書〕「銀に関する 一般的調査と最近の銀問題」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「銀及銀貨低落の研究」(東亜経済調査局編)。
"	"	〔書〕「東京社会科学研究所年報(第一輯)」(尾高邦雄・他)。
"	"	〔書〕「社会科学と社会哲学」(尾高邦雄・他)。
"	"	〔書〕「社会思想史」(カール・フォルレンダア・高橋正男)。

西 曆	年 代	項 目
1933	(昭和8年)	〔書〕「明治初期社会思想の研究」(加田哲二)。
"	"	〔書〕「支那古代社会史」(早川二郎)。
"	"	〔書〕「農村調査」(京都帝国大学)。
"	"	〔書〕「小農に関する研究」(横井時敬)。
"	"	〔書〕「村と友働」(小野武夫)。
"	"	〔書〕「農村社会哲学」(加藤一夫)。
"	"	〔書〕「富民叢書(第一～三集) —農村婦人・托児所・他—」(西村健吉)。
"	"	〔書〕「村落栄養改善実施成績報告」(群馬県警察部衛生課)。
"	"	〔書〕「農村社会事業」(賀川豊彦)。
"	"	〔書〕「朝鮮の社会事業」(朝鮮総督府学務局)。
"	"	〔書〕「水上生活者の生活現状」(東京府社会課)。
"	"	〔書〕「製鉄所外五社(釜石鉦山・三菱他)。(福利施設概況)」。
"	"	〔書〕「民衆娯楽調査資料。(五輯)」(文部省)。
"	"	〔書〕「愛知県方面委員制度十年史」(愛知県)。
"	"	〔書〕「方面委員の槩」(台北市社会事業助成会)。
"	"	〔書〕「朝日新聞社社会事業団 公衆衛生訪問婦協会第三周年事業報告」。
"	"	〔書〕「婦人会講演集」(大阪府学務部)。
"	"	〔書〕「現代婦人の使命」(帆足みゆき)。
"	"	〔書〕「虚弱児童の養護及治療指針」(宮原立太郎)。
"	"	〔書〕「養育院六十年史」(東京市養育院)。
"	"	〔書〕「活版経籍考」(川瀬一馬)。
"	"	〔書〕「我国の放送事業」(畠山敏行)。
"	"	〔書〕「ヘーゲル哲学と弁証法」(田辺 元)。
"	"	〔書〕「明治初期社会思想の研究」(加田哲二)。
"	"	〔書〕「島(一～六号)」(柳田国男他編)。
"	"	〔書〕「宝塚少女歌劇二十年史」。
"	"	〔書〕「ガラス細工」(杉江重成)。
"	"	〔書〕「ボール ピック労働法(上下)」(協調会)。
"	"	〔書〕「日本主義労働運動の真髓」(神野信一)。
"	"	〔書〕「労働者保護法規概説」(北岡寿逸)。
"	"	〔書〕「労働保護法規並解釈例規」(産業福利協会)。
"	"	〔書〕「日本現下の失業量の測定」(協調会調査課)。
"	"	〔書〕「失業状況推 定月報概要(昭和4/9～8/8)」(社会局)。
"	"	〔書〕「職業統計問題研究」(岡崎文規)。
"	"	〔書〕「春藁高値の各方面に及ぼしたる影響」(長野市職業 紹介所調査)
"	"	〔書〕「職業解説及適正」(東京地方職業紹介事務局編)。

西 曆	年 代	項 目
1933	"	〔書〕「智的職業の選び方」(大日本職業指導協会)。
"	"	〔書〕「 <small>自一九二三年 至一九三〇年</small> 英国失業保険法」(社会局社会部)。
"	"	〔書〕「技術と経済」(馬場敬治)。
"	"	〔書〕「鉄鋼及び石炭業に於ける企業組織」(目崎憲司)。
"	"	〔書〕「九州水力電気株式会社二十年沿革史」(九州水力電 気株式会社)。
"	"	〔書〕「川口鑄物工場診断」(協調会)。
"	"	〔書〕「蚕絲業に関する道府県の施設概要」(農林省)。
"	"	〔書〕「生絲市場論」(志村茂治)。
"	"	〔書〕「内外綿業年鑑(七冊)」(日本綿業倶楽部。~昭和13年・16 年)。
"	"	〔書〕「全日本国産洋服博覧会 日本全国洋服商大会」記念誌」(大阪洋服商同業組合)。
"	"	〔書〕「幡州特産金物発達史」(小西勝次郎)。
"	"	〔書〕「発電水力」(萩原俊一)。
"	"	〔書〕「大気中の光象」(藤原映平)。
"	"	〔書〕「日本に於ける農業問題」(青木恵一郎)。
"	"	〔書〕「日本農政史」(矢野友一)。
"	"	〔書〕「農業地理学」(伊藤光司)。
"	"	〔書〕「養魚と農園」(片岡直方)。
"	"	〔書〕「米穀政策資料」(農林省米穀部)。
"	"	〔書〕「日本米価変動史」(中沢弁次郎)。
"	"	〔書〕「地代論研究」(向坂逸郎)。
"	"	〔書〕「農業土地政策論」(沢村 康)。
"	"	〔書〕「福岡県旧藩・ <small>久留米藩 仲津藩 小倉藩</small> ・田制貢租ニ関スル調査」(福岡県内務 部)。
"	"	〔書〕「今日の農村問題 (農村経済の全面的検討と農村政策の提唱)」(橋本伝左衛門・永 井彰一共編)。
"	"	〔書〕「農村と更生する人々」(農業学校長協会編)。
"	"	〔書〕「農村生活の調査」(東京帝国大学 農学部農政学)。
"	"	〔書〕「森林と治水」(農商務省)。
"	"	〔書〕「富山県の林業」(富山県内務部)。
"	"	〔書〕「日本漁業法註解」(星 四郎)。
"	"	〔書〕「漁村経済の研究」(東京帝国大学農学部)。
"	"	〔書〕「畜産学年報(第一輯)」(日本畜産学会)。
"	"	〔書〕「管内ノ養鶏」(農林省)。
"	"	〔書〕「大阪府下に於ける永小作地並其の整理」(大阪府内務部)。

西 曆	年 代	項 目
1934	(昭和9年)	
"	1・1	中央軍、福建人民政府への総攻撃開始。
"	1・12	〔日〕日蒙協会、財団法人認可。会名を善隣協会と改称。
"	1・13	福建政府潰滅。
"	1・17	中央政治会議、「内蒙自治弁法」決定。
"	1・18	中共第六期五中全会(瑞金)。「王明路線」。
"	1・20	国民党四中全会(～25日)。
"	1・22	瑞金で第二回全国ソビエト代表者大会開く(～2月7日)。
"	1・23	陸相荒木貞夫、病気で辞任。後任に林銑十郎任命。
"	1・24	政友会安藤正純、衆議院で軍民離間問題についての軍部声明を追及(問題化)
"	1・26	独・ポーランド不可侵条約調印。
"	"	ソ連共産党第十七回大会(～2月10日)。
"	1・	〔教〕文部省学生部「左傾学生生徒の手記」('35年3月までに3輯)
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三七八号)。 (同上)「観音庄の国語普及に就いて」(観音庄)。
"	"	〔書〕「全言聖語辞典」(三井晶史・菅原法嶺共編、東方書院)。
"	"	〔書〕「現代医学大辞典 縮冊増補改訂版」(神田龍一ほか著、現代医学大辞典刊行会。～4月。十三冊。「Encyclopedia Medicinæ Contemporariæ」)。
"	"	〔書〕「現代教育辞典」(日本教育學術協会編、不朽社)。
"	"	〔書〕「現代俳人名彙」(金児農夫雄、素人社書屋)。
"	"	〔書〕「国民政治辞典」(松元竹二ほか、非凡閣)。
"	"	〔書〕「出版編輯事典、上巻出版印刷篇」(清光館編輯部編・著、清光館書房)。
"	"	〔書〕「日用三万語新辞典」(久保得二・高須芳次郎共編、新潮社)。
"	"	〔書〕「山梨県方言辞典」(羽田一成編著、甲府・大和書店)。
"	"	〔書〕「文學季刊 第1巻1期～第2巻4期」(文學季刊社編、北平・立達書局。季刊。民国廿三年一月～廿四年十二月)。
"	2・3	「五・一五事件」民間側判決(最高無期懲役)、軍人側に比べ重罪。
"	2・7	商相中島久万吉、貴族院で「足利尊氏論」を追及される。2月9日辞任。
"	2・10	関東軍と中国軍との間に、山海関付近接收に關し申合せ成立、即日接收。3月4日古北口付近を接收。接收地域の反日策動禁止。
"	2・11	〔教〕「日本文化協会発会(国民精神文化研究所の事業に協力する団体。 '35年10月20日、小学校教員の第一回思想講習会開催)。

西 暦	年 代	項 目
1934	2・16	ロンドンで英ソ新通商条約協定調印。
"	2・21	外相広田弘毅，米國務長官ハルに日米関係調整につき非公式メッセージを送る。3月3日，ハル，いずれの国をも害さぬ解決を望むと回答。
"	2・22	中共中央執行委員会より満州省委あて二月書簡。
"	2・27	政友会の久原房之助，政党合同は急務と声明。
"	2・	〔書〕「台湾教育」（第三七九号）。 （同上）「国語庄 一 田寮」（朱 萬成）。 （ 〃 ）「国語の普及について」（巻頭言）。
"	"	〔書〕「第一教育」（第十三卷第二号）。 （同上）「朗読法について」（蔡禹鼎）。 （ 〃 ）「読み方の読みと綴方の鑑賞」（豊永青白）。
"	"	〔書〕「現代商業編輯文辞典」（大阪・忠文館編・刊）。
"	"	〔書〕「書道用語辞典」（涼木貞雄，赤城出版社）。
"	"	〔書〕「草書絵入新漢和辞典」（志田義秀監修，学術出版社）。
"	"	〔書〕「新修百科大辞典」（三省堂百科辞典編集部編，三省堂）。
"	"	〔書〕「農業大辞典」（日本評論社編刊）。
"	"	〔書〕「露和・和露ソヴェート現行法律用語集」（胡麻木篤一編，橘書店。 「РУССКО-ЯПОНСКИЙ СЛОВАРЬ СОВЕТСКОГО ДЕЙСТВИЯ И ОЩЕРО ЗАКОНОДАТЕЛЬСТВА」）。
"	"	〔書〕「經濟評論 第1巻1・2号」（中國經濟評論社。月刊。民国廿三年二～三月）。
"	3・1	満州国帝制実施（執政溥儀，皇帝となり，「康德」と改元）。
"	"	〔日〕 文部大臣鄭孝胥。
"	3・3	〔教〕 鳩山文相，綱紀問題で辞任。
"	3・7	中央政治会議，「蒙古地方自治政務委員会」任命（蒙政会，指導長官何応欽）。
"	3・8	〔日〕「関東州公学堂規則中改正」〔関東庁令第七号〕（「関東州公学堂規則中左ノ通改正ス 第四条，第五条，第十九条，別記第一号，第二号表及別記学籍簿様式中「中国文」ヲ「満州語」ニ改ム 第二七条第二項中「日支两国語」ヲ「日満两国語」ニ改ム 附則 本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。
"	"	〔日〕「関東州普通学堂規則中改正」〔関東庁令第八号〕（「関東州普通学堂規則中左ノ通改正ス 第七条，第二十一条，別表及別記学籍簿様式中「中国文」ヲ「満州国語」ニ改ム 第二十六条第二項中「日支两国語」ヲ「日満两国語」ニ改ム 附則 本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。

西 暦	年 代	項 目
1934	3・14	〔教〕 三上参次，貴族院で中等学校の英語の授業時間数減少を主張，論議起こる。'35年度より高女・農学校などで廃止，時間減少の傾向現れる。
"	3・16	衆議院，取締強化をはかる治安維持法改正案を若干和らげて修正可決，3月25日両院協議会で審議未了。
"	"	〔日〕「庁地方費立花蓮港高等女学校学則中改正」〔台湾総督府令第二十八号。施行昭和九年四月一日〕（「第六条中「国語」ヲ「修身，国語」＝「日本歴史」ヲ「国史」＝改ム」）。
"	3・19	〔国〕 臨時国語調査会で国号呼称統一案を決定発表。
"	3・22	〔国〕 文部省臨時国語調査会，国号を「ニッポン」と称する案を政府に提出（正式決定には至らず）。
"	3・	〔書〕「最新日語速成法」（揚偉昌，民国廿三年三月初版）。
"	"	〔書〕「 [㊦] プロレタリア教育の教材」（文部省学生部）。
"	"	〔書〕「 ^{熟語} _{明解} 漢和大字典」（高橋重蔵著，交同館）。
"	"	〔書〕「国民百科大辞典」（富山房編・刊～昭和13年4月。14冊）。
"	"	〔書〕「式辞文範辞典」（岩井智海編，東方書院）。
"	"	〔書〕 シンフォニー音楽辞典（伊庭孝著，シンフォニー楽譜出版社）。
"	"	〔書〕「綜合支那語発音字典」（藤木敦実・麻喜正吾共編，外語学院出版部）。
"	"	〔書〕「フランス語動詞逆引辞典」（沢柳貞晴，外語研究社）。
"	"	〔書〕「平易実用用字辞典」（米納寿三郎編，広陵社）。
"	"	〔書〕「矛盾 第3巻1期」（民国汪錫鵬等編，矛盾月刊社。月刊。1934年3月）。
"	"	〔書〕「亞波羅 第13期」（西湖国立杭州藝術運動社編，西湖国立杭州芸術専科学校。隔月刊。民国廿三年三月）。
"	4・3	〔教〕 全国連合小学校教員会，全国代表3万5000余人を集め，宮城前で，全国小学校教員精神作興大会を開催。天皇臨幸して勅語下賜，続いて各地方で大会開催。
"	4・4	ソ連。ポーランド・バルト諸国との不可侵条約を更新（10か年間）。
"	4・10	中共，「全国民衆に告ぐるの書」を発表，反日統一戦線・抗日救国の「六大綱領」提示。
"	4・11	蔣・汪・黄郛，南昌で会談，華北問題解決につき黄に大幅の権限付与。
"	4・17	外務省情報部長天羽英二，談話で，東亜の秩序維持は日本の単独責任とし，列国の対中国共同援助に反対（「天羽声明」）。
"	4・18	〔日〕 国際文化振興会発会式（外務省文化事業部の補助団体）。

西 曆	年 代	項 目
1934	"	中国国民政府外交部長汪兆銘，駐華公使有吉に，満州問題を留保しての日中友好を談話。
"	4・19	日印通商条約及び議定書，シムラで調印。7月12日ロンドンで正式調印。
"	4・25	中国外交当局，天羽声明に関し，他国の内政干渉を許さずと態度を表明。
"	"	独軍顧問団着任（団長ゼクト將軍），中央軍強化。
"	"	司法省，思想検事設置。
"	4・26	北滿鉄道譲渡交渉，ソ満中間会議，7か月ぶりに開かれる。
"	4・29	米，天羽声明に反駁通告。
"	4・	「国民道德振作ニ関スル勅語」発布。
"	"	〔日〕 善隣協会，蒙古学生十名を参謀本部の委嘱により收容，教育にあたる。
"	"	〔書〕「速成日語文法」（張廣中，開華書局。民国廿二年一月初版，民国廿三年四月再版）。
"	"	〔書〕「模範日華新辞典」（黄鑑村，文芸書局。民国廿三年四月初版）。
"	"	〔書〕「新修百科大辞典」（新修百科大辞典編纂部（代表者長谷川誠也）編，博文館）。
"	"	〔書〕「日英華語対訳鉄道用語辞典」（中本弥吉，大連・金鳳堂書店）。
"	"	〔書〕「日用漢字正解」（高田忠周著，西東書房）。
"	"	〔書〕「類句作例俳句辞典」（大江圭虫編，一心社）。
"	"	〔書〕「日独羅医語辞典」（五十嵐省吾編，南山堂）。
"	"	〔書〕「人間世 第1～29期」（民国林語堂編，上海・良友圖書印刷。半月刊。民国廿三年四月～廿四年六月）。
"	"	〔書〕「文藝茶話 第2巻9期」（文藝茶話月刊社編，上海・嚶嚶書屋。月刊。民国廿三年四月）。「紀念劉大白先生特刊」。
"	"	〔書〕「第一教育」（第十三巻第四号）。 （同上）「合科学習における生活国語訓練の実相」（高野柔威）。
"	"	〔日〕 国語解者調（四月末現在，公学校生徒数359267，同上卒業者累計429018，国語普及施設生徒数359267，同上修了者累計400366，合計1287174，本島人口4759197，国語解者百分比27.0）。
"	5・2	出版法改正〔法律〕公布（皇室の尊嚴冒瀆・安寧秩序の妨害などの取締を強化。レコード検閲）。著作権法改正〔法律〕公布。
"	5・3	宋慶齡らの中国民族武装自衛委員会，「対日作戦宣言」と「基本綱領」を発表。

西 曆	年 代	項 目
1934	5・14	山海関で、満華通車に関し秘密協議会。
"	5・15	〔日〕 15日現在、簡易学校児童数19590人。
"	5・17	貴族院議長近衛文麿、親善使節として渡米。6月8日ワシントンで大統領ルーズベルト・国務長官ハルと会談。
"	5・24	ブラジル、「外国移民入国に対する二分制限法」、新憲法制定議会を通過。7月16日公布。
"	5・29	米・キューバ間に協定調印。
"	5・30	中国中央政治会議、解決原案承認(7・1より実施)。
"	5・末	〔日〕 朝鮮普通学校数2216校、児童数636958人。
"	5・	〔書〕「日華辞典」(何若。何孚肅・蕭超懐共著、世界書局。民国廿三年五月初版)。
"	"	〔書〕「古今和歌評釈辞典」(藤栖舎鶴峰編、東光書院)。
"	"	〔書〕「植物社会学語彙」(ブロン・ブランケ・パヴィヤール共著、郷土教育聯盟訳、刀江書院)。
"	"	〔書〕「農村問題辞典」(小野武夫監修、松元竹二・田所輝明編集、非凡閣)。
"	"	〔書〕「航空用語辞典」(高松均編、修教社書院)。
"	"	〔書〕「文化批判 第1巻1号」(北平・文化批判社 月刊 民国廿三年五月)。
"	"	〔書〕「天津漫画 第1巻1期」(民国周維善等編、天津・天津漫画社。月刊。1934年5月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三八二号)。 (同上)「第二種国語読本を中心とする国語研究について」(瑞穂小学校)。
"	6・1	〔教〕 文部省、学生部を拡充して、思想局設置〔勅令〕。
"	"	独・ユーゴ間に通商協定調印。
"	6・6	蓑田胸喜、東京帝大法学部教授末広殿太郎を治安維持法違反・不敬罪・朝憲紊乱罪で告発。
"	6・8	バタビヤ(ジャカルタ)で日蘭会商第一回公式会議開催。12月17日、不調のまま延期決定。12月21日打ち切り。
"	"	南京で蔵本書記生事件発生、第三艦隊旗艦出雲、南京へ急行、13日書記生発見。
"	6・9	ソ連・ポーランド・ルーマニア間に協定調印。相互の国境を保障(ルーマニアのベッサラビア領有)を承認。

西 暦	年 代	項 目
1934	6・12	英議会，南ア連邦地位法可決。南アを独立主権国家と規定。
	"	米議会，互惠通商可決。
"	6・27	仏外相バルトウー，「東欧ロカルメ」安全保障案を提案。
"	6・29	〔書〕「大辞典」（平凡社。刊行開始。～昭和11年）。
"	6・	国際電話網，台湾との間に無線電話の業務開始。8月，満州との間に業務開始。
"	"	〔書〕「国学者伝記集成」（大川茂雄・南茂樹，国本出版社。～8月。2冊）。
"	7・1	関東軍と華北当局間の通車協定による北平・奉天間の直通列車運行開始。
"	7・3	中国，親日関税実施。
"	"	斎藤内閣総辞職。
"	7・8	岡田啓介内閣成立（外相広田弘毅）。
"	7・15	瑞金政府・紅軍，抗日先遣部隊の「北上抗日宣言」を発表。
"	"	〔書〕「 ^訳 解 日語肯綮大全」（松本亀次郎著，東京・有隣書屋。422p）。
"	7・23	関東軍岡村寧次少将，駐平政務整理委員会代表殷同，大連で会談，7月24日非武装地帯内の諸問題，通郵問題などにつき合意（第二次大連会議）。
"	7・25	関東軍，「対内蒙施策要領」立案。
"	7・26	近畿防空大演習開始。
"	7・	〔日〕 タボンダ・セーラピラジュサーラ日本語学校（サンパウロ市タボンダセーラ）開校。
"	"	〔書〕「最新日語速成法」（楊偉昌，民国廿三年三月初版，民国廿三年七月再版）。
"	"	〔書〕「最新鉄道常識辞典」（小山敏編，不二出版社）。
"	"	〔書〕「思想月報」（内務省 [㊟] ）。
"	"	〔書〕「第一教育」（第十三卷第七号）。 （同上）「公学校綴方鑑賞文と其の取扱（豊永盛実）。
"	8・6	陸軍省，在満機関改組原案を発表。8月20日拓務省原案発表。
"	8・19	ヒトラー，首相と大統領を兼任。

西 曆	年 代	項 目
1934	8・	〔書〕「台湾教育」(第三八五号)。 (同上)「日記指導の実際」(宋登才)。
〃	〃	〔書〕「社会科学辞典」(森戸辰男監修, 非凡閣)。
〃	9・12	在満機構改革問題をめぐる陸軍・拓務省の対立から, 関東庁職員総辞職を決議。
〃	9・14	閣議, 在満機構改革案を承認。
〃	9・17	満州住友鋼管㈱設立(本社鞍山。資本金1000万円)。
〃	9・18	ソ連邦, 国際連盟に加入。
〃	9・	〔日〕 善隣協会, 徳王委託の蒙古学生八名を收容, 教育にあたる。
〃	〃	朝日新聞社, 東亜経済調査会設置。
〃	〃	〔書〕「模範日文教本」(復旦大学教授陳清金, 作者新社, 民国廿三年九月初版)。
〃	〃	〔書〕「満州国人児童生徒の日本語誤謬調査」(鉄嶺日本語学堂, 満鉄研究要報第二輯)。
〃	〃	〔書〕「満州国人児童生徒の日本語助詞誤謬調査」(鉄嶺日本語学堂, 満鉄研究要報第二輯)。
〃	〃	〔書〕「満州国人児童の語る日本語の助詞の誤謬」(飛田年尾, 満鉄研究要報第二輯)。
〃	〃	〔書〕「 ^{日華} 対照 日語音読」(李君達, 世界書局, 民国廿三年九月初版)。
〃	〃	〔書〕「自然科学辞典」(石原純監修, 宮里良保・佐久恵一ほか著, 非凡閣)。
〃	〃	〔書〕「文例類句 新書翰文辞典」(有馬祐政, 春洋社)。
〃	〃	〔書〕「音訓引・新語・草書入詳解漢和大辞典」(松田弘毅編)。
〃	〃	〔書〕「工業化学語彙」(増訂再版。工業化学会工業化学語彙編纂委員会編, 工業化学会刊)。
〃	〃	〔書〕「国語新語最新大辞典」(久保天随編, 淡海堂)。
〃	〃	〔書〕「英語類語辞典」(井上義昌編, 開拓社)。
〃	〃	〔書〕「第一教育」(第十三卷第九号)。 (同上)「読方科に於ての朗読法に就て(一)〜」(菊地道丸)。
〃	〃	〔書〕「台湾教育」(第三八六号)。 (同上)「言葉調子の指導」(台北第一師範附属公学校)。 (〃)「児童の書写」(台北第一師範附属公学校)。

西 曆	年 代	項 目
1934		(同上)「国語普及を論じて現代に及ぶ」(伊藤慎吾) (#)「児童自由詩」(北原白秋。~三八七号)。
"	10・1	陸軍省,「国防の本義とその強化の提唱」(いわゆる「陸軍パンフレット」) を頒布(広義国防を主張)。
"	10・3	政友会,陸軍パンフレットにつき非難声明。
"	10・7	拓務省の全員,在滿機構改革案反対の具申書を提出。
"	10・11	有吉公使,汪兆銘訪問,汪より大使館昇格問題提起。
"	10・15	中国紅軍,瑞全を脱出して長征(「大西遷」)開始。11・10国民政府軍, 瑞金を占領(第五次掃共戦終わる)。
"	10・26	第一次張北事件起こる。
"	10・	10月統計,南洋群島人口,カナカ46467,チャモロ3870人。
"	10・	[書]「 ^{日華} 日語造句」(鄧理平,世界書局,民国廿三年十月再版)。
"	"	[書]「 ^{対照} 教育部審訂現代日語上巻」(蔣鑑,生活書局,民国十九年二月初 版,民国廿三年十月十九版)。
"	"	[書]「 ^{注音} 自修日語読本」(李仲剛,大連善隣社,民国廿三年十月三版)
"	"	[書]「 ^{訳解} 日華辞典」(何若,何孚肅・蕭超懷共著,世界書局。民国廿三年 五月初版,民国廿三年十月三版)。
"	"	[書]「日本現代語辞典」(葛祖肅,商務印書館。民国十九年十月初版, 民国廿三年十月四版)。
"	"	[書]「日 文 第1巻1号」(橋本瀛紅編,北平・日文社。隔月刊。民 国廿三年十月)。
"	"	[書]「 ^新 文画報 第1巻1号」(民国葉靈鳳,穆時英共編,上海雜誌公 司。月刊。民国廿三年十月)。
"	"	[書]「水 星 第1巻1期~第2巻2期」(民国卞之琳等編,北平・文 華書局。月刊。民国廿三年十月~廿四年五月)。
"	"	[書]「當代文學 第1巻4期」(當代文學社編,天津・天津書局。月刊。 民国廿三年十月)。
"	"	[書]「新訳中学和英辞典」(第六〇版。福喜多靖之助・林弘之共著,河 野成光館)。
"	"	[書]「美術辞彙」(美術文化研究会編,興文社)。
"	"	[書]「ペン・毛筆七体辞典」(井上千圃・石川雅山)。
"	11・1	満州電業(株)設立(本社新京,資本金9000万円。社長吉田豊彦)。
"	"	満鉄,大連・新京間に特急あじあ号運転開始(701.4Km。8時間30分)
"	11・3	東北各県の生活綴方教師,北日本国語教育連盟を結成。

西 暦	年 代	項 目
1934	11・4	第一回天理村開拓団，満州へ出発。
"	11・5	〔書〕「文章読本」（谷崎潤一郎，中央公論社刊）。
"	11・7	蔵相藤井真信，陸海両相に予算復活の削減を要請。（11月22日，軍部，復活を強調。11月27日，蔵相病氣辞任，後任に高橋是清任命）。
"	11・10	国民政府軍，瑞金占領，第五次掃共戦終わる。
"	11・13	満州国，石油専売法を公布（米・英・蘭抗議）。
"	11・20	村中孝次・磯部浅一ら青年将校，クーデタ計画容疑で検挙（「士官学校事件」統制派・皇道派対立激化の契機となる）。
"	11・	〔書〕「自然人文地理学辞典」（塚田忠泰著，大同館）。
"	12・1	〔日〕 第二十一回全島国語演習会（場所，台北市樺山小学校，参加人数63名，番外164名）。
"	"	レニングラードソビエト議長キーロフ暗殺される（粛清事件の端緒）。
"	12・3	閣議，ワシントン条約単独廃棄を決定。12月29日米国に通告。
"	12・5	伊・エチオピア軍，ワルワルで衝突（エチオピア問題起こる）。
"	"	〔書〕「法律学辞典」（末広巖太郎，田中耕太郎編。岩波書店。～昭和12年3月8日。全5巻）。
"	12・10	国民党，第四期中中全会（～14日。南京）開催。
"	"	昭和9年度追加予算公布（災害復旧対策費2億1100万円のうち昭和9年度分等7100万円追加）。
"	"	凶作地に対する政府米臨時交付法〔法律〕公布。12月21日施行（東北冷害・西日本旱害・関西風水害のため米作など大凶作，水陸稲実収高5184万石）。
"	12・13	日中通郵協定調印（翌年1月10日から実施）。
"	12・14	関東軍と中国側との通郵協定成立。
"	12・15	〔書〕「アンリー・フレエ著 誤用の文法」（小林英夫，春陽堂）。
"	12・19	蔣，杭州に赴き王寵惠と会談（翌年2月王訪日の下工作）。
"	12・21	〔国〕 国語審議会官制〔勅令第三三一号〕（臨時国語調査会廃止）。
"	"	広田・ユレニエフ会談で，北満鉄道買収支払保償などほほ話し合い成立。
"	12・22	〔国〕 文部省に国語審議会を設置。

西 暦	年 代	項 目
1934	12・24	関東軍と華北側との間に設関協定成立（満州国と中国が相互に国境に税関を設置）。
"	12・26	「対満事務局官制」〔勅令〕公布，林陸相総裁を兼任（「在満機構改革問題」収束）。
"	12・29	閣議決定により斎藤大使，ハル国務長官にワシントン条約廃棄通告。
"	12・	〔日〕 満州国，省改編，各省教育庁内に学務・礼教の二科を置く。
"	末	昭和9年末統計 朝鮮在住の朝鮮人2051万3804人，台湾在住の本島人473万3816人，台湾在住の高砂族14万8472人，内地人262964人。
"	"	昭和9年末統計 樺太の土人，アイヌ1512人，オロッコ302人，ニクブン115人，キーリン16人，サンダー10人，ヤワーツ3人。
"	12・	〔書〕「日語一月通」（世界言語社編訳，世界書局，民国廿三年十二月初版）。
"	"	〔書〕「日語文法（上冊）」（唐新如，百新書局，民国廿三年十二月初版）。
"	"	〔書〕「 ^{自習} 適用日語文芸読本」（葛租肅，商務印書館，民国廿年六月初版，民国廿三年十二月三版）。
"	"	〔書〕「現代知識辞典」（三井晶史，菅原法嶺共編，東方書院）。
"	"	〔書〕「三体ペン字くづし方とモダン用語辞典」（書道研究会編，中村書店）。
"	"	〔書〕「日蘭辞典」（ファン・デ・スタット著，台北南洋協会台湾支部）。
"	"	東北地方の冷害・大凶作で，秋から冬にかけ，借金累積，娘の身売り，欠食児童，行き倒れ，自殺，厳寒など惨状を極める。
"	"	中等学校における英語科の重要性に関する声明書（石川林四郎，英語教授所第十一回全国大会発表）。
"	"	〔日〕 第一回日米学生会議開催（東京）。
"	"	〔日〕 中国人留学生数（満州757，支那1411，計2168。「台湾青年」第四一六号，昭和12年3月号による）。
"	"	〔教〕「小学校教員ニ賜リタル勅語」
"	"	〔教〕「国民道徳振作ニ関スル勅語」
"	"	〔日〕 本溪湖工業実習所開校（学生，日本人，中国人）。
"	"	〔日〕 善隣協会（蒙古留学生部を含む）発足。
"	"	〔日〕 満州国留学生会館設立。
"	"	〔日〕 この年，満州国，国民学校12896 学生数830960名，中等学校346，学生数40777，専門学校5，学生数544，私立学校5403，学生数100223）。

西 曆	年 代	項 目
1934	(昭和9年)	〔日〕 ホセセバス日本語学校(ホセ・セ・バス)開校。
"	"	〔日〕 ブルサコ日本語学園(ブルサコ)開校。
"	"	〔日〕 だるま塾(サンパウロ市ピラノーバカシヨエリンニヤ)開校。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 学生数, 本島人432, 高砂族3, 卒業数, 本島人117, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数, 本島人8996, 高砂族59, 卒業数, 本島人3901, 高砂族22)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育を受けた本島人児童数・卒業数(小学校, 生徒数, 本島人2145, 蕃人30, 卒業数, 本島人330, 蕃人7, 小学校高等科, 生徒数, 本島人272, 蕃人9, 卒業数, 本島人111, 蕃人3)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 生徒数2190, 高砂族3, 卒業数, 本島人370, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校, 生徒数, 本島人1586, 高砂族2, 卒業数, 本島人421, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人1458, 高砂族7, 卒業数, 本島人292, 高砂族1, 実業補習学校, 生徒数, 本島人1663, 高砂族96, 卒業数, 本島人684, 高砂族54)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人2357, 高砂族15, 卒業数, 本島人493, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 高等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数127, 卒業数36)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数28, 卒業数6)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数240, 卒業数73)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数188, 生徒数7576, 卒業数1443)。
"	"	〔日〕 国語講習所調(国語講習所960, 生徒数28265, 簡易国語講習所882, 生徒数30712, 合計所数1842, 生徒数58977)。
"	"	〔日〕 朝鮮総督府における調査(稍々解し得る者857268, 普通会話に差支なき者833612, 計1690880)。
"	"	〔書〕「公学校用漢文読本編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用日本歴史第二種編纂趣意書」(台湾総督府)。

西 曆	年 代	項 目
1934	"	〔書〕「公学校地理書第二種編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用国語教授書第二種第一・二学年用」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科国語読本解説」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校簿記書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校算術書第二種教師用第一～第六学年」(台湾総督府。昭和9年～10年)。
"	"	〔書〕「公学校算術書第二種第三～六学年用」(台湾総督府。昭和9年～10年)。
"	"	〔書〕「公学校唱歌第一～六学年」(台湾総督府。昭和9年～10年)。
"	"	〔書〕「公学校高等科農業書卷一, 二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「補習学校農業教科書畜産篇」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「補習学校農業教科書土壤肥料篇」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「補習学校農業教科書園芸作物篇」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「国語教授参考掛図一～三」(台湾総督府, 昭和9～10年)。
"	"	〔書〕「公学校各科学習指導の実際」(台中市幸公学校編)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本の発音とアクセント」(池田悟郎)。
"	"	〔書〕「Colloquial Japanese」(William・M・McGovern:Kegan Paul)。
"	"	〔書〕「五十音順索引日華大辞典」(東方印書館編譯所編, 奉天・東方印書館。866p)。
"	"	〔書〕「日語百日通」(民国范天馨編, 上海・百新書店。民国廿三年刊。812p)。
"	"	〔書〕「日本語教授の実際的研究」(山口喜一郎。中国人に対する日本語教授の具体的解説)。
"	"	〔書〕「月刊日文與日語」(日文與日語社編, 北京人人書店。民国廿三年)。
"	"	〔書〕「実用会話日語指南」(游彌堅, 民国廿三年)。
"	"	〔書〕「 ^{日華} 対照日語会話」(葉万華, 世界書局。民国廿三年)。
"	"	〔書〕「 ^{日華} 対照日語読本」(李君達。民国廿三年)。
"	"	〔書〕「日本文典」(コイヤード著, 大塚高信訳, 坂口書店)。
"	"	〔書〕「標準日本語発音構図, 標準日本語発音法並ニ発音構図ノ解」(千葉勉著, 東京大倉広文堂)。
"	"	〔書〕「文章心理学」(波多野完治)。
"	"	〔書〕「近代日本文章史」(瀬古確)。
"	"	〔書〕「日本漢字学史」(岡井慎吾)。
"	"	〔書〕「東遊紀略」(民国王揖唐著。民国廿三年刊。134p)。
"	"	〔書〕「日本人の一切」(民国胡珍元, 黃一德共編, 上海・児童書局。民

西 曆	年 代	項 目
1934		国廿三年刊。「児童新史地叢之1」。21p)。
"	(昭和9年)	[書]「赴日見學武官團記事及感想」(滿洲軍政部編, 滿洲軍政部。滿洲康德1年刊。146p)。
"	"	[書]「中華民國留日學務に關する諸規程 付中國學制留日學生狀況」(日華學會學報部編。昭和9年刊。111p。「日華學報号外」)。
"	"	[書]「中國哲學史 2卷」(民国馮友蘭著, 上海・商務印書館。民国廿三年刊。「原國立清華大學叢書」。2冊)。
"	"	[書]「新聞雜誌に現れた明治時代文化記録集成 2卷」(石田文四郎編, 東京・時代文化研究会。昭和9~10年刊。2冊)。
"	"	[書]「戊戌政変」(民国張同光著, 上海・開明書店。民国廿三年刊。「開明中學生叢書」。100p)。
"	"	[書]「歐化東漸史」(民国張星煊著, 蔡元培等編, 上海・商務印書館。民国廿三年刊。「新時代史地叢書」。127p)。
"	"	[書]「西洋文化の支那侵略史」(E・R・ヒューズ著, 魚返善雄訳, 東京・大阪屋号書店。昭和9年刊。503p)。
"	"	[書]「近代二十家評傳」(民国王森然著, 北平・杏嶽書屋。民国廿三年刊。408p)。
"	"	[書]「高奇峰先生榮哀錄 第1輯」(中國圖書大辭典編輯館編, 南京・中国図書大辭典編輯館。[民国廿三年]刊。活版。1冊)。
"	"	[書]「賽金花本事」(民国劉半農著, 商鴻逵編, 北平・星雲堂書店。民国廿三年刊。172p)。
"	"	[書]「中國新文化運動概観」(民国伍啓元著, 上海・現代書局。1934年刊。180p)。
"	"	[書]「六十年來中国與日本 卷7」(民国王芸生編, 天津・大公報社。民国廿三年刊)。
"	"	[書]「中華民國法令年鑑 民國廿三年度版」(村上貞吉著, 昭和9年刊。158p)。
"	"	[書]「關東廳要覽」(關東長官官房調査課編, 關東長官官房調査課。昭和9年刊。539p)。
"	"	[書]「公學堂南京書院創立三十周年記念誌」(關東州・南京書院同学会。昭和9年刊。174p)。
"	"	[書]「第一次中國教育年鑑 2卷」(民国周邦道等編, 上海・開明書店。民国廿三年刊。2冊)。
"	"	[書]「中國現代教育史 付中國現代教育年表」(民国周予同著, 上海・良友圖書。1934年刊。315, 183p)。
"	"	[書]「支那ニ於ケル立憲工作ト憲法草案〔初稿〕」(村上貞吉著。昭和9年序列。341p)。

西 曆	年 代	項 目
1934	"	〔書〕「日文遼東經濟研究書目」(民国肅文安編, 北平・燕京大学。民国廿三年刊。116p)。
"	"	〔書〕「現代支那趣味文選」(文求堂編集局編, 東京・文求堂。昭和9年刊。160p)。
"	"	〔書〕「語文論戰の現段階」(民国文逸編著, 上海・天馬書店。民国廿三年刊。365p)。
"	"	〔書〕「國語運動史綱」(民国黎錦熙著, 上海商務印書館。民国廿三年刊。425p)。
"	"	〔書〕「標準支那語讀本 卷1」(奥平定世著, 東京・尙文堂。昭和9年刊。120p)。
"	"	〔書〕「中外文學家辭典 訂正3版」(民国顧鳳城編, 上海・樂華圖書。1934年刊。348p)。
"	"	〔書〕官話新編」(民国常靜仁著, 神谷衡平校, 東京・尙文堂。昭和9年刊。122p)。
"	"	〔書〕「中國新文學運動史資料」(民国張若英編, 上海・光明書局。民国廿三年刊。387p)。
"	"	〔書〕「候 光」(民国陳綿著, 北京・中国公論社。民国廿三年刊。「中國公論叢書2」。116p)。
"	"	〔書〕「春明外史 4集」(民国張恨水著, 上海・東亞書店。1934年刊。「社会香豔小説」。4冊)。
"	"	〔書〕「支那女兒」(民国劉大杰著, 上海・北進書局。1934年刊。221p)。
"	"	〔書〕「廣州大學圖書館季刊 第1卷3, 4期」(広州・広州大学図書館。2冊。季刊。民国廿三年)。
"	"	〔書〕「申報年鑑 民国23年版」(上海・申報年鑑社。民国廿三年刊。1347p)。
"	"	〔書〕「朝鮮の經濟事情」(朝鮮總督府)。
"	"	〔書〕「社会事業講習会講演録」(朝鮮總督府)。
"	"	〔書〕「南鮮の洪水」(朝鮮總督府)。
"	"	〔書〕「滿州帝国総覧」(日本外事協会編)。
"	"	〔書〕「施政綱要(日文)」(國務院。康徳元年)。
"	"	〔書〕「滿州国地方例規輯覧(第一~五篇・附録)二冊」(國務院總務司編。康徳元年)。
"	"	〔書〕「滿州問題」(矢内原忠雄)。
"	"	〔書〕「滿州国名士録」(内尾直昌編)。
"	"	〔書〕「滿鉄社員健闘録」(城所英一)。

西 曆	年 代	項 目
1934	(昭和9年)	[書]「満鉄改造論」(満鉄青年同志会)。
"	"	[書]「地方経営梗概」(南満州鉄道株式会社)。
"	"	[書]「捲菸税関係法規」(財政部。康德元年)。
"	"	[書]「満州国地方事情 概説篇」(中原八郎。康德元年)。
"	"	[書]「満州の地質及鉱産」(遠藤隆次)。
"	"	[書]「奉山鉄路沿線及背後地経済事情 — 熱河南部を含む —」(鉄路総局。康德元年)。
"	"	[書]「鮮満発達史(北鮮及東満編)」(鮮満事業協会)。
"	"	[書]「満蒙講座」(教化振興会)。
"	"	[書]「(満州樂土建設の指針) 安眠島(朝鮮)」(林 省三)。
"	"	[書]「支那ソヴェート運動の研究」(東亜経済調査局)。
"	"	[書]「支那租界論」(値田捷雄)。
"	"	[書]「解体過程にある 支那の経済と社会(上下)」(平野義太郎訳)。
"	"	[書]「支那社会経済大辞典(一卷ア-カ)」(東亜経済研)。
"	"	[書]「昭和五年国勢調査結果表」(樺太庁)。
"	"	[書]「北方文化研究会第三回座談会速記録」。
"	"	[書]「台北州統計書(昭和9年)」。
"	"	[書]「満州の一農村に於ける農民の租税負担」(野間 清)。
"	"	[書]「中国地名大辞典」(城島 録。民国廿三年)。
"	"	[書]「満州統治論」(池田秀雄)。
"	"	[書]「日本精神を 基調とする各科教育の諸問題」(奈良県女子師範学校附属小学校)。
"	"	[書]「共同社会生活 を基調とする教科経営の実際」(奈良県女子師範学校附属小学 校)。
"	"	[書]「社会教育」(川本宇之助)。
"	"	[書]「辨証的教育学」(石山脩平)。
"	"	[書]「最近教育思潮概説」(小林澄兄)。
"	"	[書]「山鹿素行の教育思想」(加藤仁平)。
"	"	[書]「修身教育の実際的研究」(福島県初等教育協議会)。
"	"	[書]「内外の実状に基ける愛国教育」(白土千秋)。
"	"	[書]「生活指導の実践教育」(松田友吉)。
"	"	[書]「日本の雄飛期教科及訓練の研究」(豊島師範学校附属小学校編)。
"	"	[書]「作業 教育 農業労作の一ケ年」(草野徳治)。
"	"	[書]「移植民地の教育事情」(伊豆井敬治他)。
"	"	[書]「文検 修身科 教育科 委員の思想研究」(平良恵路・他)。
"	"	[書]「官公立商大高商 学生生徒主事会 第五回協議会議事要録」。
"	"	[書]「心学教化の本質並発達」(石川謙)。
"	"	[書]「全国実業学校長会議」(文部省実業学務局)。

西 曆	年 代	項 目
1934	"	〔書〕「公立学校教員制服規程」(群馬県)。
"	"	〔書〕「各国教員養成制度」(文部省)。
"	"	〔書〕「東京市教育提要」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「欧米教育視察概要」((山県女子師範)林鎌次郎)。
"	"	〔書〕「アメリカの発達とその教育」(立花繁男)。
"	"	〔書〕「研究要報(三・四・十一輯)」(満鉄教育研究所。~昭和12年)。
"	"	〔書〕「町田則文先生伝」。
"	"	〔書〕「東京女子高等師範学校六十年史」。 (写真集共)二冊
"	"	〔書〕「環境による教育の実際的新研究」(小林巖)。
"	"	〔書〕「女子公民教科書(上巻・下巻)」(倉沢剛・他)。
"	"	〔書〕「加盟学校児童生徒の被害調査」(広島教護連合会)。
"	"	〔書〕「我子に語る世相」(たまかづら女子)。
"	"	〔書〕「 ^{最近} 小学教育の諸問題」(伏見猛弥)。
"	"	〔書〕「中正原理 日本教育の経営」(埼玉県師範学校附属小学校)。
"	"	〔書〕「学校経営の再反省」(土屋周作)。
"	"	〔書〕「低学年より高学年への發展的学級経営」(守屋貫秀)。
"	"	〔書〕「中等教育の実際(作業科教育号)」(広島高等師範学校附属中学校中等教育研究会)。
"	"	〔書〕「独逸国民高等学校運動」(鈴木誠治編)。
"	"	〔書〕「学校事件の教育的実際研究(上・下)」(河野通保)。
"	"	〔書〕「実業教育五十年史(正・続二冊)」(文部省)。
"	"	〔書〕「仏蘭西ノ実業教育法令」(文部省実業学務局)。
"	"	〔書〕「サヴィエート聯邦の実業教育政策」(文部省)。
"	"	〔書〕「独逸青年の公民教育」(ケルシェン・シュタイナー)。 西村精一訳
"	"	〔書〕「英国とその成人教育」(協調会)。
"	"	〔書〕「各国の成人教育概況 其の三」(文部省)。
"	"	〔書〕「教育勅語と其の草潤」(北村沢吉)。
"	"	〔書〕「農業教育パンフレット(1・2)」(農業教育研究会)。
"	"	〔書〕「歴史教育論」(新見吉治)。
"	"	〔書〕「研究本位の理科教育」(堀 七蔵)。
"	"	〔書〕「レビ・オルナルド・コナント」(小田信夫訳)。 数の起原と発達
"	"	〔書〕「国語の本質とその教育」(佐藤徳市)。
"	"	〔書〕「国史国学及漢字教育拡充ノ建議」(大東文化協会)。
"	"	〔書〕「綴方の新指導」(奥野庄太郎)。
"	"	〔書〕「新話術」(社会教育会編)。
"	"	〔書〕「実践読方教育」(高橋喜藤治著)。

西 曆	年 代	項 目
1934	(昭和9年)	〔書〕「 ^{辨証法的解明} 読み方教育の新機構」(佐藤徳市)。
"	"	〔書〕「劣等児・低能児の心理と其の教育の実際」(河合寿三郎)。
"	"	〔書〕「中等学校体操科教授要目実施細目」(文部省)。
"	"	〔書〕「 ^{生徒児童} 体力標準表(改訂増補)」(吉田章信)。
"	"	〔書〕「日本法令索引総覧 一・二巻」(増島六一郎)。
"	"	〔書〕「 ^{新訂} 近世法学通論」(三浦信三)。
"	"	〔書〕「日本法令年表(^{早稲田} 法学別冊)」(中村宗雄)。
"	"	〔書〕「ナチスの法律」(杉村・我妻他)。
"	"	〔書〕「国家の研究」(京城帝国大学法学会)。
"	"	〔書〕「公法学の諸問題(一, 二巻)」(美濃部教授還暦記念)。
"	"	〔書〕「国際法論文集(立教授還暦記念)」。
"	"	〔書〕「立教授還暦祝賀外交史論文集」(神川彦松)。
"	"	〔書〕「桑田熊蔵遺稿集」(桑田一夫)。
"	"	〔書〕「東北大学法文学部十周年記念法学論文集」。
"	"	〔書〕「社会法と市民法」(橋本文雄)。
"	"	〔書〕「ヘーゲルの法律哲学」(田村夷)。
"	"	〔書〕「御成敗式目研究」(植木直一郎)。
"	"	〔書〕「 ^{イエネリック法の} 社会倫理的意義」(大森英太郎)。
"	"	〔書〕「日本憲法学の生誕と発展」(鈴木安蔵)。
"	"	〔書〕「支那に於ける立憲工作と憲法草案初稿」(村上貞吉)。
"	"	〔書〕「英文日本憲法論世界的反響」(松波仁一郎)。
"	"	〔書〕「日本比較憲法論」(藤井新一)。
"	"	〔書〕「日本行政法原理」(織田 萬)。
"	"	〔書〕「秘 昭和六年行政財政税制整理調査要覧」(内閣)。
"	"	〔書〕「普通緑地調書」(東京府)。
"	"	〔書〕「市町村事務提要」(村田福次郎)。
"	"	〔書〕「市政四年(東京)」(牛塚虎太郎)。
"	"	〔書〕「東京市町内会の調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「日本漁業法註解並に判例」(星四郎)。
"	"	〔書〕「東京市域拡張史(正・続)二冊」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「函館市の復興計画に就て」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「日本漁業権制度概論」(原 暉三)。
"	"	〔書〕「電気事業法規解説」(電気協会)。

西 暦	年 代	項 目
1934	"	〔書〕「度量衡法概要」(権度局。康德元年)。
"	"	〔書〕「香川県警察史」(県警察協会)。
"	"	〔書〕「医事法制学の理論と其実際」(土井十二)。
"	"	〔書〕「日本漢方医薬変遷史」(小泉栄次郎)。
"	"	〔書〕「国家の研究」(京城帝大)。
"	"	〔書〕「ファシズム国家学」(シュナイダー、佐々弘雄訳)。
"	"	〔書〕「国体国是及現時の思想問題」(建部遜吾)。
"	"	〔書〕「日本精神論第一輯」(日本文化研究会編)。
"	"	〔書〕「日本精神と基督教」(椿 真泉)。
"	"	〔書〕「土の日本」(橘孝三郎)。
"	"	〔書〕「政治学史概説」(村瀬武比古)。
"	"	〔書〕「大日本政治思想史(上・下)」(佐藤清勝)。
"	"	〔書〕「大正・昭和政治史の一断面」(片岡直温)。
"	"	〔書〕「議会政治の検討」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「日本主義の哲学」(永井了吉)。
"	"	〔書〕「近世欧州史研究」(長 寿吉)。
"	"	〔書〕「近世露西亜政治史」(赤神良譲)。
"	"	〔書〕「米國よ日本を知れ」(エフ・アール・エルドリッチ、小沢覚輔訳)。
"	"	〔書〕「ツラン民族運動と日本の新使命」(野副重次)。
"	"	〔書〕「近藤至誠会誌 第一巻」(塩野季彦)。
"	"	〔書〕「永平元峰禅師伝歴」(不老閣侍局)。
"	"	〔書〕「春畝公と含雪公」(小松 緑)。
"	"	〔書〕「提督秋山真之」(同会)。
"	"	〔書〕「追想集内村鑑三先生」(鈴木俊郎編)。
"	"	〔書〕「新渡部稲造伝」(石井 満)。
"	"	〔書〕「新渡部稲造先生追悼録」(東京女子大学同窓会)。
"	"	〔書〕「松浦博士」(高橋重蔵)。
"	"	〔書〕「教育者の典型滝浦菊太郎」(野口援太郎)。
"	"	〔書〕「松岡康毅先生伝(枢密院日大)」(大山卯次郎・他)。
"	"	〔書〕「渡辺廉吉伝(行政裁判所設立)」(同上記刊行会)。
"	"	〔書〕「川瀬先生の小伝と論文抄(善太郎)」(大日本山林会)。
"	"	〔書〕「中野武當翁の七十年(東株理事長・会頭)」(薄田貞敬)。
"	"	〔書〕「私の身の上話(鐘紡)」(武藤山治)。
"	"	〔書〕「祐天上人実伝(附録天慶の乱)」(田村周助)。

西 曆	年 代	項 目
1934	(昭和9年)	[書]「平時国際法大意」(山名寿三)。
"	"	[書]「日支外交六十年史 第一卷~三卷」(長野 勲 波多野乾一編訳)。
"	"	[書]「満鉄附屬地行政権の返還と満州国 租税制度並に租税負担に就いて」(野間 清)
"	"	[書]「満州における露国の利権外交史」(ローマノフ 山下 義雄)。
"	"	[書]「国際軍縮と国際連盟の非合理性」(水谷吉蔵)。
"	"	[書]「海軍軍縮会議参考資料」(国政研究会)。
"	"	[書]「軍縮会議と軍部強硬の真相」(原田為五郎)。
"	"	[書]「再軍縮経済観」(資源局)。
"	"	[書]「満州国の門戸開放問題」(英修道)。
"	"	[書]「大戦の回顧」(独ビューロー公 皆川鏗彦訳)。
"	"	[書]「日本海軍史」(雄山閣編輯局)。
"	"	[書]「刑事判例研究(全五巻)」(草野豹一郎。~昭和15年)。
"	"	[書]「新客観主義の刑法理論」(久礼田益喜)。
"	"	[書]「刑法に於ける概念の規範的構成」(武藤文雄)。
"	"	[書]「刑法の基礎的理論」(島田武夫)。
"	"	[書]「ビルクマイヤー共犯論」(中村宗雄)。
"	"	[書]「判例を中心贈収賄罪の知識」(生天日健蔵)。
"	"	[書]「実例犯罪心理講話」(小南又一郎)。
"	"	[書]「二十世紀に於ける死刑」(E・ローイ・カルヴァート著 竹田 直平訳)。
"	"	[書]「行刑上の諸問題」(正木 亮)。
"	"	[書]「法医学」(三田定則)。
"	"	[書]「民法研究(全七巻)」(勝本正晃。~昭和49年)。
"	"	[書]「物権法提要(上)」(三浦信三)。
"	"	[書]「債権法新論」(岩田 新)。
"	"	[書]「債権総論(全四巻)」(勝本正晃)。
"	"	[書]「家族と婚姻」(戸田貞三)。
"	"	[書]「日本民事訴訟法論(一,二巻)」(山田正三)。
"	"	[書]「財産権の強制執行」(谷井辰蔵)。
"	"	[書]「取引所講話」(河合良成)。
"	"	[書]「約款法の理論」(米谷隆三)。
"	"	[書]「保険法要論」(大浜信泉)。
"	"	[書]「損害保険論」(石井 讓)。
"	"	[書]「保険研究(二巻)」(滝谷善一)。

西 曆	年 代	項 目
1934	"	〔書〕「火災保險新講」(吉井桃磨呂)。
"	"	〔書〕「手形法」(烏賀陽然良)。
"	"	〔書〕「不動産銀行法積義」(杉本正幸)。
"	"	〔書〕「昭和9年(外務・鉄道・逓信・陸軍・海軍省)所管特別会計・五冊」。
"	"	〔書〕「満州国財政状態の概要及内国税徴収事務の現況」(財政部。康德元年)。
"	"	〔書〕「軍備・公債・増税—大衆の理解の爲めに—」(猪俣津南雄)。
"	"	〔書〕「最新地租法要義」(柳 義治)。
"	"	〔書〕「関税法大意」(野村次夫)。
"	"	〔書〕「各国複関税制度ニ関スル調査」(外務省調査部)。
"	"	〔書〕「金融機構論」(小島昌太郎)。
"	"	〔書〕「本邦中小工業金融論」(松崎 寿)。
"	"	〔書〕「最近における独逸銀行及信用制度の諸問題」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「朝鮮銀行二十五年史」(朝鮮銀行)。
"	"	〔書〕「貨幣と物価」(荒木光太郎)。
"	"	〔書〕「通貨制度研究会報告(第一輯)」。
"	"	〔書〕「不換紙幣通貨論」(春日井 薫)。
"	"	〔書〕「銀の理論的地位と歴史的地位—特に現在の支那を中心に—」(満鉄資料課)。
"	"	〔書〕「社会政策原論」(河田嗣郎)。
"	"	〔書〕「無産者救護の社会的法律的考察」(野間 繁)。
"	"	〔書〕「農村問題辞典」(小野武夫監修)。
"	"	〔書〕「労作を中心とする農村学級の教育」(吉川政次郎)。
"	"	〔書〕「社会事業研究」(山口 正)。
"	"	〔書〕「工員生計状態ニ関スル調査」(富士電機製造株式会社川崎工場)。
"	"	〔書〕「被救護者に関する調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「要保護世帯に於ける乳幼児の生活状態」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「民衆娯楽調査資料(六輯)」(文部省)。
"	"	〔書〕「本市に於ける優生相談所に関する資料」(大阪市社会部労働課)。
"	"	〔書〕「仏国及外国に於ける社会保険論」(内務省)。
"	"	〔書〕「東京市保健局事業概要」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「昭和十年看護婦日記」(上条盛雄編)。
"	"	〔書〕「現代新聞論」(小野秀雄)。
"	"	〔書〕「米国新聞史論」(原田棟一郎)。
"	"	〔書〕「明治文化研究論叢」(尾佐竹猛)。
"	"	〔書〕「五島民俗図誌(長崎)」(久保 清、橋浦泰雄)。

西 曆	年 代	項 目
1934	(昭和9年)	[書]「稿本今朝譚談」(河島台蔵)。
"	"	[書]「我国商品の海外進出と我国労働条件に関する海外諸新聞の論評」(社会局)。
"	"	[書]「日本組合内紛真因資料集」(豊島空編著)。
"	"	[書]「我国輸出貿易に対する各国の圧迫と我国労働条件の改善に就て」(社会立法協会)。
"	"	[書]「工場内ノ作業ニ対スル請負制度」(日本工業協会)。
"	"	[書]「世界の失業問題」(大阪市社会部)。
"	"	[書]「直営工事と請負工事に就て—失業救済事業の施工法に関する—研究—」(大阪市社会部)。
"	"	[書]「昭和九年度救護法施行状況」(保護課)。
"	"	[書]「失業応急事業及就労統制概要」(名古屋市社会部)。
"	"	[書]「職業紹介事業を顧みて」(天谷健二)。
"	"	[書]「本邦職業紹介事業概要」(中央職業紹介事務局)。
"	"	[書]「新興産業に関する調査」(東京商工会議所)。
"	"	[書]「蚕種業史」(全国蚕種業組合連合会)。
"	"	[書]「京都府茶業史」(同会議所)。
"	"	[書]「一般地震学」(中村左衛門太郎)。
"	"	[書]「農村精神講話」(J DビルW・Eヒル・シチュアーマン)。 北川 虎雄)。
"	"	[書]「陶村経済更生計画」(香川県)。
"	"	[書]「世界農業史」(N・S・B・グラス)。 菅菊太郎訳)。
"	"	[書]「有畜農業経営事例」(農林省畜産局)。
"	"	[書]「米穀政策資料」(農林省米穀部)。
"	"	[書]「米穀対策調査会議事録」。
"	"	[書]「東北地方ニ於ケル昭和九年ノ水稲凶作状況調査成績概要」(農林省)。
"	"	[書]「東北・北陸・近畿・雪害地調査」(帝国農会)。 中国地方ニ於ケル
"	"	[書]「秋田県水稲被害状況調査」(秋田県)。
"	"	[書]「農村の工業」(大河内正敏)。
"	"	[書]「アメリカ合衆国の農業水利法概要」(農林省)。
"	"	[書]「岐阜県用排水改良事業要覧」(岐阜県)。
"	"	[書]「リュビーモフ地代論」(松村四郎訳)。
"	"	[書]「改訂耕地整理法要論」(大石芳平)。
"	"	[書]「小作委員会と其の事業の概要」(農林省農務局)。
"	"	[書]「耕地の売買価格収量小作料及甘土料に関する調査」(香川県)。
"	"	[書]「農村問題対策」(助川啓四郎)。
"	"	[書]「農村問題研究」(八木芳之助)。

西 曆	年 代	項 目
1934	"	〔書〕「踏査報告 窮乏の農村」(猪俣津南雄)。
"	"	〔書〕「新制度による農事実習所の教育」(水野甚次郎)。
"	"	〔書〕「日本山林史(保護林篇上・下)」(遠藤安太郎)。
"	"	〔書〕「樺太林業政策革新論」(全国山林会联合会)。
"	"	〔書〕「日本漁業権制度概論」(原暉三)。
"	"	〔書〕「有畜農業による経済更生事例」(農林省)。

西 曆	年 代	項 目
1935	(昭和10年)	
"	1・1	国民政府、華北・満州国間の通郵実施。
"	1・3	エチオピア軍、連盟にワルワル事件提訴。2月、伊軍、東アフリカに結集。
"	1・8	満軍、ハルハ 占領。
"	1・10	国際連盟、日本の南洋委任統治継続を承認。
"	1・13	朱・毛軍、貴州省の遵義を占領し、中共党拡大中央政治局会議(遵義会議)を開く(左翼偏向を批判、毛沢東の党指導権確立)。
"	1・15	〔国〕 臨時ローマ字調査会第十一回総会。
"	"	ソ連でジノビエフ・カーメネフらの裁判開く(1・17有罪)。
"	1・17	〔教〕 文部省、橋田邦彦・和辻哲郎ら7人を思想視学委員に任命し、この日より一高・浦和高校の視察を行う。
"	1・21	北満鉄道譲渡に関する満ソ両国の協定成立。3月23日、日満ソ3国間で正式調印。3月25日公布。
"	1・22	外相広田弘毅、議会で日華親善論を発表。1月25日さらに在任中戦争なしと演説。
"	1・24	民政党斎藤隆夫、衆議院で陸軍パンフレット及び軍事費偏重を攻撃。
"	1・30	有吉・蔣会談、蔣、「中日合作」の可能性に言及。
"	1・31	日豪会商、キャンベラで開会。'36年12月、新通商協定成立。
"	1・	国体擁護連合会、美濃部達吉・末広嶺太郎両博士を国憲紊乱であるとして攻撃のパンフレット配布。
"	"	〔書〕「本校児童の日本語能力における速度と確認」(飯塚計策、満鉄研究要報第四輯)。
"	"	〔書〕「日語基礎読本自修教授参考書」(張我軍、北平人人書店、民国廿四年一月初版)。
"	"	〔書〕「最新眼科学大辞典」(小磯東吾編、坂東三弘社)。
"	"	〔書〕「銀行会社実務用語辞典」(細井藤兵衛、ダイヤモンド出版)。
"	"	〔書〕「最新外科学大辞典」(小磯東吾編、坂東三弘社)。
"	"	〔書〕「最新歯科学大辞典」(小磯東吾編、坂東三弘社)。
"	"	〔書〕「電気術語新辞典 英和独仏・和英独仏対訳」(伊藤栄三郎著、太陽堂。「New Dictionary of Electrical Terms」)。
"	"	〔書〕「岩波動物学辞典」(谷津直秀・岡田弥一郎編、岩波書店)。
"	"	〔書〕「新中華 第3巻1期」(民国倪文宙編、上海・中華書局。月刊。民国廿四年一月)。
"	"	〔書〕「文化建設 第1巻4期」(上海・文化建設月刊社。民国廿四年一月)。
"	"	〔書〕「日文與日語 第2巻1号～第3巻3号」(日文與日語社編、北平・

西 曆	年 代	項 目
1935		人人書店。月刊。民国廿四年一月～九月）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三九〇号，「図書館教育特輯号）。
"	2・1	蔣介石，広田発言を承けて中日親善方針を全土の新聞に発表。
"	2・5	〔書〕「辞苑」（新村出，博文館）。
"	2・8	フィリピン制憲議会，憲法草案作成。3月23日米大統領承認。9月17日ケツンを初代大統領に選出。
"	2・12	日満関税協定成立。
"	2・18	菊地武夫，貴族院で美濃部達吉の天皇機関説を攻撃，2月25日，美濃部弁明演説を行い反駁。
"	2・19	国際司法裁判所判事王寵惠訪日，岡田首相ら要人と会談（広田外相に三原則提示）。
"	2・20	〔日〕善隣協会専門学校創立。
"	"	中央政治会議（南京）で，汪兆銘親日演説。
"	2・27	中央政治会議で，蔣・汪連名提案の「人民の生命財産の保護，営業と職業の自由に関する議案」決議，排日・排日貨取締り訓令。
"	2・28	排日世論指導の中央党部宣伝部長 元沖免職（後任葉楚傖）。
"	"	〔書〕「新文典別記（上級用）」（橋本進吉，富山房）。
"	2・	〔日〕東亜高等予備学校，名称を東亜学校と改称（当時学生数2000人）
"	"	〔書〕「英和海語新辞典」（尾崎主税編，三省堂。「Ozaki's New English-Japanese Dictionary of Sea Terms」）。
"	"	〔書〕「独和海語辞典」（高瀬五郎編，水交社。「Deutsch-Japanisches Marine Wörterbuch」）。
"	"	〔書〕「日語公式句熟語詳解」（程伯軒著，成光堂）。
"	"	〔書〕「最新願届書式辞典」（白楊社編輯部編纂，経眼社）。
"	"	〔書〕「植物学名辞典」（牧野富太郎・清水藤太郎共著，春陽堂）。
"	"	〔書〕「本草辞典」（清水藤太郎編，春陽堂）。
"	"	〔書〕「文化與教育 第45期」（北平・文化与教育旬刊社。旬刊。民国廿四年二月）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三九一号）。

西 曆	年 代	項 目
1935		(同上)「国語調査について」(大浦精一)。
〃	3・1	葉宣伝部長・陳立夫組織部長連名で全国各党部に排日行動停止命令。
〃	3・4	首相岡田啓介、議会で天皇機関説反対を言明。
〃	〃	袴田里見検挙され、日本共産党中央委員会壊滅(「赤旗」終刊は2月20日)
〃	3・5	[書]「地学辞典」(渡辺貫編、古今書院)。
〃	3・15	「排日教科書」取縮り命令。
〃	3・16	ドイツ、ベルサイユ条約軍備制限条項を廃棄し、徴兵制による再軍備宣言。
〃	3・20	貴族院、政教刷新に関する決議案を満場一致で可決。
〃	〃	[日] 台湾教育会総会並びに代議員会開催。
〃	3・22	滿州国国立大陸科学院を設置(院長鈴木梅太郎。資源の開発利用を目的とする研究)。
〃	3・23	衆議院、国体明徴決議案(政友・民政・国民同盟の3派共同提案)を満場一致で可決。
〃	3・23	滿ソ、北鉄譲渡協定最終議定書調印。
〃	3・30	[日]「台湾公立商業学校規則改正」〔台湾総督府令第七号、施行昭和十年四月一日〕(「大正十一年府令第七十八号台湾公立商業学校規則左ノ通改正ス台湾公立商業学校規則 第一章 総則 第一条 商業学校ハ商業ニ従事スル者ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ兼テ徳性ノ涵養ニカムルヲ以テ目的トス 第二章 生徒教養ノ要旨 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ学校教育ノ全般ヨリ道德教育ヲ行ハンコトヲ期シ常ニ生徒ヲ実践躬行ニ導キ殊ニ国民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我ガ建国ノ本義ト国体ノ尊嚴ナル所以トヲ会得センメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期スベシ 五 国語ノ使用ヲ正確ニシ且其ノ応用ヲ自在ナラシメ以テ国語教育ノ徹底ヲ期スルト共ニ国民性格ノ涵養ニ資センコトニカムベシ」)。
〃	〃	[日]「水原高等農林学校附置実業補習学校教員養成所規程中改正」〔朝鮮総督府令第四十八号〕(「水原高等農林学校附置実業補習学校教員養成所規程中左ノ通改正ス 第三条第一項ヲ左ノ如ク改ム 本所ノ学科目ハ第五条第一号乃至第三号ニ該当スル者ニハ修身、教育、公民科、農業法規、作物学、園芸学、病虫害論、農芸化学、畜産学、養蚕学、農業工学、林業、農業経営学、農政学、朝鮮語、国語及実験実習トシ同条第四号ニ該当スル者ニハ、修身、教育、国語、朝鮮語、農業及実験演習トス 第五条ニ左ノ一項ヲ加フ 四 高等農林学校又ハ之ト同等以上ノ農業教育ヲ為ス学校ヲ卒業シタル者 附則 本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」)。

西 曆	年 代	項 目
1935	3・	〔書〕「現代日本語法大全（運用篇）」（張我軍，北平人人書店，民国廿四年三月初版）。
〃	〃	〔書〕「東洋史辞典」（中山久四郎編，雄山閣）。
〃	〃	〔書〕「英語入り仏話辞典」（榎本恒太郎編，巧人社。「Kojinsha s New Français Japonaise Dictionary」）。
〃	〃	〔書〕「科学と ^{科学と} 芸 _芸 話題の辞典」（尾崎昇編著，千倉書房）。
〃	〃	〔書〕「和独辞典」（沢井要一，辻善定共編，南山堂書店。「Japanisch-Deutsches Wörterbuch」）。
〃	〃	〔書〕「讀書生活 第1巻10期」（民国李公樸等編，上海・上海雜誌。半月刊。民国廿四年三月）。
〃	〃	〔書〕「太 白 第2巻1～3期」（民国陳望道編，上海・生活書店。半月刊。民国廿四年三～四月）。
〃	4・ 1	〔日〕「台湾公立実業補習学校規則改正」〔台湾総督府令第十九号〕。 （「大正十一年府令第七十九号台湾公立実業補習学校規則左ノ通改正ス 台湾公立補習学校規則 第一章 総則 第一条 実業補習学校ハ小学校又ハ公学校ノ教科ヲ卒ヘ職業ニ従事スル者ニ対シ職業ニ関スル知識技能ヲ授クルト共ニ国民生活ニ据要ナル教育ヲ為スヲ以テ本旨トス 第二章 生徒教養ノ要旨 第五条 実業補習学校ニ於テハ特ニ左ノ事項ニ留意シテ生徒ヲ教養スベシ 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ学校教育ノ全般ヨリ道德教育ヲ行ハンコトヲ期シ常ニ生徒ヲ実践躬行ニ導キ殊ニ国民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ国民性ノ陶冶ニカムベシ 五 学校教育全般ヨリ国語教育ノ徹底ヲ期シ国語ノ使用ヲ正確ニシ且其ノ応用ヲ自在ナラシムルト共ニ国民性格ノ涵養ニ資センコトニカムベシ」）。
〃	〃	「台湾州制改正」〔台湾総督府律令第一号〕（「台湾州制左ノ通改正ス 台湾州制 第一章 総則 第一条 州ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範囲内ニ於テ其ノ公共事務及法律，勅令又ハ律令ニ依リ州ニ属スル事務ヲ処理ス（中略）」）。
〃	〃	「台湾市制改正」〔台湾総督府律令第二号〕（「台湾市制左ノ通改正ス 台湾市制 第一章 総則 第一条 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範囲内ニ於テ其ノ公共事務及法律，勅令又ハ律令ニ依リ市ニ属スル事務ヲ処理ス（中略）」）。
〃	〃	「台湾街庄制改正」〔台湾総督府律令第三号〕（「台湾街庄制左ノ通改正ス 台湾街庄制 第一章 総則 第一条 街庄ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範囲内ニ於テ其ノ公共事務及法律，勅令又ハ律令ニ依リ街庄ニ属スル事務ヲ処理

西 曆	年 代	項 目
1935		ス」)。
"	"	「台湾市制及台湾街庄制施行日ノ件」(「昭和十年律令第二号台湾市制及同年律令第三号台湾街庄制ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス」)。
"	"	〔教〕「青年学校令」「青年学校教員養成所令」各公布〔勅令〕(実業補習学校と青年訓練所を統合して青年学校とし、実業補習学校教員養成所を改組。10月1日、約1万7000の青年学校発足)。
"	4・6	満州国皇帝来日。
"	"	教育総監真崎甚三郎、国体明徴の訓示を陸軍に通達。
"	4・9	美濃部達吉、天皇機関説のため不敬罪で告発され、「逐条憲法精義」「憲法撮要」「日本憲法の基本主義」の三著発禁。
"	4・10	〔教〕文部省、「天皇機関説」問題にあたり、国体明徴を訓令(7月18日大学、専門学校長、生徒主事らに憲法講習会開催)。
"	4・11	英・仏・伊、ストレーザ会議開く(～4月14日)。独再軍備宣言を非難。4月17日、連盟理事会、同宣言非難を決議。
"	4・21	台湾中北部に大地震、死者3000人、全壊1万2500戸。
"	4・23	帝国在郷軍人会、天皇機関説排撃のパンフレット頒布。
"	4・24	帰朝した有吉公使、外務省幹部会で、中国対策への本格的準備の好機と切言。
"	4・	〔日〕国語解者調(公学校生徒数389290、同上卒業生累計467442、国語普及施設生徒数120481、同上修了者累計474126、合計1451340、本島人人口4882288、国語解者比29・7)。
"	"	〔書〕「尋常小学算術」(緑表紙本)使用開始(生活算術を基本とする)。
"	"	〔教〕京都帝大法学部、天皇機関説の渡辺宗太郎教授担当の憲法講座を自発的にとりやめ、5・29黒田覚教授担当に変更決定。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第三九三号)。 (同上)「台湾の方言」(川見駒太郎)。
"	"	〔書〕「標音詳解華日辞典」(岩井武男編著、外語学院出版部)。
"	"	〔書〕「漢日鮮新玉篇」(京城・博文書館編・刊)。
"	"	〔書〕「 ^{新式} 漢和大辞典」(土屋鳳州著、近代文芸社)。
"	"	〔書〕「標準独和辞典」(橋本忠夫監修、南江堂。「Der deutsche Wortschatz」)。
"	"	〔書〕「岩波理化学辞典」(井上敏ほか編、岩波書店)。
"	"	〔書〕「全國新書彙報 第11号」(〔生活書店編〕、上海・生活書店)。

西 曆	年 代	項 目
1935		民国廿四年四月)。
"		〔書〕「刁斗 第2巻1期」(〔青島〕刁斗文芸社。季刊。民国廿四年四月)。
"	5・1	〔書〕「NOVA VORTARO JAPANA-ESPERANTA。新撰和エス辞典」(岡本好次, 財団法人日本エスペラント学会)。
"	5・2	仏ソ相互援助条約(5か年)調印。
"	"	天津日本租界で親日派新聞社長暗殺。
"	"	松下大三郎逝去。
"	5・4	朱・毛軍・四川省に入る。
"	5・7	閣議, 広田外相提案の中国公使館の大使館昇格を秘密裡に可決。
"	5・8	選挙粛正委員会〔勅令〕公布。
"	5・11	内閣審議会・内閣調査局官制〔勅令〕。
"	5・16	ソ連・チェコ相互援助条約調印。
"	"	〔書〕「ローマ字独和辞典」(ブライトン編, ルーベルト・エンデルレ書店。「Deutsch-Japanisches Wörterbuch in Zeichnen」)。
"	5・17	日中両国, 大使館昇格発表, 両国とも国交増進の当局談。英国も大使館昇格発表, 米独仏もこれにならう。
"	5・20	孫匪事件(関東軍, 河北省へ侵入)。
"	5・22	モスクワに満州国領事館設置。
"	"	民政党, 政友会に提携解消を通告。
"	5・25	〔書〕「日本教育学」(近藤寿春(文部省督学官), 日本精神に立つ教育学)。
"	5・29	支那駐屯軍酒井参謀長, 国民政府軍委員会北平分会長何応欽に, 抗日運動を理由に, 于学忠の罷免, 河北省からの国民党部撤退などを要求。
"	5・30	中共紅軍の朱・毛軍, 楊子江渡河。
"	5・31	蔣作賓大使, 広田外相に抗議とともに調停を依頼。
"	5・	〔書〕「日語一月通」(世界言学社編訳, 世界書局, 民国廿三年十二月初版, 民国廿四年五月再版)。
"	"	〔書〕「 ^{自習} _{適用} 日語漢文読本巻一」(葛祖肅, 商務印書館。民国八年初版, 民国廿四年五月増訂十二版)。
"	"	〔書〕「 ^{自習} _{適用} 日語漢文読本巻二」(葛祖肅, 商務印書館。民国八年初版,

西 曆	年 代	項 目
1935		民国廿四年五月増訂十二版)。
"	"	〔書〕「日本文法課本」(黄辰, 東方日文補習学校, 民国廿四年五月初版)
"	"	〔書〕「期刊索引 第4卷1~2期」(中山文化教育館編, 南京・中山文化教育館。2冊。月刊。民国廿四年五月~六月)。
"	"	〔書〕「社會新聞 第11卷5期」(民国費友文編, 旬刊。民国廿四年五月)。
"	"	〔書〕「鹿児島方言辞典」嶋戸真貞編・刊)。
"	"	〔書〕「漢学者伝記及著述集覧」(小柳司氣太監修, 小川貫道編, 関書院)
"	"	〔書〕「新修平仄辞典」(林竹次郎著, 明治書院)。
"	6・1	広田外相, 蔣大使に, 軍事事項につき「外交交渉として扱うには便ならず」と回答。
"	6・5	「第二次長北事件」(関東軍特務機関員ら, チャハル省張北で宋哲元軍に逮捕される)。
"	6・6	陸軍中央部, 海軍・外務当局に「北支那問題処理要綱」を提示し, 決定(支那駐屯軍の要求を支持)。
"	6・9	支那駐屯軍, 何応欽に期限附通牒発出。
"	6・10	何応欽, 河北省に関する日本側要求を全部承認(党部撤去, 藍衣社解散など, いわゆる「梅津・何応欽協定」)。
"	6・16	朱・毛軍, 徐向前軍, 張国燾軍合流。
"	6・18	国民政府, 睦隣令を発令(抗日運動を禁止)。
"	"	行政院会議, チャハル省主席宋哲元の免職を決定。
"	"	〔教〕 文部省, 実業教育振興委員会を設置('38年9月1日廃止)。
"	"	選挙粛正中央連盟(会長斎藤実), 発会式。
"	"	英独海軍協定調印。ドイツ, 英海軍の35%の海軍保有力を承認される。
"	6・23	関東軍の土肥原賢一少将, チャハル省代理主席秦徳純に, チャハル省北中部からの宋哲元軍撤退などの要求を提出。6月27日承諾(いわゆる「土肥原・秦徳純協定」)。
"	6・	〔書〕「東文法程」(商務印書館編訳部, 商務印書館, 清徳宗卅一年初版, 民国廿四年六月再版)。
"	"	〔書〕「分類対訳英文警句俚諺集」(米本新次著, 青雲堂「Quations and Proverbs」)。
"	"	〔書〕「隠語構成の様式# 其語集」(樋口栄, 警察協会大阪支部, 非売品)
"	"	〔書〕「本邦常用漢字の研究」(内閣印刷局研究報告第二回)。
"	"	〔書〕「英仏独語(和訳)航空用語辞典」(航空用語普及会編)。
"	"	〔書〕「最新支那語大辞典」(石山福治編, 第一書房)。

西 暦	年 代	項 目
1935	"	[書]「真宗辞典」(河野法雲, 雲山龍珠監修, 京都・法蔵館)。
"	"	[書]「標音独和新辞典」(成瀬無極編, 尙文堂。「Neues grammatikalish-phonetisches Wörterbuch Deutsch-Japanisch」)。
"	"	[書]「台湾教育」(第三九五号, 「震災特輯号」)。
"	7・11	士官学校事件で休職中の村中孝次・磯部浅一, 「肅軍に関する意見書」を頒布。8月2日, 村中・磯部免官となる。
"	7・15	日満経済共同委員会設置に関する協定調印。
"	"	内務省, 著作権審査会を設置。
"	7・16	真崎教育総監を罷免, 後任渡辺錠太郎(統制・皇道両派の対立激化)。
"	7・18	[書]「国語学研究法」(橋本進吉, 雄山閣。「国語国文学講座」)。
"	7・25	モスクワで第七回コミンテルン大会開く(～8月20日)。人民戦線のテーゼを採択。(陳紹禹出席)。
"	7・27	戦区責任者陶尙銘の辞表を受理(後任殷汝耕)。
"	7・31	政友会議員総会, 天皇機関説排撃を声明)。
"	7・	[書]「台湾教育」(第三九六号)。 (同上)「国語の発音の誤謬に関する一考察」(卓将銓)。
"	"	[書]「和英商業通信辞典」(前田定之助, 宝文館。 「A Phraseological Dictionary of Commercial Correspondence in Japanese and English」)。
"	"	[書]「支那時報 第23巻1号～26巻3号」(宇治田直義編, 東京・支那時報社。月刊。昭和10年7月～12年3月)。
"	8・1	中共, 四川省の毛児蓋で, 中国同胞に抗日救国統一戦線を提唱(「八一宣言」)。
"	8・3	政府, 国体明徴を声明。8月5日諸対策発表。
"	8・4	潯州事件。
"	8・5	陶尙銘, 日本憲兵隊により逮捕(17日釈放)。
"	8・6	[日] 財団法人比律賓協会設立(設立趣意書末段に「吾人は茲に比律賓協会を設立し力を国交の親善, 文化の向上, 経済連鎖の強化に效し以て相互の国利民福の増進に資し惹きては東洋平和の確保と人類福祉の招来とに寄与せむこ

西 暦	年 代	項 目
1935		とを期す」とある。後年「国内事業として留日比島学生の補導教育寄宿の経営を行い、南方特別留学生（昭和18年第一回～）の生活補導を行った）。
"	8・7	中央政治会議で、河北・チャハル二省喪失につき汪兆銘の対日外交攻撃される。
"	8・8	汪兆銘、辞表提出。
"	8・12	陸軍省軍務局長永田鉄山少将、省内で皇道派の相沢三郎中佐に刺殺される。
"	8・14	中央政治会議、満場一致で汪兆銘慰留決議（22日復職）。
"	8・27	帝国在郷軍人会、対事局全国大会を開き、天皇機関説排撃を宣言。
"	8・29	北平政務整理委員会廃止。
"	"	第一回日満経済共同委員会を新京で開催。
"	8・	〔書〕「日満会話辞典」（宮越健太郎著、富山房）。
"	"	〔書〕「万国新語辞典」（英文大阪毎日学習号編輯局編、大阪・大阪出版社）。
"	"	〔書〕「馬來・日本語辞典」（バチー・ビン・ウオンチ、平岡閔造編、台北・南洋協会台湾支部）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第三九七号）。 （同上）「国語教授視察雑感」（加藤春城）。
"	9・3	連盟の仲裁委員会、伊・エチオピア双方にワルワル事件の責任なしと報告。
"	9・5	林陸相辞任、後任川島義之。
"	9・6	英国の対中国経済使節リース・ロス来日、広田外相・高橋是清らと会見。
"	9・7	第一回広田・蔣会談、蔣大使、中国側の日中提携三原則を提示（国際法上の完全独立と相互尊重、友誼維持、一切の事件の平和的解決、当分満州問題凍結）
"	9・9	〔日〕「教科書審議委員会規程」〔南洋庁訓令第二十一号。南洋庁及所属官署宛〕（「教科書審議委員会規程ヲ左ノ通定ム 教科書審議委員会規程 第一条 教科書審議委員会ハ南洋庁長官ノ諮問ニ応ジ教科書ノ編纂、修正及改纂ニ関スル事項ヲ審議ス 第二条 委員会ハ会長一人、委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス 審議ノ為必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得 第三条 会長ハ南洋庁長官ヲ以テ之ニ充ツ 委員及臨時委員ハ南洋庁及所属官署職員及学識経験アル者ノ中ヨリ南洋庁長官之ヲ命ジ又ハ委嘱ス 第四条 会長ハ会務ヲ総理ス 会長事故アルトキハ南洋庁書記官其ノ職ヲ代理ス 第五条 委員会ニ幹事及書記ヲ置ク南洋庁長官之ヲ命ズ 幹事ハ会長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス 書記ハ会長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス」）。

西 暦	年 代	項 目
1935	9・15	ナチスのニュルンベルク法公布(ユダヤ人の市民権剥奪・ユダヤ人との結婚禁止)。
"	9・18	美濃部達吉, 貴族員議員の辞表を提出, 起訴猶予となり, 声明発表。
"	9・22	リース・ロス, 上海で中国幣制に関する日本の態度は苛酷と声明。
"	9・24	支那駐屯軍司令官多田駿, 国民政府から独立の華北政権樹立要望声明。
"	9・27	岡田首相と四相間にて, 対中国方針四項目の諒解事項成立。
"	9・	[書]「基本日本語」(唐真如, 上海百新書局。民国廿四年九月初版)。
"	"	[書]「日語華譯公式」(王玉泉, 日本大阪岡崎書店。民国廿四年九月初版)。
"	"	[書]「教育部審定日文實用讀本初等篇」(游無為, 東文專修学校。民国十八年九月初版, 民国廿四年九月改訂十版)。
"	"	[書]「日文研究」(東京・日文社。月刊。第2~5号, 民国廿四年九月~廿五年一月)。
"	"	[書]「崇文齋書目 第1期」(北平・崇文齋書局。民国廿四年九月)。
"	"	[書]「宇宙風 第1~46期」(民国林語堂等編, 上海・宇宙風社。半月刊。民国廿四年九月~廿六年八月)。
"	"	[書]「十冊合本大辞典」(辞書刊行会編, 大阪・秀文社)。
"	"	[書]「世界固有名詞辞典」(C・O・S・マウソン著, 大江專一訳, 文啓社。[International Book of Names])。
"	"	[書]「補遺日本民俗学辞典」(中山太郎編, 昭和書房)。
"	"	[書]「台湾教育」(第三九八号)。 (同上)「公学校国語讀本改訂に関する一考察」(宋登才)。
"	"	[書]「第一教育」(第十四卷第四号)。 (同上)「国語教育雜感(一)」(大屯外史)。
"	10・1	国勢調査(内地人口6925万4148人。外地人口2844万3407人)。
"	10・2	蒋介石西北掃匪司令, 張学良同副司令となる。
"	10・3	[日] 満州国政府, 「県市立中等学校教職員検定弁法」公布。
"	"	イタリア, エチオピア侵入開始(エチオピア戦争はじまる)。10月7日連盟理事会, イタリアを侵略者と断定。
"	10・4	陸軍・海軍・外務3相, 「対支政策に関する件」を決定(翌年1月22日の広田演説で公表, 「広田三原則」とよばれるもの, 事実上の満州国承認を要求)
"	10・7	広田外相, 蔣作賓中国駐日大使と会談, 日華提携の前提たる三条件(排日の停止, 満州国の黙認, 赤化防止)を提議。10月21日の会談で蔣大使はぼ承

西 曆	年 代	項 目
1935		諾、中国側の三原則実現を要望。
"	10・11	連盟総会、規約等16条による対伊制裁を決議。11月18日石油を除く武器・原料禁輸による経済制裁実施。
"	10・12	東北抗日連軍第一軍長楊靖宇ら、関内へ檄文。
"	10・15	政府、天皇機関説は我国体に反すると第二次国体明徴声明。
"	10・20	毛沢東軍、北ソビエト区へ、長征終わる。
"	10・22	日本・エジプト通商会議開催。'36年4月決裂。
"	10・25	中ソ文化協会設立(会長孫科)。
"	10・28	[書]「露和辞典」(八杉貞利編、岩波書店。「РУССКОЯ ДНСКИЙ СПОВАРЬ」)。
"	10・29	支那駐屯軍、滌州事件に抗議、要求提出。国民政府履行。
"	10・	[書]「台湾教育」(第三九九号)。 (同上)「公学校児童の台湾語的国語に就て」(卓将銓)。 (#)「国語読本から見た課外読物に就いて」(綿貫多助)。
"	"	[書]「警察宣伝標語全集」(杉本桃村編、松華堂)。
"	"	[書]「日支書翰文辞典」(佐々木微笑編、文求堂)。
"	11・1	六中全会開催(～4日)、汪兆銘、抗日派の一新聞記者に狙撃される。行政院長を辞任(親日派後退)。
"	11・3	中国国民政府、英国のクレジットにより幣制改革を発令。
"	11・4	政府、満州国の国幣価値安定及び幣制統一に関する声明を発表。
"	"	ロンドン海軍軍縮会議全権委員に永野修身・松井松三を任命(11月9日訓令を交付。11月16日出発)。
"	11・6	[日] 満州国政府文教部、「文教部報告規程」公布。
"	11・8	大日本映画協会設立(映画の国家統制機関)。機関紙「日本映画」創刊。
"	"	駐華大使館付武官磯谷廉介少将、国民政府の幣制改革に反対し、華北現金輸送防止に実力発動を辞せずと声明。
"	11・9	外務省、中国幣制改革及びリース・ロスの対華共同借款等に反対を非公式に声明。
"	"	上海で、中山一等水兵射殺事件。
"	11・12	関東軍、独混第一旅団に山海関集結命令、土肥原奉天特務機関長、華北新政権樹立工作開始。
"	"	国民党五中全会開催(～23日)。

西 暦	年 代	項 目
1935	11・15	フィリピン連邦共和国正式に成立。大統領制、一院制議会採用（米国、国防・外交・財政等の監督権を保持）。
"	11・18	〔教〕 教学刷新評議会を設置〔勅令〕（「国体観念、日本精神ヲ根本トシテ学問、教育刷新ノ方途ヲ議」する。'37年6月23日廃止）。
"	11・20	有吉大使、蔣介石と会見、華北自治運動を中央が圧迫しないよう要求。
"	11・21	〔国〕 臨時ローマ字調査会第十二回総会。
"	11・25	日本軍の指導で、長城以南の非武装地帯に冀東防共自治委員会成立、委員長殷汝耕、国民政府からの離脱独立を宣言（12月15日自治政府と改称）。
"	11・28	紅軍幹部連名の「抗日救国宣言」発表、東北抗日軍通電に賛意。
"	11・30	蔣首脳会議、「華北自治弁法」をまとめ、須磨総領事に提示。
"	11・	〔書〕「現代語法概論」（丸山林平、第一書房）。
"	"	〔書〕「 ^会 話日語易通」（湯 溪 百新書店、民国廿四年十一月初版）。
"	"	〔書〕「日語月刊 第1巻5期」（民国陳露芬等編、東方日文補習学校。月刊。民国廿四年十一月）。
"	"	〔書〕「書報展望 第1巻1～8号」（民国楊志粹編、上海・上海雜誌。8冊。月刊。民国廿四年十一月～廿五年七月）。
"	"	〔書〕「東 流 第2巻1～4期」（民国陳達人編、東京・東流文芸雜誌社。月刊。民国廿四年十一月～廿五年四月）。
"	"	〔書〕「大众生活 第1期」（民国韜奮編、上海・大众生活社。年50回刊。1935年11月）。
"	"	〔書〕「送仮名辞典」（間山林次郎、東栄堂）。
"	"	〔書〕「満蒙歴史地理辞典」（佐藤種次編、富山房発売）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四〇〇号、「第四百号記念特輯号」）。 （同上）「国語奨励と国民精神鼓吹」（岩槻道隆）。
"	12・2	有吉大使、華北「自治」進行の停止を本省に請訓。
"	12・5	ハル米国務長官、華北五省自治化に警告。
"	12・6	満州中央銀行・朝鮮銀行、満州国幣統一に関する業務協定に調印。
"	"	一中全会で蔣介石を行政院長とする最高人事決定。
"	12・8	大本教、不敬罪・治安維持法違反で、出口王仁三郎ら幹部30余人を逮捕（「第二次大本教事件」）。
"	"	関東軍支援下の李守信軍、チャハル省東部に進撃開始（12月31日までに口北六県を占領、「察東事変」）。
"	12・9	平津地区の学生1万余、抗日・華北自治反対のデモ（「一二・九運動」）。
"	12・10	預金部資金運用委員会、満州国国債1000万円買入れ決定（預金部改造後

西 曆	年 代	項 目
1935		初の外国証券への資金運用)。
"	12・13	〔日〕 満州国政府文教部, 「小学校教科規程」制定。
"	12・16	北京大学生ら3万余, 冀察政務委員会設置に反対して再度デモ。
"	12・18	〔日〕 満州国政府教育部, 「高等農業学校規程」制定。
"	"	日本軍の圧力で, 北平に河北・チャハル二省を管轄する冀察政務委員会成立 (委員長宋哲元)。
"	12・19	〔日〕 国際学友会創設(中国を除く世界各国の留学生を対象)。
"	"	〔日〕 満州国政府文教部, 「教員講習所官制」修正公布。
"	12・20	〔日〕 満州国政府文教部, 「高等師範学校規程中修正之件」公布。
"	"	銜興中公司設立(本社大連, 資本金1000万円, 満鉄全額出資, 社長十河 信二。対華経済工作機関。'38年11月北支那開発(銜)に事業を引き継ぐ)。
"	12・25	外交部次長唐有壬, 上海で暗殺。
"	"	陝西省北部の瓦窑堡で, 中共中央政治局会議, 広範な抗日統一戦線(反蔣抗 日)の結成, 富農の財産没収停止を決議(「十二月決議」)。
"	12・27	毛沢東, 「日本帝国主義に反対する戦略戦術について」報告。
"	12・28	上海文化界救国連合会成立宣言。
"	12・	〔日〕 オーストラリア国立放送局, 稲垣蒙志の日本語講座を放送。
"	"	〔書〕「台湾ローマ字の歴史」(中沢亮治, 「ローマ字世界」)。
"	"	〔書〕「国民過去帳(明治之巻)」(大植四郎編, 大阪府泉南郡・尙古房)
"	"	〔書〕「歯科医語辞典 独・羅・和」(アルバート・ウエルナー, 岡田平 八郎共著, 万国出版社。[Zahnärztliches Wörterbuch])。
"	"	〔書〕「 ^{原字} 草書大字辞」(円道祐之編, 大倉書店)。
"	"	〔書〕「薬学大辞典」(薬学大辞典編纂所, 非凡閣。全10巻)。
"	"	〔書〕「知識 第1巻1号」(民国江瀚秋編, 上海・知識社。半月刊 民国廿四年十二月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四〇一号, 「全国初等教育社大会号」)。 (同上)「トマス・バークレー師と国語教育」(国府親武)。
"	"	〔国〕 国語審議会第一回總會。
"	"	〔国〕「常用漢字調査表(三千五百八十六字)」(斯文会選定)。
"	"	〔日〕 ハワイ, ブラジル, カリフォルニアで日本人二世のための日本語教 育が盛んになり, 日本語読本の編修がこれまでに行われた。
"	"	〔日〕 中国人留日学生数(満州1133, 支那2394, 計3527。 「台湾青年」第四一六号, 昭和12年3月号による)。

西 曆	年 代	項 目
1935	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数（師範学校，学生数，本島人398，高砂族3，卒業数，本島人98，高砂族2）。
"	"	〔日〕 台湾の公学校で日本語教育を受けた本島人児童の就学比率41.47%。台湾における日本人小学児童の就学比率99.43%。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数（生徒数，本島人9582，高砂族58，卒業数，本島人4222，高砂族27）。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数（小学校，生徒数，本島人2360，蕃人40，卒業数，本島人349，蕃人5，小学校高等科，生徒数，本島人253，蕃人7，卒業数，本島人71，蕃人1）。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数（公立中学校，生徒数，本島人2355，高砂族2，卒業数，本島人347，高砂族0）。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数（女子高等普通学校，生徒数，本島人1613，高砂族0，卒業数，本島人456，高砂族0）。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数（実業学校，生徒数，本島人1456，高砂族8，卒業数，本島人291，高砂族0，実業補習学校，生徒数，本島人1792，高砂族97，卒業数，本島人689，高砂族40）。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数（生徒数，本島人2808，高砂族11，卒業数，本島人527，高砂族1）。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数（生徒数137，卒業数35）。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数（台北帝大，学生数25，卒業数9）。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数（学生数219，卒業数61）。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数（所数183，生徒数8291，卒業数1361，就学歩合75.25）。
"	"	〔日〕 国語講習所調（国語講習所1629，生徒数105770，簡易国語講習所754，生徒数31378，合計所数2383，合計生徒数137148）。
"	"	〔日〕 昭和10年現在，満州に於ける普通学校数18校，児童数8133人，派遣教員数14名，年間補助額約20万円（朝鮮人子弟に対する教育）。
"	"	〔日〕 昭和10年末，中国人に対する初等教育（校数10，児童数5000人，教職員113名，経常費年間18万円）。
"	"	昭和10年現在，関東州人口（関東局調査），（日本人159749人，朝鮮人3251人，中国人955514人，第三国人1356人 計1119870人）。

西 曆	年 代	項 目
1935	(昭和10年)	昭和10年現在, 満州鉄道附屬地人口(関東局調査), (日本人190508人, 朝鮮人31415人, 中国人278385人, 第三国人1088人, 計501396人)。
"	"	昭和10年現在, 在満日本人人口(関東局調査), (関東州159749人, 附屬地190508人, 合計350257人, 以上の地域外144451人, 総計494708人)。
"	"	[日] 昭和10年度末現在, 満鉄が創業以来各学校の建設・整備に投下した事業費は, 幼稚園255501円, 小学校10293306円, 公学校892206円, 満人補助学校109286円, 各実習所1333634円, 専門学校673566円, 満州医科大学2580167円, 補助幼稚園2923円, 鮮人補助学校957889円, 鉄嶺日語学堂27904円, 家政女学校6833円, 中等学校6374298円, 教育研究所652017円, 計24159530円。
"	"	「コトバの会」, 石黒修, 石井庄司, 大西雅雄, 與水実, 名取堯, 三宅武郎, 金原省吾, 吉武好孝等によって発足。(昭和十四年には, 国語文化学会と名称を改める)。
"	"	[書]「青年補習公民科教科書巻一, 二」(台湾総督府)。
"	"	[書]「中等公民教科書巻一, 二」(台湾総督府, 昭和10年~11年)。
"	"	[書]「女子公民科教科書巻一, 二」(台湾総督府, 昭和10年~11年)。
"	"	[書]「公学校高等科国史巻一, 二」(台湾総督府, 昭和10年~11年)。
"	"	[書]「公学校高等科地理書巻一, 二」(台湾総督府, 昭和10年~11年)。
"	"	[書]「公学校理科書第二種巻一, 二, 三」(台湾総督府, 昭和10年~11年)。
"	"	[書]「初等図画第一~六学年用」(台湾総督府, 昭和10年~11年)。
"	"	[書]「式日唱歌」(台湾総督府)。
"	"	[書]「補習学校農業教科書作物汎論普通作物篇」(台湾総督府)。
"	"	[書]「補習学校農業教科書特用作物篇」(台湾総督府)。
"	"	[書]「補習学校農業教科書農業経済篇」(台湾総督府)。
"	"	[書]「常用語辞典」(安藤正次編, 台北第二中学編)。
"	"	[書]「公学校第一学年初期の指導細目」(台北第二師範学校附屬公学校)。
"	"	[書]「台北市委託研究話シ方教授ニ関スル研究」(大橋公学校編)。
"	"	[書]「新国語読本教授書(巻一~三)」(台湾教育会)。
"	"	[書]「台湾学事統計の研究」(町田清彦)。
"	"	[書]「台湾教育」(第三九〇~第四〇一号発行)。

西 曆	年 代	項 目
1935	"	[書]「A TEXT-Book of Colloquial Japanese (九版)」 (Rudolf Lange, 教文館)。
"	"	[書]「A Grammar of Spoken Japanese」(Yahei Matsumiya 日語文化學校)。
"	"	[書]「國語詳解日本口語文法」(王玉泉, 岡崎屋書店)。
"	"	[書]「日文平〔假〕名習字帖(卷上)」(民國王乃承編, 上海·日文研 究社。民國廿四年刊。石印。1冊)。
"	"	[書]「模範日語讀本」(俞康德, 民國廿四年刊)。
"	"	[書]「日語讀本(卷1)」(民國方政英著, 北京。民國廿四年刊。58 p)。
"	"	[書]「月刊日文研究」(趙德清編。民國廿四年刊)。
"	"	[書]「實用日語會話讀本」(姚詠平。民國廿四年刊)。
"	"	[書]「日文華訳基本公式 附文語口語文法对照各表」(民團劉靄著, 東 京·東亞書房。民國廿四年刊。92p)。
"	"	[書]「海外雜筆」(民國王搏今著, 上海·中華書局。民國廿四年刊。 192p)。
"	"	[書]「東遊日記·日本佛法訪問記」(民國劉彭翊著。民國廿四年刊。 150p)。
"	"	[書]「東京小品」(民國廬隱著, 上海·北新書局。民國廿四年刊。297 p)。
"	"	[書]「留日指南」(民國葛建時編, 上海·商務印書館。民國廿四年刊。 276p)。
"	"	[書]「日系市民の日本留學事情」(山下草園著, 東京·文成社。昭和 10年刊。400p)。
"	"	[書]「佳人之奇遇」(柴四郎(東海散士)著, 上海·中國書局。民國廿 四年刊。276p)。
"	"	[書]「近五十年中國思想史」(民國郭湛波著, 北平·人文書店。民國廿 四年刊。435p)。
"	"	[書]「近三十年中國思想史」(民國郭湛波著, 北平·大北書局。民國廿 四年刊。340p)。
"	"	[書]「中國近代史」(中國陳恭祿著, 上海·商務印書館。民國廿四年刊。 「大學叢書」。860p)。
"	"	[書]「現代中國名人外史」(民國担蕩蕩齋著, 北平·爽報社。民國廿四 年刊。「實報叢書之16」。356p)。
"	"	[書]「內堀維文遺稿並傳」(法本義弘編, 東京·內堀維文遺稿並伝刊行 會。昭和10年刊。1443p)。
"	"	[書]「大同書 10卷」(清康有爲著, 民國錢安定校, 上海·中華書局)。

西 曆	年 代	項 目
1935		民国廿四年刊。454p)。
"	(昭和10年)	[書]「現代支那の教育」(池田孝著,東京・東亜研究会。昭和10年刊。「東亜研究講座62」。53p)。
"	"	[書]「日系市民の日本留學事情」(山下草園著,東京・文成社。昭和10年刊。400p)。
"	"	[書]「高小模範音樂教科書」(民国柯政和編,北平・中華樂社。民国廿四年刊。29p)。
"	"	[書]「農業推廣」(民国陸費執等著,上海・中華書局。民国廿四年刊。398p)。
"	"	[書]「拉丁化概論」(民国葉籟士著,尹庚編,上海・天馬書店。民国廿四年刊。「天馬叢書1」。83p)。
"	"	[書]「新國語留聲課本」(民国趙元壬著,上海・商務印書館。民国廿四年刊。98p)。
"	"	[書]「東海吟」(民国升允著,宮島大八編,東京・宮島大八。昭和10年刊。1冊)。
"	"	[書]「中國文學大系 第10集 史料・索引」(民国阿英編。上海・良友圖書。1935年刊。618p)。
"	"	[書]「唐詩初箋簡編 12卷 首1卷」(民国楊家駱著,南京・辭典館。[民国廿四年]刊。「仰風櫻叢書・中國學術百科全書40種之35」。1冊)。
"	"	[書]「蘇曼殊文集 卷4 詩集」(清蘇玄瑛(曼殊)著,方履信校,上海・群衆圖書。民国廿四年刊。158p)。
"	"	[書]「長篇故事詩六月流火」(民国蒲風著,東京・黃飄霞。1935年刊。130p)。
"	"	[書]「夢一樣的自由」(民国歐陽山著,上海・天馬書店。民国廿四年刊。「天馬叢書17」。60p)。
"	"	[書]「紅一點」(民国崔萬秋著,上海・時代圖書。民国廿四年刊。210p)。
"	"	[書]「神鬼人」(民国巴金著,上海・文化生活出版。民国廿四年刊。「文學叢刊1」。129p)。
"	"	[書]「幽默小品文選讀」(民国王君編,上海・大光明書局。民国廿四年刊。170p)。
"	"	[書]「[懋庸小品文選]」(民国曹聚仁編,上海・天馬書店。民国廿四年刊。「天馬叢書29」。79p)。
"	"	[書]「醉鬼 - 獨幕劇本」(俄国亞穆伯著,民国曹靖華譯,陳治策編,北京・中華平民教育促進會。民国廿四年刊。68p)。
"	"	[書]「上海的定期刊物」(民国胡道靜編,上海・上海市通志館。民国廿四年刊。74p)。

西 曆	年 代	項 目
1935	"	〔書〕「日華學會年報 第19～25回」(日華學會編, 東京・日華学会。4冊。昭和10年～17年)。
"	"	〔書〕「研究與批判 第1卷1期」(民国張凡夫等編, 上海・張明德。1冊。年10回刊。1935年)。
"	"	〔書〕「Language」(L. Bloomfield. 1887～1947。英国版)
"	"	〔書〕「日露漢字辞典」(キエフ鉄道専門学校日本語教師団著。Moskva)
"	"	〔書〕「日本語の音声学的研究」(エルネスト・リチャード・エドワーツ, 高松義雄訳)。
"	"	〔書〕「Contribution a L'étude Expérimentale d'une Consonne Japonaise[r]」(佐久間鼎・高松義雄共著, 九州大法文学部紀要(欧文)第三卷)。
"	"	〔書〕「最新現代語辞典」(大島秀雄編, 東京・金葉社。昭和10年刊。315p)。
"	"	〔書〕「古代中世英学初歩」(市川三喜, 研究社)。
"	"	〔書〕「英国中部方言の研究」(「Studies in the Midland Dialect used in the Works of George Eliot, with special reference to "Silas Marner" and "Adam Bede."」細江逸記, 泰文堂)。
"	"	〔書〕「古代英語文法」(「A primer of Old English Grammar」西脇順三郎・厨川文夫共著, 文修堂)。
"	"	〔書〕「東京方言集」(斎藤秀一)。
"	"	〔書〕「漢文の訓読によりて伝へられたる語法」(山田孝雄)。
"	"	〔書〕「国語学史要」(山田孝雄)。
"	"	〔書〕「国学者伝記集成続編」(上田万年監修, 日本文学資料研究会編, 国本出版社)。
"	"	〔書〕「世界文芸大辞典」(吉江喬松編, 中央公論社。～11年。七冊)。
"	"	〔書〕「日露兵語辞典」(Д. П. ЖУКОВЪ. И. МАНЗРУР. МОСКОВ. 「ВОЕННЫЙ ЯПОНО-РУССКИЙ СЛОВАРЬ」)。
"	"	〔書〕「言語学概論」(新村出, 東京・日本文学社)。
"	"	〔書〕「言語及び言語学」(金田一京助, 「藤岡博士功績記念言語学論文集」)。
"	"	〔書〕「朝鮮酒造史」((財)朝鮮酒造協会)。
"	"	〔書〕「満州帝国年報(第二次)」(国務統計処。康德二年)。
"	"	〔書〕「増訂 満州発達史」(稲葉岩吉)。
"	"	〔書〕「列強対満工作史(上下)」(ヴェ・アザリン(ロシア問題研))。
"	"	〔書〕「満州通史」(及川儀右衛門)。

西 曆	年 代	項 目
1935	(昭和10年)	[書]「満州建設の標識」(河瀬龍雄)。
"	"	[書]「学徒至誠会派遣団研究報告(十三冊)」(~昭和15年)。
"	"	[書]「満州国協和会に就て」(満州国協和会。康德二年)。
"	"	[書]「 ^{協和義勇} 奉公隊 関係法令聚」(奉天協和義勇奉公隊)。
"	"	[書]「省政彙覧(龍江省・黒河省)二冊」(國務院情報処。康德二年、 康德三年)。
"	"	[書]「満州国主要商品外国貿易統計(実業部臨時 産業調査局。康德二年)。 —自大同元年至康德2年—」
"	"	[書]「最近十箇年に於ける電気関係主要文献目録」(満州電業協)。
"	"	[書]「満州油坊現勢(昭和七年)付統計(満鉄・経済調査会)。 末現在 二冊」(内藤治一)。
"	"	[書]「愛川村」(関東州庁土木課編纂)。
"	"	[書]「奉天金融組合概況」(奉天金融組合)。
"	"	[書]「図寧・寧佳・林密線及背後地概況」(鉄路総局。康德二年)。
"	"	[書]「満州に於ける土地制度の概要」(満州帝国土地局。康德二年)。
"	"	[書]「満州国ニ於ケル旧地券ニ就テ」(土地局。康德二年)。
"	"	[書]「諮問答申ノ意見、希望・ 質疑等項目別分類」(土地局。康德二年)。
"	"	[書]「満州ニ於ケル各種団体ノ不動産所有状況」(土地局。康德二年)。
"	"	[書]「満州農村社会実態調査報告(集計表共二冊)」(康德二年)。
"	"	[書]「満鮮文化史観」(鳥山善一)。
"	"	[書]「蒙古慣習法の研究」(東亜経済調査局)。
"	"	[書]「現代支那人精神構造の研究」(大谷孝太郎)。
"	"	[書]「支那辺疆と英露の角逐」(入江啓四郎)。
"	"	[書]「最新支那年鑑」(東亜同文会)。
"	"	[書]「支那古代社会研究」(郭沫若 藤枝文夫訳)。
"	"	[書]「支那の銀国与と法定紙幣」(井村薫雄)。
"	"	[書]「支那農家経済研究(上下)」(ロッシング・バック 東亜経済調査局訳。~昭和11 年)。
"	"	[書]「マヂャール支那農業経済論」(井上照丸訳)。
"	"	[書]「北海道拓殖費予算参考書」(北海道庁)。
"	"	[書]「南洋各地統治組織及土民運動」(台湾総督府)。
"	"	[書]「南支南洋貿易参考表」(台湾総督府)。
"	"	[書]「印度統治法改正問題(其二)」(外務省欧亜局)。
"	"	[書]「印度産業貿易情勢」(副島八十八)。
"	"	[書]「南亜先覚志士記伝(全三冊)」(黒龍会)。
"	"	[書]「日本教育思潮概説」(田制佐重)。
"	"	[書]「日本教育に於ける教科と訓練」(埼玉師範学校附属小学校)。
"	"	[書]「教育的解釈学」(石山脩平)。
"	"	[書]「児童心理学と宗教教育」(ウイルソン・土居誉雄)。

西 曆	年 代	項 目
1935	"	〔書〕「国体観念強調の国史教育」(中野八十八・加太庄之助)。
"	"	〔書〕「生活教育の理論及び實際経営」(豊郷尋常高等小学校)。
"	"	〔書〕「作業教育各 年 各学年 実践指導案集」(東京女高師児童教育研)。
"	"	〔書〕「労作教育の理念と其の實際経営」(東京市小島小学校編)。
"	"	〔書〕「教育功労者列伝」(信濃教育会)。
"	"	〔書〕「撫松餘韻(明治専門学校)」(松本健次郎)。
"	"	〔書〕「日本教育行政法論」(大日本学術協会編著)。
"	"	〔書〕「訓練要目」判定前後に於ける 満鉄附属地小学校の訓練概況」(満鉄教育研究所)。
"	"	〔書〕「批評会の機構と論戦」(田中武郎)。
"	"	〔書〕「教育制度の調査 第六・八輯下」(文部省)。
"	"	〔書〕「左傾学生生徒の手記」(文部省)。
"	"	〔書〕「教育法規実務便覧」(黒川喜太郎編)。
"	"	〔書〕「教育諸統計」(福岡県)。
"	"	〔書〕「日本教育史の研究 第一輯」(乙竹岩造)。
"	"	〔書〕「文教月報 一~十一号」(文教部。~康德三年)。
"	"	〔書〕「増補 致道館記」(鶴岡市教育会)。
"	"	〔書〕「保育の実際」(朝原梅一)。
"	"	〔書〕「實際的家庭教育」(赤木尋常小学校)。
"	"	〔書〕「児童関係法規集」(東京府学務部社会課)。
"	"	〔書〕「児童教育指導総覧 後編」(東京府青山師範学校 附属小学校教育研究会)。
"	"	〔書〕「小学校教育本義」(山本猛)。
"	"	〔書〕「幼学年教育の新展開」(京都府師範学校附属小学校編)。
"	"	〔書〕「初等教育研究」(京都府)。
"	"	〔書〕「母の日」に対する 中学校長諸氏の回答意見」(桜楓会)。
"	"	〔書〕「創立十周年記念誌」(私立中等学校恩給財団)。
"	"	〔書〕「青年学校の理想と経営」(渡部政盛)。
"	"	〔書〕「教育勅語渙発の由来」(渡辺幾治郎)。
"	"	〔書〕「教育勅語と我等の行道」(福井甚蔵)。
"	"	〔書〕「農村教育の革新」(農業校長協会 財団法人富民協会編)。
"	"	〔書〕「本校農業教育の実際」(和歌山県紀見尋常高等小学校)。
"	"	〔書〕「最近思潮 理科教育実践の進歩」(大田章一他)。
"	"	〔書〕「学校放送の理論と実際」(北村久雄)。
"	"	〔書〕「算術の心理学」(ゾーンダイク 永野 芳夫)。
"	"	〔書〕「形象の読み方教育」(佐藤徳市)。
"	"	〔書〕「読方教育の領野と方法」(佐藤徳市)。
"	"	〔書〕「組織的実践の読み方教育」(谷口徹美)。
"	"	〔書〕「低能児教育の実際」(荒木善次)。

西 曆	年 代	項 目
1935	(昭和10年)	〔書〕「聾啞年鑑」(藤本敏文)。
"	"	〔書〕「我が子の気質と性格」(大伴 茂)。
"	"	〔書〕「国語教育易行道」(芦田恵之助)。
"	"	〔書〕「新小学国語読本の動向と 日本的国語教育への思策」(千葉県女子師範学校 附属小学校教育研究会)。
"	"	〔書〕「 ^{標準} 仮名遣便覧」(岩田九郎編)。
"	"	〔書〕「司法資料(第三号)満州国」(司法部総務司調査課。康德二年)。
"	"	〔書〕「司法資料(第三号)満州国」(司法部総務司調査課。康德二年)。
"	"	〔書〕「平等を求むる心」(津村秀松)。
"	"	〔書〕「法網を潜る人々」(黒頭巾)。
"	"	〔書〕「政治及政治史研究(吉野作造先生追悼記念)。
"	"	〔書〕「神戸高商創立30年記念論文集」。
"	"	〔書〕「中央大学 50周年記念論文集」(経商編)。 創立
"	"	〔書〕「五十周年記念論文集(法律之部)」(中央大学)。
"	"	〔書〕「立命館大学三十五周年記念論文集」(法経編)。
"	"	〔書〕「法の本質」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「牧民金鑑(上・下)」(滝川政次郎校)。
"	"	〔書〕「愛知県現存五人組文書集」(名古屋控訴院)。
"	"	〔書〕「大典統録」(中樞院版)。
"	"	〔書〕「日本憲法の社会学的理解」(岩崎卯一)。
"	"	〔書〕「中華民國憲法草案」(宮沢俊義 田中二郎)。
"	"	〔書〕「ケルゼン国法学の主要問題 全三巻」(武井武雄訳。~昭和12 年)。
"	"	〔書〕「美濃部達吉論文集(一~四集)」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「 ^{美濃部} 博士の日本憲法論批判」(佐藤清勝)。
"	"	〔書〕「国体憲法学」(里見岸雄)。
"	"	〔書〕「憲法志科(前後)」(司法省 橋本博編)。
"	"	〔書〕「 ^{聖徳} 太子十七条憲法講話」(暁鳥 敏)。
"	"	〔書〕「 ^{選挙} 太子犯罪の研究 特に買収犯罪に就て」(司研)」(平田奈良太郎)。
"	"	〔書〕「日本行政法」(清水 澄)。
"	"	〔書〕「地方自治の本質」(渡辺宗太郎)。
"	"	〔書〕「事務改善意見書要項」(大阪市役所)。
"	"	〔書〕「第十九回広島市市勢一班」(広島市役所)。

西 曆	年 代	項 目
1935	"	〔書〕「都市計画道路工学及国立公園」(藤田宗光)。
"	"	〔書〕「大都市に於ける区の調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「東京市の区行政制度に関する調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「新旧町名地番対照表」(井荻町土地区画整理組合)。
"	"	〔書〕「建築土木資料集覧(昭和10年度)」(資料集覧刊行会)。
"	"	〔書〕「市域拡張後における 東京市の区の行政組織及財政」(東京市区役所)。
"	"	〔書〕「市域拡張概要」(大阪市役所)。
"	"	〔書〕「土地測量法講義 —付現行地租法講義—」(大日本土地測量法講習会)。
"	"	〔書〕「土地区画整理の歴史と法制」(小栗忠七)。
"	"	〔書〕「福島警察署沿革概要」。
"	"	〔書〕「本邦健康保険の医療批判」(岩田 穰)。
"	"	〔書〕「仏教に於ける 本体観の発達 —日本仏教への道—」(宮瀬睦夫)。
"	"	〔書〕「日本文化に 及ぼせる 儒教の影響」(宇田 尚)。
"	"	〔書〕「ケルゼン国法学の主要問題(上)(中)(下ノ一)」(蠟山芳郎)。
"	"	〔書〕「我国に於ける最近の国家主義」((司研)馬場義統)。 乃至国家主義運動について
"	"	〔書〕「国家干渉主義」(赤羽豊治郎)。
"	"	〔書〕「伊独英仏に於ける国家主義運動」(文部省)。
"	"	〔書〕「国家主義系不穏事件(其の一)」(警保局保安課)。 論告並判決録
"	"	〔書〕「国体原理」(今泉定助)。
"	"	〔書〕「帝大法学部「国家否認論」 の法理学的批判」(簗田胸喜)。
"	"	〔書〕「儒教道德 に於ける 君臣思想」(手塚良道)。
"	"	〔書〕「日本主義運動の理論と実践」(津久井龍雄)。
"	"	〔書〕「日本精神と日本仏教」(矢吹慶輝)。
"	"	〔書〕「日本精神の調査」(文部省思想局)。
"	"	〔書〕「皇道軌範」(朝原吾郎)。
"	"	〔書〕「皇国日本」(亙理章三郎)。
"	"	〔書〕「独裁政治論」(今中次麿)。
"	"	〔書〕「明治政治史研究」(大竹博吉)。
"	"	〔書〕「明治文学双刊(全四冊)」(柳田泉。~昭和14年)。 明治小説研究
"	"	〔書〕「風神連血涙史」(石原醜夫)。
"	"	〔書〕「帝国議会五十年史(一~六十七議会)」(深尾逸雄)。
"	"	〔書〕「伊藤公手記秘録」(平塚 篤)。
"	"	〔書〕「日本勃興秘史」(三角 寛)。
"	"	〔書〕「欧米ニ於ケル反共運動ノ思想的観測」(外務省)。

西 曆	年 代	項 目
1935	(昭和10年)	〔書〕「ファシスト革命新政治の開始(二冊)」(ムッソリーニ全集)。
〃	〃	〔書〕「ファシズム原理」(ムッソリーニ全集)。
〃	〃	〔書〕「英国の議会政治」(玉井 茂)。
〃	〃	〔書〕「現代人種問題研究」(松岡寿人)。
〃	〃	〔書〕「荻生徂徠」(野村兼太郎)。
〃	〃	〔書〕「公爵松方正義伝(坤・乾)」。
〃	〃	〔書〕「原脩次郎先生(鉄道大臣)」(富岡福寿郎)。
〃	〃	〔書〕「元帥公爵大山巖(全三冊)」(同刊行会)。
〃	〃	〔書〕「世界と東郷元帥(英文共二巻)」(編纂会)。
〃	〃	〔書〕「福沢諭吉」(石河幹明著)。
〃	〃	〔書〕「清沢満之全集(全六巻)」。
〃	〃	〔書〕「鎌田栄吉全集(全三巻)」(慶応義塾教育家)。
〃	〃	〔書〕「岡田良平先生小伝(文相)」(松浦鎮次郎)。
〃	〃	〔書〕「花井卓蔵全伝(上・下巻)」。
〃	〃	〔書〕「故大野源五郎記念誌(林業)」(大野定亮)。
〃	〃	〔書〕「馬越恭平翁伝(三井・ビール)」(大塚栄三)。
〃	〃	〔書〕「井上準之助論双(全五巻)」。
〃	〃	〔書〕「佐藤次郎」(早稲田大学庭球部編)。
〃	〃	〔書〕「大戦国際法論(海戦講和)」(小山精一郎)。
〃	〃	〔書〕「国際私法論」(久保岩太郎)。
〃	〃	〔書〕「最恵国約款論」(手塚寿郎)。
〃	〃	〔書〕「 <small>中華民国「不平等条約」逐条研究</small> 一満州国関係のものを含む」(英 修道)。
〃	〃	〔書〕「陸奥外交」(信夫清三郎)。
〃	〃	〔書〕「関東州租借地税関重要法規集」(大連税関)。
〃	〃	〔書〕「露国政府の極東外交機密文書(第一巻)」(外務省)。
〃	〃	〔書〕「イギリスの手ノルウェーに及ぶ」(独伊外務省)。
〃	〃	〔書〕「国際紛争史考」(板倉卓造)。
〃	〃	〔書〕「戦争論」(フォツジュ元帥 伊奈重蔵訳)。
〃	〃	〔書〕「カステックス戦略理論(戦略運動編)」(海軍大学校)。
〃	〃	〔書〕「回顧三十年日露戦争を語る」(戦時事新報社)。 外交・財政の巻
〃	〃	〔書〕「日本海大海戦史」(軍令部)。
〃	〃	〔書〕「軍閥」(中西伊之助)。
〃	〃	〔書〕「近代科学と戦争の発達」(エイデマン監輯 山本八洲雄訳)。
〃	〃	〔書〕「刑事学の新思潮と新刑法」(牧野英一)。

西 曆	年 代	項 目
1935	"	〔書〕「国体主義の刑法理論」(安平政吉)。
"	"	〔書〕「独逸刑法提要(上・中・下)」(司法省。～昭和11年)。
"	"	〔書〕「増訂刑事訴訟法理論」(清水孝蔵)。
"	"	〔書〕「 ^{増補} 改訂刑事訴訟法要義」(矢追秀作)。
"	"	〔書〕「少年教護法の解説と教護教育」(三浦慈円)。
"	"	〔書〕「留置権論」(薬師寺志光)。
"	"	〔書〕「増訂債権法概論(各論)」(中村万吉)。
"	"	〔書〕「不法行為論」(宗宮信次)。
"	"	〔書〕「日本親族相続法論」(牧野菊之助)。
"	"	〔書〕「親族相続判例総評(全三巻)」(中川善之助)。
"	"	〔書〕「現行朝鮮親族相続法類集」(南雲幸吉)。
"	"	〔書〕「日本親統法」(谷口知平)。
"	"	〔書〕「判例婚姻予約法解説」(岩田 新)。
"	"	〔書〕「民事訴訟法要義(全五巻)」(細野長良)。
"	"	〔書〕「日本民事訴訟法(第一～五編)二冊」(中島弘道)。
"	"	〔書〕「改正民事訴訟法(一～四巻)」(山田正三)。
"	"	〔書〕「 ^{民事訴訟} 強制執行編(上中下)」(寺沢喜一)。
"	"	〔書〕「 ^{学説判例} シュタイン強制執行の諸問題」(小木貞一)。
"	"	〔書〕「岸清一訴訟記録集 ^{民事・刑事・行政各編} 」(全十二冊)」(～昭和12年)。
"	"	〔書〕「夫婦財産法の批判」(和田干一)。
"	"	〔書〕「日本破産法」(斎藤常三郎)。
"	"	〔書〕「商法研究(一, 二巻)」(田中耕太郎)。
"	"	〔書〕「日本会社法論」(松本丞治)。
"	"	〔書〕「 ^{保険法} に於ける「信義誠実の原則」(^{商法研究} 第一巻)」(野津 務)。
"	"	〔書〕「相互保険の研究特に其の法的性質を中心として」(野津 務)。
"	"	〔書〕「火災保料率論」(滝谷善一)。
"	"	〔書〕「海上保険研究(第一巻)」(勝呂 弘)。
"	"	〔書〕「新手形法論」(山尾時三)。
"	"	〔書〕「手形法及小切手法」(織田嘉七)。
"	"	〔書〕「最新小切手法論」(畝川元夫)。
"	"	〔書〕「日本信託業論」(白井規矩雄)。
"	"	〔書〕「財団抵当法の研究」(江口 最)。
"	"	〔書〕「昭和十年度(農林・通信・内務省)」。
"	"	〔書〕「 ^{予定経費要求書} (三冊)」。
"	"	〔書〕「租税・公債・通貨新論」(高島佐一郎)。

西 曆	年 代	項 目
1935	(昭和10年)	〔書〕「市町村税釈義」(谷口寿太郎)。
"	"	〔書〕「増税及整税論」(神戸正雄著)。
"	"	〔書〕「租税財政論集(第一集)」(日本租税研究協会)。
"	"	〔書〕「独逸財産税論」(国政研究会)。
"	"	〔書〕「 ^{改訂} 関税行政法論」(板垣只二)。
"	"	〔書〕「独逸金融組織論」(楠見 正・他)。
"	"	〔書〕「アメリカの新経済政策と金融統制」(東京商工会議所調査部)。
"	"	〔書〕「利子論研究」(高田保馬)。
"	"	〔書〕「製絲金融」(日本銀行調査局)。
"	"	〔書〕「日本銀行と金融市場」(三村弥平)。
"	"	〔書〕「貯金局史」(貯金局)。
"	"	〔書〕「社会理想の研究」(ノヴゴロドツエフ、 島野三郎)。
"	"	〔書〕「知識階級論」(向返逸郎)。
"	"	〔書〕「救荒百種」(篤農協会)。
"	"	〔書〕「日本近世饑饉志」(小野武夫)。
"	"	〔書〕「東北地方農村に関する調査(実態編)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農村精神講話」(教育資料編纂部)。
"	"	〔書〕「修鍊農場・漁村修鍊場」(農村更生協会)。
"	"	〔書〕「東北地方北海道 農山漁村職業紹介の問題」(青森地方職業紹介事務局)。
"	"	〔書〕「軍事救護法と武藤山治」(金太仁作)。
"	"	〔書〕「社団法人実費診療所の歴史及事業(第三巻)」。
"	"	〔書〕「青年死刑囚の最後の手紙」(浅野研真)。
"	"	〔書〕「東京聾啞学校記要 第二輯」(東京聾啞学校)。
"	"	〔書〕「東京盲学校六十年史(概観共二冊)」(東京盲学校。~昭和11年)。
"	"	〔書〕「女性文化講話」(市川源三)。
"	"	〔書〕「 ^{日本文化に} 及ぼせる 儒教の影響」(宇田 尚)。
"	"	〔書〕「諺の研究」(藤井乙男)。
"	"	〔書〕「 ^{函館郷土史料目録} 一函館開港記念回顧展覧会出陳」(市立函館図書館)。
"	"	〔書〕「最近世界労働立法概観」(社会局労働部労政課)。
"	"	〔書〕「本邦労働運動並農民運動の概観」(社会局労働部)。
"	"	〔書〕「解雇退職の法律学的研究」(後藤 清)。
"	"	〔書〕「失業の研究」(山口 正)。
"	"	〔書〕「再生産論」(エーヤー・ブレーゲル、 永住道雄訳)。
"	"	〔書〕「軍需工業論—軍需工業の建設と組織の根本問題—」(シュベクト

西 曆	年 代	項 目
1935		ロフ国際政治経済研究会訳)。
"	"	〔書〕「第九年度(自昭九年四月至昭十年三月)決算報告書」(北樺太石油KK)。
"	"	〔書〕「英国に於ける石炭利用の科学的研究」(アイボアー・トーマス、小川碓一解説)。
"	"	〔書〕「昭和製鋼所綱要」(松隈吉郎)。
"	"	〔書〕「本邦糖兼史」(樋口 弘)。
"	"	〔書〕「糖業改良奨励事業成績調査書」(沖縄県経済部、農務課)。
"	"	〔書〕「蚕糸業の動向と組合製糸」(全国産業組合、製糸組合連合会)。
"	"	〔書〕「蚕糸統制論」(井上鍔三)。
"	"	〔書〕「尾西織物要覧」(広瀬長雄編)。
"	"	〔書〕「綿業三十年」(山本願弥太)。
"	"	〔書〕「染色五十年史」(山内英太郎)。
"	"	〔書〕「協会業績史」(山内英太郎)。
"	"	〔書〕「関東州庁水源水利調査資料」(愛川村)。
"	"	〔書〕「工業経済地理(正・続)三冊」(川西正鑑。~昭和11年)。
"	"	〔書〕「気象学(上・下巻)」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「関西風水禍罹災者就職本部事業誌」(罹災者就職、斡旋本部)。
"	"	〔書〕「特許 ^{実用新案} 法論」(田中清明)。
"	"	〔書〕「特許 ^{意匠商標} 発明論」(野子末雄)。
"	"	〔書〕「東京市農業に関する調査(一~三)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農家経済調査 九年度」(長野県農会)。
"	"	〔書〕「日本農業の展望」(農業経済学会編)。
"	"	〔書〕「東北地方冷害対策指導会要録」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「昭和九・十年に於ケル水害」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「新瀉県に於ける青田売買に関する調査」(農林省)。
"	"	〔書〕「農村に於ける「ユヒ」の慣行」(小泉幸一)。
"	"	〔書〕「各作物作業別労働分配並ニ収支調査」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「最近ニ於ケル農村負担ノ変遷ニ関スル調査」(農林省)。
"	"	〔書〕「国有林野経営と地元経済との関係」(青森営林局)。
"	"	〔書〕「農山漁村経済更生計画樹立指定町村に於ける国有林野各種業務並ニ経済更生計画指導助長ノ概要」(秋田営林局)。
"	"	〔書〕「徳島県木頭の林業」(徳島県経済部林業課)。
"	"	〔書〕「山林要覧第六次」(農林省山林局)。
"	"	〔書〕「樺太漁制改革沿革史」(杉本善之)。
"	"	〔書〕「畜産学年報(第二輯)」(日本畜産学会)。
"	"	〔書〕「本邦郷土食の研究」(中央食糧協会)。

西 曆	年 代	項 目
1936	昭和11年	
"	1・10	天皇機関説論者として攻撃された法制局長官金森徳次郎，辞任。
"	"	1月10日付けで有吉大使に帰朝命令。
"	"	ロンドン海軍軍縮会議首席全権永野修身，会議脱退につき請訓。1月21日政府，脱退を訓電。
"	1・13	政府，「北支処理要綱（第一次）」を決定（華北五省の自治化をすすめる方針）。
"	"	陸軍中央，支那駐屯軍司令官に華北五省自治化推進を指示。
"	1・15	ロンドン軍縮会議の日本全権永野修身，脱退を通告。1月16日政府声明発表。
"	1・18	〔日〕第二十二回全島国語演習会（場所，台中市明治小学校，参加人数110名，番外43名）。
"	1・22	外相広田弘毅，議会で，日中提携・満洲国承認・共同防共の対華三原則と中国側の諒承を発表，中国側否定の声明。
"	1・28	第一師団軍法会議で，相沢三郎中佐の公判開廷。
"	"	上海各界救国連合会成立。
"	1・	〔書〕「台湾と方言」（西岡英夫，「音声教育」）。
"	"	〔書〕「漢和大自習辞典」（北村沢吉監修，三陽書院）。
"	"	〔書〕「支那地名集成」（外務省情報部編，日本外事協会）。
"	"	〔書〕「露和辞典」（八杉貞利編，岩波書店。「岩波版露和辞典」（昭和10・10）を，大型版に組み替えたもの）。
"	"	〔書〕「改造 第1巻第1期」（民国陶容編，上海・改造社。1冊。月刊民国廿五年一月）。
"	"	〔書〕「時代知識 第1巻1号」（民国鍾鳴人，鍾煥新編，上海・時代知識社。半月刊。民国廿五年一月）。
"	"	〔書〕「申報 第1巻1期～2巻32期」（申報週刊社編，上海・申報館。週刊。民国廿五年一月～廿六年八月）。
"	"	〔書〕「西北雑誌 第1巻4期」（民国王智編，西北雑誌社。月刊。民国廿五年一月）。
"	"	〔書〕「動 向 第1巻2期」（上海・動向半月刊社。民国廿五年一月）。
"	"	〔書〕「婦女與兒童 第20巻2～8号」（民国飛柳燕編，杭州・婦女与兒童社。民国廿五年一月～四月）。
"	"	〔書〕「海 燕 第1，2号」（民国耳耶編，海燕文芸社。月刊。1936年1～2月）。
"	"	〔書〕「青年文化 第3巻2期」（民国田仲濟編，濟南・青年文化社。民国廿五年一月）。

西 曆	年 代	項 目
1936		
"		〔書〕「台湾教育」(第四〇二号)。 (同上)「音声教育と或日の問題」(西岡秋夫。~第四〇五, 第四〇七号)。
"	2・1	〔日〕 国際学友会館創設。同時に日本語の授業を開始。
"	2・8	駐華大使有田八郎任命。
"	2・10	岡野(野坂参三)・田中(山本懸蔵), 「日本の共産主義者へのてがみ」をモスクワで発表, 反ファシズム統一戦線を提唱。
"	2・11	国民党, 「国民に告ぐる書」発表。
"	2・17	〔日〕 内務・外務・司法・文部の四相会議, 華僑学校(東京)の教科書を排日的とし, 教科書改訂などを命令。
"	"	中共紅軍, 山西省に進出開始, 錫山軍を圧倒。
"	2・18	村中孝次・磯部浅一・安藤輝三ら陸軍皇道派の青年将校, クーデタの具体案を決定。
"	2・19	国民政府, 「治安維持緊急弁法」制定。
"	2・20	第19回総選挙(民政党205, 政友会171, 昭和会22, 社会大衆党18, 国民同盟15, 中立その他35)。
"	2・21	中共, 東征宣言。
"	2・23	東京地方, 54年来の猛吹雪。
"	2・26	「二・二六事件」起こる(皇道派将校, 1400余人の部隊を率い挙兵, 内大臣斎藤実・蔵相高橋是清・教育総監渡辺錠太郎らを殺害(岡田首相は即死と発表されたが, 生存), 永田町一帯を占拠して, 国家改造を要求)。
"	"	後藤文夫を臨時首相代理に任命, 内閣総辞職(3月4日近衛文麿に組閣命令近衛辞退, 3月5日広田弘毅に組閣命令)。
"	2・27	東京市に戒厳令布告(「戒厳令一部施行令」〔勅令〕公布)。
"	2・29	戒厳司令部, ラジオで「兵に告ぐ」を放送, 反乱軍に帰順を説得。戒厳部隊討伐行動を開始, 反乱軍帰順。
"	2・	〔日〕 オーストラリアの国営放送局, 稲垣蒙志の日本語講座を2月から6月まで約30回放送。
"	"	〔日〕 アフガニスタンから留学生6名来日。
"	"	〔書〕「日語文典」(傳少華, 商務印書館。民国廿五年二月初版)。
"	"	〔書〕「総合日華大辞典」(趙立言, 傳祺敏, 高振清共著, 開華書局。民国廿五年二月初版)。
"	"	〔書〕「最新日本口語文法」(汪洪法, 商務印書館。民国廿五年二月初版)
"	"	〔書〕「音楽用語人名辞典」(塩八亀輔, 唐瑞勝, 学芸社)。

西 曆	年 代	項 目
1936	2・	〔書〕「辭鑿」（垣内松三編，三学社）。
〃	〃	〔書〕「六 藝 第 1 卷 1 号」（民国高明等編，上海・六芸社。半月刊。民国廿五年二月）。
〃	3・ 2	山西綏靖公署軍事會議，共產軍總攻令。
〃	3・ 4	〔教〕「明倫学院規程中改正」〔朝鮮総督府令第十五号〕（「明倫学院規程中左ノ通改正ス 第一条第一項ヲ左ノ如ク改ム 明倫学院ハ儒学ヲ講究シ国民道德ノ本義ヲ闡明シ併セテ人格ヲ陶冶スルヲ以テ目的トス 第二条 明倫学院ニ本科及研究科ヲ置ク 本科ノ修業年限ハ三年，研究科ノ研究期間ハ二年及至三年トス 明倫学院ハ必要ニ応ジ隨時講習会ヲ開催スルコトヲ得 第三条第一項ヲ左ノ如ク改ム 明倫学院本科ノ学科目ハ經学，儒学史，支那哲学，国語，漢文，国史，教育学，公民科及体操，研究科ノ研究科目ハ經学，子学，支那哲学，支那文学，支那史学及作詩文トス 第六条 明倫学院ノ生徒数ハ本科九十人以内研究科二十人以内トス 第六条ノ二ヲ削ル 附則 本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。
〃	3・ 6	陸相候補寺内寿一，自由主義的色彩の入閣予定者排除を要求，組閣に干涉。
〃	〃	内大臣に湯浅倉平を任命。関東軍司令官に植田謙吉を任命。
〃	3・ 7	ドイツ，ロカルノ条約を廃棄し，ラインライトに進駐。
〃	3・ 9	広田弘毅内閣成立。
〃	3・ 10	中共中央北方局，「抗日救国宣言」発表。
〃	3・ 11	有田大使，蒋介石と会談。
〃	3・ 12	ウランバートルで，ソ蒙相互援助議定書成立。4月7日南京政府，不承認を声明。
〃	3・ 13	内務省，大本教に解散を命令。5月18日綾部の本殿を強制破壊。
〃	3・ 15	中国民族解放行動委員会，「対時局第二次宣言」発表。
〃	3・ 16	有田・張群会談（～19日）。
〃	3・ 24	内務省，メーデー禁止を通過（'37年も禁止，'38年以後は引き続き禁止）。
〃	3・ 25	英仏米，ロンドン海軍軍縮協定調印（各種軍艦のトン数・砲台の大きさのみ制限）。4月30日英国，戦艦大建造計画を発表。
〃	3・ 31	〔書〕「臨時ローマ字調査会議事録（上）」
〃	3・	パーマー帰国。

西 曆	年 代	項 目
1936	3・	〔書〕「漢訳日本口語文法教本」(黄鑑村, 量才業補習学校, 民国廿五年三月初版)。
"	"	〔書〕「日語文典」(傳少華, 商務印書館, 民国廿五年二月初版, 民国廿五年三月再版)。
"	"	〔書〕「台湾に於ける国語教育と話方教授法一〜三」(西岡英夫, 「音声教育」)。
"	"	〔書〕「標準医学辞典 独・羅・英・仏一和」(賀川哲夫編, 有山堂。「Meditinishe Terminologie」)。
"	"	〔書〕「伊太利語辞典」(井上静一著, 第一書房。「Nuovo Dizionario Modernora Zionale pratica Italiano - Giapponese」)。
"	"	〔書〕「ポケット英和辞典」(日本辞書出版社編・刊)。
"	"	〔書〕「研究社新英和大辞典(新版)」(岡倉由三郎編, 研究社。「Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary on bilingual principles」)。
"	"	〔書〕「標音露和辞典」(岩沢丙吉編, 白水社。「РУССКО ЯЛОНСКИИ СЛОВАРЬ」)。
"	"	〔書〕「夜 鶯 第1巻1, 2期」(民国方之中編, 上海・夜鶯社。月刊 民国廿五年三月〜四月)。
"	"	〔書〕「天地人 第1, 5期」(民国徐許等編, 上海・独立出版社。半月刊。民国廿五年三月〜五月)。
"	"	〔書〕「東方文藝 第1巻1期」(民国侯楓編, 上海・東方文芸社。月刊 1936年3月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四〇四号)。 (同上)「音声教育の出発点」(荒川清)。
"	4・2	外相有田八郎任命。
"	4・9	蔣, 掃共のため太原に急行。
"	4・10	日満仏教協会, 東京で発会式。
"	"	〔書〕「日華大辞典 原型版」(第一巻。編纂者代表平岡龍城, 東洋文化未刊図書刊行会。第二巻及び第三巻は昭和13年2月18日発行)。
"	4・17	閣議, 支那駐屯軍増強を決定(2000から5000となる。5月15日実施 17日, 中国, 書簡で抗議)。
"	4・19	愛国労働組合懇話会結成。
"	4・24	興安北省省長凌陞ら四名に死刑執行。

西 曆	年 代	項 目
1936	4・	〔日〕 善隣協会専門学校, 「蒙古留学生特設予科」(昭和十九年度から「特設留学生科」と改称)を設置。
"	"	〔日〕 国語解者調(4月末現在, 公学校生徒数418592, 同上卒業者累計507461, 国語普及施設生徒数150463, 同上修了者累計564487, 合計1641003, 本島人口4990138, 国語解者百分比32・3)。
"	"	〔日〕 コルドバ日本語学園(コルドバ)開校。
"	"	〔書〕「漢訳日本口語文法教本」(黄鑑村, 量才補習学校, 民国廿五年三月初版, 民国廿五年四月再版)。
"	"	〔書〕「国語音声学入門」(神保格, 刀江書院)。
"	"	〔書〕「教育音声学」(大西雅雄, 文学社)。
"	"	〔書〕「現代新語小辞典」(新潮社編・刊)。
"	"	〔書〕「建築術語集」(高杉造酒太郎, 建築学会)。
"	"	〔書〕「地理学辞典」(綿貫勇彦・渡辺光共編, 関隆堂。「Geographical Dictionary」)。
"	"	〔書〕「独和言林」(佐藤通次著, 白水社。一九版。「Deutsch - Japanischer Wörrtschatz」)。
"	"	〔書〕「コンサイス独和辞典」(山岸光宣編, 三省堂。「Sanseido's Concisc Deutsch-Japanisches Wörterbuch」)。
"	"	〔書〕「時代論壇 第1巻1号」(民国王達夫等編, 上海・時代論壇社。半月刊。民国廿五年四月)。
"	"	〔書〕「漫画界 第1巻1号」(漫畫建設社編, 漫画建設社。月刊。民国廿五年四月)。
"	"	〔書〕「譯 文 第1巻2号」(民国黄源編, 上海・訳文社。月刊。民国廿五年四月)。
"	"	〔書〕「黄土層 第1巻1号」(小島英夫編, 北平・黄土層社。隔月刊。1936年4月)。
"	"	〔書〕「作 家 第1巻1号」(民国孟十還編, 上海・上海雜誌社。月刊。民国廿五年四月)。
"	"	〔書〕「新東方 第1巻1期」(民国張執一編, 上海・新東北社。半月刊。民国廿五年四月)。
"	"	〔書〕「文學青年 第1巻1期」(民国周楞伽編, 当代出版社。月刊。民国廿五年四月)。
"	"	〔書〕「文學叢報 第1巻1号」(民国王元亨, 馬子華共編, 上海・文学叢報社。月刊。民国廿五年四月)。
"	"	〔書〕「前 奏(CIANZOU) 第1巻1号」(上海・前奏詩社。月刊)。

西 暦	年 代	項 目
1936		1936年4月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四〇五号)。 (同上)「国語教材に対する生徒の関心」(阿川昔)。
"	5・5	満州で朝鮮の祖国光復会成立。十大綱領発布。
"	"	紅軍, 山西から撤退し, 国民政府に「回師宣言」, (停戦議和一致抗日)を 通電(「反蔣」スローガンを放棄)。
"	"	中華民国憲法草案公布。
"	"	〔書〕「日本文法学概論」(山田孝雄, 宝文館)。
"	5・7	第一師団軍法会議, 相沢三郎中佐に死刑判決。
"	5・9	二・二六事件を口実に, 警保局は, 特高科・治安警察の強化拡充を決定。
"	"	イタリア, エチオピア併合を宣言。
"	5・10	胡漢民歿す。
"	5・12	徳王, 関東軍の援助をうけ, 内蒙軍政府を組織(軍政長官李守信)。
"	5・14	津村重舎, 貴族院で「将校侮辱演説」。5・15 貴族院で初の懲罰委員会に 付される。
"	"	〔書〕「現代日本語の表現と語法」(佐久間鼎, 厚生閣)。
"	5・15	駐華大使川越茂任命。
"	5・18	陸海軍大臣・次官を現役とする旨〔勅令〕公布。
"	5・25	中野正剛ら, 東方会を結成。
"	5・28	北支増兵に反対の学生デモ。
"	5・29	思想犯保護観察法〔法律〕公布(これまでの思想犯検挙者約5万9000, 入 獄中509, うち非転向120人)。
"	5・30	〔書〕「教育学辞典」(城戸幡太郎らほか3名編, 岩波書店。5巻。 ～'39年9月30日)。
"	"	中国学生救国連合会成立。
"	5・31	上海で全国各界救国連合会成立大会(～6月1日)。6月1日抗日救国の初 歩政治綱領発表, 国民政府に連共抗日を要求。
"	5・	京都帝大の学生ら「学生評論」を創刊, 学生文化運動を行う('37年6月 までに10号)。

西 曆	年 代	項 目
1936		
"	5・	〔書〕「基礎日本語（第一次調査）」（関東州公学堂，満鉄公学校）。
"	"	〔書〕「方言学概論」（橘正一著，目黒書店）。
"	"	〔書〕「英語単語熟語辞典」（英語研究会編，成光堂。「Dictionary of English and English Phrases」）。
"	"	〔書〕「航空用語」（改訂増補。航空評議会選定，帝国飛行協会）。
"	"	〔書〕「滬 聲 第1巻1期」（民国蔣湘君等編，上海・滬声出版社。1冊。月刊。民国廿五年五月）。
"	"	〔書〕「南京特寫 第1巻1号」（週刊。民国廿五年五月）。
"	"	〔書〕「逸 經 第5～18期」（民国謝興堯等編，上海・人間書屋。半月刊。民国廿五年五月～十一月）。
"	"	〔書〕「小譯叢 第1巻1号」（民国陳小基，王亜洪編，東京・小訳叢社。半月刊。民国廿五年五月）。
"	"	〔書〕「進 化 第1巻1号」（民国葉之華編，上海・進化社。月刊。民国廿五年五月）。
"	"	〔書〕「大衆教育 第1巻1号」（民国陶行知等編，上海・大衆教育社。月刊。民国廿五年五月）。
"	"	〔書〕「藝 路 第1巻1号」（民国姚瘦梅等編，上海・芸路出版社。半月刊。民国廿五年五月）。
"	"	〔書〕「西北風 第1期」（西北風社編，漢口・華中圖書公司。半月刊。民国廿五年五月）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四〇六号，「震災一週年を迎へて」特輯。〔注〕昭和10年4月21日，台湾中北部に大地震，死者3000人，全壊1万2500戸）。
"	6・1	〔日〕「関東師範学校規則」〔関東局令第二十二号〕（「関東師範学校規則左ノ通定ム 関東師範学校規則 第一章 総則 第一条 関東師範学校ハ小学校ノ教員タルベキ者ヲ養成スル所トス 第二条 関東師範学校ニ於テハ教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德教育及国民教育ヲ施シ教育者タルノ信念ヲ体得セシメ常ニ生徒ヲ実践躬行ニ導キ特ニ左ノ事項ニ注意シテ其ノ生徒ヲ教育スベシ 一 忠君愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ我が建国ノ本義ト国体ノ尊嚴ナル所以トヲ会得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ国民タルノ志操ヲ振起セシメンコトヲ要ス 二 日滿両国ノ特殊關係ノ真義ヲ会得スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素意ヲ此ニ用ヒシメ常ニ品位ヲ保持シ協調融和ノ精神ト寛容威嚴ノ態度ヲ持セシメンコトヲ要ス（三～九略） 第三条 関東師範学校ニ本科及専攻科ヲ置ク 第二章 学科及其ノ程度 第六条 本科ノ男生徒ニ課スベキ学科目ハ

西 暦	年 代	項 目
1936		修身, 公民科, 教育, 国語漢文, 歴史, 地理, 数学, 理科, 実業, 図画, 手工, 音楽, 体操, 支那語及滿州事情トス(以下略) 第七条 本科ノ女性徒ニ課スベキ学科目ハ修身, 公民科, 教育, 国語漢文, 歴史, 地理, 数学, 理科, 家事, 裁縫, 図画, 手工, 音楽, 体操, 支那語及滿州事情トス 第十一条 国語漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ発表シ文字ヲ端正ニ書写スルノ能ヲ得シメ国民性ヲ涵養シ文学上ノ趣味ヲ養ヒ知徳ノ啓発ニ資シ且小学校ニ於ケル国語教授ノ方法ヲ会得セシムルヲ以テ要旨トス 国語漢文ハ近世及近古ノ国文ヲ授ケ進ミテハ中ヨリ上古ノ国文ニ及ボシ又普通ノ漢文ヲ講読セシメ国語文法及国文学史ノ大要竝ニ習字ヲ授ケ作文ニ習熟セシメ且教授法ヲ授クベシ 第二十三条 支那語ハ普通ノ支那語ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能ヲ得シムルヲ以テ要旨トス 支那語ハ発音, 聴方, 話方及簡易ナル文章ノ読方ヲ授クベシ 第二十四条 滿州事情ハ滿洲ニ於ケル人文及地文ノ全般ニ互ル概要ヲ理解セシメ滿洲ニ関スル正確ナル知識ヲ授ケ特ニ日滿両国ノ特殊關係ヲ会得セシムルヲ以テ要旨トス 滿州事情ハ滿洲ニ於ケル政治, 經濟, 産業, 国防, 氣候風土等ニ関スル事情ヲ授クベシ」)。
"	6・2	南京政府, 日本増兵に正式抗議。
"	6・3	台湾拓殖株式会社法〔法律〕公布。
"	6・4	イムブルム人民戦線内閣成立。
"	6・5	〔書〕「日本語教授法」(日本語教授研究所長松宮弥平, 日語文化学校, 教育館)。
"	"	〔書〕「国語と日本精神」(保科孝一, 実業の日本社)。
"	6・8	「帝国国防方針・用兵綱領」の第三次改訂を裁可(米ノを目標とし, 陸軍50個師団, 航空142中隊, 海軍 戦艦空母12隻, 航空65隊を主要兵力とする)。
"	6・9	有田外相, リース・ロスと会談, 对中国共同援助を拒否。
"	6・10	衆議院各派有志, 国策研究会を組織, 第一回会合。
"	"	日滿間条約附属協定に署名。
"	6・13	〔国〕 臨時ローマ字調査会第十三回総会。
"	"	中共中央, 「目前の政治情勢に関する決議」発表。
"	6・15	不穩文書臨時取締法公布, 即日施行。
"	6・16	〔書〕「支那社会の研究」(橘 樸)。
"	6・22	〔書〕「大日本外交文書」(外務省編纂)。

西 曆	年 代	項 目
1936	6・26	〔国〕 臨時ローマ字調査会第十四回總會。
"	6・27	〔日〕 満洲国留日学生会発会式（このころ、在日留日学生約2000人）。
"	6・	〔書〕「現代日語会話」（呉主恵，日本文求堂）。
"	"	〔書〕「大系漢字明解」（高田忠周述，富山房）。
"	"	〔書〕「文 物 第一卷一期」（文物社。月刊。民国廿五年六月）。
"	"	〔書〕「社會生活 第1卷1期」（民国黎浩編，上海・社会生活社。半月刊。民国廿五年六月）。
"	"	〔書〕「文學界 第1卷1号」（民国周淵編，上海・文学界月刊社。月刊。民国廿五年六月）。
"	"	〔書〕「文季月刊 第1卷1期」（民国巴金，靳以共編，文季月刊社。月刊。民国廿五年六月）。
"	7・1	情報委員会官制〔勅令〕公布（内閣に設置）。10月14日「週報」発行開始。
"	7・4	〔教〕 文部省，平生釦三郎文相の主導で，「義務教育八年制実施計画要綱」を決定，学制改革論議高まる。'37年6月5日計画解消。
"	"	連盟理事会，対伊制裁停止を決定。
"	7・5	東京陸軍軍法会議，「二・二六事件」に判決，17人死刑宣告。7月12日磯部・村中を除き死刑執行。
"	"	〔書〕「アイヌ語法概説」（金田一京助・知里真志保）。
"	7・7	川越大使，蔣介石訪問。
"	7・10	平野義太郎・山田盛太郎・小林良正ら講座派学者，左翼文化団体関係者一斉検挙される（「コム・アカデミー事件」）。
"	"	国民党二中全会開催（～14日。西南全く中央化）。
"	"	上海で日本人暗殺，「菅生事件」。
"	"	〔書〕「日語大文典」（曾野一路，学芸社）。
"	7・13	〔日〕「水原高等農林学校附置農業教員養成所規程」〔朝鮮総督府令第五十四号〕（「水原高等農林学校附置農業教員養成所規程左ノ通定ム 水原高等農林学校附置農業教員養成所規程 第一条 水原高等農林学校附置農業教員養成所ハ農業教員タルベキ者ヲ養成スル所トス 第三条 本所ノ学科目ハ修身，教育，国語，朝鮮語，教育演習及農業ニ関スル実験実習トス 朝鮮語ハ国語ヲ常用スルモノニ，国語ハ国語ヲ常用セザル者ニ之ヲ課ス」）。

西 曆	年 代	項 目
1936		
"	7・13	〔日〕「水原高等農林学校附置実業補習学校教員養成所規程廃止」〔朝鮮総督府令第五十五号〕（「水原高等農林学校附置実業補習学校教員養成所規程ハ之ヲ廃止ス」）。
"	7・14	蔣，二中全会で最近の外交は決して最後の関門に達せずと演説。
"	7・15	章乃器ら全国救国連合会の四領袖，「団結禦侮の基本条件と最低要求」宣言。
"	"	議院制度調査会・選挙制度調査会官制〔勅令〕公布。
"	7・17	〔教〕 大阪府，中学の入試を国史1科目とする。’37年7月25日文部省，なるべく1科目とするよう地方に通牒。
"	"	スペイン軍部，西領モロッコのメリリヤで反乱開始。7月18反乱本土に拡大。スペイン内乱始まる（～’39年3月28日）。
"	7・18	〔教〕 文部省，中特諸学校の修身・公民・国史の標準教科書編纂に着手。
"	"	戒厳令解除（7月17日解除〔勅令〕公布）。
"	7・22	〔教〕 文部省，大学・専門学校に日本文化講義の実施を通牒。
"	7・25	陸軍省官制改正〔勅令〕公布（兵務局の新設など）。
"	"	スペイン反乱軍，ブルゴスに最高評議会（フンタ）を樹立。10月1日フランコ將軍，スペイン国家主席を名乗る。
"	7・27	南洋拓殖株式会社令〔勅令〕公布。11月27日同社設立（資本金2000万円。本店コロール島）。
"	7・28	〔書〕「 ^和 愛 _{愛和} アイヌ語辞典」（磯部精一，東京実業社）。
"	7・	〔日〕 台湾において民風作興協議会を開催。
"	"	〔日〕「高砂族国語講習所規程（訓令又ハ内訓）準則」（昭和十一年七月総警第一二一号総務長官通報）。
"	"	〔書〕「職業日語読本」（黄鑑村，第一中華職業学校。民国廿五年七月初版）。
"	"	〔書〕「 ^{假名} 漢 _{漢字} 日華兩用辞典」（周融・周萍共著，世界書局。民国廿五年七月初版）。
"	"	〔書〕「辭典館月采 第1期」（民国李秋水編，南京・辭典館。1冊。月刊。民国廿五年七月）。
"	"	〔書〕「現代新式書翰大辞典」（日高直爾著，大阪・岡本偉業館）。
"	"	〔書〕「仏和法律經濟商業辞典」（工藤肅編，白水社）。
"	"	〔書〕「趣味常識故事と成語」（海野昌平編，桑文社）。
"	"	〔書〕「東 風 第1卷1号」（中華留日廣西同學會編，中華留日廣西同學会。月刊。1936年7月）。

西 曆	年 代	項 目
1936	7・	〔書〕「〔満洲國留日學生會〕會報 第3～11号, 5卷9号」(満洲尢宗翰編, 東京・満洲國留日学生会館。3～11号は隔月刊。以後は月刊。満洲康徳三年七月～七年九月)。
"	"	〔書〕「婦女生活 第3巻1期～第5巻2期」(民国沈茲九編, 婦女生活社。半月刊。民国廿五年七月～八月)。
"	"	〔書〕「今代文藝 第1号」(民国侯楓等編, 上海・今代書店。月刊。民国廿五年七月)。
"	"	〔書〕「現實文學 第1巻1期」(民国尹庚, 白曙編, 上海・文芸半月刊社。半月刊。民国廿五年七月)。
"	"	〔書〕「文 海 第1巻1期」(東京文海文藝社編, 東京・東京文海文芸社。月刊。民国廿五年七月)。
"	"	〔書〕「台湾の蕃人教化教育と国語普及」(西岡英夫, 「音声教育」)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四〇八号) (同上)「我が校に於ける音声教育の一斑」(K・R・生。四一〇号)。 (「」)「国語教授の問題」
"	8・ 1	〔書〕「日本語読本」(巻一・巻三。布哇教育会)。
"	8・ 5	朝鮮総督宇垣一成辞任, 後任に南次郎任命。
"	8・ 7	首・外・陸・海4相で「帝国外交方針」(対中国政策に関しては反ソ依日を実施の重点)と, 蔵相を加えた5相会議で, 「国策の基準」を決定(大陸・南方への進出と軍備充実を定める)。
"	8・ 1 1	政府, 「第二次北支処理要綱」を決定(華北五省の防共親日満地帯建設を企図)。
"	8・ 1 5	汎太平洋会議(ヨセミテ)。
"	8・ 1 9	ソ連, シノビエフ・カーメネフらの「合同本部事件」公判開始。8月25日死刑を宣告されて処刑。
"	8・ 2 4	四川省成都で, 日本人記者2人殺害される(「成都事件」)。9月3日広東省北海で, 日本人商人殺害される(「北海事件」)。
"	8・ 2 5	中共中央, 国民党へ抗日民主国共合作・民主共和国の樹立を提唱(「八月書簡」), 「逼蔣抗日」政策採用。
"	8・	〔書〕「 ^{幼学} 適用日語速成法」(唐真如, 百新書局, 民国廿五年八月初版)。
"	"	〔書〕「台湾に於ける国字問題」(蔡培火, 「教育」)。
"	"	〔書〕「地理学小辞典」(古今書院編集部編, 古今書院)。
"	"	〔書〕「モダン英和辞典」(熊本謙二郎, 南日恒太郎共編, A・W・メド

西 曆	年 代	項 目
1936		レー, 発音担任, 有朋堂。「A Modern English-Japanese Dictionary」)。
"	8・	[書]「国際導報 第1巻1号」(国際導報社。半月刊。「創刊特大号」2冊。民国廿五年八月~十一月)。
"	"	[書]「現世界 第1巻1期」(民国錢俊瑞編, 上海・現世界社。半月刊。民国廿五年八月)。
"	"	[書]「青年習作 第1巻1号」(民国林志石編, 北平・青年習作社。隔月刊。1936年8月)。
"	"	[書]「台湾教育」(第四〇九号)。 (同上)「言葉の教育に於ける二, 三の問題」(荒川清。~第四一〇号)。 ()「発音教授と吃音矯正」(伝田篤信)。
"	9・1	[書]「国語法論攷」(松尾捨次郎, 株式 ^社 文学社)。
"	"	[書]「日本語読本 巻二」(布哇教育会)。
"	9・3	北海で邦商殺害(「北海事件」)。
"	9・8	[教] 文部省, 日本諸学振興委員会を設置[訓令](教育学・哲学・国語国文学・史学・芸術・経済学・法学の研究会・講演会を開催)。
"	"	ニュールンベルクで, ナス党大会開く(~9月14日)。再軍備4か年計画を発表。
"	9・9	ロンドンで27か国参加のスペイン内乱不干渉委員会成立。
"	9・10	陸軍省, 陸軍工廠労働者の組合加入・団体行動を禁止。9月14日社会大衆党代議士6人, 撤回を陳情, 拒否される。
"	"	[書]「徳川時代言語の研究」(湯沢幸吉郎, 刀江書院)。
"	9・15	川越・張群会談開始(~12・13)。
"	"	海軍, 「北海事件処理方針」決定(兵力行使決意を含む)。
"	9・17	中共, 「抗日救亡の新形勢と民主共和国に関する(九月)決議」採択。
"	9・18	豊台で日中両軍紛争。
"	"	植田閔東軍司令官, 「満州国の根本理念と協和会の本質」起草。
"	9・19	漢口で日本警察射殺事件。
"	9・20	[書]「台湾に於ける国語教育の過去及現在」(国府種武, 台湾小供世界社)。

西 曆	年 代	項 目
1936	9・20	〔書〕「国語政策」(保科孝一, 刀江書院)。
〃	9・21	陸海両相, 行政機構, 議会制度改革案を広田首相に提出。
〃	9・22	関東州・満州国における横浜正金銀行の発行禁止等に関する件〔勅令〕公布。
〃	9・23	上海で, 「出雲」の水兵殺傷。
〃	9・24	日本陸戦隊, 上海に増派。
〃	9・25	「帝国在郷軍人会令」〔勅令〕公布(軍の公的機関となる。陸・海大臣所管)。
〃	9・26	海軍, 「対支処理方針覚」立案(最後通牒提出を含む)。
〃	9・28	大阪府特高警察, ひとのみち教団教祖御木徳一を刑事事件で検挙, 本部を捜索。'37年4月28日不敬罪容疑で結社禁止。
〃	9・	〔日〕 善隣協会専門学校, 善隣高等商業学校と改称。
〃	〃	〔日〕 満州国政府文教部, 「留学生ニ関スル件」公布。
〃	〃	〔日〕 鈴木 忍, 国際学友会に奉職, 同会日本語教室で日本語教育に従事。
〃	〃	〔書〕「科学的日本語教授法」(堀敏夫, 「満鉄研究報第九輯」)。
〃	〃	〔書〕「台湾公学校最初の国語読本」(斯波浦人, 「愛書七輯」)。
〃	〃	〔書〕「現代哲学辞典」(三木清ほか編, 日本評論社)。
〃	〃	〔書〕「新世紀 創刊号」(民国姜君辰編, 上海・新智書店。1冊。月刊。民国廿五年九月)。
〃	〃	〔書〕「西 風 第1期9月号」(民国黄嘉徳, 黄嘉音編, 上海・西風月刊社。月刊。民国廿五年九月)。
〃	〃	〔書〕「新認識 第1号」(民国夏征農等編, 上海・新認識社。半月刊。民国廿五年九月)。
〃	〃	〔書〕「今日文學 第1巻3期」(民国郎化舎編, 北平・郎化舎。月刊。1936年9月)。
〃	〃	〔書〕「中流 第1巻1期~第2巻4期」(民国黎烈文編, 上海・中流社。半月刊。民国廿五年九月~廿六年五月)。
〃	〃	〔書〕「文學大衆 第1巻1期」(文學大衆社, 上海・羣衆雜誌公司。月刊。民国廿五年九月)。
〃	10・1	田代支那駐屯軍司令官, 冀察政權宋哲元と經濟開発の原則的取決め。
〃	10・2	有田外相, 川越大使に第二次訓令, 桑島東亜局長の南京急波決定。
〃	10・3	上海・南京の中国紙二十一紙, 連名で「全国民および日本の朝野に告ぐ」宣言掲載。
〃	10・8	川越・蔣会談。
〃	10・9	知日派の長老戴天仇, 日中交渉打切り提唱。

西 暦	年 代	項 目
1936	10・10	張学良，蔣介石に抗日民族統一戦線提唱の通電。
"	"	蔣，英米依存の対外声明発表。
"	10・17	橋本欣五郎，大日本青年党を結成。
"	"	杭州会議（～18日）。
"	10・18	太原で犠牲救国大会開催。抗日大デモ。
"	10・19	魯迅歿す。
"	10・21	英国，「現行日印通商条約（'34年7月12日調印）」の廃棄を通告。
"	10・22	蔣介石，西安へ（第六次掃共戦）。
"	10・24	西安軍事会議開催。
"	10・25	成都行営主任で知日派の楊永泰暗殺。
"	"	伊外相チアーノ，ベルリン訪問（～10月27日），「ローマ・ベルリン枢軸」結成。
"	10・27	蔣介石以下太原会議（～29日），太原の排日熾烈化。この月上旬，中央軍大量北上。
"	10・	〔日〕満州国政府文教部，「統一課程令」公布（小学に国民科を，高等小学に実業科をおき，中学の国語課を満語科に，日本語を国語と改称。農業科新設）。
"	"	〔書〕「在北米邦語学校調査」（外務省亜米利加局）。
"	"	〔書〕「教育人名大辞典」（尾高豊作編，刀江書院）。
"	"	〔書〕「大日本女性人名辞書」（高群逸枝編，厚生閣）。
"	"	〔書〕「談風 第1～9期」（民国譚介等編，談風社。半月刊。民国廿五年十月～廿六年二月）。
"	"	〔書〕「生活星期刊 第1巻21号」（民国韜奮等編，上海・生活書店。民国廿五年十月）。
"	"	〔書〕「小説家 第1巻1期」（民国鷗陽山編，上海・小説家月刊社。月刊。民国廿五年十月）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四一一号）。 （同上）「蔡培火氏「台湾に於ける国語問題」を読みて」（国府種武）。
"	11・1	上海で笠置丸船員射殺事件。
"	11・3	ルーズベルト，米大統領に再選。
"	11・5	社会大衆党，議会制度改正軍部案につき反対声明，斎藤隆夫ら民政党有志代議士，軍人の政治干与排撃決議。
"	11・6	寺内陸相，議会制度改革案につき陸軍は憲法を遵守する旨釈明の談話発表。

西 暦	年 代	項 目
1936	1 1 ・ 7	帝国議事堂落成式。
"	1 1 ・ 9	貴族院制度調査会官制〔勅令〕公布。
"	1 1 ・ 1 0	川越・張群会談で中国側，冀東政府解消・綏東偽軍解散を要求。
"	1 1 ・ 1 2	〔書〕「日本語読本 巻一」（ブラジル日本人教育普及会）。
"	1 1 ・ 1 4	内蒙軍，関東軍の援助をうけ，綏遠東部に進出。綏遠事件発生。
"	1 1 ・ 1 8	内蒙軍，傅作儀軍に大敗。
"	"	独・伊，スペインのフランコ政権（ブルゴス政権）を承認。
"	1 1 ・ 2 0	〔書〕「大辞典」（平凡社。昭和9年～）。
"	1 1 ・ 2 1	有田外相，綏東問題に日本は関与せずと発表。
"	1 1 ・ 2 3	中国軍，百靈廟で勝利。抗日運動激化。（「綏遠事件」）。
"	"	国民政府，沈鈞儒，章乃器ら救国連合会の七領袖逮捕（抗日世論の弾圧。「七君子事件」）。
"	1 1 ・ 2 5	川越大使，会談の一時打切り請訓。上海・青島の邦紡で中国人罷業拡大。
"	"	「日独防共協定」（秘密協定・秘密書簡），ベルリンで調印（「共産「インターナショナル」ニ対スル協定及附属議定書」〔条約第八号〕）。
"	"	〔書〕「国語史序説」（安藤正次，刀江書院）。
"	1 1 ・ 2 7	閣議，昭和12年度予算案決定（歳出総額30億4000万円で，前年より約7億3000万円増大，軍事費は約14億円となる）。
"	1 1 ・	〔日〕 国際学友会，外務省の命により，新たに交換，招致，派遣，奨学金交付，見学団補助の事業を行うこととなる。
"	"	〔書〕「社会満人教育の沿革に就いて」（小田献四郎，「満鉄だより」）。
"	"	〔書〕「書物語辞典」（沼津古典社編・刊）。
"	"	〔書〕「土木工学用語集」（土木学会編・刊）。
"	"	〔書〕「日土土日大辞典」（日土協会編・刊。「JAPONCA-TÜRKÇE TÜRKCİB-JAPONCA LÜGAT」）。
"	"	〔書〕「農業小辞典」（佐藤寛次編，日本評論社）。
"	"	〔書〕「大衆話 第1巻2期」（民国鍾兄省編，上海・大衆出版社。旬刊民国廿五年十一月）。
"	1 2 ・ 2	大日本傷痍軍人会発会式挙行。

西 曆	年 代	項 目
1936	12・3	川越・張会谈打ち切り。(青島争議悪化, 日本陸戦隊上陸, 23日徹収)。
"	"	黄郛歿す。
"	12・4	蔣介石, 西安に到着。
"	12・5	第8回臨時ソ連邦ソビエト大会, 新憲法(スターリン憲法)を採択。
"	12・6	蔣介石, 将領らと戦略会議(～9日。張学良らに掃共戦継続を命令)。
"	12・7	(株)満州興業銀行設立(資本金3000万円。総裁富田勇太郎)。
"	12・9	西安の学生ら, 内戦停止・一致抗日要求デモ。
"	12・10	学良, 蔣に「掃匪」への疑問開陳。
"	"	英エドワード八世退位。
"	12・11	蔣介石, 張学良らにより監禁(西安事件)。学良ら, 抗日八項目要求の通電。 国民党首脳部, 張学良討伐を決定(総司令何応欽)。
"	"	[書]「布哇に於ける日本語教育」(航海練習所技師練習船日本丸船長長田堯春。「文部時報」第五七〇号)。
"	12・12	[日] 第二十三回全島国語演習会(場所, 新竹市新竹尋常小学校, 参加人数124名, 番外107名)。
"	12・15	延安で中共執行委緊急会議。
"	12・17	17日ごろ, 周恩来ら, 西安に飛来, 張・蔣会谈。
"	12・19	中共中央, 蔣を含む和平会議の招集を提案。
"	12・20	[書]「日本語読本 卷四」(布哇教育会)。
"	12・26	蔣介石, 南京へ帰還。
"	12・30	紛争中の「成都・北海両事件」, 大使川越茂, 外交部長張群間の公文で解決。
"	12・31	「ワシントン海軍軍縮条約」失効。
"	12・	[書]「台湾教育」(第四一三号)。 (同上)「映画教育より綴方学習へ」(辻武夫)。 (「」)「大きな言葉と小さな言葉」(蓮田善明)。 (「」)「国府種武著「台湾に於ける国語教育の過去及現在」を読む」 (南島生)。
"	"	[書]「和英対照化学用語解説集」(橋本吉郎著, 太陽堂)。
"	"	[書]「用字用語辞典」(鳴海連著, 東宛書房)。
"	"	[書]「中日會話集」(民国丁卓編, 三通書局。民国廿五年十二月初版)。
"	"	[書]「中日會話集」(民国丁卓編, 上海・求進書屋。民国廿五年刊)。

西 曆	年 代	項 目
1936		241 P)。
"	12・	〔書〕「遠東雜誌 第1卷1期」(上海・遠東雜誌社。民国廿五年十二月)。
"	"	〔書〕「新知識 第1卷1期」(民国王達夫等編, 上海・新知識社。半月刊。民国廿五年十二月)。
"	"	〔書〕「少年知識 第1卷4期」(民国杭葦等編, 上海・少年知識出版。半月刊。民国廿五年十二月)。
"	"	〔書〕「青年作家 第1卷1期」(十二九文藝社編, 十二九文芸社。月刊。民国廿五年十二月)。
"	"	〔書〕「新 誌 第3期」(民国卞之琳等編, 上海・新誌社。月刊。民国廿五年十二月)。
"	"	〔日〕 中国留日学生数(満州1837, 支那4012, 計5909。「台湾青年」第四一六号, 昭和12年3月号による)。
"	"	〔日〕 徳化蒙古中学校男子部設立(蒙古聯合自治政府経営, 成吉思汗紀元七三一年)。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 生徒数, 本島人383, 高砂族3, 卒業数, 本島人80, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 公学校高等科, 補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数, 本島人10356, 高砂族44, 卒業数, 本島人4511, 高砂族16)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校, 生徒数, 本島人2607, 蕃人38, 卒業数, 本島人385, 蕃人11, 小学校高等科, 生徒数, 本島人271, 蕃人7, 卒業数, 本島人87, 蕃人3)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 生徒数2608, 高砂族2, 卒業数, 本島人378, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校, 生徒数, 本島人1722, 高砂族0, 卒業数, 本島人477, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人1524, 高砂族8, 卒業数, 本島人258, 高砂族1, 実業補習学校, 生徒数, 本島人2081, 高砂族116, 卒業数, 本島人654, 高砂族53)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人3252, 高砂族16, 卒業数, 本島人659, 高砂族6)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数130, 卒業数41)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数42, 卒業数10)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数214, 卒業数75)。

西 曆	年 代	項 目
1936	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数 187, 生徒数 8777, 卒業数 1876, 就学歩合 78・82)。
"	"	〔日〕 国語講習所調(国語講習所 2197, 生徒数 131799, 簡易国語講習所 1735, 生徒数 73415, 合計所数 3932, 合計生徒数 205214)。
"	"	〔日〕 満州国における語学試験受験者数・合格者数(〔日本語〕特等受験者数 85, 合格者数 11, 一等受験者数 555, 合格者数 125, 二等受験者数 945, 合格者数 271, 三等受験者数 2018, 合格者数 512, 合計受験者数 3607, 合計合格者数 915)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本(改正出版)第一種卷一・二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本〔改正出版〕第一種掛図卷一上・下二卷」。
"	"	〔書〕「公学校用書方手本(改正出版)第一学年用」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科国史編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科地理書編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校理科書第二種編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校唱歌公学校高等科唱歌編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科唱歌第一, 二年」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「補習学校農業教科書病虫害篇」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科裁縫及家事教授要目」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校裁縫手芸教授書第四, 五, 六学年用」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四〇二号~第四一三号発行)。
"	"	〔書〕「日語速成法」(唐真如編, 民国廿五年)。
"	"	〔書〕「日本語基礎読本」(郭衍賓, 民国廿五年)。
"	"	〔書〕「現代日語文法浅説」(李仲剛, 民国廿五年)。
"	"	〔書〕「日本津梁」(民国傅仲壽著, 北平・梯梧山館。578P)。
"	"	〔書〕「日語模範文選」(佐伯篁四郎編, 上海語文研究社。民国廿五年刊 94P)。
"	"	〔書〕「文語口語封照現代日本語文法」(松浦珪三著, 東京・文求堂。501P)。
"	"	〔書〕「現代日語會話」(民国吳主惠著, 東京・文求堂。220P)。
"	"	〔書〕「文法中心現代日文綜合讀本」(民国謝求生著, 広州・広州日文専脩館。民国廿五年刊。448P)。
"	"	〔書〕「中日封照日本語助詞研究」(民国葉樹芳著, 東京・笹川書店。185P)。

西 曆	年 代	項 目
1936	(昭和11年)	[書]「日華成語辭典」(民国陳言編,上海・求益書社。民国廿五年刊。344P)。
"	"	[書]「日本文語文法」(王玉泉,民国廿五年刊)。
"	"	[書]「日本口語文法大綱」(張師亮・顧崇之共著,民国廿五年刊)。
"	"	[書]「 ^{文法} 最新日語讀本(二冊)」(張我如著,民国廿五年刊)。
"	"	[書]「 _{對照} 日本語讀本(一~十二)」(布哇教育会。~39年)。
"	"	[書]「英文日本語會話」(「Exercises in Japanese Conversation 一~三」(松宮弥平,日語文化學校刊)。
"	"	[書]「漢字林」(Theodore Greppert。エンデルレ書店)。
"	"	[書]「意味の意味」(オグデン・リチャーズ,石橋幸太郎訳)。
"	"	[書]「日英兩國語發音差異の實驗的研究」(兼弘正雄著,東京研究社)。
"	"	[書]「日本文法史」(小林好日)。
"	"	[書]「方言學概論」(橘正一)。
"	"	[書]「PLAUT JAPANISCHE KONVERSATIONSGRAMMATIK」(JULIOSGROOS, HEIDELBERG)。
"	"	[書]「日本遊記」(民国凌撫元著,北平・新北平報出版課。民国廿五年刊。253P)。
"	"	[書]「赴日考察記」(民国殷體揚著。民国廿五年刊。「實報叢書之22」94P)。
"	"	[書]「瀛洲訪詩記」(民国呂美荪著。民国廿五年刊。140P)。
"	"	[書]「〔冀察平津中小學校長赴日教育考察團報告〕(日本教育考察報告書)」(考察團文書股編。民国廿五年刊。98P)。
"	"	[書]「東行日記」(民国曾昭揄著,天津・大公報出版部。民国廿五年刊190P)。
"	"	[書]「世界遊記選」(民国孫季叔編,上海・中国文化服務社。民国廿五年刊。414P)。
"	"	[書]「現代遊記文選」(民国笑我編,上海・仿古書店。1936年刊。335P)。
"	"	[書]「東游雜感錄」(民国曹貫一著,北平・改造社。民国廿五年刊。120P)。
"	"	[書]「〔滿洲國留日學生錄〕1版」(東京・駐日滿洲國大使館。昭和11年刊。172P。康德2年6月現在の人数および名簿)。
"	"	[書]「一個日本人的中國觀」(内山完造著,民国尤炳圻訳,上海・開明書店。民国廿五年刊。161P)。
"	"	[書]「〔圖書彙報〕新7號」(〔商務印書館編〕,上海・商務印書館。民国廿五年刊。1冊)。
"	"	[書]「中文參考書舉要」(民国登衍林編,北京・国立北京圖書館。民国

西 曆	年 代	項 目
1936		廿五年刊)。
"	"	〔書〕「國立北平圖書館館藏中文期刊目錄」(國立北平圖書館編,北平・國立北平圖書館。民國廿五年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「〔飲冰室合集〕文集45卷 專集104卷」(民國梁啓超著,上海・中華書局。民國廿五年刊。40冊)。
"	"	〔書〕「日本佛教視察記」(中國釈大醒著,行願庵。民國廿五年刊。242P)。
"	"	〔書〕「北京籠城とその前後」(匂川十子男著,北京・北京新聞社。昭和11年刊。228P)。
"	"	〔書〕「御香縹緞錄」(清德菱(裕德齡)著,秦瘦鷗訳,上海・申報館。民國廿五年刊。362P)。
"	"	〔書〕「中國的一日」(民國茅盾等編,上海・生活書店。民國廿五年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「天津遊覽志」(民國燕歸來 _籍 主人編,中華印書局。民國廿五年刊「燕歸來 _籍 叢 第1種」。238P)。
"	"	〔書〕「增訂故宮圖說」(國立北平故宮博物館。民國廿五年刊。60P)。
"	"	〔書〕「遊日記事 2卷」(滿洲崔福坤編,滿洲康德三年序刊。活版。2冊,1帙)。
"	"	〔書〕「支那近情管見」(今關壽磨著,昭和11年刊。235P)。
"	"	〔書〕「我的話 2卷 行素集 披荆集」(民國林語堂著,上海・時代圖書公司。民國廿五年刊。「論語叢書。2冊)。
"	"	〔書〕「貪官汚吏傳」(民國陶亢德編,上海・宇宙風社。民國廿五年刊。95P)。
"	"	〔書〕「刑法各論 卷下」(民國崔希澤著,北平・和平印書局。民國廿五年刊。330P)。
"	"	〔書〕「中國婦女運動通史」(民國談社英編。民國廿五年刊)。
"	"	〔書〕「中國教育史」(民國陳青之著,上海・商務印書館。民國廿五年刊。810P)。
"	"	〔書〕「北平私立燕京大學一覽 民國廿五~廿六年度」(〔燕京大學編〕刊。200P)。
"	"	〔書〕「下蜀層之腹足類化石」(民國許傑,北平・國立北平研究院地質學研究所。民國廿五年刊。「中國古生物誌乙種6号」。1冊。内容は主として英文)。
"	"	〔書〕「近代中國藝術史」(民國李朴園等編,上海・良有圖書印刷。1936年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「美術叢書 預約樣本」(上海・神州國光社。民國廿五年刊。活版。1冊)。

西 曆	年 代	項 目
1936	(昭和11年)	[書]「新文字入門」(民国之光編,北京・1936年刊。「北京新字研究會叢書1」。70P)。
"	"	[書]「常用簡字表」(民国陳光堯著,上海・北新書局。1936年刊。「簡字叢書6」。1冊)。
"	"	[書]「簡體字典」(民国容康編,燕京大學。民国廿五年刊。石印。1冊)。
"	"	[書]「支那語讀本」(土屋明治,柳瀨薰著,東京・文求堂。昭和11年刊。107P)。
"	"	[書]「上海語指南」(稻葉鼎一郎著,民国王廷珪補,東京・文求堂。昭和11年刊。159P)。
"	"	[書]「現代實用支那語講座 9卷」(文求堂編,東京・文求堂。昭和11年刊。9冊)。
"	"	[書]「文學論文索引 3編3卷」(民国劉修業編。民国廿五年刊。活版1冊)。
"	"	[書]「實用國語會話」(民国樂嗣炳編,上海・大衆書局。民国廿五年刊。250P)。
"	"	[書]「華語會話教本」(民国王峰著,東京・文求堂。昭和11年刊。126P)。
"	"	[書]「中國文學百科全書 4卷」(民国楊家駱編,中国學術百科全書辭典館。民国廿五~廿六年刊。4冊)。
"	"	[書]「平仄暗記便覽 第1部 字音式」(高田集藏編,東京・竹鄰書屋。昭和11年刊。76P)。
"	"	[書]「二十年目睹之怪現狀」(清沃堯(成佛山人)著,民国周雲点,周郁浩校,上海・広益書局。民国廿五年刊。2冊)。
"	"	[書]「江 上」(民国蕭軍著,上海・文化生活出版。民国廿五年刊。313P)。
"	"	[書]「故事新編」(民国魯迅著,上海・文化生活出版。民国廿五年刊。177P)。
"	"	[書]「風雨談」(民国周作人著,上海・北新書局。1936年刊。265P)。
"	"	[書]「幽默解」(民国邵洵美編,上海・時代圖書。民国廿五年刊。「論語叢書」。172P)。
"	"	[書]「白夜」(俄国安斯退夫斯基著,民国斐琴,陳達人訳,東京・東流文芸社。民国廿五年刊。「東流文庫5」)。
"	"	[書]「朝鮮教育問題管見」(大野謙一)。
"	"	[書]「朝鮮米關係資料」(農林省米穀局)。
"	"	[書]「滿洲帝国年年報(第三次)」(國務院統計処。康德三年)。
"	"	[書]「滿洲国出現の合理性」(ブロンソン・レー)。田村幸策訳。

西 曆	年 代	項 目
1936	"	〔書〕「日滿關係の現在及将来」(滿洲日日新聞社)。
"	"	〔書〕「日滿支に於ける工業製品(二冊)」(南滿鉄 供給狀況調査 經濟調査会)。
"	"	〔書〕「冀東区域の貿易概況と関稅事情」(滿鉄天津事務所調査課)。
"	"	〔書〕「滿洲から北支へ」(神田正雄)。
"	"	〔書〕「奉天省海城縣ニ於ケル地券及土地慣行」(滿鉄)。 全国土地科長會議ニ於ケル狀況報告
"	"	〔書〕「滿洲農業移民概況」(拓務省拓務局東亜課)。
"	"	〔書〕「滿鮮雜錄」(岩崎清七)。
"	"	〔書〕「アナート 滿蒙探検四十年」(有富光門)。
"	"	〔書〕「東部内蒙古開放通史(曆)」(大場辰之助。康德三年)。
"	"	〔書〕「外蒙赤化の真相」(北滿經濟調査所。康德三年)。
"	"	〔書〕「中国年鑑(一九三六年)。(上海日報社。民国廿五年)。
"	"	〔書〕「現代支那の基本的認識」(田中忠夫)。
"	"	〔書〕「現代支那批判」(尾崎秀実)。
"	"	〔書〕「対支回顧録(全四冊)」(対支功勞者伝記編纂会)。
"	"	〔書〕「揚子江上流地方調査日誌」(山田邦彦)。
"	"	〔書〕「山東地方の黄河水災狀況」(天津事務所調査課)。
"	"	〔書〕「北支那鉱業紀要(石炭部分抜萃)」(滿鉄天津事務所)。
"	"	〔書〕「北支那事情綜覽」(滿鉄資料課)。
"	"	〔書〕「遵化縣虛家寨村実態調査報告」(滿鉄天津事務所)。
"	"	〔書〕「帰綏縣一般經濟事情」(天津事務所調査課)。
"	"	〔書〕「包頭一般經濟事情」(天津事務所調査課)。
"	"	〔書〕「中華民國の合作運動」(産業組合中央会)。
"	"	〔書〕「南支那に於ける農村問題」(陳幹笙 佐渡愛三訳)。
"	"	〔書〕「支那歴代親耕親蚕考」(農林省米穀局)。
"	"	〔書〕「在南三十五年」(西村竹四郎)。
"	"	〔書〕「ソ聯極東の産金地(上下)」(滿鉄經濟調査課)。
"	"	〔書〕「台湾住民ノ生命表」(台湾總督官房調査課)。
"	"	〔書〕「台湾米關係資料」(農林省米穀局)。
"	"	〔書〕「印度は語る」(野口米次郎)。
"	"	〔書〕「滿蒙民族志」(經濟調査会)。
"	"	〔書〕「拓殖研究 第二号」(拓殖研究会)。
"	"	〔書〕「第六十九議會を通じ て觀たる拓務行政」(拓務大臣官房文書課)。
"	"	〔書〕「日本人大量移住地整備方針案」(民政部)。
"	"	〔書〕「アリアンサ移住地創設十年」(信濃海外移住組合)。
"	"	〔書〕「河南省棉産改進所工作總報告(華文)」(民国廿五年)。
"	"	〔書〕「學校學級講話と訓話の新資料」(講話揭示教育編輯部編,南光社)。

西 曆	年 代	項 目
1936	(昭和11年)	[書]「讀方教育原論」(友納友次郎, 明治図書)。
"	"	[書]「全体觀の教育」(入沢宗寿)。
"	"	[書]「教育社会の裏を覗く」(堀幸三郎)。
"	"	[書]「科学的教育学の展望」(佐藤熊治郎)。
"	"	[書]「教育学概論」(辻幸三郎)。
"	"	[書]「陶冶理想学」(山田栄)。
"	"	[書]「現代訓育思潮」(梅根悟)。
"	"	[書]「教育革新の本道(全国の校長諸君へ)」(檜崎浅太郎)。
"	"	[書]「現代教育家評伝」(為藤五郎)。
"	"	[書]「学校管理法関係法規要覧」(宮瀬睦夫)。
"	"	[書]「 ^{師範教育制度を如何} _{に改善すべきか} 」(師範学校長協会)。
"	"	[書]「ナチス教育改革の全貌」(白根孝之)。
"	"	[書]「朝鮮教育問題管見」(大野謙一)。
"	"	[書]「国定教科書と帝国憲法」(北浦圭太郎)。
"	"	[書]「岡山県教育会五十年史」(岡山県教育会)。
"	"	[書]「創立六十年」(東京高等商船学校)。
"	"	[書]「三十年史」(長野県下高井農林学校)。
"	"	[書]「関西大学創立五十年史」(喜多村桂一郎)。
"	"	[書]「 ^{北海道札幌} _{師範学校} 五十年史」(北海道札幌師範学校)。
"	"	[書]「創立六十年青山師範学校沿革史」。
"	"	[書]「創立六十年誌」(福岡県福岡師範学校)。
"	"	[書]「児童日本精神読本(三冊)」(福島宗緒)。
"	"	[書]「昭和十年度小学校研究発表要項」(名古屋市教育部)。
"	"	[書]「初一教育の實踐と反省(前期用)」(岐阜県女子師範学校附属国民学校編)。
"	"	[書]「教育の能率化学習經濟の新研究」(野瀬寛頭)。
"	"	[書]「 ^{東京帝国大学学生} _{福利施設概況} 」(東京帝国大学学生課)。
"	"	[書]「学校教育の實際と学校選択の問題」(^{日田権一} _{山本 猛})。
"	"	[書]「 ^{学校} _{事故} 実話実例対策集」(面家荘佶)。
"	"	[書]「 ^{学校学級} _{教育設備} の新經營」(^{島津新治} _{山本 猛})。
"	"	[書]「体験 富士の学校經營」(上沼久之丞)。
"	"	[書]「 ^{改撰公民科教} _{材教授法講座} (一~十一卷)」(戸田貞三監修。~昭和12年)。
"	"	[書]「青年学校制度解説」(文部省社会教育局)。
"	"	[書]「教育勅語講話」(川村理助)。
"	"	[書]「農村の郷土・労作・公民教育」(真田幸憲)。
"	"	[書]「教授原論」(篠原助市)。
"	"	[書]「 ^{最新} _{国史教育} の理想實踐」(村瀬仁市)。

西 曆	年 代	項 目
1936	"	〔書〕「尋六の理科教育」(橋本為次)。
"	"	〔書〕「科学教育論」(福井玉夫)。
"	"	〔書〕「徒弟制度と技術教育」(協調会)。
"	"	〔書〕「日本童話集」(日本童話協会編)。
"	"	〔書〕「思想画指導体系と其の実践」(三苦正雄)。
"	"	〔書〕「診断学的暗算の実践体系」(中島安治郎)。
"	"	〔書〕「 <small>小学</small> 綴方鑑賞読本 上」(<small>東京府青山師範</small> 編)。 <small>児童</small> <small>学校附属小学校</small>
"	"	〔書〕「全国小学児童綴方展覧会(一、二の巻)」(同事務局)。
"	"	〔書〕「小学校読本に基ける語法と文法」(堀江與一)。
"	"	〔書〕「ローマ字国字論」(田丸卓郎)。
"	"	〔書〕「言語の国民的陶冶力と教育」(山田正紀)。
"	"	〔書〕「吃音児童の取扱と其の実際」(小林宗男)。
"	"	〔書〕「聾啞学校に於ける職業教育」(<small>東京市立聾学校</small> の適切な方法 小川 明)。
"	"	〔書〕「遠近精神分析観」(長谷川誠也)。
"	"	〔書〕「児童生活と学習心理」(波多野完治)。
"	"	〔書〕「 <small>学習指導の</small> 形態心理学研究」(加舎 亨)
"	"	〔書〕「実験児童心理学の進歩」(<small>依田 新</small> <small>中野佐三共編</small> <small>後藤岩男</small>)
"	"	〔書〕「子供の発達心理」(波多野勤子)。
"	"	〔書〕「児童心理学」(青木誠四郎)。
"	"	〔書〕「ゲルダード英国法提綱」(末包留三良)。
"	"	〔書〕「 <small>高等法院検事長</small> 訓示通牒類纂」(高等法院検事澤佐一郎)。
"	"	〔書〕「松庭論草(全七冊)」(花井卓蔵)。
"	"	〔書〕「新国籍法論」(児玉政介)。
"	"	〔書〕「 <small>海外</small> 移民・入国法令総覧」(海外発展協会)。 <small>国別</small>
"	"	〔書〕「法窓夜話(続)」(穂積陳重)。
"	"	〔書〕「法学協奏曲」(中川善之助)。
"	"	〔書〕「貞操問題と裁判」(山口与八郎)。
"	"	〔書〕「日本固有法研究」(細川亀市)。
"	"	〔書〕「御触書集成(全五巻)」(高柳・石井編。~昭和13年)。
"	"	〔書〕「羅馬元首政の起源と本質」(船田亨二)。
"	"	〔書〕「比較憲法史」(鈴木安蔵)。
"	"	〔書〕「議會選挙法(フラノウス)」(国政研究会)。
"	"	〔書〕「選挙争訟及当選争訟の研究」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「日本行政法(上巻)」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「行政法学概論(一巻)」(田村徳治)。

西 暦	年 代	項 目
1936	(昭和11年)	〔書〕「行政法論綱」(小川喜一)。
〃	〃	〔書〕「行政機構改善に関する意見書」(内務省)。
〃	〃	〔書〕「自治学(総務・政治・経済)」(長野 朗)。
〃	〃	〔書〕「大阪市政 - 教育・社会事業 - 」(大阪市役所)。
〃	〃	〔書〕「都市法制要旨(未定稿)」(大塚辰治。昭和12年)。
〃	〃	〔書〕「市町村制逐条注解」(自治館)。
〃	〃	〔書〕「東京都制資料(都長の官公選)」(東京市役所)。
〃	〃	〔書〕「公用収容法原理」(美濃部達吉)。
〃	〃	〔書〕「外国に於ける 住宅敷地割類例集」((財)同潤会)。
〃	〃	〔書〕「水利権」(安田正鷹)。
〃	〃	〔書〕「行政警察教本」(松華堂編集部)。
〃	〃	〔書〕「行政警察例規集」(警保局)。
〃	〃	〔書〕「医政論叢」(後藤龍吉)。
〃	〃	〔書〕「国家構造論」(尾高朝雄)。
〃	〃	〔書〕「国家主義系不穏事件 論告並判決録(其の二)」(警保局保安課)。
〃	〃	〔書〕「国体及国史のはなし」(赤堀又次郎)。
〃	〃	〔書〕「日本精神生成史論(全三巻)」(鈴木重雄。~昭和12年)。
〃	〃	〔書〕「神道概論」(田中義能)。
〃	〃	〔書〕「藤樹先生全集(全5巻)」(岩波書店)。
〃	〃	〔書〕「日本政治動向論」(巖山政道)。
〃	〃	〔書〕「自由主義とは何か」(神原周平)。
〃	〃	〔書〕「最近我国に於ける議会制度改革論」(警保局)。
〃	〃	〔書〕「帝国議会に於ける内閣総理大臣演説集」(内閣)。
〃	〃	〔書〕「文化と無政府」(マンウ・アーノルド 富田義介訳)。
〃	〃	〔書〕「上申書大川周明博士の 思想的立場と政治的実践」(金内良輔)。
〃	〃	〔書〕「二・二六事変の秘話」(天草平八郎)。
〃	〃	〔書〕「雪の日・二・二六」(三宅忠典)。
〃	〃	〔書〕「二・二六事変の全貌 一発端より終末まで」(天草平八郎)。
〃	〃	〔書〕「思想対策協議会委員要覧」。
〃	〃	〔書〕「概観世界近世史(エドワードフェーター)」(神原誠訳)。
〃	〃	〔書〕「一般史(現代文明史)」(渡辺幾治郎)。
〃	〃	〔書〕「ソ連邦重要事項史(十一冊)」(外務省。~昭和46年)。
〃	〃	〔書〕「世界の戦慄・赤化の陰謀」(東京日日新聞社 大阪毎日新聞社)。
〃	〃	〔書〕「露西亜史講話」(斉藤清太郎)。

西 暦	年 代	項 目
1936	"	〔書〕「イギリス近代政治史研究1」(池田 栄)。
"	"	〔書〕「木村泰賢全集(全五巻)」(明治書院)。
"	"	〔書〕「西園寺公と湖南先生」(安藤徳器)。
"	"	〔書〕「 ^{内田秀五郎翁} — 東京府議会副議長 —」(須田慎六)。
"	"	〔書〕「川上俊彦君を憶ふ(外交官・ソ連)」。
"	"	〔書〕「陸海の奨星展望」(松下芳夫)。
"	"	〔書〕「成瀬先生伝記念帳 二冊」(仁科 節。~昭和12年)。
"	"	〔書〕「随想録(法博, 明大, 貴族員)」(鶴沢総明)。
"	"	〔書〕「 ^{石黒忠憲} 懐旧九十年」(石黒忠憲)。
"	"	〔書〕「大川平三郎君伝(製紙・セメント)」(伝記編纂委)。
"	"	〔書〕「私は斯う思ふ(産業・教育)」(平生釧三郎)。
"	"	〔書〕「適齋回顧録(群馬政・財界)」(荻野万太郎)。
"	"	〔書〕「思い出を語る(九州電気軌道)」(大田黒重五郎翁口述)。
"	"	〔書〕「独裁王ヒットラー」(黒田礼二)。
"	"	〔書〕「国際法講義(上)」(前原光雄)。
"	"	〔書〕「条約目録」(日本学術振興会)。
"	"	〔書〕「日本固有の外交指導原理綱領」(外務省)。
"	"	〔書〕「民族と平和」(矢内原忠雄訳)。
"	"	〔書〕「露国政府の極東外交機密文書(第二巻)」(外務省)。
"	"	〔書〕「満洲事変の世界史的意義」(綾川武治)。
"	"	〔書〕「最近軍事問題論攷」(池崎忠孝)。
"	"	〔書〕「 ^{満洲事変以降「ソ」} 側要人の対日言説」(外務省)。
"	"	〔書〕「軍隊精神教育資料」(鷹林守一)。
"	"	〔書〕「 ^{肅軍に関する意見書(二冊)} — 附国体明徴運動の民間側現勢 —」(陸軍大尉村中孝次)。
"	"	〔書〕「昭和維新と国民皆兵の徹底」(平 藤雄)。
"	"	〔書〕「兵器考(全四冊)」(有坂紹蔵。~昭和12年)。
"	"	〔書〕「徳川時代裁判例(刑事の部)。正・続二冊」(司法省。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「刑法改正の基本理論」(安平政吉)。
"	"	〔書〕「刑法大綱」(宮本英脩)。
"	"	〔書〕「保安処分法の理論」(安平政吉)。
"	"	〔書〕「ピンディング刑法論」(中村宗雄)。
"	"	〔書〕「刑法と社会」(滝川幸辰)。
"	"	〔書〕「 ^{改訂} 刑法総則講義案」(岡田朝太郎)。

西 曆	年 代	項 目
1936	(昭和11年)	〔書〕「刑事政策学」(坂本英雄)。
"	"	〔書〕「答刑論」(小河滋次郎・他)。
"	"	〔書〕「監獄法概論」(正木 亮)。
"	"	〔書〕「関東庁ノ法廷ニ 現ハレタル支那ノ民事慣習」(司法省。康德三年)。
"	"	〔書〕「物権法提要(下)」(三瀧信三)。
"	"	〔書〕「担保物権法論(上下)」(石田文次郎)。
"	"	〔書〕「抵当権に関する判例集」(産業組合中央金庫)。
"	"	〔書〕「判例不法行為体系」(岩井万亀)。
"	"	〔書〕「強制執行法」(山田正三)。
"	"	〔書〕「特別訴訟 ^{学説判例} 綜覧」(中島寛二)。
"	"	〔書〕「財産法概論」(遊佐慶夫)。
"	"	
"	"	〔書〕「商法研究(全四巻)」(烏賀陽然良)。
"	"	〔書〕「独逸商法」(松本太郎訳)。
"	"	〔書〕「表示行為の公信力(商事の禁反言)」(伊沢幸平)。
"	"	〔書〕「売買法概観」(榎 為一)。
"	"	〔書〕「株式取引所論」(向井鹿松)。
"	"	〔書〕「株式取引所論」(松本信次)。
"	"	〔書〕「空中衝突と空難救助」(松波仁一郎)。
"	"	〔書〕「国際海上衝突予防規則の研究」(戸井田悦宏)。
"	"	〔書〕「信託企業概論」(藤原 泰)。
"	"	〔書〕「信託論」(呉 文炳)。
"	"	〔書〕「頼母子講と其の法律関係」(由井健之助)。
"	"	
"	"	〔書〕「地方財政改善ニ関スル 内閣審議会中間報告」(内閣調査室)。
"	"	〔書〕「 ^{改訂} 所得税法精義」(田中勝次郎)。
"	"	〔書〕「改訂各国所得税制論」(汐見三郎)。
"	"	〔書〕「麦酒増税に対する批判並に其の影響」(高橋龍太郎)。
"	"	〔書〕「仏国酒精専売論(抄訳)」(専売局)。
"	"	〔書〕「輸出統制品 輸出検査品 関係事項要覧」(大阪税関総括課統制係)。
"	"	〔書〕「金融組織及金利問題」(春日井薫)。
"	"	〔書〕「最近の為替と国際金融」(大島堅造)。
"	"	〔書〕「大阪に於ける中小商工業金融調査(全五巻)」(大阪商大。~昭和19年)。
"	"	〔書〕「貨幣概論」(荒木光太郎)。
"	"	〔書〕「貨幣本質の諸問題」(岡橋 保)。

西 暦	年 代	項 目
1936	"	〔書〕「貨幣と金融」(<small>U・E・ハーバード</small>)。 <small>経済学研究会訳</small>
"	"	〔書〕「金為替本位制の研究」(松岡孝兒)。
"	"	〔書〕「日本凶荒史考」(<small>西村真琴</small>)。 <small>古川一郎</small>
"	"	〔書〕「救済制度要義」(井上友一)。
"	"	〔書〕「特別議会農村問題解説」(森 徳久)。
"	"	〔書〕「農村工業」(松村勝治郎)。
"	"	〔書〕「最近における農村対策論の状況」(警保局調査部)。
"	"	〔書〕「最近の農村情勢と 警察活動の概況」(内務省警保局保安課)。
"	"	〔書〕「郷倉経営指針」(青森県経済部)。
"	"	〔書〕「朝鮮の社会事業」(朝鮮総督府学務局)。
"	"	〔書〕「台南州社会事業要覧」(台南州)。
"	"	〔書〕「東京港を中心とする海上生活者調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「ロータリーの理想と友愛」(<small>ポール・ハリス</small>)。 <small>米山梅吉訳</small>
"	"	〔書〕「慈濟廿五年保護の真相」(南良英龍)。
"	"	〔書〕「貧困原因に関する調査研究資料」(<small>財団法人中央社会事業</small>)。 <small>協会社会事業研究所</small>
"	"	〔書〕「方面委員制度に就て」(長野県)。
"	"	〔書〕「方面叢書 5～19 輯」(日本方面委員連盟。～昭和17年)。
"	"	〔書〕「保健衛生施設」(石川県社会教育課)。
"	"	〔書〕「医業経営論」(野村英二)。
"	"	〔書〕「母性年金及び家族手 当制度に関する調査」((財)中央社会事業協会事業研究会)。
"	"	〔書〕「新聞経営研究」(刀弥館正雄)。
"	"	〔書〕「美術史の基礎概念」(<small>グエルフリン著</small>)。 <small>守屋謙二訳</small>
"	"	〔書〕「ナチス労働法」((財)協調会)。
"	"	〔書〕「当面の労働法問題」(後藤 清)。
"	"	〔書〕「海員ストライキ論」(松波仁一郎)。
"	"	〔書〕「団体協約十年」(製鋼労働組合)。
"	"	〔書〕「実践工場管理法」(宇野信三)。
"	"	〔書〕「退職積立金法案の意義とその内容」(矢次一夫)。
"	"	〔書〕「労働保護法」(木村清司)。
"	"	〔書〕「農村に於ける職業指導」(三沢房太郎)。
"	"	〔書〕「職業紹介関係事業要覧」(新潟県職業課。～昭和12年)。
"	"	〔書〕「東京市職業紹介成績年報」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「九州地方労働事情概要」(福岡地方職業紹介事務局)。
"	"	〔書〕「職業紹介法令等改正に伴ふ 通牒の趣旨及内容について」(社会局)。
"	"	〔書〕「職業指導二十講」(増田幸一)。

西 曆	年 代	項 目
1936	(昭和11年)	[書]「昭和十・十二・十三年知識階級就職に関する資料」(厚生省。～昭和13・14年)。
"	"	[書]「名古屋市登録労働者世帯調」(名古屋市社会部)。
"	"	[書]「樺太の産業と港湾」(荒木 源)。
"	"	[書]「ファイガルドイツ工業論」(小松一雄)。
"	"	[書]「工業調査書(昭和9年)」(大阪府)。
"	"	[書]「機械の経済学」(戸田武雄)。
"	"	[書]「秘 ^{回顧録其の一} - 北樺太石油関係 - 」(中里重次)。
"	"	[書]「北支那鉱業紀要」(南滿洲鉄道株式会社天津事務所調査課)
"	"	[書]「電力国営問題の真相」(里見元秋)。
"	"	[書]「電力国営の急務」(頼母木桂吉)。
"	"	[書]「大日本生絲販売組合連合会十年誌要」。
"	"	[書]「綿絲経済」(酒井龍男)。
"	"	[書]「河川法関係例規集」(内務省河川課)。
"	"	[書]「農家経済調査 十年度」(長野県農会)。
"	"	[書]「信州農業の概観」(長野県農会)。
"	"	[書]「庄内田所の農業・農村及び生活」(東大農政学研究室)。
"	"	[書]「石川県農山漁村経済更生計画樹立方針」(石川県)。
"	"	[書]「農山漁村経済更生計画実行成績」(滋賀県)。
"	"	[書]「農政史の諸問題」(我妻東策)。
"	"	[書]「農業地理学の諸問題 - 補論 熱帯栽植農業の立地問題」(伊藤兆司)。
"	"	[書]「水稻及陸稻耕種要綱(全国)」(農林省)。
"	"	[書]「地方産米に関する調査」(酒井忠正)。
"	"	[書]「米穀政策資料」(農林省米穀部)。
"	"	[書]「世界各国ニ於ケル米穀及雜穀ノ輸入関稅」(農林省米穀局)。
"	"	[書]「本年に於ける降雪並に酷寒に因る農作物其他被害予想調査」(帝国農会)。
"	"	[書]「耕地に関する調査書」(栃木県経済部)。
"	"	[書]「埼玉県に於ける家守小作」(埼玉県経済部)。
"	"	[書]「旧南部領に於ける名子及之に類似の制度」(農林省)。
"	"	[書]「伊勢の株地制度考」(三重県)。
"	"	[書]「全国優良更生農村経済更生計画及其ノ実行状況」(熊本県 山口県)二冊(農林省経済更生物)。
"	"	[書]「千島漁業国策論」(今田清二)。
"	"	[書]「母船式蛙鱈漁業誌」(太平洋魚業株式会社編)。
"	"	[書]「畜産学年報(第三輯)」(日本畜産学会)。

日本語教育沿革年表Ⅱ

発行 昭和57年3月25日

発行所 国立国語研究所

日本語教育センター日本語教育教材開発室

TEL (03) 900-3111

印刷 株式会社 絢文社

TEL (03) 959-3960